
東 松 山 市

銭塚Ⅱ / 城敷Ⅰ

高坂駅東口第二特定土地地区画整理事業地内
埋蔵文化財発掘調査報告Ⅱ
(第2分冊)

2 0 1 0

独立行政法人 都市再生機構
財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団

目次

(第1分冊)

巻頭図版

序

例言

凡例

目次

| | |
|------------------|-----|
| I 発掘調査の概要 | 1 |
| 1. 発掘調査に至る経過 | 1 |
| 2. 発掘調査・報告書作成の経過 | 2 |
| (1) 発掘調査 | 2 |
| (2) 整理・報告書の作成 | 2 |
| 3. 発掘調査・報告書作成の組織 | 3 |
| II 遺跡の立地と環境 | 5 |
| 1. 地理的環境 | 5 |
| 2. 歴史的環境 | 9 |
| III 遺跡群の概要 | 26 |
| 1. 反町遺跡群の概要 | 26 |
| 2. 銭塚遺跡の概要 | 33 |
| 3. 城敷遺跡の概要 | 45 |
| 4. 反町遺跡の概要 | 53 |
| IV 銭塚遺跡の遺構と遺物 | 57 |
| 1. 竪穴住居跡 | 57 |
| 2. 掘立柱建物跡 | 199 |
| 3. 柱穴列 | 219 |
| 4. 土壌 | 220 |
| 5. 土器棺墓 | 233 |
| 6. 井戸跡 | 239 |
| 7. 溝跡 | 242 |
| 8. 畝跡 | 311 |
| 9. 堤防状遺構 | 315 |
| 10. ビット | 315 |
| 11. グリッド他出土遺物 | 321 |

(第2分冊)

| | |
|----------------------------|-----|
| V 城敷遺跡の遺構と遺物 | 329 |
| 1. 竪穴住居跡 | 329 |
| 2. 掘立柱建物跡 | 419 |
| 3. 土壌 | 423 |
| 4. 溝跡 | 428 |
| 5. 大溝跡 | 441 |
| 6. ビット | 495 |
| 7. グリッド出土遺物 | 498 |
| VI 自然科学分析 | 501 |
| 1. 銭塚遺跡の自然科学分析 | 501 |
| (1) 樹種同定 | 501 |
| (2) 放射性炭素年代測定 | 504 |
| (3) 骨同定 | 505 |
| (4) 種実同定 | 506 |
| 2. 城敷遺跡出土ウルシの赤外分光分析 | 508 |
| VII 調査のまとめ | 511 |
| 1. 銭塚遺跡・城敷遺跡出土遺物の編年的位置について | 511 |
| 2. 銭塚遺跡・城敷遺跡の集落変遷について | 529 |

写真図版

V 城敷遺跡の遺構と遺物

1. 竪穴住居跡

城敷遺跡第1次・第2次調査では、107軒の竪穴住居跡が発見されている。城敷遺跡には、集落の経営期に第4号溝跡として調査を実施した河川が集落域の間近まで迫っていた。当時の人々は、この河川に昇降施設や堰・テラスなどを設けて、生活に取り入れている。このような立地環境のもと、第4号溝跡によって竪穴住居跡の分布域が3分割されている。

最北に位置する一群は、第4号溝跡第4地点～第2地点の北側に分布する。第87～94・97～106号住居跡の17軒が所在し、第14・15号掘立柱建物跡も位置する。

次は、第4号溝跡第1地点～第3地点～第5地点～第6地点～第7地点の東側に分布する一群である。北から、第107号住居跡(ZS-16グリッド)、第78・79号住居跡(ZW-19)、第77号住居跡(A-18・19グリッド)、第73・74・75号住居跡(E・F-16・17・18グリッド)、第48号住居跡(J・K-14グリッド)の合計8軒である。平成19年度に発掘調査した第3次調査で発見された竪穴住居跡もこの区域に含まれる。竪穴住居跡は分散し、重複はほとんどない。

最後は、第4号溝跡第4地点～第2地点～第1地点～第3地点～第5地点～第6地点～第7地点の南西部に分布する82軒の竪穴住居跡群である。これに、13棟の掘立柱建物跡が含まれる。M-10グリッドに位置する第58号住居跡はこの区域最南端の竪穴住居跡で、城敷遺跡集落の南限と思われる。また、この区域では、10～20軒程度単位で竪穴住居跡が密集する傾向が窺われる。さらに、掘立柱建物跡は、竪穴住居跡が構築されていない単位群の隙間に建てられている。

竪穴住居跡の分布については、以上のように概

観される。この内、本報告では、調査区北半部のZ0～ZZグリッドに位置する31軒の竪穴住居跡(第76・78～107号住居跡)の報告を行う。

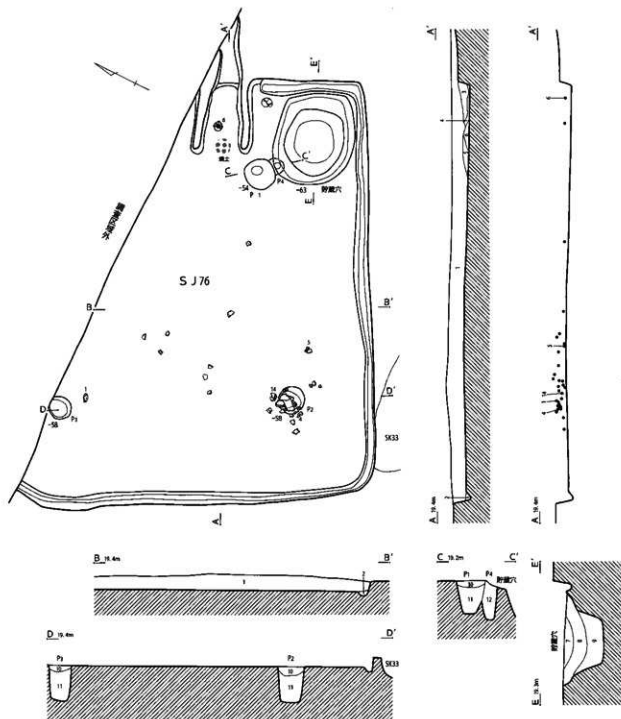
第76号住居跡(第282・283図)

ZW-13・14グリッドに位置し、カマド先端部と北側の1/3ほどが調査区域外にある。南西コーナー部で第33号土壇と重複するが、新旧関係は不明である。また、東側に位置する第13号掘立柱建物跡と軒を並べる。

平面形態は東西方向に長軸をもつ長方形で、カマドを西壁の中央付近に付設する。主軸長6.73mを測り、検出された南北長は5.42mである。主軸方位N-63°-Eを指す。確認面からの深さは0.22mほどで、覆土は壁溝付近の一部を除き、自然堆積の単層である。

主柱穴4本の住居で、このうちPit1・Pit2・Pit3の3本が検出されている。対応する残りの1本は調査区域外にある。主柱穴の規模は、Pit1が長径0.50m×短径0.47m×床面からの深さ0.54m、Pit2が長径0.43m×短径0.40m×床面からの深さ0.58m、Pit3が径0.36m×床面からの深さ0.58mである。柱間距離は主軸方向(Pit1-Pit2)・南北方向(Pit2-Pit3)ともに約3.7mで、長方形を呈する住居の形状とは異なる。

カマドは燃焼部が住居壁の内側に位置し、ここから煙道部が外方に延びている。煙道部の先端が調査区域外にあり、主軸方向に約2.2mが検出されている。住居の床面から燃焼部火床面へは、境をもたずに平滑に繋がる。燃焼部奥壁では、高さ0.17mほど立ち上がり、煙道部へ続いている。燃焼部奥壁は、住居壁の延長上とほぼ一致する。袖部は地山が掘り残され、住居跡の内方に張り出し



SJ76

- 1 灰褐色土 炭化物小粒子・黄褐色小ブロック少量 自然堆積
 2 灰褐色土 1層と同じだが灰褐色を中量程度含む 壁溝の底は砂になる

カマド

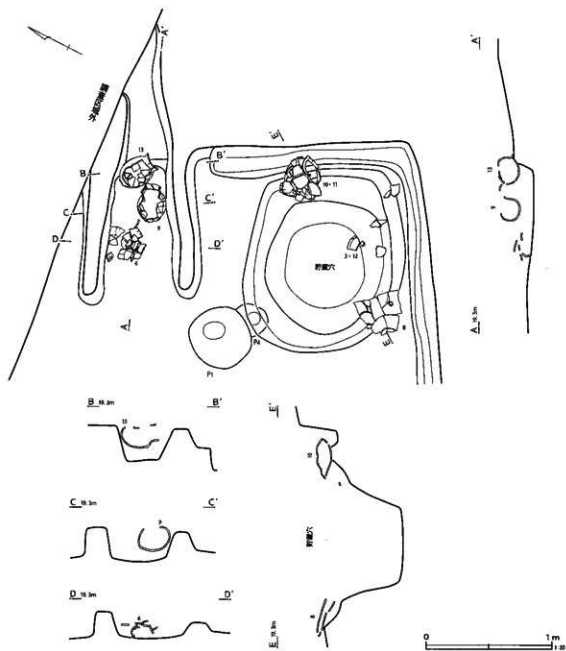
- 3 黄褐色土 天井部崩壊土 地山と類似
 4 灰褐色土 灰層
 5 黄褐色土 天井部崩壊土 炭化物に黄褐色土の中ブロックが少量混じる
 6 赤褐色土 積上ブロックに炭化物が中量混じる 黄褐色中ブロック少量 床面が塞く換えている

貯蔵穴

- 7 暗灰褐色土 炭化物粒子少量 黄褐色ブロック含む
 8 暗灰褐色土 炭化物粒子含む 黄褐色ブロック少量 層下面に炭化物が薄く広がる
 9 暗灰褐色土 炭化物粒子・黄褐色ブロック少量
 ビット1~4
 10 灰褐色土 炭化物粒子少量 黄褐色ブロック含む
 11 灰褐色土 炭化物粒子少量 灰褐色の砂に黄褐色のシルトブロックを少量含む
 12

0 2m
 1m

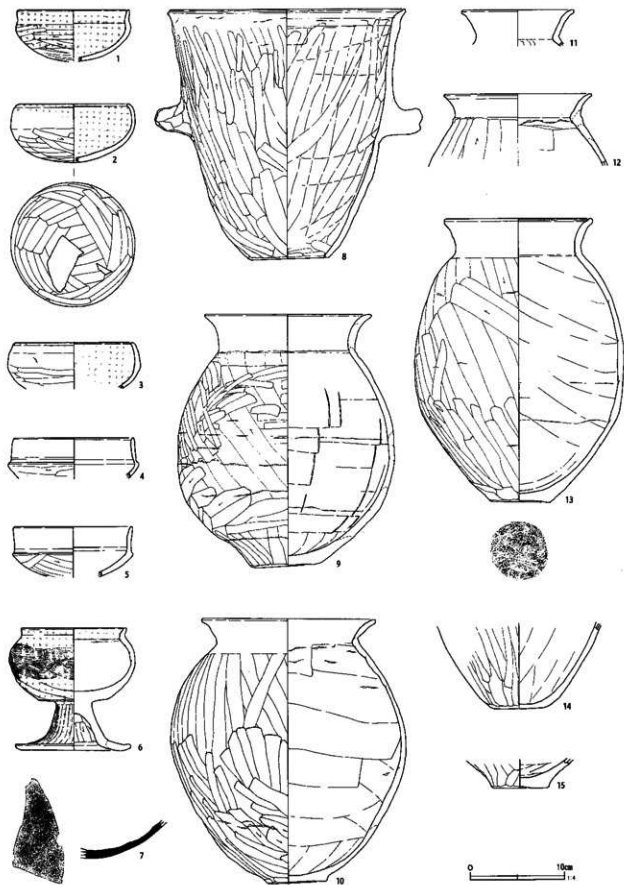
第282図 第76号住居跡(1)



第283図 第76号住居跡(2)

ている。燃焼部は、長さ113m×幅0.48～0.64mの長方形を呈している。燃焼部内には天井部が崩落し(3・5層)、堯2点(第284図9・13)がカマドの架け口に架けられた状態で出土している。天井部の崩落土の直下には灰層(4層)、焼土層(6層)が堆積している。燃焼部の中央付近には、高坏(6)を転用した支脚が取り付けられている。火床面は、支脚よりも前面部の被熱による焼土化が顕著である。火床面下には、土塊状の掘り方な

どは有していない。煙道部は、燃焼部奥壁から先端部へ向かってわずかな傾斜をもって上る。幅0.29～0.38mで、煙道部長1.07mが検出されている。煙道部先端の調査区域外付近では、平面形態が丸みをもって広がる傾向がみられることから、ピット状の煙出しが形成されていた可能性が高い。煙道部と燃焼部の上面には住居跡と同じ覆土が堆積していることから、住居焼絶後、間もなくカマドが崩落し、住居跡と同時併行で埋没していった



第284图 第76号住居跡出土遺物

第64表 第76号住居跡出土遺物観察表(第284図)

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 残存 | 焼成 | 色調 | 備考 | 出土位置 | 図版 |
|----|-----|----|-------|-----|-----|--------|-----|----|-----|------------------|--------------|-------|
| 1 | 土師器 | 碗 | (118) | 54 | - | ACEHIK | 30 | 普通 | にみい | 赤彩 No1 | | 138-5 |
| 2 | 土師器 | 坏 | 116 | 60 | - | CEHK | 90 | 普通 | にみい | 赤彩範囲不明瞭(確認部のみ明示) | 貯蔵穴 | 139-1 |
| 3 | 土師器 | 坏 | (124) | 43 | - | HIK | 25 | 良好 | 灰褐色 | 赤彩(外面は確認部のみ明示) | 貯蔵穴No4 | |
| 4 | 土師器 | 坏 | (124) | 42 | - | AHIK | 15 | 普通 | 橙 | 環蓋模倣 No18 | | |
| 5 | 土師器 | 坏 | (124) | 52 | - | ACHI K | 25 | 普通 | 橙 | 環蓋模倣 No35 | | |
| 6 | 土師器 | 高坏 | 110 | 128 | 109 | BCHIK | 85 | 普通 | にみい | 支脚転用 外面~口縁部内面赤彩 | カマドNo31 | 139-2 |
| 7 | 須恵器 | 皿 | - | 40 | - | K | 5 | 良好 | 灰白 | 陶器差 自然釉付着 | | |
| 8 | 土師器 | 瓶 | 248 | 261 | 84 | EHIJK | 100 | 良好 | にみい | 貯蔵穴No2 | | 138-3 |
| 9 | 土師器 | 甕 | (174) | 255 | 59 | ACEHIK | 70 | 普通 | 赤褐色 | カマドNo5 | | 138-4 |
| 10 | 土師器 | 甕 | 180 | 278 | 60 | EHIK | 80 | 普通 | にみい | 貯蔵穴No1 | | 138-1 |
| 11 | 土師器 | 甕 | (117) | 38 | - | AEHK | 25 | 普通 | 橙 | 貯蔵穴No1 | | |
| 12 | 土師器 | 甕 | (154) | 75 | - | AEHK | 20 | 普通 | にみい | 貯蔵穴No4 | | |
| 13 | 土師器 | 甕 | 153 | 297 | 64 | CEIK | 90 | 普通 | にみい | 口縁部内面に二次的焼熱痕 | 底部木炭痕 カマドNo6 | 138-2 |
| 14 | 土師器 | 甕 | - | 89 | 53 | CEHK | 30 | 普通 | 灰褐色 | 二次的焼熱痕 No8 | | |
| 15 | 土師器 | 甕 | - | 31 | 62 | AEHK | 40 | 普通 | 橙 | 内面に炭化物付着 | | |

ようである。

貯蔵穴は、カマド右側の南東コーナー部に付設されている。長軸1.45m×短軸1.25mの隅丸長方形である。掘り方は上部1/3付近にテラスをもち、住居跡の床面からの底面までの深さは0.63mを測る。テラス部の延長線となる8層と9層の層間に炭化物が薄く堆積するが、これは蓋材の名残と思われる。遺物は北東部壁際から甕(10)、南西部壁際から瓶(8)が貯蔵穴に落ち込みそうな状態で発見されているが、貯蔵穴の中からは遺物は出土していない。

Pit4は、主柱穴Pit1と貯蔵穴に挟まれた位置にあり、重複する。規模は、径0.27m×床面からの深さ0.63mで、主柱穴と遜色のない掘り方を有する。また、覆土の堆積状況には、人為的に埋め戻された様相がみられる。そこで、第76号住居跡では建て替えが行われ、Pit4は建て替え前の主柱穴であった可能性が考えられる。建て替え後の主柱穴には隣接するPit1が対応する。しかし、主柱穴Pit2・Pit3では、Pit1とPit4の関係となる様なピットが認められていないため、断定はできない。

壁溝は、検出された壁に沿って全周する。幅0.12~0.24m、床面からの深さ0.06~0.09mほどである。

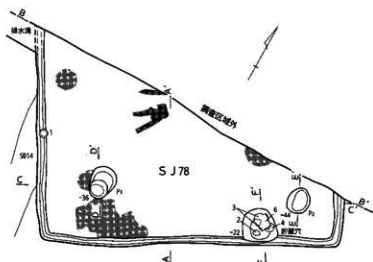
遺物は、カマド・貯蔵穴のほかに、Pit2付近から坏(4)・甕(14)が出土している。また、陶器産と推定される須恵器器底部片も検出されている。

第78号住居跡(第285図)

ZW-19グリッドに位置し、北半部が調査区域外にある。第14号溝と重複し、覆土の堆積状況から第78号住居跡の方が新しい。

平面形態は方形である。東西長4.85mを測り、南北長は3.26mを検出している。南北軸方位は、N-29°-Wを指す。確認面からの深さは0.20~0.29mほどである。覆土には黄褐色シルトブロックが多量に含まれていることから、人為的に埋め戻された可能性がある。また、南西コーナー部から中央部にかかる床面直上には、炭化物の集中した分布がみられる。

主柱穴4本の住居で、このうちPit1・Pit2の2本が検出されている。対応する残りの2本は調査区域外にある。主柱穴の規模は、Pit1が長径0.52m×短径0.30m×床面からの深さ0.36m、Pit2が長径0.43m×短径0.35m×床面からの深さ0.44mである。柱間距離は3.21mを測る。Pit1では土層下半



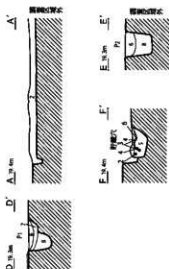
B 2.0m



C 3.8m



第285図 第78号住居跡



1 暗褐色土 マンガン粒多量 水田土層は明確でない

S J 78

1 暗褐色土 黄褐色シルトブロック(2~3cm)を

まばらに含む 炭化物少量

2 暗褐色土 黄褐色シルトブロック(1cm)多量

炭化物(2~3cm)全体を含む

3 褐色土 黄褐色シルトブロック(2~3cm)を

全体に含む 炭化物

(φ1~2cm)・焼土ブロック(3~5cm)を

全体に含む 粘性強い

貯蔵穴

4 暗褐色土 黄褐色粘土ブロック(3~5cm)全体に多量

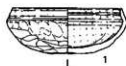
5 暗褐色土 黄褐色粘土ブロック(2~3cm)少量

ピット1-2

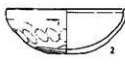
6 柱取痕の埋没

7 柱取痕の埋没

8 柱礎



1



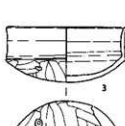
2



4



1



3



5



7



6



第286図 第78号住居跡出土遺物

第65表 第78号住居跡出土遺物観察表(第286図)

| 番号 | 類別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 残存 | 焼成 | 色調 | 備考 | 出土位置 | 図版 |
|----|-----|----|-------|----|----|-------|----|----|------|--|------|-------|
| 1 | 土師器 | 坏 | 114 | 47 | - | EH1KL | 95 | 普通 | にぶ・青 | 坏身模数 赤彩 底部外面木葉痕 №1 | | 139-3 |
| 2 | 土師器 | 坏 | (126) | 46 | - | ACEHK | 30 | 普通 | にぶ・青 | 器多 貯蔵穴№1 | | |
| 3 | 土師器 | 坏 | 125 | 57 | - | ACHIK | 90 | 普通 | にぶ・青 | 坏身模数 小淵 二次的焼熱 貯蔵穴№2・4 | | 139-4 |
| 4 | 土師器 | 碗 | 121 | 61 | - | CEHIK | 95 | 普通 | にぶ・青 | (高坏?) 二次的焼熱 赤彩不明瞭 煤付着φ3~5mm石英・赤色塵多 貯蔵穴№3 | | 139-5 |
| 5 | 土師器 | 甕 | (178) | 58 | - | ABHIK | 20 | 普通 | にぶ・赤 | 口縁部復元 貯蔵穴 | | |
| 6 | 土師器 | 甕 | (166) | 94 | - | DEH | 30 | 不良 | にぶ・青 | 二次的焼熱 調整不明瞭 φ10mm淵 貯蔵穴№2 | | |

部に柱痕が認められるが、いずれの主柱穴も柱材は抜き取られている。

カマド・炉などの厨房施設は検出されていないが、西壁際に径0.33mの円形に周囲が焼土化し、炭化物が堆積する箇所が見ついている。袖部や支脚・煙道部等の諸施設は確認されていないが、焼土や炭化物の状況と西壁際という位置関係から、カマド焼部(被熱した火床面)の残痕と考えることが可能である。そして、袖部等が確認されていないのは、カマド自体は調査区域外に造りかえられ、それ以前に使用されていたカマドの残痕が発見されたと解釈することができる。

貯蔵穴は、南東部の壁際に付設されている。南北軸0.53m×東西軸0.52mの隅丸方形で、床面からの深さは0.22mを測る。底面は住居壁際から住居の中央に向かって傾斜をもっている。遺物は上層から坏・碗(第286図2・3・4)と甕(6)

が出土している。

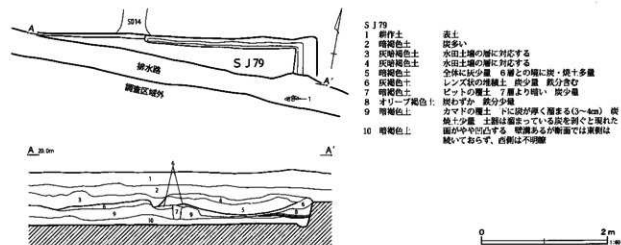
壁溝は、検出された壁に沿って全周する。幅0.10~0.18m、床面からの深さ0.02~0.09mほどである。

遺物は、貯蔵穴を中心に土師器の碗・坏・甕が出土しているが、遺物量は総じて少ない。また、西壁際から出土している土師器坏(1)の底面には、製作時の木葉痕が残っている。

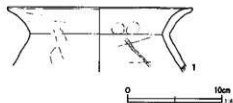
第79号住居跡(第287図)

ZW-19グリッドに位置する。第14号溝跡と重複し、覆土の堆積状況から、新旧関係は第79号住居跡の方が新しい。

平面形態が方形の住居跡であるが、北東隅から北辺付近が検出されているのみで、大半が調査区域外にある。一辺34m以上、南北軸方位はN-9°-Wを指す。確認面からの深さは0.05~0.16mほどで、調査区壁面の土層観察では約0.4mである。



第287図 第79号住居跡



第288図 第79号住居跡出土遺物

平面的には確認できなかったが、調査区壁面の土層断面では、東壁際に厚い炭化物層が堆積している（8層）。そのため、カマドが東壁に付設されていた可能性が高いと思われる。

主柱穴・貯蔵穴は、検出されていない。壁溝は、検出された北壁の東半～東壁に沿って検出されている。幅0.12～0.36m、床面からの深さ0.05～0.07mほどである。

遺物の出土量は少なく、土師器壺1点（第288図1）が図示し得たのみである。

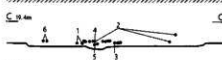
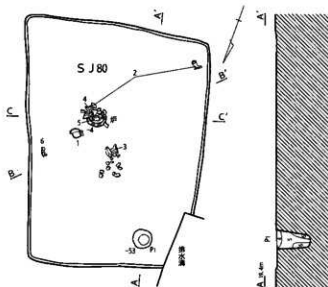
第80号住居跡（第289図）

ZX-14、ZY-14・15グリッドに位置する。重複する遺構はないが、東側に隣接する第82号住居跡と軒を並べる位置関係にある。

平面形態は、南北に長軸をもつ台形である。長軸最大長3.95m、短軸最大長2.87mを測り、長軸方位はN-161°-Eを指す。確認面からの深さは0.07～0.15mほどである。覆土は灰褐色の単層（1層）の中に炭化物層（2層）が形成されている。

炉は地床炉で、住居中央からやや南東によって位置する。火床面は、長軸0.31m×短軸0.26mの円形の範囲が焼土化している。火床面下には深さ0.04mの浅い土塊状の掘り込みがみられ、焼土層が形成されている（3層）。

ピットは、Pit1の1本のみである。長径0.31m×短径0.30m×床面からの深さ0.53mのしっかりとした掘り方規模をもつ。覆土の堆積も、柱穴が



- S J 80
1 灰褐色土 炭少層
2 1層の間に挟まる炭層 炭化材ほか

- SP
3 焼土

- ピット1
4 暗灰褐色土 炭化物小粒子・黄褐色小ブロック少量
5 暗灰褐色土 炭化物小粒子少量
6 黄褐色土 地山に近い土 暗灰褐色中ブロック少量



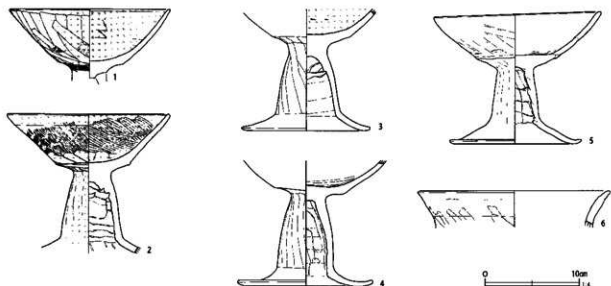
第289図 第80号住居跡

埋没したような状況を示している。機能は不明であるが、掘り方規模から主柱穴の候補となる。もしくは、壁際の位置関係から、出入り口施設に伴う梯子穴の可能性も考えられる。貯蔵穴・壁溝は、検出されていない。

遺物は、炉上面と住居中央付近から集中して出土している。土師器高坏を主体とし、きわめて特徴的な器種構成である（第290図）。

第66表 第79号住居跡出土遺物観察表（第288図）

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 残存 | 焼成 | 色調 | 備考 | 出土位置 | 図版 |
|----|-----|----|-------|----|----|-----------|----|----|----|-------------|------|----|
| 1 | 土師器 | 壺 | (196) | 67 | - | A E H I K | 10 | 良好 | 灰褐 | φ5mm石灰粒・変母多 | No 1 | |



第290図 第80号住居跡出土遺物

第67表 第80号住居跡出土遺物観察表 (第290図)

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 残存 | 焼成 | 色調 | 備考 | 出土位置 | 図版 |
|----|-----|----|-------|-----|-------|---------|----|----|------------|----------------------------|--------|-------|
| 1 | 土師器 | 高坏 | 170 | 73 | - | ACEHIJ | 65 | 普通 | にみ青 にみ赤 | 内外面赤彩 片側に二次的焼熱による変色 | No.2 | 139-6 |
| 2 | 土師器 | 高坏 | (172) | 145 | - | AEHIK | 70 | 良好 | にみ青 | 赤彩 胎土痕明瞭 | No.3・9 | 139-7 |
| 3 | 土師器 | 高坏 | - | 128 | (123) | CEHK | 70 | 不良 | にみ赤 | 赤彩 外面赤彩不明瞭 脚部最大径 (137) cm | No.5 | 140-1 |
| 4 | 土師器 | 高坏 | - | 130 | (122) | ACEHIK | 70 | 普通 | 明赤陶 | 二次的焼熱 赤彩不明瞭 脚部最大径 (144) cm | No.3 | 140-2 |
| 5 | 土師器 | 高坏 | (180) | 139 | (128) | BEHIK | 40 | 普通 | 明赤陶 | 二次的焼熱 脚部最大径 (140) cm | No.3・4 | 140-3 |
| 6 | 土師器 | 甕 | (202) | 38 | - | ABCEHIK | 20 | 普通 | 明赤陶 | 二次的焼熱外変色 | No.1 | |

第81号住居跡 (第291図)

ZY・ZZ-14・15グリッドに位置し、東半部は調査区域外にある。重複する第95号住居跡よりも新しい。また、東西方向の土層断面では、大地震に伴う噴砂痕が確認されている。

平面形態は方形で、南北長5.90mを測る。主軸方位はN-114° -Wを指す。確認面からの深さは0.40~0.92mと深い。覆土は自然堆積で、北側から堆積した様子が看取できる。

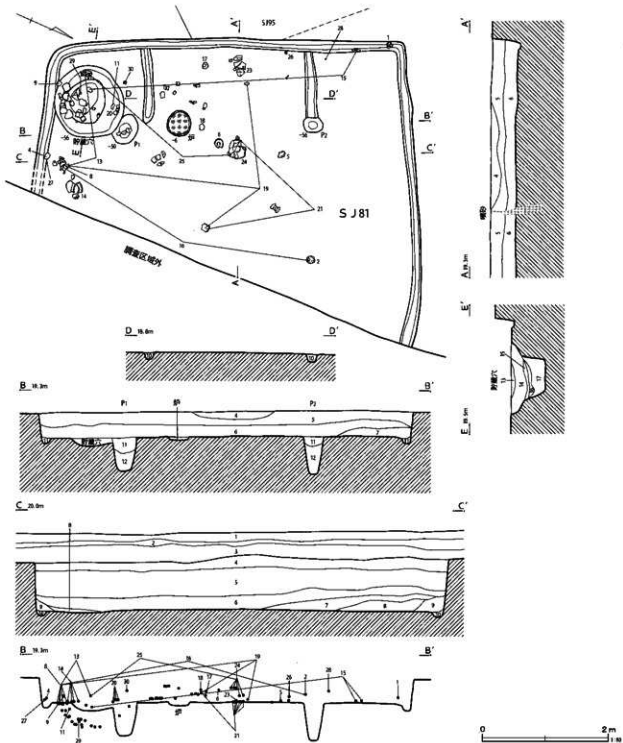
西壁から住居内側の東方に向けて、2条の間仕切り溝が張り出している。幅0.12~0.18m、床面からの深さ0.12~0.14mほどである。北間仕切り溝の先端には、主柱穴 (Pit2) が位置する。一方、南間仕切り溝の先端付近にも主柱穴 (Pit1) があり、炉と貯蔵穴を仕切るように延びている。

主柱穴が4本の住居で、西辺のPit1とPit2の2本が検出されている。対応する東辺の2本は調

査区域外にある。主柱穴の規模は、Pit1は長径0.47m×短径0.31m以上×床面からの深さ0.50m、Pit2は長径0.30m×短径0.22m×床面からの深さ0.56mである。平面形に比べてしっかりと掘り込みを有する。柱間距離は2.95mを測る。土層断面では、柱痕は確認されていない。

炉は、地床炉である。西壁に寄った南半部にあり、南側間仕切り溝先端の北側に位置する。火床面は、長軸0.40m×短軸0.37mの円形範囲が焼土化している。火床面下には深さ0.05mほどの浅い土壌状の掘り込みがみられる。

貯蔵穴は、南西コーナー部に付設されている。南側の間仕切り溝によって炉と仕切れ、北端では主柱穴Pit1と重複する。長軸1.15m×短軸1.12mの不正円形で、床面からの深さは0.56mを測る。上方1/3付近でテラスをもち、底面は中央部がやや隆起している。覆土はテラス部付近の15層を境



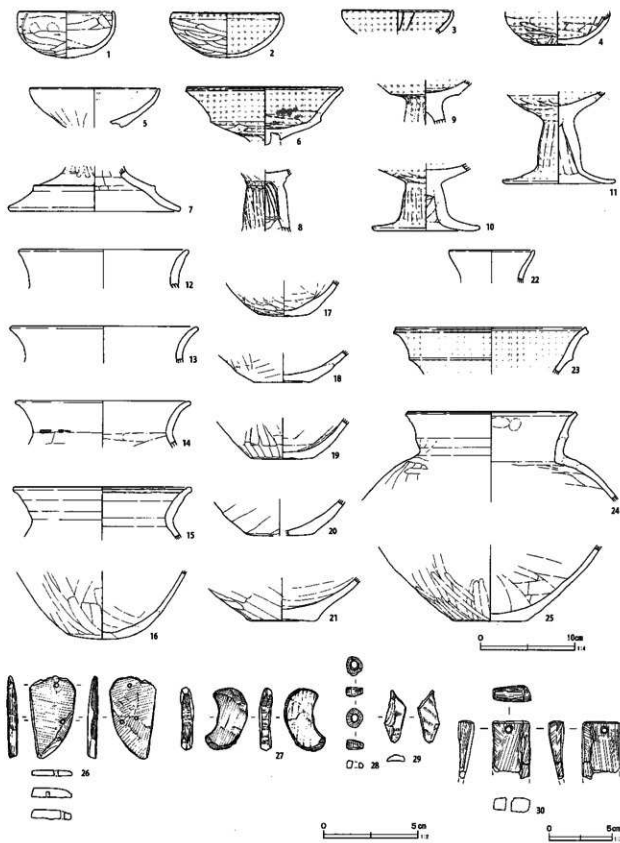
- 1 茶褐色土 現代の耕作土
2 茶褐色土 現代の耕作土
3 明灰褐色土 現代の耕作土

- S J 81
4 暗灰褐色土 炭化物粒子少量
5 暗灰褐色土 炭化物粒子・黄褐色小粒子含む
6 暗灰褐色土 7層よりも砂の量が少ない
7層より多い

- 7 暗灰褐色土 炭化物粒子少量 黄褐色小ブロック
8 暗灰褐色土 10層と同じ
9 暗灰褐色土 炭化物粒子少量 黄褐色中ブロック
砂含む
10 暗灰褐色土 炭化物粒子少量 黄褐色小ブロック
砂多量 壁溝
ピット 1・2
11 暗灰褐色土 炭化物粒子少量 黄褐色中粒子含む
12 黄褐色土 砂礫に暗灰褐色で炭化物を少量含む

- 貯蔵穴
13 暗灰褐色土 炭化物粒子・黄褐色中粒子少量
14 暗灰褐色土 炭化物粒子多量で下方に集中 黄土中ブロック含んで下方に集中 黄褐色小ブロック多量 一面で埋戻し 砂含む 遺物包含層 炭化物少量 黄褐色土中ブロック含む 遺物はこの層のみ
15 明灰褐色土 炭化物粒子少量
16 明黄灰褐色土 砂含むでも5層より粘土質
17 明黄褐色土 炭化物粒子少量 砂多量 この下で粘土質の土が無くなる

第291図 第81号住居跡



第292图 第81号住居跡出土遺物

第68表 第81号住居跡出土遺物観察表 (第292図)

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 残存 | 焼成 | 色調 | 備考 | 出土位置 | 図版 |
|----|-----|----|-------|----|-------|---------|----|----|-----|-----------------------|------|-------|
| 1 | 土師器 | 坏 | (100) | 48 | - | CEHIK | 40 | 普通 | にぶい | φ1~2mm石英粒 No33 | | 140-4 |
| 2 | 土師器 | 坏 | 113 | 46 | 35 | BDEH | 95 | 良好 | 橙 | 赤彩 No9 SJSと接合 | | |
| 3 | 土師器 | 坏 | (117) | 25 | - | BCDHIJ | 15 | 普通 | にぶい | 赤彩 内面暗文 貯蔵穴 | | |
| 4 | 土師器 | 椀 | - | 35 | 47 | ACDEHI | 50 | 良好 | にぶい | 平底 赤彩 No18 | | |
| 5 | 土師器 | 高坏 | (137) | 41 | - | HI | 10 | 普通 | にぶい | 器面風化 赤彩不明瞭 No7 | | 140-5 |
| 6 | 土師器 | 高坏 | 164 | 60 | - | BEH | 70 | 良好 | 赤 | 赤彩 No32 | | |
| 7 | 土師器 | 高坏 | - | 47 | (180) | CDEH | 15 | 良好 | にぶい | 有段脚 外面赤彩 (不明瞭) | | |
| 8 | 土師器 | 高坏 | - | 65 | - | ACHIK | 90 | 普通 | にぶい | 赤彩 No19 | | 140-6 |
| 9 | 土師器 | 高坏 | - | 46 | - | CEIK | 90 | 普通 | にぶい | 赤彩 No13 | | |
| 10 | 土師器 | 高坏 | - | 70 | (114) | ACEHI | 45 | 普通 | にぶい | 短脚 赤彩 雲母多 | | |
| 11 | 土師器 | 高坏 | - | 97 | (119) | AEHIK | 50 | 良好 | にぶい | 赤彩 No3 | | |
| 12 | 土師器 | 甕 | (178) | 40 | - | CEHI | 25 | 普通 | 橙 | 腹部に二次的焼熱 貯蔵穴 | | |
| 13 | 土師器 | 甕 | (194) | 38 | - | CEIK | 20 | 普通 | にぶい | 二次的焼熱 No14・19 | | |
| 14 | 土師器 | 甕 | (184) | 49 | - | ABCEH | 60 | 普通 | にぶい | φ5mm粒・片岩細粒子 No21 | | |
| 15 | 土師器 | 甕 | (186) | 54 | - | AEHIK | 25 | 普通 | にぶい | 外面煤付着 貯蔵穴No1・2 | | |
| 16 | 土師器 | 甕 | - | 71 | 71 | CEH | 60 | 普通 | にぶい | 二次的焼熱 貯蔵穴No9・19 | | |
| 17 | 土師器 | 甕 | - | 37 | 53 | BEHK | 90 | 普通 | にぶい | 二次的焼熱 φ2~5mm石英片多 No31 | | |
| 18 | 土師器 | 甕 | - | 30 | (60) | ABCEHJK | 30 | 普通 | にぶい | 片岩微細片極少量 No29 | | |
| 19 | 土師器 | 甕 | - | 43 | 68 | ABCEHIK | 50 | 普通 | にぶい | 二次的焼熱 貯蔵穴No4・10 No19? | | |
| 20 | 土師器 | 甕 | - | 38 | (70) | ACEIK | 25 | 普通 | にぶい | 二次的焼熱 器面風化顯著 貯蔵穴No16 | | |
| 21 | 土師器 | 壺 | - | 45 | 72 | CEHIK | 90 | 普通 | にぶい | 二次的焼熱 煤付着 No10・12 | | |
| 22 | 土師器 | 壺 | (90) | 34 | - | AHI | 20 | 普通 | 橙 | 赤彩不明瞭 | | |
| 23 | 土師器 | 壺 | (200) | 49 | - | CEHIK | 15 | 普通 | 橙 | 有段口縁 内外面赤彩 No4 | | |
| 24 | 土師器 | 壺 | 180 | 94 | - | CEHIK | 50 | 普通 | にぶい | 有段口縁 二次的焼熱 No11 | | |
| 25 | 土師器 | 壺 | - | 80 | (80) | ACEIK | 25 | 普通 | 橙 | 貯蔵穴No11・14 | | |

に上下二分され、遺物は15層からのみ出土している。

壁溝は、検出された壁に沿って全周する。幅0.12~0.20m、床面からの深さ0.04~0.05mほどで、間仕切り溝と比べると浅い。覆土は間仕切り溝の堆積層と酷似し、両者ともに板壁などの支えとして早々に土壌が充填されている。

遺物は間仕切り溝によって集中区域が分割され、2条の間仕切り溝によって挟まれた処周辺部と、南間仕切り溝より南側の貯蔵穴周辺から主に出土している。古墳時代中期の土師器坏・椀・高坏といった供膳具、煮沸具の甕、貯蔵具の壺といった器種構成が揃っている。しかし、個々の遺物の残存率は低く、完形品がないことも特徴として捉えられる。このほかに、剣形・勾玉形石製模造品(未製品)や白玉、滑石の製品剥片・砥石も出土している。このように、石製模造品の未製品等が

出土しているが、これらの製作に関連するような施設や工具等は発見されていない。

第292図26は、剣形石製模造品の未製品である。北間仕切り溝南側の西壁の壁溝際から、床面よりも浮いた状態で出土している。形状的には、剣先部の方が直線的、他方が湾曲する。正面・背面には研磨が施されているが、背面は粗い。縁辺部は未加工で、剝離痕を残す。縦方向に2孔の円孔が穿たれて貫通しているが、背面には未貫通の円孔1孔も加えられている。孔径はいずれも0.20cmを測る。上端部が欠損し、現存長4.19cm、幅2.24cm、厚さ0.49cm、重さ80g、石材は滑石である。(図版141-1)

27は、勾玉形石製模造品の未製品である。南壁の壁溝際の、床面直上から出土している。勾玉形の形状を呈しているが、穿孔が行われていない。表裏面ともに研磨が施されているが粗い。また、

縁辺部には剝離痕が明瞭に残っている。長さ333cm、幅15cm、厚さ057cm、重さ63g、石材は滑石である。(図版141-2)

28は、滑石製の白玉である。北間仕切り溝の北側の西壁の壁溝際から、床面よりも浮いた状態で出土している。上・下・側面すべてに研磨が施されている完成品である。孔はやや角張った楕円形で、孔径は0.25×0.20cmである。長径0.47cm、短径0.46cm、厚さ0.16cm、重さは0.1gである。(図版140-7)

29は、石製模造品類の作成時に生じた滑石剥片である。貯蔵穴の中層から出土している。長さ267cm、幅0.94cm、厚さ0.44cm、重さ1.4gである。表面には剝離痕がみられるのみで、使用された痕跡等は確認できない。(図版140-8)

30は、上端部に穿孔し、ここに紐を通して使用した揚げ砥石である。貯蔵穴の北西壁際から出土している。孔径は0.5cmで、正面には孔に接して未貫通の小穴がみられる。欠損部を除く前面に擦痕が確認できる。現存長46cm、幅31cm、厚さ0.5~1.3cm、現存重187g、石材は黒色頁岩である。(図版141-3)

第82号住居跡 (第293図)

ZX-14・15、ZY-15グリッドに位置し、東北部は調査区域外にある。重複する遺構はないが、第80号住居跡と軒を並べる位置関係にある。

平面形態は方形で、南北長351mを測り、南北軸方位N-22°-Wを指す。確認面からの深さは0.09mほどで、覆土は単層である。

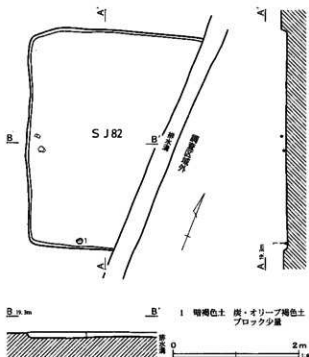
カマドや炉・支柱穴・貯蔵穴・壁溝等は、検出されていない。

遺物は、西壁・南壁際から出土しているが、遺物はきわめて少ない(第294図)。

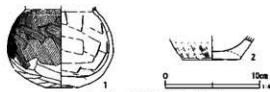
第83号住居跡 (第295図)

ZW-14・15グリッドに位置する。南コーナー部には第32号土壌が重複し、覆土の堆積状況から第83号住居跡が先行する。また、東側の第96号住居跡、南側の第85・86号住居跡とは、ほぼ一致する方向に配置されている。

平面形態は方形で、カマドを北東壁の中央付近に付設する。しかし、北東壁付近が調査区域の境界となっているため、住居全体は検出されていない。主軸長43m以上、幅4.27mを測り、主軸方位はN-50°-Eを指す。確認面からの深さは0.12~0.18mほどで、覆土は自然堆積である。



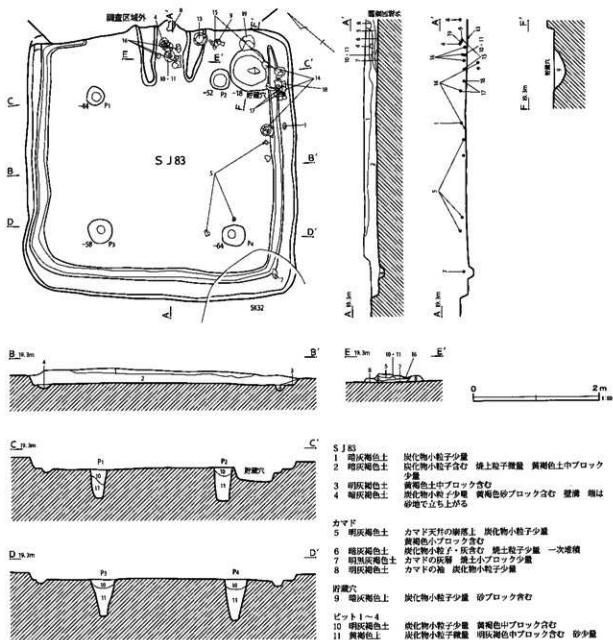
第293図 第82号住居跡



第294図 第82号住居跡出土遺物

第69表 第82号住居跡出土遺物観察表 (第294図)

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 残存 | 焼成 | 色調 | 備考 | 出土位置 | 図版 |
|----|-----|----|----|----|----|-----------|----|----|-----------|----|------|-------|
| 1 | 土師器 | 鉢 | - | 86 | 35 | A E H I K | 65 | 普通 | におい境 No.1 | | | 141-4 |
| 2 | 弥生 | 壺 | - | 25 | 60 | C E H I | 50 | 普通 | におい境 外面赤彩 | | | |

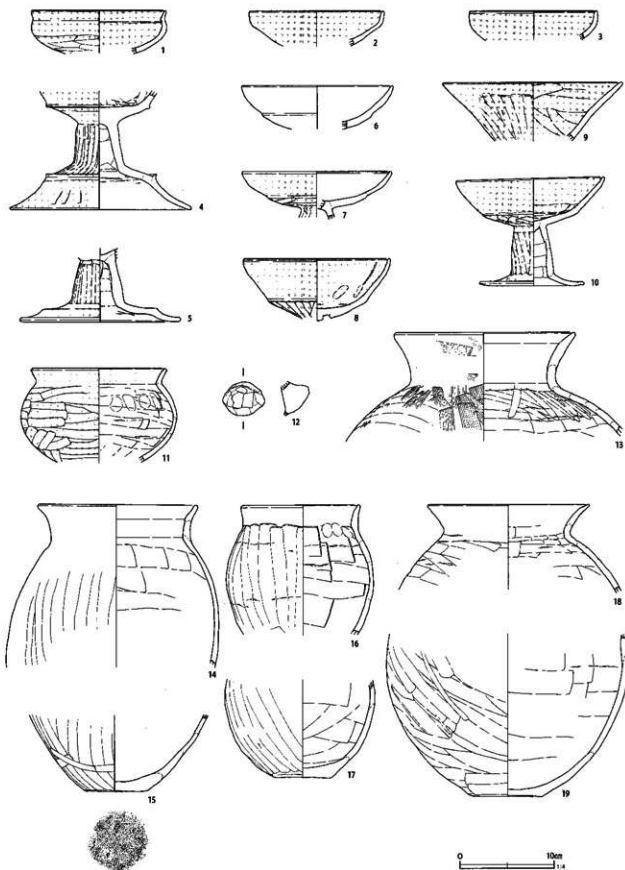


第295図 第83号住居跡

主柱穴4本の住居で、Pit1~Pit4の4本が相当する。主柱穴の規模は、Pit1が長径0.29m×短径0.29m×床面からの深さ0.44m、Pit2が長径0.32m×短径0.30m×床面からの深さ0.52m、Pit3が長径0.39m×短径0.38m×床面からの深さ0.58m、Pit4が長径0.35m×短径0.33m×床面からの深さ0.64mである。柱間距離は、Pit1-Pit2間が1.98m、Pit2-Pit4間が2.47m、Pit3-Pit4間が2.05m、Pit3-Pit1間が2.13mを測る。西側に短辺、東側に長辺をも

つ台形に配置されている。土層断面では柱痕が確認されていないが、柱材を支えるに足る掘り方を有している。

カマドは、燃烧部奥壁から煙道部が調査区域外にある。住居壁の内側に形成された燃烧部の一部が検出されている。袖部の直下には植物繊維が残る炭化物層が堆積していることから、袖部は造り付けられたものである（8層）。右袖の奥に土師器壺上半部（第296図13）を芯材として用いて、



第296图 第83号住居跡出土遺物

第70表 第83号住居跡出土遺物観察表 (第296図)

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 残存 | 焼成 | 色調 | 備考 | 出土位置 | 図版 |
|----|-----|-----|-------|-----|-------|----------|----|----|------|--|-------|----|
| 1 | 土師器 | 輪 | (142) | 45 | - | CHIK | 25 | 普通 | にひい橙 | 赤彩 No.6 | | |
| 2 | 土師器 | 坏 | (140) | 37 | - | CDEHI | 15 | 普通 | にひい橙 | 赤彩 器面風化 調整不明瞭 | | |
| 3 | 土師器 | 坏 | (133) | 30 | - | CEIK | 30 | 普通 | 赤 | 赤彩 調整単位不明 | | |
| 4 | 土師器 | 高坏 | - | 124 | 192 | AEGI | 75 | 良好 | にひい橙 | 有段脚 赤彩 二次的焼熱 カマドNo.1 Pit.2 SJ-84No.7 | 141-5 | |
| 5 | 土師器 | 高坏 | - | 77 | (159) | AEGHJ | 30 | 普通 | にひい橙 | 有段脚 赤彩 No.8・10・11 | | |
| 6 | 土師器 | 高坏 | (158) | 45 | - | HIK | 10 | 良好 | 橙 | 外面に赤彩痕 器面風化調査のための調整不明瞭 | | |
| 7 | 土師器 | 高坏 | (157) | 49 | - | HIK | 30 | 良好 | にひい橙 | 外面赤彩 二次的焼熱痕顯著 No.12 | | |
| 8 | 土師器 | 高坏 | (153) | 65 | - | BCHIK | 70 | 普通 | 橙 | 赤彩 カマドNo.3 | | |
| 9 | 土師器 | 高坏 | (190) | 61 | - | ACEI | 10 | 良好 | にひい橙 | 赤彩 No.1 | | |
| 10 | 土師器 | 高坏 | 156 | 112 | 88 | AEGHJK | 90 | 普通 | にひい橙 | 支脚転用 赤彩 白色針状物質多 坏内面に黒タール状付着物 脚部最大径11cm カマドNo.2 SJ-84 | 141-6 | |
| 11 | 土師器 | 鉢 | (140) | 98 | - | ACBGHIJ | 45 | 普通 | にひい橙 | 赤彩 カマドNo.2 | 141-7 | |
| 12 | 土師器 | 飯 | - | - | - | ACEHIK | 5 | 普通 | 橙 | 把手 縦35cm 幅45cm 厚さ30cm | | |
| 13 | 土師器 | 壺 | 188 | 113 | - | BCBGHIJK | 30 | 普通 | にひい橙 | 二次的焼熱痕 調整不明瞭 白色針状物質・赤色粒子多量 カマドNo.7 | | |
| 14 | 土師器 | 甕 | 166 | 170 | - | AEGHJKL | 40 | 普通 | にひい橙 | 二次的焼熱痕 調整不明瞭 No.5・7 貯蔵穴No.1 | | |
| 15 | 土師器 | 甕 | - | 80 | 66 | CEIK | 80 | 普通 | にひい橙 | 底部ヘラケズリ・縁部周辺の凹痕 No.1・3 | | |
| 16 | 土師器 | 小型甕 | (123) | 136 | - | ACBGHIJK | 45 | 普通 | にひい橙 | 二次的焼熱痕 縁部周辺に付着 カマドNo.2・4・5・6 | | |
| 17 | 土師器 | 小型甕 | - | 102 | 61 | CEIK | 60 | 普通 | にひい橙 | 外面に腐状付着物 二次的焼熱による器面風化 No.4・5 | | |
| 18 | 土師器 | 甕 | (170) | 89 | - | ACBGHIKL | 15 | 普通 | 灰青陶 | 器面風化 No.4 SJ-84 | | |
| 19 | 土師器 | 甕 | - | 170 | 76 | CEHIK | 70 | 普通 | にひい橙 | φ5-8mm 断面二次的焼熱 縦付着 No.2 | | |

明灰褐色土によってカマドを構築している。天井部は、焼熱部の奥半部に崩落した状態で検出されている(5層)。火床面との間には、カマド使用時に堆積した灰層(7層)と、カマド放棄後から天井部崩落の間に流入した土壌(6層)が堆積している。火床面と住居床面との明瞭な境や、焼熱部の掘り込み等はみられない。焼熱部の中央付近には、高坏(10)を倒立させて転用した支脚が設置されている。支脚の上方にはカマドの灰層が堆積していたことから、支脚は原位置の状態で残存していた。規模は、焼熱部幅1.03m、内法幅0.45m、検出長1.00mを測る。遺物は高坏・鉢・小型甕等が天井崩落土の上面から出土し、カマドの上方空間に設けられていた棚架施設から住居廃絶後に転落したものと推測される。

貯蔵穴は、カマド右側の東コーナー部に付設され、一部が南東辺の壁溝と重複している。長軸0.66m×短軸0.62mの平面円形である。床面からの深さは0.20mを測り、掘り方断面は半円形である。

壁溝は、カマドが設置された北東壁の北側コー

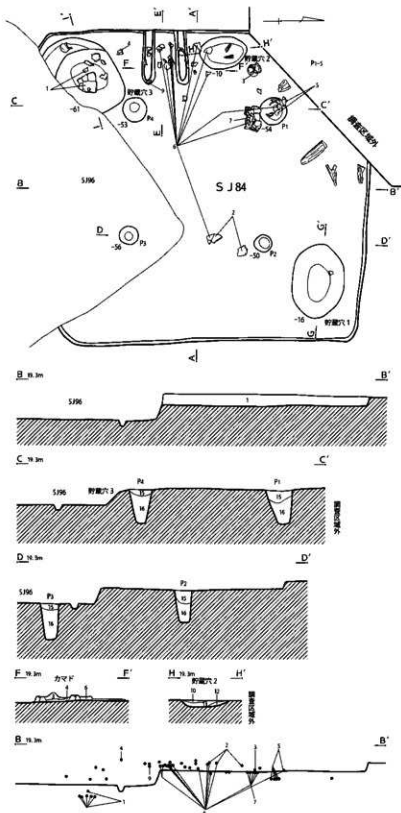
ナー部～北西壁～南西壁～南東壁に沿って巡っている。幅0.13～0.20m、床面からの深さ0.05～0.08mほどである。各辺ともに、壁下辺から0.15～0.20m前後の内側を巡っている。カマドが造り付けのタイプであることを加味すると、住居が拡張・増築された可能性が考えられる。

遺物は、カマド・貯蔵穴周辺部と主柱穴Pit4付近から、供膳形態の土師器坏・高坏・鉢、貯蔵形態の土師器壺、煮沸形態の土師器甕・飯が一括して出土している。いずれの遺物も、住居床面直上からわずかに浮いた位置からの検出である。

第84号住居跡 (第297図)

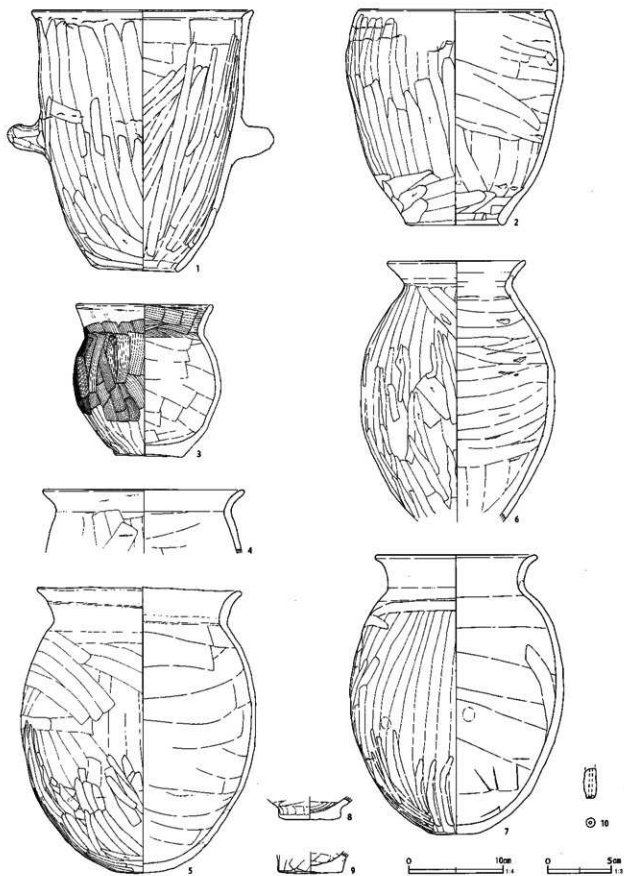
ZW-14グリッドに位置し、北東隅が調査区域外にある。第96号住居跡と重複し、覆土の堆積状況から第84号住居跡の方が古い。

平面形態は方形で、カマドを西壁の中央付近からやや南側によった位置に付設する。主軸長5.02m、残存する東西幅4.72mを測り、主軸方位はN-90°-Wを指す。確認面からの深さは0.15～0.18



- S J 84
- 1 暗褐色土 灰・オリブ褐色土ブロック少量
 - 2 オリブ褐色土 暗褐色土わずかな灰の堆積
- カマド
- 3 暗灰褐色土 天井部 黄褐色小ブロック含む
 - 4 黒灰褐色土 灰層 焼土粒子少量
 - 5 暗灰褐色土 黄褐色小ブロック含む
 - 6 暗灰褐色土 炭化物粒子 黄褐色中ブロック含む
 - 7 暗灰褐色土 灰層 黄褐色小ブロック少量
- 貯蔵穴 1
- 8 暗灰褐色土 炭化物粒子・黄褐色小ブロック含む
 - 9 明灰褐色土 炭化物粒子少量 黄褐色中ブロック少量
- 貯蔵穴 2
- 10 暗灰褐色土 炭化物粒子含む
 - 11 暗褐色土 炭化物層 焼土ブロック少量
 - 12 暗灰褐色土 砂含む
- 貯蔵穴 3
- 13 暗灰褐色土 焼土ブロック少量 炭化物粒子・黄褐色小ブロック・砂含む
 - 14 黄褐色土 砂・暗灰褐色土小ブロック少量 炭化物粒子微量
- ピット
- 15 暗灰褐色土 炭化物粒子・黄褐色中ブロック少量 砂・ブロック含む
 - 16 黄褐色土 暗灰褐色中ブロック少量 砂・炭化物粒子微量

第297図 第84号住居跡



第298图 第84号住居跡出土遺物

第71表 第84号住居跡出土遺物観察表(第298図)

| 番号 | 種類 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎上 | 残存 | 焼成 | 色調 | 備考 | 出土位置 | 図版 |
|----|-----|-----|-------|-----|-------|-----------|-----|----|------|---|------|-------|
| 1 | 土師器 | 瓶 | 232 | 275 | 84 | E H I K | 100 | 普通 | 明赤褐 | 貯蔵穴No.3・5 | | 142-1 |
| 2 | 土師器 | 瓶 | (301) | 228 | (104) | ACDEHIK | 25 | 普通 | においぬ | 口縁部内彎 No.2・3 | | |
| 3 | 土師器 | 小型甕 | (144) | 159 | 70 | DEH | 80 | 普通 | 橙 | 外面傷付者 内面テール状の付着物 No.8 | | 142-2 |
| 4 | 土師器 | 甕 | (212) | 67 | - | ACEHI | 15 | 普通 | においぬ | No.29 | | |
| 5 | 土師器 | 甕 | (214) | 302 | 53 | C E H I K | 90 | 普通 | 橙 | 埋没中の土圧による歪み No.4・5 | | 142-4 |
| 6 | 土師器 | 甕 | (144) | 274 | - | ACEHIJ | 60 | 普通 | においぬ | 内面付着物 No.3・4・6・9・11・12・17-19・26・28 貯蔵穴3 | | |
| 7 | 土師器 | 甕 | 166 | 295 | 55 | ACEHIK | 70 | 普通 | 暗赤褐 | No.6 | | 142-5 |
| 8 | 土師器 | 甕 | - | 24 | (64) | A E H I K | 20 | 普通 | 赤褐 | 底部木炭痕 | | |
| 9 | 弥生 | 甕 | - | 22 | 67 | C D E H I | 95 | 普通 | 明赤褐 | 内面底部黒色テール状の付着物 No.22 | | |

mほどである。覆土は自然堆積で、調査区域境界付近からは、炭化材が検出されている。

主柱穴4本の住居で、Pit1~Pit4の4本が該当する。主柱穴の規模は、Pit1が長径0.42m×短径0.42m×床面からの深さ0.54m、Pit2が長径0.28m×短径0.27m×床面からの深さ0.50m、Pit3が長径0.30m×短径0.28m×床面からの深さ0.56m、Pit4が長径0.40m×短径0.37m×床面からの深さ0.53mである。柱間は南北方向約2.2m、東西方向約2.1mである。

カマドは、燃焼部が住居壁の内側に構築され、煙道部は検出されていない。袖部は、黄褐色小ブロックを少量含む暗灰褐色土によって造り付けられている。天井部は崩落(3層)し、直下には灰層(4層)が堆積している。また天井部の土壌は、袖部右側(北側)にも流出している(6層)。燃焼部には灰層が形成されているが、火床面の焼土化は見られず、支脚も検出されていない。底面は、住居跡床面から極わずかにくぼんでいるが、明瞭な境界はもたない。燃焼部奥壁は、高さ0.18mほど外傾気味に立ち上がる。カマドの規模は、燃焼部長0.87m、上幅0.73m、下幅0.32mである。遺物は土師器甕(第298図6)が破砕された状態で出土しているが、同一個体の破片は住居内の広範囲に分散している。

貯蔵穴は、3基発見されている。

貯蔵穴1は、カマドの対面辺に沿った北東コーナー部に付設されている。長軸1.17m×短軸0.82mの楕円形で、床面からの深さは0.16mを測る。

レンズ状の断面形態で、覆土は自然堆積である。遺物は土師器細片が出土している。

貯蔵穴2は、カマド右側(北側)に付設されている。長軸0.73m×短軸0.52mの楕円形で、床面からの深さは0.10mを測る。覆土には、炭化物が多量に堆積している。カマドとの位置関係や浅い掘り方、覆土の堆積状況などから、カマド内の灰を掻き出した土壌である可能性もある。

貯蔵穴3は、カマド左側(南側)の南西コーナー部に付設されている。一部を重複する第96号住居跡によって攪乱され、長軸1.08m×現存短軸0.88mの楕円形で、床面からの深さは0.61mを測る。底面は平坦で、しっかりとした掘り込みをもつ。覆土は自然堆積で、土師器瓶が出土している。

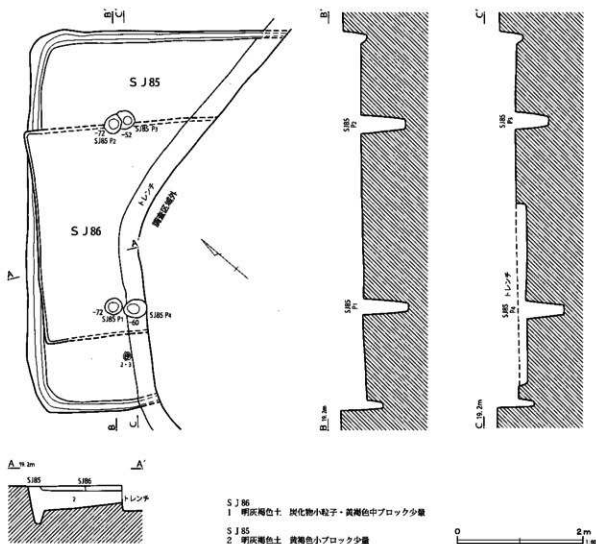
ビット・壁溝は、検出されていない。

遺物は、カマドの周辺の床面直上付近から多く出土している。器種は、土師器の甕・瓶の煮沸形態のみで、坏・高坏の供膳具や壺などの貯蔵具の出土がみられない。

第298図10Iは、土錘である。欠損品で、現存長24cm、幅1.0cm、孔径0.2cm、重さ1.67gである。胎土には、角閃石・赤色粒子・白色粒子が含まれている。焼成は普通で、色調はにおい黄橙を呈している。(図版142-3)

第85・86号住居跡(第299図)

第85号住居跡と第86号住居跡は、重複する2軒の住居跡である。覆土の堆積状況から、第86号住居跡の方が新しい。ZW・ZX-15グリッドに位置



第299図 第85・86号住居跡

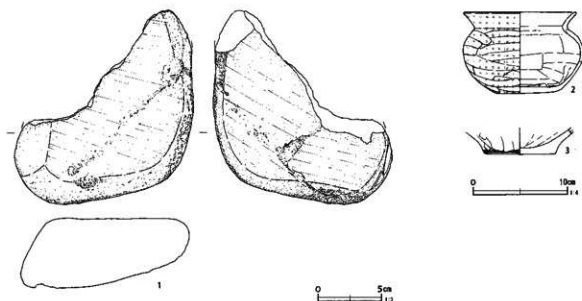
し、南半部は調査区域外にある。また、北側に位置する第83号住居跡、北西に位置する第96号住居跡とは、ほぼ一致する方向に配置されている。

第86号住居跡は、平面的には北西壁付近のみの検出で、大半が土層断面による確認である。平面形態は方形で、一辺3.38mを測り、北西壁の方位はN-45°-Eを指す。確認面からの深さは0.08mほどである。カマド・支柱穴・貯蔵穴・壁溝などの諸施設は検出されていない。

第85号住居跡は、平面形態が方形である。北東壁北半～北西壁～南西壁の一部付近が検出されている。一辺6.08mを測り、北西壁の方位はN-50°-Eを指す。確認面からの深さは0.37mほど

である。

ピットは、Pit1～Pit4の4本が発見されている。Pit2とPit3、Pit1とPit4の2本ずつの組み合わせに並んで位置している。ピットの規模は、Pit2が長径0.28m×短径0.28m×床面からの深さ0.72m、Pit3が長径0.28m×短径0.20m×床面からの深さ0.52m、Pit1が長径0.28m×短径0.26m×床面からの深さ0.72m、Pit4が長径0.37m×短径0.29m×床面からの深さ0.60mである。床面からの深さから、いずれも支柱穴と推定される。そのため、近接した2本ずつの組み合わせは、住居の拡張・建て替えに伴った柱穴の移動と推定される。位置関係と柱穴の深さから、Pit2～Pit1、Pit3～Pit4の対応関



第300図 第85・86号住居跡出土遺物

第72表 第85・86号住居跡出土遺物観察表 (第300図)

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 残存 | 焼成 | 色調 | 備考 | 出土位置 | 図版 |
|----|-----|----|-----|----|----|-----------|----|----|------|-----------|------|-------|
| 2 | 土師器 | 鉢 | 120 | 85 | 62 | A E H I | 75 | 普通 | 濃い青 | 赤彩 No.1 | | 143-2 |
| 3 | 土師器 | 壺 | - | 28 | 76 | B E H I K | 20 | 普通 | 濃い赤褐 | 焼成堅緻 No.1 | | |

係が推定される。新旧関係は明確ではないが、Pit2-Pit1の方が拡張・建て替えに伴う新しい柱穴の組み合わせと推測される。柱間距離は、Pit2-Pit1が291m、Pit3-Pit4が300mを測る。

カマド・貯蔵穴は、検出されていない。

壁溝は、検出された壁に沿って全周する。幅0.13~0.30m、床面からの深さ0.13~0.26mほどである。

遺物は、第85号住居跡に帰属する遺物として砥石1点と、第85・86号住居跡の一括遺物として土師器鉢・壺(第300図2・3)を図示し得たが、出土した遺物量は少ない。

第300図1は砥石である。表裏面ともに使用され、擦痕を明瞭に残す。側面には部分的にタタキ痕がみられる。長さ15.25cm、幅14.25cm、厚さ5.9cm、重さ1517.1g、石材は緑色岩である。(図版143-1)

第87号住居跡 (第301図)

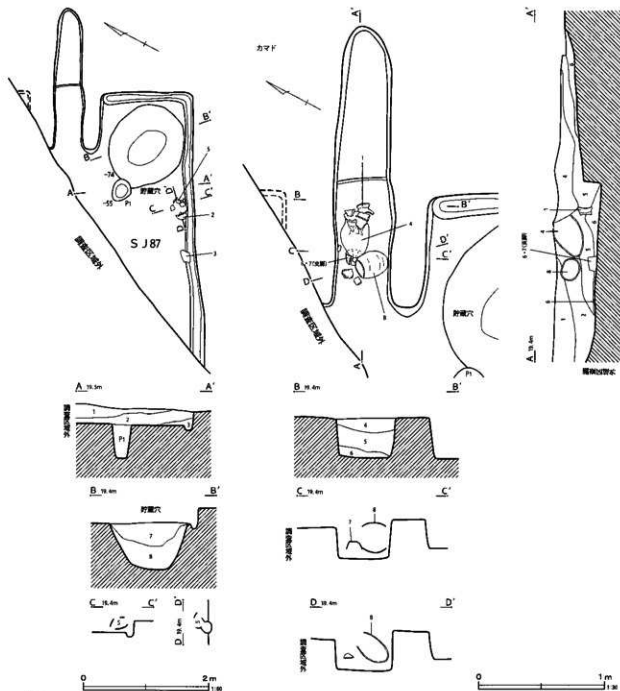
ZX-5グリッドに位置する。住居の2/3以上が調査区域外にある。

カマドを東壁に付設し、検出された主軸長4.03

m、南北幅2.06mを測る。検出された壁長とカマドの位置関係から、平面形態は長方形と推定される。主軸方位はN-60°-Eを指す。確認面からの深さは0.26mほどで、覆土は壁際から埋没が始まった自然堆積である。

主柱穴4本の住居と推定され、このうちのPit1の1本のみが検出されている。ほかの3本は調査区域外にある。規模は、長径0.35m×短径0.29m、床面からの深さ0.55mの規模である。

カマドは、燃焼部奥壁が住居壁の外側に張り出し、そのまま煙道部が外方へ延びている。平面的には燃焼部と煙道部の幅に差が無いことが特徴的である。袖部は地山が掘り残され、これを土台に褐色粘土ブロックを主体とするオリープ褐色土によって天井が構築されている(5層は天井部)。燃焼部は幅狭で、最下層には炭層(6層)が堆積する。住居跡床面から明瞭な境をもたずに緩やかに窪む火床面や、袖部内壁はわずかに焼土化している。燃焼部奥壁は0.16mほどの立ち上がりを持ち、煙道部へと移行する。煙道部は先端に向かっ



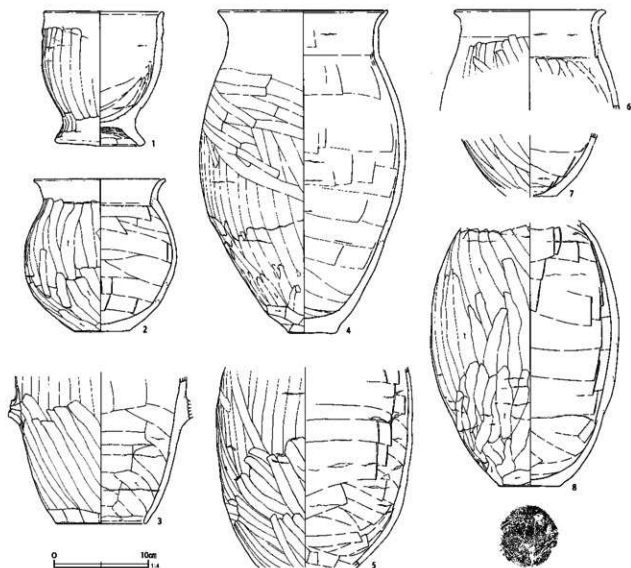
- S J 87
- 1 暗褐色土 灰わずかに含む
 - 2 暗褐色土 1より明るい 灰・粘土少量 オリーブ褐色粘土
 - 3 オリーブ暗褐色土 硬質 粘土ブロック多量
- 野焼穴
- 7 オリーブ褐色土 粘土ブロック主体 黒色土・炭少量 2層との境に炭が中絶する
 - 8 暗褐色土 炭多量 褐色粘土ブロック少量

- カマド
- 4 暗褐色土 灰・粘土わずかに 1層に似る
 - 5 オリーブ褐色土 大井部の輪郭 褐色粘土ブロック主体 焼土少量
 - 6 炭層

第301図 第87号住居跡

で極緩やかな傾斜をもって上っていく。先端部の立ち上がりは不明瞭で、煙出し施設は検出されていない。主軸長2.26m、燃焼部長1.06m×幅0.44m、

煙道部長1.21m×幅0.41mを測る。燃焼部から、土師器の甕（第302図4）と口縁部が打ち欠かれた甕（8）が、架け口に架けられていた状態で出



第302図 第87号住居跡出土遺物

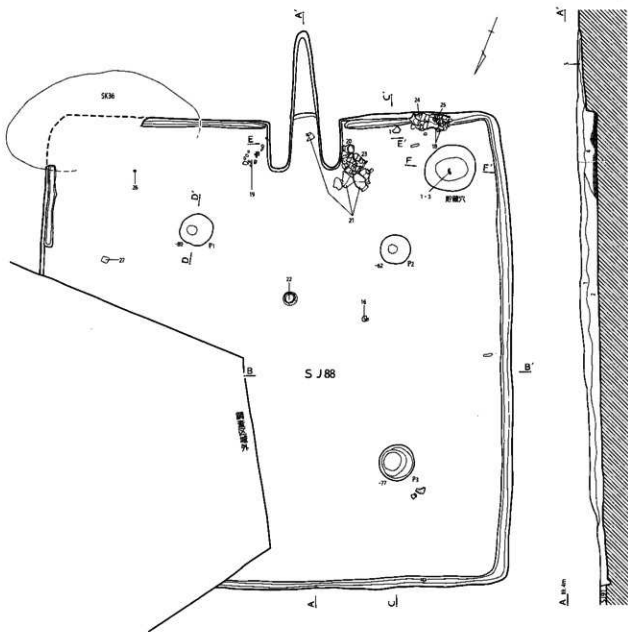
第73表 第87号住居跡出土遺物観察表 (第302図)

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 残存 | 焼成 | 色調 | 備考 | 出土位置 | 図版 |
|----|-----|-----|-------|-----|------|---------------|-----|----|------|--------------------------|------|-------|
| 1 | 土師器 | 台付甕 | (124) | 141 | 84 | CEHIK | 70 | 普通 | に灰-黄 | 外面塚状付着物 カマドNo7 | 貯蔵穴 | 143-4 |
| 2 | 土師器 | 小型甕 | (136) | 161 | 61 | A E H I K | 90 | 良好 | に灰-黄 | φ2~5mm石英粒子多 No3 | | 143-3 |
| 3 | 土師器 | 瓶 | - | 159 | (96) | A C E H I K | 25 | 普通 | 橙 | No1 | | |
| 4 | 土師器 | 甕 | 178 | 341 | 50 | A C E H J | 95 | 普通 | 橙 | 長割化 カマドNo4 No4 | | 143-5 |
| 5 | 土師器 | 甕 | - | 211 | - | E H I K | 80 | 普通 | に灰-黄 | 長割化 No2 | | |
| 6 | 土師器 | 甕 | (152) | 106 | - | A C D E G H I | 20 | 普通 | 明赤褐 | 長割化 SJR-7と類似 カマドNo8 | | |
| 7 | 土師器 | 甕 | - | 65 | - | A C D E G H I | 90 | 普通 | 明赤褐 | 支脚転用 長割化 SJR-6と類似 カマドNo8 | | |
| 8 | 土師器 | 甕 | - | 277 | 63 | C D E H | 100 | 良好 | 橙 | 長割化 底部木炭痕 カマドNo1 | | 144-1 |

土している。中央部には支脚が設置され、甕を支えている。この支脚は、欠損した甕(7)の下半部が倒立させた状態で転用されている。この甕と酷似した上半部の破片も、住居覆土内からみつ

かっている(6)。またカマド内からは脚が短い小型台付甕(1)も出土している。

貯蔵穴は、カマド右側の南東コーナー部に付設されている。長軸130m×短軸114mの楕円形で、



S J 88

- 1 暗褐色土 灰・黄土・褐色粘土ブロック少量
- 2 暗褐色土 1層より褐色粘土ブロック多い
- 3 暗褐色土 砥溝

カマド

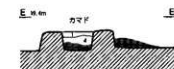
- 4 暗褐色土 天井崩れ土 褐色粘土多量
- 5 天井の焼熟した黄土部分

貯蔵穴

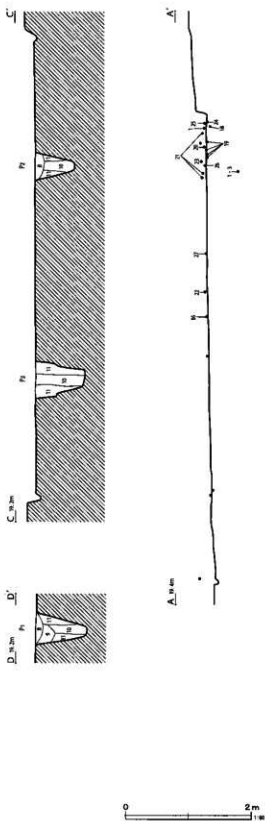
- 6 暗褐色土 砂少量 粘土ブロック多量
7 層より明る
- 7 暗褐色土 砂・粘土ブロック少量
遺物貯付近にあり

ビット1-3

- 8 暗褐色土 灰・砂少量
- 9 暗褐色土 褐色粘土ブロック多量
- 10 黒色土 柱礎 粘土化している
- 11 淡褐色土 振り方の土 粘土ブロック多量



第303図 第88号住居跡



床面からの深さは0.74mを測る。底面はカマド側から住居壁際に向かって傾斜をもつ。7層と8層の層間には炭が集中する。これは、貯蔵穴に架かっていた蓋の痕跡と推定される。

壁溝はカマド右袖下から南壁に沿って全周する。幅0.11～0.22m、床面からの深さ0.06～0.08mほどである。南壁中央付近の壁際から土師器の把手付甌（3）が、また小型甕（2）に底抜きの甕（5）が重なった状態で出土している。5の底の抜けた甕は甌に転用されていた可能性が高い。

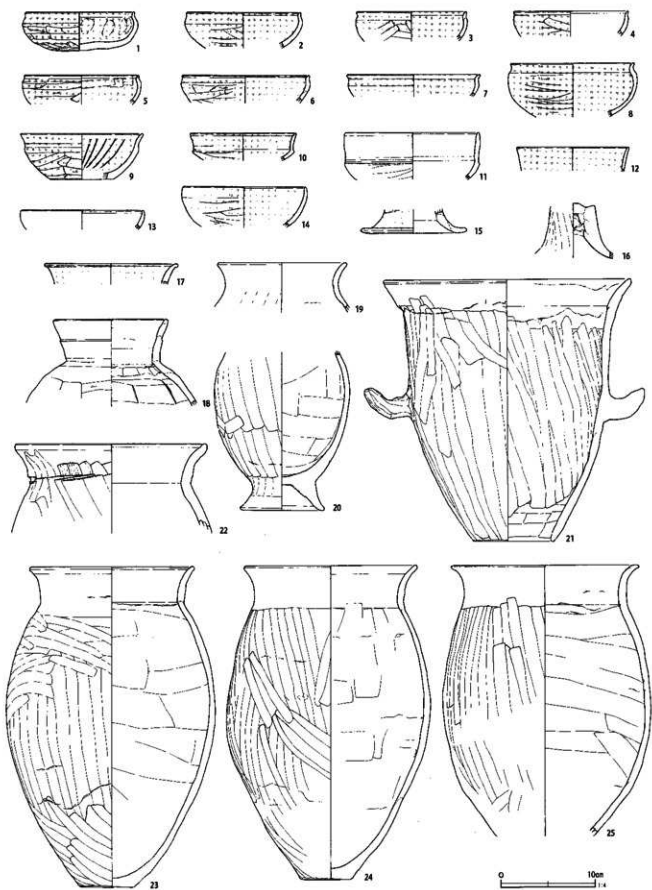
第88号住居跡（第303図）

ZW-6グリッドに位置し、北東コーナー部付近が調査区域外にある。第91号住居跡・第36号土城と重複し、新旧関係は第88号住居跡よりも第36号土城が新しく、第91号住居跡は古い。

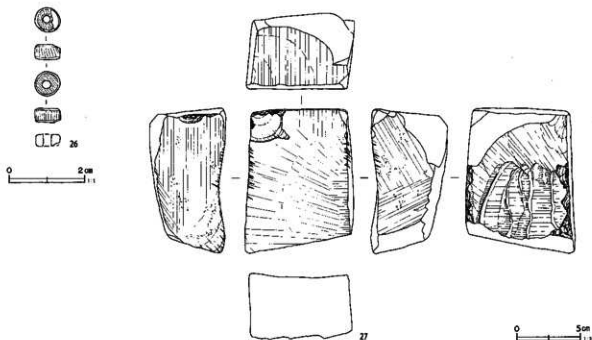
平面形態は方形で、カマドを南壁の中央やや西よりにつ設する。主軸長7.52m、東西幅7.53mを測り、主軸方位はN-159°-Eを指す。確認面からの深さは0.15～0.25mほどで、覆土は自然堆積である。

支柱穴4本の住居で、この内Pit1・Pit2・Pit3の3本が検出されている。対応する残り1本は調査区域外に位置する。支柱穴の規模は、Pit1が長径0.55m×短径0.46m×床面からの深さ0.80m、Pit2が長径0.47m×短径0.45m×床面からの深さ0.62m、Pit3が長径0.55m×短径0.53m×床面からの深さ0.77mである。柱間距離は、東西方向Pit1-Pit2間が3.14m、南北方向Pit2-Pit3間が3.35mを測る。土層断面では、柱痕（10層）と柱掘り方への充填土層（11層）が、いずれの柱穴からも確認されている。

カマドは、燃焼部の奥壁が住居壁よりもわずかに張り出し、そのまま煙道部が外方に延びる。袖部は地山が掘り残され、褐色粘土によって天井部が構築されている。燃焼部は住居跡床面から境をもたずに火床面に繋がり、奥壁は0.20m立ち上が



第304图 第88号住居跡出土遺物(1)



第305図 第88号住居跡出土遺物(2)

第74表 第88号住居跡出土遺物観察表(第304図)

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 残存 | 焼成 | 色調 | 備考 | 出土位置 | 図版 |
|----|-----|-----|-------|-----|------|----------|----|----|------|-------------------------|-------|-------|
| 1 | 土器器 | 坏 | (115) | 40 | - | AH I K | 70 | 良好 | 灰褐色 | 比企型坏 赤彩 φ2~3mm程 | No11 | 145-2 |
| 2 | 土器器 | 坏 | (120) | 37 | - | CH I J K | 10 | 普通 | にんべい | 比企型坏 赤彩 φ2~3mm程 | | |
| 3 | 土器器 | 坏 | (116) | 31 | - | AE I J K | 10 | 良好 | にんべい | 比企型坏 赤彩 No1 | | |
| 4 | 土器器 | 坏 | (120) | 26 | - | AEH I J | 15 | 普通 | にんべい | 比企型坏 赤彩 | | |
| 5 | 土器器 | 坏 | (120) | 30 | - | EH I J | 20 | 良好 | 浅黄褐色 | 比企型坏 赤彩 流成縦線 φ1~2mm程 | 貯蔵穴 | |
| 6 | 土器器 | 坏 | (134) | 28 | - | E I K | 10 | 普通 | にんべい | 比企型坏 赤彩 φ2mm程 | | |
| 7 | 土器器 | 坏 | (140) | 23 | - | EH I | 15 | 良好 | にんべい | 比企型坏 赤彩 φ2~3mm程・赤色粒了少 | | |
| 8 | 土器器 | 碗 | (130) | 56 | - | EH I | 10 | 普通 | にんべい | 赤彩 器面風化 φ2~3mm程 | | |
| 9 | 土器器 | 坏 | (130) | 48 | - | ACDEH I | 25 | 普通 | にんべい | 平底 赤彩 内面暗文 φ3~5mm程多 | | |
| 10 | 土器器 | 坏 | (110) | 28 | - | EH I | 10 | 良好 | 橙 | 坏蓋模倣 赤彩 カマド | | |
| 11 | 土器器 | 坏 | (142) | 49 | - | ABCH I K | 10 | 普通 | 橙 | 坏蓋模倣 | | |
| 12 | 土器器 | 坏 | (117) | 25 | - | ACH I | 15 | 普通 | 橙 | 坏蓋模倣 赤彩 貯蔵穴 | | |
| 13 | 土器器 | 坏 | (130) | 20 | - | H I K | 15 | 普通 | 明赤褐色 | 白色細粒子多 | 貯蔵穴 | |
| 14 | 土器器 | 碗 | (128) | 42 | - | CEH I K | 10 | 普通 | にんべい | 赤彩 | | |
| 15 | 土器器 | 高坏 | - | 26 | (94) | ACH I | 30 | 普通 | にんべい | 赤彩 二次的被熱痕 脚部最大径(11.2)cm | | |
| 16 | 土器器 | 高坏 | - | 57 | - | ACDHI | 85 | 普通 | 橙 | 外面赤彩(不明酸) No7 | | |
| 17 | 土器器 | 壺 | (142) | 21 | - | AEH I K | 20 | 良好 | にんべい | 赤彩 流成縦線 No1 | | |
| 18 | 土器器 | 壺 | 115 | 90 | - | AEH I K | 80 | 良好 | 橙 | 有焼門雑 No20 | | |
| 19 | 土器器 | 小型甕 | (134) | 52 | - | CE I K | 20 | 普通 | 橙 | 二次的被熱 調整不明酸 No17 | 144-2 | |
| 20 | 土器器 | 台付甕 | - | 166 | 84 | AE I K | 50 | 普通 | にんべい | 二次的被熱 No12 | 145-5 | |
| 21 | 土器器 | 瓶 | 258 | 275 | 84 | CEH I K | 95 | 普通 | にんべい | Na14~16 カマド | 145-6 | |
| 22 | 土器器 | 甕 | 198 | 93 | - | ACEH J | 60 | 普通 | にんべい | 長胴化 二次的被熱 No18 | 144-3 | |
| 23 | 土器器 | 甕 | 170 | 338 | 57 | CEH I K | 85 | 普通 | にんべい | 長胴化 外面胴部上半にヨコ位のケズリ No13 | 144-4 | |
| 24 | 土器器 | 甕 | 178 | 332 | 52 | CEH I K | 90 | 普通 | 橙 | 長胴化 器面風化顯著 No10 | 144-5 | |
| 25 | 土器器 | 甕 | (194) | 287 | - | DEH | 70 | 普通 | 橙 | 長胴化 器形縮門(器化最大径) No9 | 145-1 | |

り、煙道部へと続く。天井部は崩落し（4層）、直下には炭化物層が堆積している。火床面・袖部内壁には焼土化が認められる。支脚は、検出されていない。煙道部は、緩やかな傾斜をもちながら先端部に向かって上る。覆土には、焼土化した天井部の内壁部が堆積している（5層）。主軸長222m、燃焼部長0.91m×幅0.48m、煙道部長1.31m×幅0.33mを測る。

貯蔵穴は、カマド右側の南西コーナー部に付設されている。長軸0.80m×短軸0.73mの円形で、床面からの深さは0.54mを測る。底面は中央に向かって丸みをもつ。覆土上層（6層）には粘土ブロックを多量に含む暗褐色土が堆積し、下層（7層）からは土師器環（第304図5）が出土している。

壁溝は、東壁の調査区域境界付近と第36号土壇に削平された南東コーナー部を除き、全周する。幅0.10～0.22m、床面からの深さ0.04～0.07mほどである。

遺物は、カマド右側～貯蔵穴の周辺に集中し、床面の直上付近から出土している。カマド右袖に沿って土師器甕（23）・甌（21）・台付甕（20）、貯蔵穴南側の住居壁際から土師器壺（18）・甕（24・25）・砥石（27）、住居跡中央部から土師器甕（22）が出土している。

第306図26は滑石製の白玉である。住居南東コーナー部床面直上から出土している。一部欠損している。表裏面・側面ともに、丁寧な研磨が施されている。縁部にも面取り状に研磨が加えられている。中央には円孔が穿たれ、孔径は0.22×0.19cmである。大きさは、長径0.65cm、短径0.64cm、厚さ0.41cm、重さ0.3gである。（図版145-3）

27は砥石である。表裏面・側面すべてが使用されており、特に側面部の擦痕が顕著である。断面形は長方形を呈し、直線的な各辺の様子からも、使用状況を推察できる。また、表面の左右の縁辺部には、刃を垂直に当てた研ぎ傷が確認できる。欠損品で、現存長11.55cm、幅8.65cm、厚さ6.00cm、

重さ1231.3g、石材は黒色頁岩である。（図版145-4）

第89・90号住居跡（第306図）

第89号住居跡と第90号住居跡は、重複する2軒の住居跡である。新旧関係は、第89号住居跡の方が新しい。ZW・ZX-5・6グリッドに位置し、南半部は調査区域外にある。

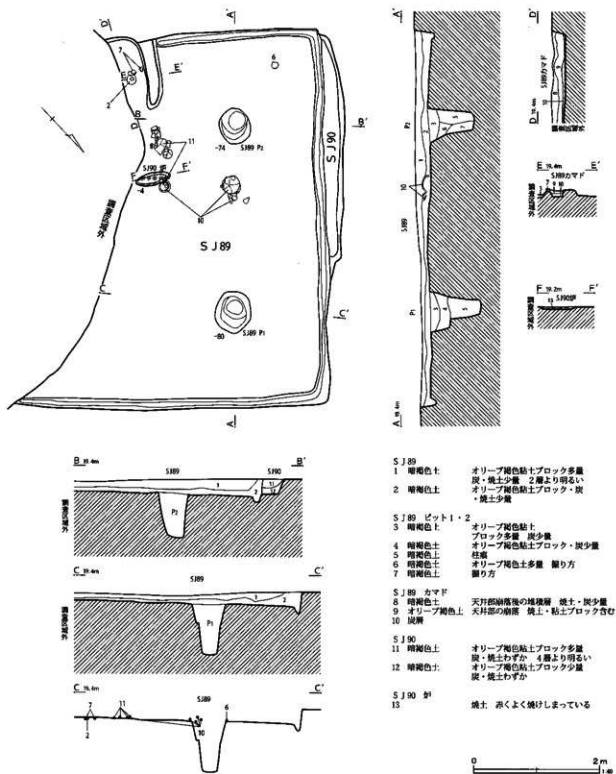
第89号住居跡の平面形態は方形で、カマドを南西壁に付設する。主軸長6.00m、検出幅4.57mを測り、主軸方位はN-136°-Wを指す。確認面からの深さは0.16～0.27mほどで、覆土は自然堆積である。

主柱穴4本の住居と推定される。このうちPit1とPit2の2本が検出され、対応する残りの2本は調査区域外にある。主柱穴の規模は、Pit1が長径0.67m×短径0.55m×床面からの深さ0.80m、Pit2が長径0.57m×短径0.50m×床面からの深さ0.74mである。柱間距離は2.95mを測る。いずれの柱穴も、住居廃絶時に床面付近で柱材が折り取られ、上半部にはその時の陥没部への堆積層（3・4層）、下半部には柱痕（5層）と柱掘り方への充填土層（6・7層）が確認できる。

カマドは燃焼部のみが検出され、煙道部は確認されていない。燃焼部が住居壁の内側に位置するタイプで、燃焼部奥壁と住居壁がほぼ一致する。燃焼部長1.27mを測る。袖部から天井部はオリブ褐色粘土によって造り付けられ（9層）、直下には炭層（10層）が形成されている。火床面は住居跡床面との明瞭な境をもたず、燃焼部内面の焼土化も顕著にはみられない。中央付近には脚部裾部を欠損する土師器高環（第307図2）が、倒立した状態で支脚に転用されている。

壁溝は、検出された壁に沿って全周する。幅0.10～0.18m、床面からの深さ0.03～0.13mほどである。貯蔵穴・ピットは設置されていない。

遺物は、カマド前面部、Pit2北側付近の床面直

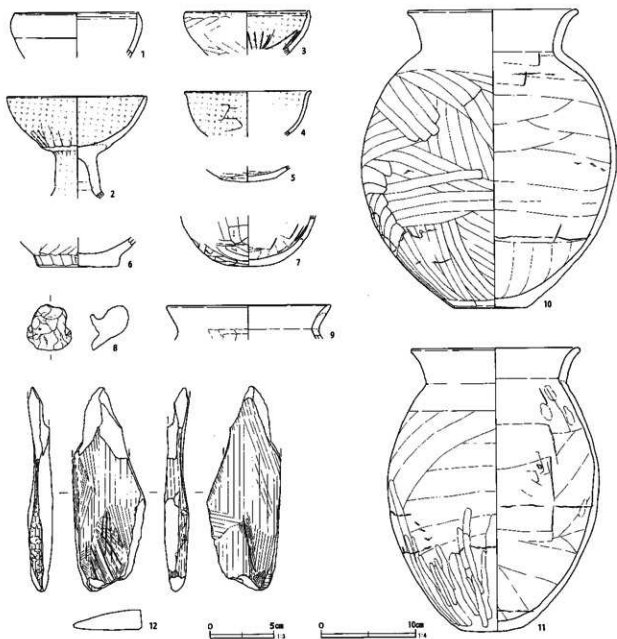


第306図 第89・90号住居跡

上から、土師器甕・坏が出土している。

第307図12は、砥石である。平面形状が菱形を呈し、各面に擦痕がみられる。表面の下半部では楕円形に浅く窪み、刃を垂直に当てた研ぎ傷が確

認できる。背面部では上半部の使用が著しく、深く抉られたような断面形状を示す。また表裏面ともに擦痕がいくつかのブロックに分割することができ、側面部も含めて小さな範囲の使用が繰り返



第307图 第89号住居跡出土遺物

第75表 第89号住居跡出土遺物觀察表 (第307图)

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 残存 | 焼成 | 色調 | 備考 | 出土位置 | 図版 |
|----|-----|----|-------|------|-----|---------------|----|----|---------------|---------------------------|------|-------|
| 1 | 土師器 | 环 | (130) | 27 | - | E H J | 15 | 普通 | 橙 | 調整不明瞭 | | |
| 2 | 土師器 | 高环 | 146 | 107 | - | C E I J K | 95 | 普通 | 橙 | 支脚転用 赤彩 二次的の被熱 調整不明瞭 | No 4 | 146-1 |
| 3 | 土師器 | 环 | (130) | 46 | - | A C D E H J | 15 | 普通 | に灰-橙 赤彩 φ5mm程 | Ph1 | | |
| 4 | 土師器 | 环 | (132) | 47 | - | A C H I K | 10 | 普通 | に灰-橙 赤彩 φ5mm程 | 焼成堅緻 | | |
| 5 | 土師器 | 鉢 | - | 17 | 6.1 | A C D E H | 70 | 普通 | に灰-黄 | | | |
| 6 | 土師器 | 壶 | - | 31 | 8.6 | A B H I K | 80 | 普通 | 橙 | φ1~2mm石英粒多 | No 6 | |
| 7 | 土師器 | 壶 | - | 52 | - | A B C E H I K | 70 | 普通 | 明赤褐 | No 5 カマド | | |
| 8 | 土師器 | 甕 | - | - | - | C E H I K L | 5 | 普通 | 橙 | 把手 長さ4.7cm 幅4.6cm 厚さ3.9cm | | |
| 9 | 土師器 | 甕 | (174) | 36 | - | C H I | 15 | 普通 | 灰褐 | | | |
| 10 | 土師器 | 甕 | 17.6 | 31.5 | 7.7 | A C E H I K | 95 | 普通 | に灰-黄 | No 1・2・7 | | 146-3 |
| 11 | 土師器 | 甕 | 17.5 | 29.8 | 6.4 | C E H I K | 70 | 普通 | 灰黄褐 | No 2・3 | | 146-2 |

返されている。上部を欠損し、現存長16.05cm、幅5.8cm、厚さ1.9cm、重さ176.4g、石材は黒色頁岩である。(図版145-7)

第90号住居跡は、大半が第89号住居跡によって攪乱され、北西壁付近のみが検出されている。平面形態は方形と推定され、一辺3.82m、確認面からの深さ0.19~0.21mを測る。北西壁の方位はN-137°-Wを指す。第89号住居跡カマドの前面部に長径0.55m×短径0.20m×深さ0.04mを測る楕円形の焼土の広がりが検出され、第90号住居跡の炉跡と推定される。柱穴・貯蔵穴・壁溝等の施設は、確認されていない。

第92号住居跡 (第308図)

ZU・ZV-6・7グリッドに位置する。幅の狭い調査区域であり、住居の東側・西側の両方コーナー付近ともに調査区域外にある。また北東に隣接する第98号住居跡とは、ほぼ一致する方向に配置されている。

平面形態は方形で、カマドを北東壁の中央から南側に付設する。主軸長6.35m、南北幅6.45mを測り、主軸方位はN-60°-Eを指す。確認面からの深さは、0.25~0.45mほどである。覆土は壁際から埋没し始めた、自然堆積である。

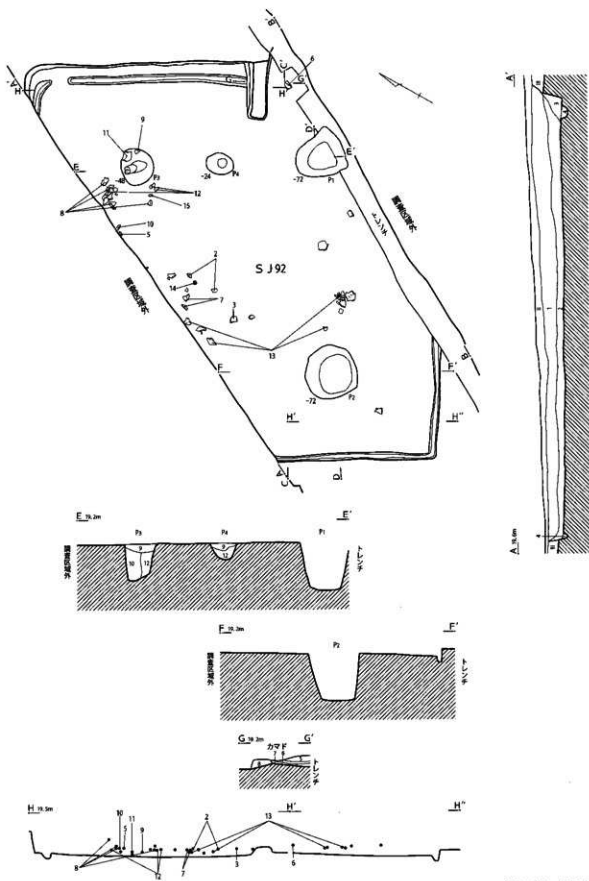
主柱穴が、3本×2列の6本となる住居と推定

される。このうち、Pit1・Pit2・Pit3・Pit4の4本が検出されている。対応する残りの2本は、調査区域外に位置する。3本列の中間柱のPit4は他の主柱穴に比べて、平面規模が小さく、浅い。よって、4本の主たる柱穴と間に補助的な柱穴2本が並ぶ柱穴構成と考えられる。主柱穴の規模は、Pit1が長径0.81m×短径0.68m×床面からの深さ0.72m、Pit2が長径0.86m×短径0.80m×床面からの深さ0.72m、Pit3が長径0.60m×短径0.51m×床面からの深さ0.48m、Pit4が長径0.45m×短径0.33m×床面からの深さ0.24mである。柱間距離は、Pit3-Pit1間が3.00m (Pit3-Pit4=1.46m+Pit4-Pit1=1.54m)、Pit1-Pit2間が3.42mを測る。柱材は住居跡焼絶後に床面付近で折り取られ、この際に生じた窪みに9層が埋没し、Pit2では炭化物の薄い層状の堆積がみられる。Pit1・Pit2・Pit3では柱痕が確認され、Pit1では底面に炭化物層が形成されている。柱掘り方への充填土層は上下2層に分割され、上層は粘土ブロックを主体とし(11層)、下層は粘土ブロック・炭化物が少量含まれた暗褐色土(12層)が確認できる。

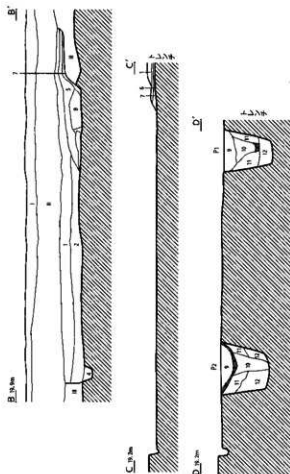
カマドは、左袖部から燃焼部の左半部が検出されている。燃焼部が住居壁の内側に位置し、煙道部が外側に延びる形態と推定される。検出された燃焼部の長さは1.00mである。袖部(8層)・天

第76表 第92号住居跡出土遺物観察表 (第309図)

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 残存 | 焼成 | 色調 | 備考 | 出土位置 | 図版 |
|----|-----|----|-------|-----|----|---------|----|----|-----|------------------------------|------|-------|
| 1 | 土師器 | 坏 | (120) | 42 | - | CH | 20 | 普通 | 橙 | 赤彩 Pit4 | | 140-7 |
| 2 | 土師器 | 坏 | 116 | 55 | - | CEHIK | 70 | 普通 | にぶ赤 | 比企型坏 赤彩 No23・28 | | |
| 3 | 土師器 | 坏 | (130) | 42 | - | AEHIL | 40 | 良好 | 明赤褐 | 比企型坏 赤彩 (外面体部下半は不明瞭) No32 | | |
| 4 | 土師器 | 坏 | (118) | 45 | - | EHIK | 20 | 普通 | 灰褐 | 比企型坏 赤彩範囲不明瞭 (確認部のみ図示) | | |
| 5 | 土師器 | 高坏 | - | 77 | - | CHI | 30 | 良好 | 橙 | No20 | | |
| 6 | 土師器 | 鉢 | - | 78 | 46 | CEHIK | 70 | 普通 | にぶ黄 | No1 | | |
| 7 | 土師器 | 壺 | (150) | 109 | - | CEHIK | 25 | 普通 | にぶ黄 | 有段直口縁 赤彩 (口縁部) No26・27 | | |
| 8 | 土師器 | 壺 | - | 95 | 82 | CEIK | 80 | 普通 | 灰白 | 底部赤彩 (不明瞭) No13-15・17 | | |
| 9 | 土師器 | 壺 | (182) | 42 | - | ACEHIJK | 5 | 良好 | にぶ黄 | No9 | | |
| 10 | 土師器 | 甕 | (164) | 67 | - | CEIK | 40 | 普通 | 浅黄橙 | No19 | | |
| 11 | 土師器 | 甕 | (191) | 112 | - | ACDEHIK | 25 | 普通 | 明赤褐 | 二次的焼成 風化顯著 No8 | | |
| 12 | 土師器 | 甕 | (196) | 267 | - | CEIJK | 30 | 普通 | 橙 | 二次的焼成 調整不明瞭 No10・11・16 | | |
| 13 | 土師器 | 甕 | - | 302 | 75 | AEHIK | 60 | 普通 | 明黄褐 | 底部一部欠損 (意図的な欠損か) No4・6・29・31 | | |



第308图 第92号住居跡



- | | |
|------------|--------------------------|
| 1 黄土 | 埋藏物土 |
| 2 暗褐色土 | 灰・黄土わずかに含む |
| 3 暗褐色土 | IIより明らる。炭を含む |
| S J 32 | |
| 1 暗褐色土 | 灰・褐色土ブロック少量 黄土わずか |
| 2 暗褐色土 | 灰少量 |
| 3 暗褐色土 | 褐色粘土ブロック主体 |
| 4 暗褐色土 | 壁溝 |
| カマド | |
| 5 暗褐色土 | 天井崩落土 粘土ブロック主体 粘土多量 |
| 6 暗褐色土 | 天井崩落土 粘土ブロック主体 灰多量 |
| 7 灰層(灰) | 一面に広がる |
| 8 焼 | 褐色粘土ブロック主体 焼の残り |
| ピット | |
| 9 暗褐色土 | 柱礎置きとり後の埋込土 灰多量 粘土ブロック少量 |
| 10 暗褐色土 | 柱礎 粘土ブロック少量 灰多量 |
| 11 オリーブ褐色土 | 柱礎り方への充填 粘土ブロック主体 |
| 12 暗褐色土 | 柱礎り方への充填 粘土ブロック・灰少量 |



井部は、暗褐色粘土によって構築されている。天井部は崩落し（5・6層）、直下には灰層（7層）が形成されている。調査区域境界壁の土層断面の観察から、燃烧部の奥壁は約0.3m立ち上がり、ここから浅い煙道部が0.75mほど延びている。燃烧部の中央付近から、土師器小型甕（第309図6）が出土している。

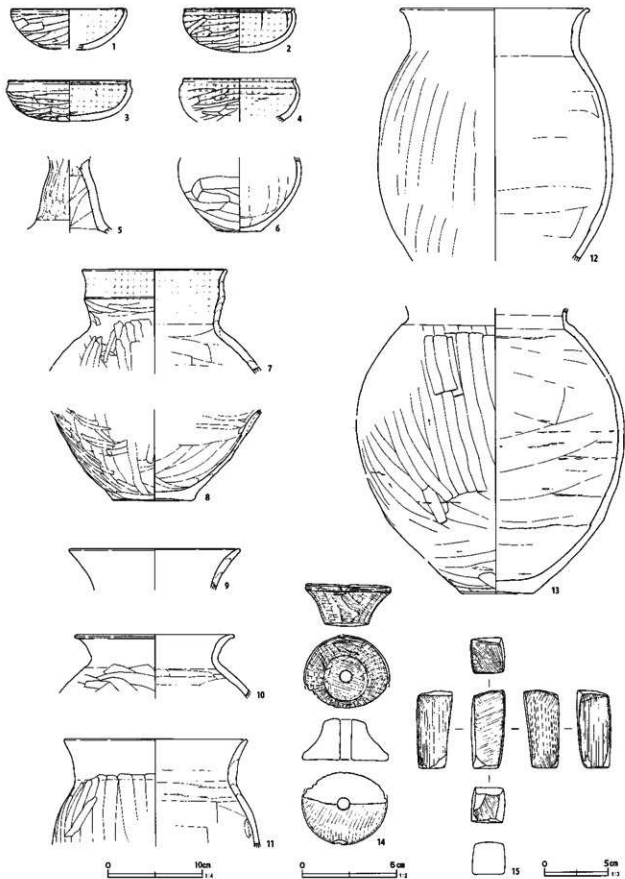
壁溝は、北コーナー部で途切れるものの、基本的には検出された壁に沿って全周する。幅0.08～0.12m、床面からの深さ0.04～0.06mほどである。壁溝とカマドの設置された北東壁の間に0.16～0.18mほどの空間地が存在する。また、カマド左袖部が壁溝上に構築されたような状況もみられることから、住居の拡張とカマドの造り替えが行われた可能性も考えられる。

貯蔵穴・ピットは確認されていない。

遺物は、主柱穴に囲まれた住居中央部に分布するが、床面からはやや浮いた状態で出土している。供膳具の土師器杯（1～4）・高杯（5）、貯蔵具の壺（7・8）、煮沸具の甕（9～13）という器種構成で、これに紡錘車（14）と砥石（15）が加わっている。このうち、7の壺は口縁部の中間にゆるい稜をもち、赤彩が施された特徴的なものである。

第309図14は、滑石製紡錘車である。形状は截頭円錐形で、垂直方向に円孔が穿たれている。下面部を一部欠損する。上面・下面ともに研磨によって仕上げられている。側面部は影面を呈し、工具による加工痕が観察される。縁端部には、幅0.28cmほどの面が形成される。上面は長径242cm、短径230cm、下面は径449cm、厚さ213cm、重さ385gである。孔径は上径0.61×0.60cm、下径0.61cm以上である。（図版149-5）

15は、砥石である。細長い直方体を呈し、6面すべてに使用痕がみられる。長さ61cm、幅27cm、厚さ28cm、重さ779g、石材は凝灰岩である。（図版149-6）



第309图 第92号住居跡出土遺物

第91号住居跡(第310図)

ZW・ZX-5グリッドに位置する。幅の狭い調査区域であり、住居の東側・西側の両方とも調査区域外にある。第88号住居跡と重複し、新旧関係は第91号住居跡の方が古い。

平面形態は方形で、カマドを南西壁に付設する。主軸長7.75m、確認面からの深さは0.19mを測り、主軸方位はN-45°-Wを指す。北東壁から内側約29m付近には北東壁と平行する段差が生じ、南半部の床面よりも0.08mほど低くなっている。一辺7.75mと規模の大きな住居であり、拡張や2軒の住居の重複などが想起される。しかし、覆土の堆積状況は、段差付近が最終段階となるレンズ状の自然堆積を示す。また、3本が一列に並ぶ主柱穴のうち、中間に位置するPit2が両側のPit1・Pit3に比べて規模が小さい。これらの要素は、拡張や住居の重複を否定している。

カマドは、燃焼部が住居壁の内側に位置し、煙道部は検出されていない。袖部は地山が掘り残され、これを土台にして、暗褐色土によって天井部が構築されている(7層)。天井部は既に崩落していたが、直下には炭化物を多量に含む灰層が堆積する。火床面は住居の床面と明瞭な境を形成せず、倒立させた土師器高坏(第311図6)を支脚に転用している。この支脚転用の高坏は暗褐色の粘土によって固定されている。支脚前面部の焼土化が顕著で、焚口位置が推定できる。燃焼部長0.95m×幅0.38mの規模である。支脚の上方から、煮沸具ではない、土師器高坏の坏部2点(8・9)と欠損した壺底部(13)が右袖と左袖を繋ぐように出土している。明確ではないが、カマド天井部の芯材として利用されていた可能性もある。

3本の主柱穴(Pit1・Pit2・Pit3)が一列に並ぶことから、主柱穴6本の住居と推定される。主柱穴の規模は、Pit1が長径0.85m×短径0.72m×床面からの深さ0.86m、Pit2が長径0.43m×短径0.42m×床面からの深さ0.79m、Pit3が長径0.75m×短径

0.70m×床面からの深さ0.91mである。柱間距離は、Pit1-Pit2間が1.80m、Pit2-Pit3間が2.60m、合計4.40mを測る。土層断面から、柱痕(10層)と柱掘り方への充填土(11~13層)が、いずれの柱穴からも観察できる。また、中間柱Pit2の規模が小さいことから、両端のPit1・Pit3を主たる柱穴、Pit2を補助的な柱穴と機能の分割が可能かもしれない。

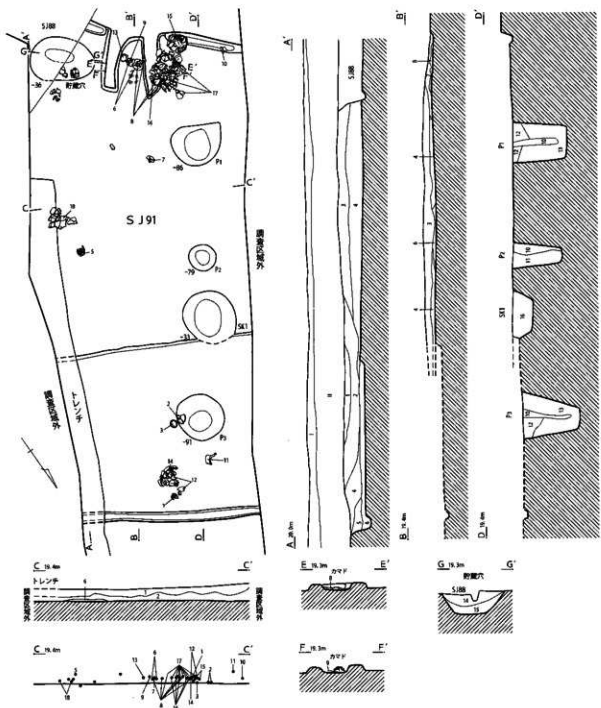
貯蔵穴は、カマド左側に付設されている。長軸1.02m×短軸0.70mの楕円形で、床面からの深さは0.36mを測る。底面は平坦で、覆土は自然堆積である。

壁溝は、検出された壁に沿って全周する。幅0.13~0.18m、床面からの深さ0.04~0.06mほどである。

Pit2とPit3の間には、土壇が付設されている。径0.82mの円形で、床面からの深さは0.33mである。用途は不明である。

遺物は、カマド右袖外側に集中する。土師器の甕(15・16)・甌(第312図17)といった煮沸具であり、カマドで使用されていたものが転落したものと推定される。住居跡中央付近では土師器鉢(5)と甌(18)が、北東壁付近からは土師器杯(2・3)・壺(11・12)・甕(14)が出土している。

また、覆土中からは、滑石剥片が多量に検出されている。多くの剥片に、径0.1~0.2cmの円孔が穿たれていたことから、これらは白玉の製作剥片と判断される。総数906点を数え、内訳は、製品4点(19~22)、未製品3点(23~25)、穿孔後の製作途上の破損片54点で、ほかは製作剥片である。これらの製作剥片の状況から、棒状石材の成形→穿孔→裁断→仕上げ整形という製作工程を復元することができる。詳細な出土状況の記録は残されていないが、南北に分割した出土点数は南東部357点、北西部468点、一括80点である。製品・未製品、穿孔後の製作途上の破損片は、カマド側の南西部側から多く採集されている。剥片の出土量や、出土品の特徵から、第91号住居跡が白玉の



S J 91

- 1 灰土 瓦断作土
- 2 暗褐色土 灰・焼土わずかに含む
- 3 暗褐色土 灰多量 焼土少量
- 4 暗褐色土 灰多量 焼土多量
- 5 暗褐色土 灰少量
- 6 暗褐色土 灰・オリブ褐色土ブロック少量
- 7 暗褐色土 灰多量 褐色粘土少量
- 8 暗褐色土 灰わずか 褐色粘土多量

カマド

- 1 暗褐色土 天井部の崩落 灰・オリブ褐色土ブロック・焼土(ブロック状)多量
- 2 灰層 灰化物多量
- 3 暗褐色粘土 支脚の上側に粘土を使っている

ピット1-3

- 10 暗褐色土 柱礎 上がボソボソする
- 11 暗褐色土 灰わずか 掘り方光沢
- 12 暗褐色土 灰・褐色土少量
- 13 暗褐色土 鉄分多量 灰わずか

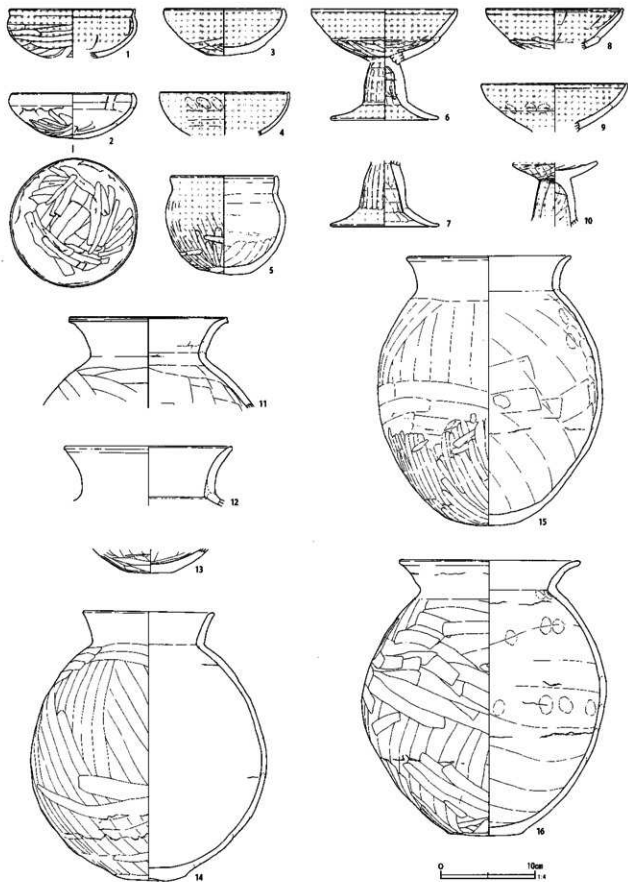
貯蔵穴

- 14 暗褐色土 灰・褐色土ブロック少量
- 15 暗褐色土 灰少量 褐色土ブロック多量

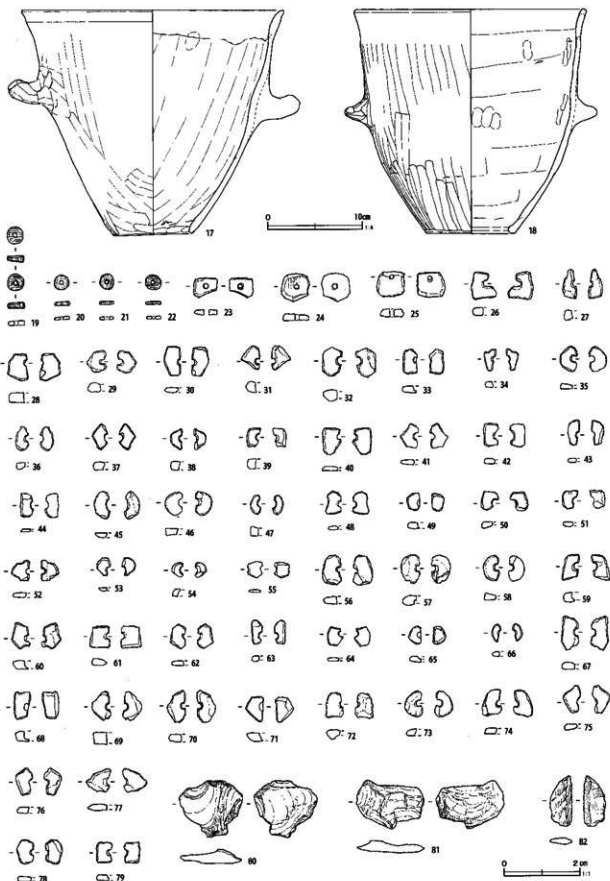
S K 1

- 16 暗褐色土 褐色土わずかに混じる

第310図 第91号住居跡



第311圖 第91号住居跡出土遺物 (1)



第312图 第91号住居跡出土遺物(2)

第77表 第91号住居跡出土遺物観察表(第311・312図)

| 番号 | 種類 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 残存 | 焼成 | 色調 | 備考 | 出土位置 | 図版 |
|----|-----|----|-------|-----|------|---------|-----|----|------|----------------------------|---------|-------|
| 1 | 土師器 | 碗 | (132) | 51 | - | BCEHIK | 30 | 普通 | におい香 | 赤彩 No21 | | |
| 2 | 土師器 | 坏 | 128 | 47 | - | ACEHIK | 95 | 普通 | 明赤燻 | φ2-5mm 磨 No17 | | 146-6 |
| 3 | 土師器 | 坏 | 124 | 49 | - | CEIK | 100 | 普通 | 橙 | 赤彩 No16 | | 146-4 |
| 4 | 土師器 | 坏 | (135) | 45 | - | AEHJK | 20 | 不良 | 橙 | 赤彩 φ2-3mm 磨・赤粒多 | | |
| 5 | 土師器 | 鉢 | (110) | 102 | 60 | HJK | 80 | 普通 | におい香 | 赤彩 胴部内面焼きむらによる黒色化 | No15 | 147-1 |
| 6 | 土師器 | 高坏 | 153 | 117 | 112 | ACEHIJK | 90 | 普通 | 赤 | 支脚転用 赤彩 コマF No22・23 | | 147-4 |
| 7 | 土師器 | 高坏 | - | 60 | 106 | CEHIK | 90 | 普通 | 橙 | 赤彩 φ2-3mm 磨 脚部最大径116cm | No13 | |
| 8 | 土師器 | 高坏 | (144) | 52 | - | ACEIJK | 70 | 普通 | 橙 | 赤彩 φ3-5mm 磨 No3・4・6・23 コマF | | |
| 9 | 土師器 | 高坏 | (155) | 51 | - | AEJK | 40 | 良好 | におい香 | 赤彩 白色針状物質混入 | No7 | |
| 10 | 土師器 | 高坏 | - | 68 | - | CEHIK | 80 | 普通 | におい香 | 赤彩 No1 | | |
| 11 | 土師器 | 壺 | (166) | 95 | - | AHEIJK | 30 | 良好 | におい香 | φ2-5mm 磨・赤色粒子多 | No18 | |
| 12 | 土師器 | 壺 | 175 | 62 | - | ACEHIK | 60 | 普通 | におい香 | φ2-3mm 磨・赤色粒子少 | No19・20 | |
| 13 | 土師器 | 壺 | - | 24 | 50 | AHEIJK | 80 | 良好 | 腐食 | 外面に煤状の付着物 | No8 | |
| 14 | 土師器 | 壺 | (136) | 283 | 76 | ACEHIK | 80 | 普通 | におい香 | φ2-5mm 磨や多 | No19 | 146-5 |
| 15 | 土師器 | 壺 | 172 | 283 | - | ACEIK | 80 | 良好 | におい香 | 外面煤付着顯著 | No2 | 147-2 |
| 16 | 土師器 | 壺 | 190 | 293 | 80 | DEH | 95 | 良好 | におい香 | 胴部外面煤付着 | No4 | 147-5 |
| 17 | 土師器 | 瓶 | 276 | 237 | 81 | ACEHI | 80 | 普通 | におい香 | No3-5 | | 147-3 |
| 18 | 土師器 | 瓶 | (242) | 236 | (94) | EHIK | 45 | 普通 | 橙 | No14 | | 147-6 |

工房跡であったことが推定される。残念ながら、工房に関わるような施設や工具などは発見されていない。

第312図19～22は白玉製品で、いずれも北東区から出土している。円柱形を呈し、表裏面・側面には研磨が施され、製品として仕上げられている。小型の白玉で、径は0.45cm未満、厚さは1点が0.2cm未満、ほかは0.1cmにも満たない薄さである。

19は、長径0.436cm、短径0.432cm、孔径0.12～0.14cm、厚さ0.174cmで、重さ0.1g未満である(図版148-1)。20は、長径0.415cm、短径0.410cm、孔径0.11～0.12cm、厚さ0.081cmで、重さ0.1g未満である(図版148-2)。21は、長径0.398cm、短径0.371cm、孔径0.10～0.11cm、厚さ0.069cm、重さ0.1g未満である。22は、長径0.411cm、短径0.405cm、孔径0.09～0.11cm、厚さ0.068cm、重さ0.1g未満である(図版148-3)。

23～25は、棒状石材が穿孔・裁断された段階の白玉未製品である。表裏面・側面に仕上げの研磨加工が施される以前の状態である。円柱形の白玉の製作工程として、穿孔された扁平な方形板の状態を経ている。

23は台形板で、孔径0.12～0.14cmの円孔が貫通

している。長径0.605cm、短径0.502cm、厚さ0.146cm、重さ0.1g未満である。南西区から出土している(図版148-5)。24は隅丸方形板で、中央に孔径0.12～0.14cmの円孔が穿たれている。長径0.776cm、短径0.713cm、厚さ0.193cm、重さ0.2gである。北東区から出土している(図版148-6)。25は方形板で、上辺によった位置に孔径0.12～0.19cmの円孔が穿孔されている。長径0.727cm、短径0.679cm、厚さ0.252cm、重さ0.2gである。一括資料である(図版148-7)。

26～79は、穿孔後の製作途上の破損片である。一辺に破損した円孔が位置する一群の遺物で、表裏面・側面には研磨仕上げは施されていない。多くの遺物は、棒状石材の成形・穿孔後に、白玉大に裁断する際に生じた破損品である。本来は方形・隅丸方形を呈しているはずであるが、強度の劣る円孔部から破損している。白玉製品と比べると厚く裁断されている。26～55は南西区、56～66は北東区から出土し、68～79は一括資料である。詳細は第78表に記載した(図版148-7～60・図版149-1)。

80～82は、大型の製作剥片を掲載した。穿孔の痕跡が無く、扁平な剥片であることから、第1工

第78表 第91号住居跡出土滑石剥片一覽

| 番号 | 種類 | 長cm | 短cm | 厚cm | 重量g | 出土位置 | 実測 | 番号 | 種類 | 長cm | 短cm | 厚cm | 重量g | 出土位置 | 実測 |
|----|----|-------|-------|-------|-----|------|----|-----|----|-------|-------|-------|-----|------|----|
| 1 | 剥片 | 1.247 | 0.544 | 0.331 | 0.3 | 北東区 | × | 54 | 剥片 | 0.441 | 0.259 | 0.111 | 0.0 | 北東区 | × |
| 2 | 剥片 | 1.346 | 0.594 | 0.280 | 0.3 | 北東区 | × | 55 | 剥片 | 0.322 | 0.300 | 0.084 | 0.0 | 北東区 | × |
| 3 | 剥片 | 0.830 | 0.575 | 0.289 | 0.2 | 北東区 | × | 56 | 剥片 | 0.358 | 0.262 | 0.231 | 0.0 | 北東区 | × |
| 4 | 剥片 | 0.599 | 0.547 | 0.363 | 0.1 | 北東区 | × | 57 | 剥片 | 0.494 | 0.295 | 0.147 | 0.0 | 北東区 | × |
| 5 | 剥片 | 0.904 | 0.409 | 0.179 | 0.1 | 北東区 | × | 58 | 剥片 | 0.309 | 0.243 | 0.165 | 0.0 | 北東区 | × |
| 6 | 剥片 | 0.577 | 0.482 | 0.110 | 0.0 | 北東区 | × | 59 | 剥片 | 0.407 | 0.329 | 0.191 | 0.0 | 北東区 | × |
| 7 | 剥片 | 0.672 | 0.332 | 0.253 | 0.0 | 北東区 | × | 60 | 剥片 | 0.416 | 0.334 | 0.125 | 0.0 | 北東区 | × |
| 8 | 剥片 | 0.568 | 0.521 | 0.210 | 0.1 | 北東区 | × | 61 | 剥片 | 0.331 | 0.324 | 0.086 | 0.0 | 北東区 | × |
| 9 | 剥片 | 0.591 | 0.203 | 0.467 | 0.2 | 北東区 | × | 62 | 剥片 | 0.331 | 0.290 | 0.110 | 0.0 | 北東区 | × |
| 10 | 剥片 | 0.711 | 0.308 | 0.266 | 0.0 | 北東区 | × | 63 | 剥片 | 0.325 | 0.255 | 0.182 | 0.0 | 北東区 | × |
| 11 | 剥片 | 0.578 | 0.402 | 0.254 | 0.0 | 北東区 | × | 64 | 剥片 | 0.334 | 0.316 | 0.066 | 0.0 | 北東区 | × |
| 12 | 剥片 | 0.758 | 0.406 | 0.159 | 0.0 | 北東区 | × | 65 | 剥片 | 0.341 | 0.305 | 0.044 | 0.0 | 北東区 | × |
| 13 | 剥片 | 0.658 | 0.277 | 0.268 | 0.1 | 北東区 | × | 66 | 剥片 | 0.324 | 0.229 | 0.082 | 0.0 | 北東区 | × |
| 14 | 剥片 | 0.490 | 0.279 | 0.198 | 0.0 | 北東区 | × | 67 | 剥片 | 3.197 | 2.834 | 0.635 | 5.7 | 北東区 | × |
| 15 | 剥片 | 0.756 | 0.225 | 0.229 | 0.0 | 北東区 | × | 68 | 剥片 | 3.548 | 1.833 | 0.664 | 5.0 | 北東区 | × |
| 16 | 剥片 | 0.462 | 0.315 | 0.219 | 0.0 | 北東区 | × | 69 | 剥片 | 1.929 | 1.420 | 0.565 | 1.6 | 北東区 | × |
| 17 | 剥片 | 0.545 | 0.551 | 0.220 | 0.0 | 北東区 | × | 70 | 剥片 | 1.705 | 1.095 | 0.345 | 0.8 | 北東区 | × |
| 18 | 剥片 | 0.545 | 0.530 | 0.139 | 0.0 | 北東区 | × | 71 | 剥片 | 1.860 | 1.846 | 0.207 | 0.4 | 北東区 | × |
| 19 | 剥片 | 0.583 | 0.255 | 0.294 | 0.0 | 北東区 | × | 72 | 剥片 | 1.329 | 0.984 | 0.234 | 0.4 | 北東区 | × |
| 20 | 剥片 | 0.719 | 0.230 | 0.111 | 0.0 | 北東区 | × | 73 | 剥片 | 1.793 | 0.640 | 0.299 | 0.5 | 北東区 | × |
| 21 | 剥片 | 0.475 | 0.330 | 0.158 | 0.0 | 北東区 | × | 74 | 剥片 | 1.141 | 0.727 | 0.211 | 0.2 | 北東区 | × |
| 22 | 剥片 | 0.586 | 0.356 | 0.153 | 0.0 | 北東区 | × | 75 | 剥片 | 0.827 | 0.666 | 0.127 | 0.1 | 北東区 | × |
| 23 | 剥片 | 0.458 | 0.286 | 0.259 | 0.0 | 北東区 | × | 76 | 剥片 | 1.131 | 0.546 | 0.188 | 0.2 | 北東区 | × |
| 24 | 剥片 | 0.476 | 0.323 | 0.260 | 0.0 | 北東区 | × | 77 | 剥片 | 1.292 | 0.587 | 0.207 | 0.2 | 北東区 | × |
| 25 | 剥片 | 0.512 | 0.217 | 0.146 | 0.0 | 北東区 | × | 78 | 剥片 | 1.111 | 0.758 | 0.132 | 0.1 | 北東区 | × |
| 26 | 剥片 | 0.453 | 0.369 | 0.152 | 0.0 | 北東区 | × | 79 | 剥片 | 1.015 | 0.828 | 0.164 | 0.2 | 北東区 | × |
| 27 | 剥片 | 0.567 | 0.350 | 0.104 | 0.0 | 北東区 | × | 80 | 剥片 | 1.123 | 0.741 | 0.196 | 0.2 | 北東区 | × |
| 28 | 剥片 | 0.536 | 0.347 | 0.112 | 0.0 | 北東区 | × | 81 | 剥片 | 0.664 | 0.626 | 0.175 | 0.1 | 北東区 | × |
| 29 | 剥片 | 0.387 | 0.333 | 0.285 | 0.0 | 北東区 | × | 82 | 剥片 | 0.801 | 0.684 | 0.165 | 0.2 | 北東区 | × |
| 30 | 剥片 | 0.517 | 0.308 | 0.093 | 0.0 | 北東区 | × | 83 | 剥片 | 1.124 | 0.532 | 0.139 | 0.1 | 北東区 | × |
| 31 | 剥片 | 0.451 | 0.276 | 0.187 | 0.0 | 北東区 | × | 84 | 剥片 | 0.689 | 0.653 | 0.126 | 0.1 | 北東区 | × |
| 32 | 剥片 | 0.370 | 0.300 | 0.448 | 0.0 | 北東区 | × | 85 | 剥片 | 0.740 | 0.688 | 0.161 | 0.2 | 北東区 | × |
| 33 | 剥片 | 0.369 | 0.152 | 0.160 | 0.0 | 北東区 | × | 86 | 剥片 | 0.767 | 0.596 | 0.118 | 0.1 | 北東区 | × |
| 34 | 剥片 | 0.370 | 0.367 | 0.141 | 0.0 | 北東区 | × | 87 | 剥片 | 0.874 | 0.594 | 0.164 | 0.1 | 北東区 | × |
| 35 | 剥片 | 0.525 | 0.375 | 0.100 | 0.0 | 北東区 | × | 88 | 剥片 | 0.635 | 0.625 | 0.118 | 0.1 | 北東区 | × |
| 36 | 剥片 | 0.511 | 0.269 | 0.083 | 0.0 | 北東区 | × | 89 | 剥片 | 1.045 | 0.418 | 0.207 | 0.1 | 北東区 | × |
| 37 | 剥片 | 0.415 | 0.333 | 0.152 | 0.0 | 北東区 | × | 90 | 剥片 | 0.749 | 0.643 | 0.242 | 0.1 | 北東区 | × |
| 38 | 剥片 | 0.441 | 0.359 | 0.157 | 0.0 | 北東区 | × | 91 | 剥片 | 0.844 | 0.554 | 0.300 | 0.2 | 北東区 | × |
| 39 | 剥片 | 0.465 | 0.214 | 0.133 | 0.0 | 北東区 | × | 92 | 剥片 | 0.944 | 0.660 | 0.148 | 0.2 | 北東区 | × |
| 40 | 剥片 | 0.256 | 0.244 | 0.226 | 0.0 | 北東区 | × | 93 | 剥片 | 0.751 | 0.675 | 0.215 | 0.1 | 北東区 | × |
| 41 | 剥片 | 0.539 | 0.237 | 0.200 | 0.0 | 北東区 | × | 94 | 剥片 | 0.762 | 0.579 | 0.112 | 0.0 | 北東区 | × |
| 42 | 剥片 | 0.460 | 0.410 | 0.097 | 0.0 | 北東区 | × | 95 | 剥片 | 0.715 | 0.577 | 0.146 | 0.1 | 北東区 | × |
| 43 | 剥片 | 0.508 | 0.290 | 0.141 | 0.0 | 北東区 | × | 96 | 剥片 | 1.051 | 0.466 | 0.111 | 0.1 | 北東区 | × |
| 44 | 剥片 | 0.450 | 0.281 | 0.177 | 0.0 | 北東区 | × | 97 | 剥片 | 0.886 | 0.560 | 0.183 | 0.1 | 北東区 | × |
| 45 | 剥片 | 0.339 | 0.265 | 0.184 | 0.0 | 北東区 | × | 98 | 剥片 | 0.678 | 0.629 | 0.166 | 0.1 | 北東区 | × |
| 46 | 剥片 | 0.337 | 0.290 | 0.185 | 0.0 | 北東区 | × | 99 | 剥片 | 0.771 | 0.481 | 0.207 | 0.1 | 北東区 | × |
| 47 | 剥片 | 0.373 | 0.282 | 0.073 | 0.0 | 北東区 | × | 100 | 剥片 | 0.825 | 0.428 | 0.137 | 0.1 | 北東区 | × |
| 48 | 剥片 | 0.519 | 0.287 | 0.094 | 0.0 | 北東区 | × | 101 | 剥片 | 0.630 | 0.618 | 0.179 | 0.1 | 北東区 | × |
| 49 | 剥片 | 0.391 | 0.266 | 0.126 | 0.0 | 北東区 | × | 102 | 剥片 | 0.760 | 0.496 | 0.156 | 0.1 | 北東区 | × |
| 50 | 剥片 | 0.273 | 0.252 | 0.083 | 0.0 | 北東区 | × | 103 | 剥片 | 0.670 | 0.584 | 0.158 | 0.1 | 北東区 | × |
| 51 | 剥片 | 0.321 | 0.264 | 0.154 | 0.0 | 北東区 | × | 104 | 剥片 | 0.735 | 0.502 | 0.263 | 0.1 | 北東区 | × |
| 52 | 剥片 | 0.389 | 0.224 | 0.099 | 0.0 | 北東区 | × | 105 | 剥片 | 0.675 | 0.542 | 0.160 | 0.0 | 北東区 | × |
| 53 | 剥片 | 0.325 | 0.277 | 0.087 | 0.0 | 北東区 | × | 106 | 剥片 | 0.542 | 0.375 | 0.161 | 0.0 | 北東区 | × |

| 序号 | 種類 | 長cm | 短cm | 厚cm | 重g | 出土位置 | 実測 | 番号 | 種類 | 長cm | 短cm | 厚cm | 重g | 出土位置 | 実測 |
|-----|----|-------|-------|-------|-----|------|----|-----|----|-------|-------|-------|-----|------|----|
| 107 | 銅片 | 0.718 | 0.460 | 0.230 | 0.1 | 北東区 | × | 161 | 銅片 | 0.587 | 0.557 | 0.114 | 0.0 | 北東区 | × |
| 108 | 銅片 | 0.745 | 0.641 | 0.202 | 0.1 | 北東区 | × | 162 | 銅片 | 0.547 | 0.542 | 0.170 | 0.0 | 北東区 | × |
| 109 | 銅片 | 0.574 | 0.445 | 0.125 | 0.0 | 北東区 | × | 163 | 銅片 | 0.577 | 0.490 | 0.116 | 0.0 | 北東区 | × |
| 110 | 銅片 | 0.840 | 0.571 | 0.140 | 0.0 | 北東区 | × | 164 | 銅片 | 0.536 | 0.456 | 0.102 | 0.0 | 北東区 | × |
| 111 | 銅片 | 0.702 | 0.602 | 0.147 | 0.1 | 北東区 | × | 165 | 銅片 | 0.699 | 0.358 | 0.082 | 0.0 | 北東区 | × |
| 112 | 銅片 | 0.682 | 0.426 | 0.081 | 0.0 | 北東区 | × | 166 | 銅片 | 0.910 | 0.339 | 0.161 | 0.0 | 北東区 | × |
| 113 | 銅片 | 0.618 | 0.608 | 0.141 | 0.1 | 北東区 | × | 167 | 銅片 | 0.606 | 0.336 | 0.134 | 0.0 | 北東区 | × |
| 114 | 銅片 | 0.690 | 0.432 | 0.227 | 0.1 | 北東区 | × | 168 | 銅片 | 0.598 | 0.390 | 0.082 | 0.0 | 北東区 | × |
| 115 | 銅片 | 0.730 | 0.690 | 0.151 | 0.1 | 北東区 | × | 169 | 銅片 | 0.628 | 0.333 | 0.075 | 0.0 | 北東区 | × |
| 116 | 銅片 | 0.685 | 0.554 | 0.109 | 0.0 | 北東区 | × | 170 | 銅片 | 0.596 | 0.341 | 0.146 | 0.0 | 北東区 | × |
| 117 | 銅片 | 0.690 | 0.651 | 0.163 | 0.1 | 北東区 | × | 171 | 銅片 | 0.567 | 0.391 | 0.049 | 0.0 | 北東区 | × |
| 118 | 銅片 | 0.829 | 0.470 | 0.173 | 0.1 | 北東区 | × | 172 | 銅片 | 0.534 | 0.451 | 0.128 | 0.0 | 北東区 | × |
| 119 | 銅片 | 0.821 | 0.362 | 0.109 | 0.0 | 北東区 | × | 173 | 銅片 | 0.586 | 0.469 | 0.178 | 0.0 | 北東区 | × |
| 120 | 銅片 | 0.901 | 0.446 | 0.145 | 0.1 | 北東区 | × | 174 | 銅片 | 0.566 | 0.549 | 0.108 | 0.0 | 北東区 | × |
| 121 | 銅片 | 0.733 | 0.550 | 0.127 | 0.0 | 北東区 | × | 175 | 銅片 | 0.599 | 0.384 | 0.167 | 0.0 | 北東区 | × |
| 122 | 銅片 | 0.610 | 0.590 | 0.169 | 0.1 | 北東区 | × | 176 | 銅片 | 0.586 | 0.345 | 0.149 | 0.0 | 北東区 | × |
| 123 | 銅片 | 0.653 | 0.463 | 0.133 | 0.0 | 北東区 | × | 177 | 銅片 | 0.563 | 0.486 | 0.140 | 0.0 | 北東区 | × |
| 124 | 銅片 | 0.674 | 0.381 | 0.070 | 0.0 | 北東区 | × | 178 | 銅片 | 0.495 | 0.402 | 0.166 | 0.0 | 北東区 | × |
| 125 | 銅片 | 0.876 | 0.467 | 0.153 | 0.0 | 北東区 | × | 179 | 銅片 | 0.707 | 0.468 | 0.103 | 0.0 | 北東区 | × |
| 126 | 銅片 | 0.875 | 0.308 | 0.199 | 0.1 | 北東区 | × | 180 | 銅片 | 0.566 | 0.349 | 0.069 | 0.0 | 北東区 | × |
| 127 | 銅片 | 0.689 | 0.557 | 0.125 | 0.0 | 北東区 | × | 181 | 銅片 | 0.864 | 0.446 | 0.151 | 0.0 | 北東区 | × |
| 128 | 銅片 | 0.570 | 0.536 | 0.207 | 0.0 | 北東区 | × | 182 | 銅片 | 0.673 | 0.427 | 0.080 | 0.0 | 北東区 | × |
| 129 | 銅片 | 0.552 | 0.551 | 0.065 | 0.0 | 北東区 | × | 183 | 銅片 | 0.655 | 0.293 | 0.146 | 0.0 | 北東区 | × |
| 130 | 銅片 | 0.815 | 0.521 | 0.158 | 0.1 | 北東区 | × | 184 | 銅片 | 0.797 | 0.301 | 0.113 | 0.0 | 北東区 | × |
| 131 | 銅片 | 0.680 | 0.505 | 0.118 | 0.0 | 北東区 | × | 185 | 銅片 | 0.717 | 0.432 | 0.290 | 0.1 | 北東区 | × |
| 132 | 銅片 | 0.513 | 0.510 | 0.161 | 0.0 | 北東区 | × | 186 | 銅片 | 0.628 | 0.447 | 0.111 | 0.0 | 北東区 | × |
| 133 | 銅片 | 0.663 | 0.622 | 0.111 | 0.0 | 北東区 | × | 187 | 銅片 | 0.563 | 0.377 | 0.181 | 0.0 | 北東区 | × |
| 134 | 銅片 | 0.689 | 0.416 | 0.275 | 0.1 | 北東区 | × | 188 | 銅片 | 0.578 | 0.447 | 0.162 | 0.0 | 北東区 | × |
| 135 | 銅片 | 0.939 | 0.369 | 0.090 | 0.0 | 北東区 | × | 189 | 銅片 | 0.571 | 0.491 | 0.108 | 0.0 | 北東区 | × |
| 136 | 銅片 | 0.858 | 0.439 | 0.219 | 0.0 | 北東区 | × | 190 | 銅片 | 0.545 | 0.376 | 0.121 | 0.0 | 北東区 | × |
| 137 | 銅片 | 0.747 | 0.434 | 0.123 | 0.0 | 北東区 | × | 191 | 銅片 | 0.538 | 0.345 | 0.163 | 0.0 | 北東区 | × |
| 138 | 銅片 | 0.665 | 0.326 | 0.088 | 0.0 | 北東区 | × | 192 | 銅片 | 0.612 | 0.366 | 0.161 | 0.0 | 北東区 | × |
| 139 | 銅片 | 0.619 | 0.467 | 0.085 | 0.0 | 北東区 | × | 193 | 銅片 | 0.675 | 0.359 | 0.143 | 0.0 | 北東区 | × |
| 140 | 銅片 | 0.709 | 0.548 | 0.100 | 0.0 | 北東区 | × | 194 | 銅片 | 0.479 | 0.395 | 0.242 | 0.0 | 北東区 | × |
| 141 | 銅片 | 0.700 | 0.537 | 0.083 | 0.0 | 北東区 | × | 195 | 銅片 | 0.601 | 0.501 | 0.112 | 0.0 | 北東区 | × |
| 142 | 銅片 | 0.639 | 0.416 | 0.135 | 0.0 | 北東区 | × | 196 | 銅片 | 0.608 | 0.389 | 0.090 | 0.0 | 北東区 | × |
| 143 | 銅片 | 0.575 | 0.504 | 0.110 | 0.0 | 北東区 | × | 197 | 銅片 | 0.569 | 0.297 | 0.110 | 0.0 | 北東区 | × |
| 144 | 銅片 | 0.517 | 0.504 | 0.170 | 0.1 | 北東区 | × | 198 | 銅片 | 0.664 | 0.479 | 0.101 | 0.0 | 北東区 | × |
| 145 | 銅片 | 0.560 | 0.386 | 0.119 | 0.0 | 北東区 | × | 199 | 銅片 | 0.585 | 0.449 | 0.097 | 0.0 | 北東区 | × |
| 146 | 銅片 | 0.561 | 0.556 | 0.112 | 0.1 | 北東区 | × | 200 | 銅片 | 0.300 | 0.216 | 0.124 | 0.0 | 北東区 | × |
| 147 | 銅片 | 0.860 | 0.423 | 0.140 | 0.1 | 北東区 | × | 201 | 銅片 | 0.556 | 0.542 | 0.112 | 0.0 | 北東区 | × |
| 148 | 銅片 | 0.614 | 0.484 | 0.196 | 0.1 | 北東区 | × | 202 | 銅片 | 0.721 | 0.294 | 0.094 | 0.0 | 北東区 | × |
| 149 | 銅片 | 0.512 | 0.424 | 0.171 | 0.0 | 北東区 | × | 203 | 銅片 | 0.602 | 0.393 | 0.317 | 0.0 | 北東区 | × |
| 150 | 銅片 | 0.718 | 0.399 | 0.101 | 0.0 | 北東区 | × | 204 | 銅片 | 0.319 | 0.273 | 0.172 | 0.0 | 北東区 | × |
| 151 | 銅片 | 0.610 | 0.434 | 0.182 | 0.0 | 北東区 | × | 205 | 銅片 | 0.475 | 0.402 | 0.129 | 0.0 | 北東区 | × |
| 152 | 銅片 | 0.621 | 0.418 | 0.085 | 0.0 | 北東区 | × | 206 | 銅片 | 0.675 | 0.255 | 0.137 | 0.0 | 北東区 | × |
| 153 | 銅片 | 0.716 | 0.442 | 0.118 | 0.0 | 北東区 | × | 207 | 銅片 | 0.633 | 0.313 | 0.105 | 0.0 | 北東区 | × |
| 154 | 銅片 | 0.565 | 0.393 | 0.153 | 0.0 | 北東区 | × | 208 | 銅片 | 0.533 | 0.499 | 0.165 | 0.0 | 北東区 | × |
| 155 | 銅片 | 0.682 | 0.377 | 0.110 | 0.0 | 北東区 | × | 209 | 銅片 | 0.631 | 0.500 | 0.120 | 0.0 | 北東区 | × |
| 156 | 銅片 | 0.593 | 0.454 | 0.118 | 0.0 | 北東区 | × | 210 | 銅片 | 0.532 | 0.454 | 0.037 | 0.0 | 北東区 | × |
| 157 | 銅片 | 0.744 | 0.358 | 0.110 | 0.0 | 北東区 | × | 211 | 銅片 | 0.528 | 0.338 | 0.094 | 0.0 | 北東区 | × |
| 158 | 銅片 | 0.689 | 0.393 | 0.115 | 0.0 | 北東区 | × | 212 | 銅片 | 0.352 | 0.325 | 0.112 | 0.0 | 北東区 | × |
| 159 | 銅片 | 0.594 | 0.538 | 0.096 | 0.0 | 北東区 | × | 213 | 銅片 | 0.571 | 0.537 | 0.083 | 0.0 | 北東区 | × |
| 160 | 銅片 | 0.531 | 0.335 | 0.121 | 0.0 | 北東区 | × | 214 | 銅片 | 0.550 | 0.392 | 0.080 | 0.0 | 北東区 | × |

| 番号 | 種類 | 長cm | 短cm | 厚cm | 重g | 出土位置 | 実測 | 番号 | 種類 | 長cm | 短cm | 厚cm | 重g | 出土位置 | 実測 |
|-----|----|-------|-------|-------|-----|------|----|-----|-------|-------|-------|-------|-----|------|--------|
| 215 | 銅片 | 0.506 | 0.315 | 0.176 | 0.0 | 北東区 | × | 269 | 銅片 | 0.525 | 0.333 | 0.084 | 0.0 | 北東区 | × |
| 216 | 銅片 | 0.487 | 0.339 | 0.108 | 0.0 | 北東区 | × | 270 | 銅片 | 0.418 | 0.372 | 0.130 | 0.0 | 北東区 | × |
| 217 | 銅片 | 0.585 | 0.404 | 0.114 | 0.0 | 北東区 | × | 271 | 銅片 | 0.482 | 0.293 | 0.158 | 0.0 | 北東区 | × |
| 218 | 銅片 | 0.512 | 0.412 | 0.139 | 0.0 | 北東区 | × | 272 | 銅片 | 0.493 | 0.444 | 0.102 | 0.0 | 北東区 | × |
| 219 | 銅片 | 0.484 | 0.451 | 0.102 | 0.0 | 北東区 | × | 273 | 銅片 | 0.493 | 0.402 | 0.055 | 0.0 | 北東区 | × |
| 220 | 銅片 | 0.376 | 0.328 | 0.143 | 0.0 | 北東区 | × | 274 | 銅片 | 0.431 | 0.431 | 0.119 | 0.0 | 北東区 | × |
| 221 | 銅片 | 0.549 | 0.366 | 0.151 | 0.0 | 北東区 | × | 275 | 銅片 | 0.509 | 0.352 | 0.107 | 0.0 | 北東区 | × |
| 222 | 銅片 | 0.312 | 0.284 | 0.076 | 0.0 | 北東区 | × | 276 | 銅片 | 0.386 | 0.274 | 0.151 | 0.0 | 北東区 | × |
| 223 | 銅片 | 0.368 | 0.367 | 0.141 | 0.0 | 北東区 | × | 277 | 銅片 | 0.475 | 0.331 | 0.096 | 0.0 | 北東区 | × |
| 224 | 銅片 | 0.580 | 0.294 | 0.213 | 0.0 | 北東区 | × | 278 | 製作破損品 | 0.458 | 0.370 | 0.145 | 0.0 | 北東区 | 312-65 |
| 225 | 銅片 | 0.607 | 0.330 | 0.172 | 0.0 | 北東区 | × | 279 | 銅片 | 0.370 | 0.351 | 0.106 | 0.0 | 北東区 | × |
| 226 | 銅片 | 0.540 | 0.368 | 0.162 | 0.0 | 北東区 | × | 280 | 銅片 | 0.575 | 0.299 | 0.102 | 0.0 | 北東区 | × |
| 227 | 銅片 | 0.500 | 0.476 | 0.122 | 0.1 | 北東区 | × | 281 | 銅片 | 0.452 | 0.359 | 0.123 | 0.0 | 北東区 | × |
| 228 | 銅片 | 0.553 | 0.403 | 0.132 | 0.0 | 北東区 | × | 282 | 銅片 | 0.494 | 0.315 | 0.119 | 0.0 | 北東区 | × |
| 229 | 銅片 | 0.537 | 0.396 | 0.122 | 0.0 | 北東区 | × | 283 | 銅片 | 0.556 | 0.312 | 0.128 | 0.0 | 北東区 | × |
| 230 | 銅片 | 0.422 | 0.414 | 0.213 | 0.0 | 北東区 | × | 284 | 銅片 | 0.446 | 0.440 | 0.080 | 0.0 | 北東区 | × |
| 231 | 銅片 | 0.548 | 0.329 | 0.117 | 0.0 | 北東区 | × | 285 | 銅片 | 0.464 | 0.331 | 0.136 | 0.0 | 北東区 | × |
| 232 | 銅片 | 0.438 | 0.334 | 0.065 | 0.0 | 北東区 | × | 286 | 銅片 | 0.491 | 0.414 | 0.112 | 0.0 | 北東区 | × |
| 233 | 銅片 | 0.506 | 0.315 | 0.114 | 0.0 | 北東区 | × | 287 | 銅片 | 0.467 | 0.303 | 0.132 | 0.0 | 北東区 | × |
| 234 | 銅片 | 0.591 | 0.392 | 0.152 | 0.0 | 北東区 | × | 288 | 銅片 | 0.502 | 0.322 | 0.068 | 0.0 | 北東区 | × |
| 235 | 銅片 | 0.509 | 0.394 | 0.171 | 0.0 | 北東区 | × | 289 | 銅片 | 0.539 | 0.305 | 0.095 | 0.0 | 北東区 | × |
| 236 | 銅片 | 0.624 | 0.471 | 0.131 | 0.0 | 北東区 | × | 290 | 銅片 | 0.593 | 0.353 | 0.093 | 0.0 | 北東区 | × |
| 237 | 銅片 | 0.552 | 0.371 | 0.152 | 0.0 | 北東区 | × | 291 | 銅片 | 0.449 | 0.297 | 0.075 | 0.0 | 北東区 | × |
| 238 | 銅片 | 0.457 | 0.331 | 0.077 | 0.0 | 北東区 | × | 292 | 銅片 | 0.401 | 0.398 | 0.119 | 0.0 | 北東区 | × |
| 239 | 銅片 | 0.472 | 0.283 | 0.116 | 0.0 | 北東区 | × | 293 | 銅片 | 0.403 | 0.398 | 0.099 | 0.0 | 北東区 | × |
| 240 | 銅片 | 0.472 | 0.427 | 0.136 | 0.0 | 北東区 | × | 294 | 銅片 | 0.409 | 0.390 | 0.116 | 0.0 | 北東区 | × |
| 241 | 銅片 | 0.531 | 0.353 | 0.090 | 0.0 | 北東区 | × | 295 | 銅片 | 0.541 | 0.295 | 0.050 | 0.0 | 北東区 | × |
| 242 | 銅片 | 0.471 | 0.240 | 0.090 | 0.0 | 北東区 | × | 296 | 銅片 | 0.489 | 0.261 | 0.118 | 0.0 | 北東区 | × |
| 243 | 銅片 | 0.386 | 0.375 | 0.135 | 0.0 | 北東区 | × | 297 | 銅片 | 0.359 | 0.335 | 0.051 | 0.0 | 北東区 | × |
| 244 | 銅片 | 0.428 | 0.338 | 0.054 | 0.0 | 北東区 | × | 298 | 銅片 | 0.386 | 0.385 | 0.127 | 0.0 | 北東区 | × |
| 245 | 銅片 | 0.498 | 0.409 | 0.073 | 0.0 | 北東区 | × | 299 | 銅片 | 0.506 | 0.277 | 0.112 | 0.0 | 北東区 | × |
| 246 | 銅片 | 0.507 | 0.413 | 0.120 | 0.0 | 北東区 | × | 300 | 銅片 | 0.486 | 0.388 | 0.050 | 0.0 | 北東区 | × |
| 247 | 銅片 | 0.513 | 0.261 | 0.147 | 0.0 | 北東区 | × | 301 | 銅片 | 0.481 | 0.148 | 0.077 | 0.0 | 北東区 | × |
| 248 | 銅片 | 0.534 | 0.325 | 0.125 | 0.0 | 北東区 | × | 302 | 銅片 | 0.498 | 0.309 | 0.105 | 0.0 | 北東区 | × |
| 249 | 銅片 | 0.528 | 0.396 | 0.085 | 0.0 | 北東区 | × | 303 | 銅片 | 0.457 | 0.387 | 0.085 | 0.0 | 北東区 | × |
| 250 | 銅片 | 0.561 | 0.404 | 0.100 | 0.0 | 北東区 | × | 304 | 銅片 | 0.422 | 0.372 | 0.065 | 0.0 | 北東区 | × |
| 251 | 銅片 | 0.596 | 0.359 | 0.092 | 0.0 | 北東区 | × | 305 | 銅片 | 0.426 | 0.378 | 0.075 | 0.0 | 北東区 | × |
| 252 | 銅片 | 0.568 | 0.517 | 0.114 | 0.0 | 北東区 | × | 306 | 銅片 | 0.416 | 0.371 | 0.060 | 0.0 | 北東区 | × |
| 253 | 銅片 | 0.401 | 0.357 | 0.105 | 0.0 | 北東区 | × | 307 | 銅片 | 0.533 | 0.267 | 0.109 | 0.0 | 北東区 | × |
| 254 | 銅片 | 0.591 | 0.434 | 0.130 | 0.0 | 北東区 | × | 308 | 銅片 | 0.380 | 0.332 | 0.122 | 0.0 | 北東区 | × |
| 255 | 銅片 | 0.631 | 0.216 | 0.098 | 0.0 | 北東区 | × | 309 | 銅片 | 0.456 | 0.413 | 0.063 | 0.0 | 北東区 | × |
| 256 | 銅片 | 0.444 | 0.326 | 0.104 | 0.0 | 北東区 | × | 310 | 銅片 | 0.387 | 0.326 | 0.060 | 0.0 | 北東区 | × |
| 257 | 銅片 | 0.430 | 0.356 | 0.168 | 0.0 | 北東区 | × | 311 | 銅片 | 0.474 | 0.442 | 0.070 | 0.0 | 北東区 | × |
| 258 | 銅片 | 0.571 | 0.321 | 0.057 | 0.0 | 北東区 | × | 312 | 銅片 | 0.487 | 0.331 | 0.074 | 0.0 | 北東区 | × |
| 259 | 銅片 | 0.486 | 0.336 | 0.065 | 0.0 | 北東区 | × | 313 | 銅片 | 0.354 | 0.268 | 0.182 | 0.0 | 北東区 | × |
| 260 | 銅片 | 0.474 | 0.390 | 0.074 | 0.0 | 北東区 | × | 314 | 銅片 | 0.420 | 0.359 | 0.101 | 0.0 | 北東区 | × |
| 261 | 銅片 | 0.443 | 0.368 | 0.083 | 0.0 | 北東区 | × | 315 | 銅片 | 0.451 | 0.263 | 0.049 | 0.0 | 北東区 | × |
| 262 | 銅片 | 0.446 | 0.375 | 0.088 | 0.0 | 北東区 | × | 316 | 銅片 | 0.479 | 0.224 | 0.190 | 0.0 | 北東区 | × |
| 263 | 銅片 | 0.519 | 0.432 | 0.115 | 0.0 | 北東区 | × | 317 | 銅片 | 0.483 | 0.320 | 0.124 | 0.0 | 北東区 | × |
| 264 | 銅片 | 0.501 | 0.323 | 0.112 | 0.0 | 北東区 | × | 318 | 銅片 | 0.450 | 0.326 | 0.115 | 0.0 | 北東区 | × |
| 265 | 銅片 | 0.449 | 0.342 | 0.147 | 0.0 | 北東区 | × | 319 | 銅片 | 0.433 | 0.322 | 0.124 | 0.0 | 北東区 | × |
| 266 | 銅片 | 0.431 | 0.359 | 0.203 | 0.0 | 北東区 | × | 320 | 銅片 | 0.479 | 0.290 | 0.093 | 0.0 | 北東区 | × |
| 267 | 銅片 | 0.516 | 0.345 | 0.110 | 0.0 | 北東区 | × | 321 | 銅片 | 0.418 | 0.404 | 0.124 | 0.0 | 北東区 | × |
| 268 | 銅片 | 0.504 | 0.329 | 0.100 | 0.0 | 北東区 | × | 322 | 銅片 | 0.435 | 0.256 | 0.062 | 0.0 | 北東区 | × |

| 序号 | 種類 | 長cm | 短cm | 厚cm | 重g | 出土位置 | 災測 | 番号 | 種類 | 長cm | 短cm | 厚cm | 重g | 出土位置 | 災測 |
|-----|----|-------|-------|-------|-----|------|----|-----|-------|-------|-------|-------|-----|------|--------|
| 323 | 銅片 | 0.399 | 0.307 | 0.061 | 0.0 | 北東区 | × | 377 | 銅片 | 0.342 | 0.259 | 0.077 | 0.0 | 北東区 | × |
| 324 | 銅片 | 0.365 | 0.345 | 0.112 | 0.0 | 北東区 | × | 378 | 銅片 | 0.305 | 0.269 | 0.105 | 0.0 | 北東区 | × |
| 325 | 銅片 | 0.432 | 0.372 | 0.092 | 0.0 | 北東区 | × | 379 | 銅片 | 0.350 | 0.194 | 0.055 | 0.0 | 北東区 | × |
| 326 | 銅片 | 0.373 | 0.301 | 0.154 | 0.0 | 北東区 | × | 380 | 銅片 | 0.350 | 0.273 | 0.075 | 0.0 | 北東区 | × |
| 327 | 銅片 | 0.490 | 0.345 | 0.079 | 0.0 | 北東区 | × | 381 | 製作破損品 | 0.555 | 0.547 | 0.155 | 0.1 | 北東区 | 312-61 |
| 328 | 銅片 | 0.576 | 0.352 | 0.121 | 0.0 | 北東区 | × | 382 | 製作破損品 | 0.651 | 0.275 | 0.222 | 0.1 | 北東区 | 312-58 |
| 329 | 銅片 | 0.524 | 0.394 | 0.116 | 0.0 | 北東区 | × | 383 | 銅片 | 0.849 | 0.474 | 0.249 | 0.1 | 北東区 | × |
| 330 | 銅片 | 0.451 | 0.324 | 0.066 | 0.0 | 北東区 | × | 384 | 銅片 | 0.511 | 0.464 | 0.259 | 0.1 | 北東区 | × |
| 331 | 銅片 | 0.395 | 0.258 | 0.152 | 0.0 | 北東区 | × | 385 | 銅片 | 1.008 | 0.446 | 0.257 | 0.2 | 北東区 | × |
| 332 | 銅片 | 0.424 | 0.339 | 0.116 | 0.0 | 北東区 | × | 386 | 銅片 | 0.780 | 0.564 | 0.214 | 0.1 | 北東区 | × |
| 333 | 銅片 | 0.469 | 0.336 | 0.100 | 0.0 | 北東区 | × | 387 | 銅片 | 0.583 | 0.451 | 0.177 | 0.1 | 北東区 | × |
| 334 | 銅片 | 0.414 | 0.280 | 0.094 | 0.0 | 北東区 | × | 388 | 銅片 | 0.835 | 0.520 | 0.233 | 0.1 | 北東区 | × |
| 335 | 銅片 | 0.502 | 0.294 | 0.088 | 0.0 | 北東区 | × | 389 | 銅片 | 0.638 | 0.545 | 0.258 | 0.1 | 北東区 | × |
| 336 | 銅片 | 0.420 | 0.295 | 0.109 | 0.0 | 北東区 | × | 390 | 銅片 | 0.786 | 0.327 | 0.136 | 0.0 | 北東区 | × |
| 337 | 銅片 | 0.422 | 0.223 | 0.060 | 0.0 | 北東区 | × | 391 | 銅片 | 0.531 | 0.239 | 0.110 | 0.0 | 北東区 | × |
| 338 | 銅片 | 0.286 | 0.263 | 0.158 | 0.0 | 北東区 | × | 392 | 銅片 | 0.505 | 0.499 | 0.196 | 0.0 | 北東区 | × |
| 339 | 銅片 | 0.351 | 0.243 | 0.058 | 0.0 | 北東区 | × | 393 | 銅片 | 0.562 | 0.404 | 0.182 | 0.1 | 北東区 | × |
| 340 | 銅片 | 0.412 | 0.371 | 0.092 | 0.0 | 北東区 | × | 394 | 銅片 | 0.524 | 0.291 | 0.122 | 0.0 | 北東区 | × |
| 341 | 銅片 | 0.481 | 0.307 | 0.089 | 0.0 | 北東区 | × | 395 | 銅片 | 0.590 | 0.365 | 0.196 | 0.0 | 北東区 | × |
| 342 | 銅片 | 0.443 | 0.363 | 0.053 | 0.0 | 北東区 | × | 396 | 銅片 | 0.594 | 0.460 | 0.161 | 0.0 | 北東区 | × |
| 343 | 銅片 | 0.466 | 0.306 | 0.072 | 0.0 | 北東区 | × | 397 | 銅片 | 0.587 | 0.516 | 0.243 | 0.1 | 北東区 | × |
| 344 | 銅片 | 0.404 | 0.357 | 0.060 | 0.0 | 北東区 | × | 398 | 銅片 | 0.676 | 0.310 | 0.167 | 0.0 | 北東区 | × |
| 345 | 銅片 | 0.466 | 0.337 | 0.125 | 0.0 | 北東区 | × | 399 | 銅片 | 0.442 | 0.427 | 0.143 | 0.0 | 北東区 | × |
| 346 | 銅片 | 0.459 | 0.404 | 0.077 | 0.0 | 北東区 | × | 400 | 銅片 | 0.349 | 0.265 | 0.168 | 0.0 | 北東区 | × |
| 347 | 銅片 | 0.479 | 0.353 | 0.069 | 0.0 | 北東区 | × | 401 | 銅片 | 0.427 | 0.214 | 0.108 | 0.0 | 北東区 | × |
| 348 | 銅片 | 0.485 | 0.355 | 0.073 | 0.0 | 北東区 | × | 402 | 銅片 | 0.472 | 0.335 | 0.154 | 0.0 | 北東区 | × |
| 349 | 銅片 | 0.445 | 0.410 | 0.076 | 0.0 | 北東区 | × | 403 | 銅片 | 0.651 | 0.369 | 0.184 | 0.0 | 北東区 | × |
| 350 | 銅片 | 0.415 | 0.340 | 0.062 | 0.0 | 北東区 | × | 404 | 銅片 | 0.504 | 0.411 | 0.158 | 0.0 | 北東区 | × |
| 351 | 銅片 | 0.364 | 0.286 | 0.097 | 0.0 | 北東区 | × | 405 | 銅片 | 0.560 | 0.411 | 0.116 | 0.0 | 北東区 | × |
| 352 | 銅片 | 0.413 | 0.259 | 0.092 | 0.0 | 北東区 | × | 406 | 銅片 | 0.553 | 0.266 | 0.231 | 0.0 | 北東区 | × |
| 353 | 銅片 | 0.278 | 0.262 | 0.123 | 0.0 | 北東区 | × | 407 | 銅片 | 0.788 | 0.411 | 0.155 | 0.0 | 北東区 | × |
| 354 | 銅片 | 0.386 | 0.321 | 0.081 | 0.0 | 北東区 | × | 408 | 銅片 | 0.523 | 0.271 | 0.212 | 0.0 | 北東区 | × |
| 355 | 銅片 | 0.516 | 0.422 | 0.070 | 0.0 | 北東区 | × | 409 | 銅片 | 0.550 | 0.272 | 0.097 | 0.0 | 北東区 | × |
| 356 | 銅片 | 0.386 | 0.339 | 0.056 | 0.0 | 北東区 | × | 410 | 銅片 | 0.476 | 0.333 | 0.205 | 0.0 | 北東区 | × |
| 357 | 銅片 | 0.421 | 0.337 | 0.117 | 0.0 | 北東区 | × | 411 | 銅片 | 0.498 | 0.300 | 0.211 | 0.0 | 北東区 | × |
| 358 | 銅片 | 0.410 | 0.261 | 0.046 | 0.0 | 北東区 | × | 412 | 銅片 | 0.569 | 0.254 | 0.108 | 0.0 | 北東区 | × |
| 359 | 銅片 | 0.445 | 0.335 | 0.078 | 0.0 | 北東区 | × | 413 | 銅片 | 0.557 | 0.337 | 0.202 | 0.0 | 北東区 | × |
| 360 | 銅片 | 0.399 | 0.309 | 0.084 | 0.0 | 北東区 | × | 414 | 銅片 | 0.319 | 0.290 | 0.081 | 0.0 | 北東区 | × |
| 361 | 銅片 | 0.456 | 0.299 | 0.077 | 0.0 | 北東区 | × | 415 | 銅片 | 0.608 | 0.583 | 0.144 | 0.1 | 北東区 | × |
| 362 | 銅片 | 0.569 | 0.310 | 0.053 | 0.0 | 北東区 | × | 416 | 銅片 | 0.683 | 0.513 | 0.167 | 0.0 | 北東区 | × |
| 363 | 銅片 | 0.368 | 0.348 | 0.048 | 0.0 | 北東区 | × | 417 | 銅片 | 0.628 | 0.289 | 0.131 | 0.0 | 北東区 | × |
| 364 | 銅片 | 0.362 | 0.262 | 0.065 | 0.0 | 北東区 | × | 418 | 銅片 | 0.674 | 0.461 | 0.110 | 0.0 | 北東区 | × |
| 365 | 銅片 | 0.341 | 0.273 | 0.075 | 0.0 | 北東区 | × | 419 | 銅片 | 0.550 | 0.398 | 0.170 | 0.0 | 北東区 | × |
| 366 | 銅片 | 0.430 | 0.292 | 0.094 | 0.0 | 北東区 | × | 420 | 銅片 | 0.549 | 0.464 | 0.155 | 0.0 | 北東区 | × |
| 367 | 銅片 | 0.333 | 0.302 | 0.075 | 0.0 | 北東区 | × | 421 | 銅片 | 0.595 | 0.302 | 0.185 | 0.0 | 北東区 | × |
| 368 | 銅片 | 0.357 | 0.355 | 0.063 | 0.0 | 北東区 | × | 422 | 銅片 | 0.534 | 0.271 | 0.139 | 0.0 | 北東区 | × |
| 369 | 銅片 | 0.407 | 0.296 | 0.071 | 0.0 | 北東区 | × | 423 | 銅片 | 0.331 | 0.277 | 0.140 | 0.0 | 北東区 | × |
| 370 | 銅片 | 0.349 | 0.288 | 0.045 | 0.0 | 北東区 | × | 424 | 銅片 | 0.341 | 0.338 | 0.088 | 0.0 | 北東区 | × |
| 371 | 銅片 | 0.374 | 0.303 | 0.078 | 0.0 | 北東区 | × | 425 | 銅片 | 0.353 | 0.221 | 0.079 | 0.0 | 北東区 | × |
| 372 | 銅片 | 0.383 | 0.252 | 0.060 | 0.0 | 北東区 | × | 426 | 銅片 | 0.359 | 0.289 | 0.101 | 0.0 | 北東区 | × |
| 373 | 銅片 | 0.340 | 0.267 | 0.061 | 0.0 | 北東区 | × | 427 | 銅片 | 0.419 | 0.213 | 0.065 | 0.0 | 北東区 | × |
| 374 | 銅片 | 0.362 | 0.237 | 0.106 | 0.0 | 北東区 | × | 428 | 銅片 | 0.526 | 0.313 | 0.129 | 0.0 | 北東区 | × |
| 375 | 銅片 | 0.372 | 0.249 | 0.083 | 0.0 | 北東区 | × | 429 | 銅片 | 0.504 | 0.399 | 0.203 | 0.0 | 北東区 | × |
| 376 | 銅片 | 0.400 | 0.266 | 0.082 | 0.0 | 北東区 | × | 430 | 銅片 | 0.410 | 0.218 | 0.052 | 0.0 | 北東区 | × |

| 序号 | 规格 | 长cm | 短cm | 厚cm | 重g | 出土位置 | 实例 | 序号 | 规格 | 长cm | 短cm | 厚cm | 重g | 出土位置 | 实例 |
|-----|-------|-------|-------|-------|-----|------|--------|-----|-------|-------|-------|-------|-----|------|--------|
| 431 | 铜片 | 0.455 | 0.262 | 0.112 | 0.0 | 北区 | × | 485 | 製作破損品 | 0.519 | 0.318 | 0.103 | 0.0 | 南区 | 312-45 |
| 432 | 製作破損品 | 0.453 | 0.243 | 0.122 | 0.0 | 北区 | × | 486 | 製作破損品 | 0.612 | 0.374 | 0.176 | 0.0 | 南区 | 312-36 |
| 433 | 铜片 | 0.365 | 0.328 | 0.079 | 0.0 | 北区 | × | 487 | 製作破損品 | 0.744 | 0.416 | 0.170 | 0.1 | 南区 | 312-30 |
| 434 | 铜片 | 0.502 | 0.269 | 0.150 | 0.0 | 北区 | × | 488 | 製作破損品 | 0.581 | 0.361 | 0.124 | 0.0 | 南区 | 312-42 |
| 435 | 铜片 | 0.340 | 0.321 | 0.105 | 0.0 | 北区 | × | 489 | 铜片 | 0.599 | 0.278 | 0.170 | 0.0 | 南区 | × |
| 436 | 铜片 | 0.460 | 0.440 | 0.140 | 0.0 | 北区 | × | 490 | 铜片 | 0.682 | 0.445 | 0.160 | 0.0 | 南区 | × |
| 437 | 铜片 | 0.398 | 0.275 | 0.120 | 0.0 | 北区 | × | 491 | 铜片 | 0.780 | 0.657 | 0.227 | 0.1 | 南区 | × |
| 438 | 铜片 | 0.531 | 0.275 | 0.086 | 0.0 | 北区 | × | 492 | 铜片 | 1.207 | 0.744 | 0.253 | 0.3 | 南区 | × |
| 439 | 铜片 | 0.331 | 0.305 | 0.097 | 0.0 | 北区 | × | 493 | 铜片 | 0.533 | 0.345 | 0.158 | 0.0 | 南区 | × |
| 440 | 铜片 | 0.470 | 0.396 | 0.137 | 0.0 | 北区 | × | 494 | 铜片 | 0.505 | 0.452 | 0.261 | 0.0 | 南区 | × |
| 441 | 铜片 | 0.485 | 0.297 | 0.185 | 0.0 | 北区 | × | 495 | 製作破損品 | 0.392 | 0.362 | 0.077 | 0.1 | 南区 | 312-55 |
| 442 | 铜片 | 0.381 | 0.296 | 0.107 | 0.0 | 北区 | × | 496 | 製作破損品 | 0.615 | 0.389 | 0.081 | 0.0 | 南区 | 312-48 |
| 443 | 铜片 | 0.404 | 0.266 | 0.146 | 0.0 | 北区 | × | 497 | 铜片 | 0.623 | 0.352 | 0.242 | 0.0 | 南区 | × |
| 444 | 铜片 | 0.382 | 0.348 | 0.090 | 0.0 | 北区 | × | 498 | 铜片 | 0.518 | 0.310 | 0.227 | 0.0 | 南区 | × |
| 445 | 铜片 | 0.489 | 0.318 | 0.054 | 0.0 | 北区 | × | 499 | 铜片 | 0.565 | 0.462 | 0.099 | 0.0 | 南区 | × |
| 446 | 铜片 | 0.620 | 0.245 | 0.071 | 0.0 | 北区 | × | 500 | 铜片 | 0.608 | 0.455 | 0.156 | 0.0 | 南区 | × |
| 447 | 铜片 | 0.329 | 0.257 | 0.091 | 0.0 | 北区 | × | 501 | 铜片 | 0.590 | 0.414 | 0.194 | 0.1 | 南区 | × |
| 448 | 铜片 | 0.405 | 0.301 | 0.126 | 0.0 | 北区 | × | 502 | 铜片 | 0.481 | 0.480 | 0.088 | 0.0 | 南区 | × |
| 449 | 铜片 | 0.385 | 0.263 | 0.077 | 0.0 | 北区 | × | 503 | 铜片 | 0.472 | 0.302 | 0.048 | 0.0 | 南区 | × |
| 450 | 铜片 | 0.428 | 0.414 | 0.097 | 0.0 | 北区 | × | 504 | 製作破損品 | 0.452 | 0.329 | 0.139 | 0.0 | 南区 | 312-53 |
| 451 | 铜片 | 0.380 | 0.312 | 0.117 | 0.0 | 北区 | × | 505 | 製作破損品 | 0.351 | 0.232 | 0.233 | 0.0 | 南区 | 312-54 |
| 452 | 铜片 | 0.440 | 0.215 | 0.185 | 0.0 | 北区 | × | 506 | 製作破損品 | 0.610 | 0.345 | 0.075 | 0.0 | 南区 | 312-44 |
| 453 | 铜片 | 0.324 | 0.270 | 0.107 | 0.0 | 北区 | × | 507 | 製作破損品 | 0.454 | 0.374 | 0.116 | 0.0 | 南区 | 312-51 |
| 454 | 铜片 | 0.476 | 0.197 | 0.083 | 0.0 | 北区 | × | 508 | 製作破損品 | 0.668 | 0.313 | 0.104 | 0.0 | 南区 | 312-43 |
| 455 | 铜片 | 0.824 | 0.499 | 0.095 | 0.0 | 北区 | × | 509 | 铜片 | 0.468 | 0.330 | 0.129 | 0.0 | 南区 | × |
| 456 | 铜片 | 0.361 | 0.270 | 0.106 | 0.0 | 北区 | × | 510 | 製作破損品 | 0.628 | 0.467 | 0.117 | 0.0 | 南区 | 312-41 |
| 457 | 铜片 | 0.492 | 0.263 | 0.105 | 0.0 | 北区 | × | 511 | 製作破損品 | 0.512 | 0.417 | 0.121 | 0.0 | 南区 | 312-50 |
| 458 | 铜片 | 0.460 | 0.280 | 0.104 | 0.0 | 北区 | × | 512 | 製作破損品 | 0.711 | 0.549 | 0.276 | 0.2 | 南区 | 312-28 |
| 459 | 铜片 | 0.462 | 0.337 | 0.094 | 0.0 | 北区 | × | 513 | 白玉 | 0.398 | 0.371 | 0.069 | 0.0 | 北区 | 312-21 |
| 460 | 铜片 | 0.348 | 0.247 | 0.034 | 0.0 | 北区 | × | 514 | 白玉 | 0.415 | 0.410 | 0.081 | 0.0 | 北区 | 312-20 |
| 461 | 铜片 | 0.412 | 0.260 | 0.070 | 0.0 | 北区 | × | 515 | 白玉 | 0.411 | 0.405 | 0.068 | 0.0 | 北区 | 312-22 |
| 462 | 铜片 | 0.353 | 0.227 | 0.080 | 0.0 | 北区 | × | 516 | 白玉 | 0.436 | 0.432 | 0.174 | 0.0 | 北区 | 312-19 |
| 463 | 铜片 | 0.822 | 0.506 | 0.073 | 0.0 | 北区 | × | 517 | 铜片 | 0.532 | 0.406 | 0.095 | 0.0 | 北区 | × |
| 464 | 铜片 | 0.421 | 0.449 | 0.139 | 0.0 | 北区 | × | 518 | 製作破損品 | 0.693 | 0.516 | 0.274 | 0.3 | 北区 | 312-57 |
| 465 | 铜片 | 0.341 | 0.303 | 0.095 | 0.0 | 北区 | × | 519 | 製作破損品 | 0.610 | 0.291 | 0.151 | 0.0 | 北区 | 312-63 |
| 466 | 铜片 | 0.436 | 0.256 | 0.054 | 0.0 | 北区 | × | 520 | 白玉未製品 | 0.776 | 0.713 | 0.193 | 0.2 | 北区 | 312-24 |
| 467 | 铜片 | 0.437 | 0.189 | 0.116 | 0.0 | 北区 | × | 521 | 製作破損品 | 0.517 | 0.392 | 0.130 | 0.0 | 北区 | 312-62 |
| 468 | 铜片 | 0.369 | 0.235 | 0.084 | 0.0 | 北区 | × | 522 | 製作破損品 | 0.475 | 0.348 | 0.063 | 0.0 | 北区 | 312-64 |
| 469 | 白玉未製品 | 0.605 | 0.502 | 0.146 | 0.0 | 南区 | 312-23 | 523 | 製作破損品 | 0.733 | 0.487 | 0.214 | 0.1 | 北区 | 312-56 |
| 470 | 製作破損品 | 0.665 | 0.261 | 0.179 | 0.0 | 南区 | 312-34 | 524 | 製作破損品 | 0.667 | 0.390 | 0.286 | 0.1 | 北区 | 312-59 |
| 471 | 铜片 | 0.531 | 0.368 | 0.137 | 0.0 | 南区 | × | 525 | 铜片 | 0.516 | 0.348 | 0.101 | 0.0 | 北区 | × |
| 472 | 製作破損品 | 0.525 | 0.345 | 0.213 | 0.0 | 南区 | 312-38 | 526 | 铜片 | 0.438 | 0.259 | 0.122 | 0.0 | 北区 | × |
| 473 | 製作破損品 | 0.671 | 0.462 | 0.105 | 0.0 | 南区 | 312-40 | 527 | 铜片 | 0.382 | 0.379 | 0.102 | 0.0 | 北区 | × |
| 474 | 製作破損品 | 0.544 | 0.444 | 0.149 | 0.0 | 南区 | 312-52 | 528 | 製作破損品 | 0.614 | 0.463 | 0.230 | 0.1 | 北区 | 312-60 |
| 475 | 製作破損品 | 0.662 | 0.397 | 0.213 | 0.0 | 南区 | 312-37 | 529 | 铜片 | 0.847 | 0.795 | 0.151 | 0.2 | 北区 | × |
| 476 | 製作破損品 | 0.707 | 0.630 | 0.219 | 0.0 | 南区 | 312-26 | 530 | 铜片 | 0.796 | 0.461 | 0.199 | 0.1 | 北区 | × |
| 477 | 製作破損品 | 0.616 | 0.452 | 0.136 | 0.0 | 南区 | 312-35 | 531 | 铜片 | 0.667 | 0.366 | 0.312 | 0.1 | 北区 | × |
| 478 | 製作破損品 | 0.745 | 0.350 | 0.301 | 0.1 | 南区 | 312-27 | 532 | 铜片 | 0.741 | 0.489 | 0.150 | 0.0 | 北区 | × |
| 479 | 製作破損品 | 0.582 | 0.476 | 0.293 | 0.1 | 南区 | 312-31 | 533 | 铜片 | 0.718 | 0.428 | 0.063 | 0.0 | 北区 | × |
| 480 | 製作破損品 | 0.497 | 0.325 | 0.255 | 0.0 | 南区 | 312-39 | 534 | 铜片 | 0.837 | 0.611 | 0.165 | 0.1 | 北区 | × |
| 481 | 製作破損品 | 0.515 | 0.235 | 0.213 | 0.1 | 南区 | 312-47 | 535 | 铜片 | 1.110 | 0.610 | 0.148 | 0.2 | 北区 | × |
| 482 | 製作破損品 | 0.604 | 0.440 | 0.236 | 0.1 | 南区 | 312-32 | 536 | 铜片 | 0.472 | 0.373 | 0.097 | 0.0 | 南区 | × |
| 483 | 製作破損品 | 0.552 | 0.376 | 0.174 | 0.0 | 南区 | 312-46 | 537 | 製作破損品 | 0.658 | 0.373 | 0.163 | 0.0 | 南区 | 312-33 |
| 484 | 製作破損品 | 0.628 | 0.555 | 0.288 | 0.1 | 南区 | 312-29 | 538 | 铜片 | 0.577 | 0.439 | 0.085 | 0.0 | 南区 | × |

| 番号 | 種類 | 長cm | 短cm | 厚cm | 重g | 出土位置 | 実測 | 番号 | 種類 | 長cm | 短cm | 厚cm | 重g | 出土位置 | 実測 |
|-----|----|-------|-------|-------|-----|------|----|-----|----|-------|-------|-------|-----|------|----|
| 539 | 銅片 | 0.555 | 0.312 | 0.125 | 0.0 | 南区 | × | 593 | 銅片 | 0.584 | 0.412 | 0.124 | 0.0 | 南区 | × |
| 540 | 銅片 | 0.586 | 0.368 | 0.112 | 0.0 | 南区 | × | 594 | 銅片 | 0.390 | 0.309 | 0.122 | 0.0 | 南区 | × |
| 541 | 銅片 | 0.887 | 0.641 | 0.310 | 0.2 | 南区 | × | 595 | 銅片 | 0.588 | 0.498 | 0.155 | 0.0 | 南区 | × |
| 542 | 銅片 | 0.728 | 0.634 | 0.307 | 0.3 | 南区 | × | 596 | 銅片 | 0.502 | 0.354 | 0.183 | 0.0 | 南区 | × |
| 543 | 銅片 | 0.727 | 0.602 | 0.386 | 0.2 | 南区 | × | 597 | 銅片 | 0.597 | 0.435 | 0.076 | 0.0 | 南区 | × |
| 544 | 銅片 | 0.682 | 0.393 | 0.145 | 0.0 | 南区 | × | 598 | 銅片 | 0.469 | 0.337 | 0.073 | 0.0 | 南区 | × |
| 545 | 銅片 | 0.510 | 0.294 | 0.082 | 0.0 | 南区 | × | 599 | 銅片 | 0.748 | 0.652 | 0.157 | 0.1 | 南区 | × |
| 546 | 銅片 | 0.411 | 0.310 | 0.135 | 0.0 | 南区 | × | 600 | 銅片 | 0.863 | 0.382 | 0.259 | 0.1 | 南区 | × |
| 547 | 銅片 | 0.496 | 0.353 | 0.170 | 0.0 | 南区 | × | 601 | 銅片 | 0.621 | 0.581 | 0.196 | 0.1 | 南区 | × |
| 548 | 銅片 | 0.680 | 0.383 | 0.142 | 0.0 | 南区 | × | 602 | 銅片 | 0.652 | 0.438 | 0.128 | 0.0 | 南区 | × |
| 549 | 銅片 | 0.368 | 0.304 | 0.084 | 0.0 | 南区 | × | 603 | 銅片 | 0.545 | 0.472 | 0.119 | 0.0 | 南区 | × |
| 550 | 銅片 | 0.539 | 0.438 | 0.092 | 0.0 | 南区 | × | 604 | 銅片 | 0.649 | 0.392 | 0.120 | 0.0 | 南区 | × |
| 551 | 銅片 | 0.719 | 0.476 | 0.224 | 0.1 | 南区 | × | 605 | 銅片 | 0.756 | 0.470 | 0.152 | 0.0 | 南区 | × |
| 552 | 銅片 | 0.461 | 0.392 | 0.049 | 0.0 | 南区 | × | 606 | 銅片 | 0.742 | 0.454 | 0.206 | 0.0 | 南区 | × |
| 553 | 銅片 | 0.803 | 0.514 | 0.175 | 0.1 | 南区 | × | 607 | 銅片 | 0.546 | 0.445 | 0.089 | 0.0 | 南区 | × |
| 554 | 銅片 | 0.753 | 0.429 | 0.237 | 0.1 | 南区 | × | 608 | 銅片 | 0.691 | 0.288 | 0.183 | 0.0 | 南区 | × |
| 555 | 銅片 | 0.526 | 0.349 | 0.116 | 0.0 | 南区 | × | 609 | 銅片 | 0.539 | 0.316 | 0.169 | 0.0 | 南区 | × |
| 556 | 銅片 | 0.425 | 0.349 | 0.226 | 0.0 | 南区 | × | 610 | 銅片 | 0.486 | 0.397 | 0.148 | 0.0 | 南区 | × |
| 557 | 銅片 | 0.687 | 0.254 | 0.148 | 0.0 | 南区 | × | 611 | 銅片 | 0.569 | 0.369 | 0.119 | 0.0 | 南区 | × |
| 558 | 銅片 | 0.463 | 0.454 | 0.093 | 0.0 | 南区 | × | 612 | 銅片 | 0.465 | 0.299 | 0.072 | 0.0 | 南区 | × |
| 559 | 銅片 | 0.684 | 0.559 | 0.120 | 0.0 | 南区 | × | 613 | 銅片 | 0.512 | 0.280 | 0.149 | 0.0 | 南区 | × |
| 560 | 銅片 | 0.548 | 0.354 | 0.114 | 0.0 | 南区 | × | 614 | 銅片 | 0.374 | 0.344 | 0.122 | 0.0 | 南区 | × |
| 561 | 銅片 | 0.572 | 0.330 | 0.161 | 0.0 | 南区 | × | 615 | 銅片 | 0.606 | 0.288 | 0.122 | 0.0 | 南区 | × |
| 562 | 銅片 | 0.659 | 0.212 | 0.144 | 0.0 | 南区 | × | 616 | 銅片 | 0.411 | 0.267 | 0.058 | 0.0 | 南区 | × |
| 563 | 銅片 | 0.490 | 0.317 | 0.084 | 0.0 | 南区 | × | 617 | 銅片 | 0.361 | 0.249 | 0.164 | 0.0 | 南区 | × |
| 564 | 銅片 | 0.528 | 0.338 | 0.081 | 0.0 | 南区 | × | 618 | 銅片 | 0.451 | 0.369 | 0.079 | 0.0 | 南区 | × |
| 565 | 銅片 | 0.416 | 0.344 | 0.086 | 0.0 | 南区 | × | 619 | 銅片 | 0.417 | 0.410 | 0.105 | 0.0 | 南区 | × |
| 566 | 銅片 | 0.296 | 0.274 | 0.054 | 0.0 | 南区 | × | 620 | 銅片 | 0.531 | 0.243 | 0.099 | 0.0 | 南区 | × |
| 567 | 銅片 | 0.506 | 0.420 | 0.089 | 0.0 | 南区 | × | 621 | 銅片 | 0.345 | 0.276 | 0.100 | 0.0 | 南区 | × |
| 568 | 銅片 | 0.638 | 0.468 | 0.274 | 0.1 | 南区 | × | 622 | 銅片 | 0.445 | 0.294 | 0.123 | 0.0 | 南区 | × |
| 569 | 銅片 | 0.528 | 0.429 | 0.179 | 0.1 | 南区 | × | 623 | 銅片 | 0.799 | 0.432 | 0.223 | 0.0 | 南区 | × |
| 570 | 銅片 | 0.429 | 0.324 | 0.146 | 0.0 | 南区 | × | 624 | 銅片 | 0.635 | 0.413 | 0.163 | 0.0 | 南区 | × |
| 571 | 銅片 | 0.697 | 0.475 | 0.270 | 0.2 | 南区 | × | 625 | 銅片 | 1.023 | 0.388 | 0.145 | 0.1 | 南区 | × |
| 572 | 銅片 | 0.713 | 0.548 | 0.318 | 0.3 | 南区 | × | 626 | 銅片 | 0.465 | 0.411 | 0.137 | 0.0 | 南区 | × |
| 573 | 銅片 | 0.707 | 0.247 | 0.089 | 0.0 | 南区 | × | 627 | 銅片 | 0.420 | 0.361 | 0.078 | 0.0 | 南区 | × |
| 574 | 銅片 | 0.592 | 0.267 | 0.065 | 0.0 | 南区 | × | 628 | 銅片 | 0.524 | 0.359 | 0.091 | 0.0 | 南区 | × |
| 575 | 銅片 | 0.503 | 0.410 | 0.109 | 0.0 | 南区 | × | 629 | 銅片 | 0.636 | 0.316 | 0.125 | 0.0 | 南区 | × |
| 576 | 銅片 | 0.514 | 0.439 | 0.136 | 0.0 | 南区 | × | 630 | 銅片 | 0.562 | 0.344 | 0.082 | 0.0 | 南区 | × |
| 577 | 銅片 | 0.562 | 0.401 | 0.137 | 0.0 | 南区 | × | 631 | 銅片 | 0.469 | 0.338 | 0.111 | 0.0 | 南区 | × |
| 578 | 銅片 | 0.590 | 0.273 | 0.182 | 0.0 | 南区 | × | 632 | 銅片 | 0.415 | 0.363 | 0.124 | 0.0 | 南区 | × |
| 579 | 銅片 | 0.426 | 0.296 | 0.124 | 0.0 | 南区 | × | 633 | 銅片 | 0.482 | 0.218 | 0.207 | 0.0 | 南区 | × |
| 580 | 銅片 | 0.631 | 0.384 | 0.111 | 0.0 | 南区 | × | 634 | 銅片 | 0.363 | 0.344 | 0.073 | 0.0 | 南区 | × |
| 581 | 銅片 | 0.461 | 0.384 | 0.067 | 0.0 | 南区 | × | 635 | 銅片 | 0.378 | 0.286 | 0.093 | 0.0 | 南区 | × |
| 582 | 銅片 | 0.419 | 0.370 | 0.110 | 0.0 | 南区 | × | 636 | 銅片 | 0.458 | 0.370 | 0.103 | 0.0 | 南区 | × |
| 583 | 銅片 | 0.338 | 0.263 | 0.136 | 0.0 | 南区 | × | 637 | 銅片 | 0.637 | 0.389 | 0.170 | 0.0 | 南区 | × |
| 584 | 銅片 | 0.366 | 0.318 | 0.061 | 0.0 | 南区 | × | 638 | 銅片 | 0.579 | 0.383 | 0.093 | 0.0 | 南区 | × |
| 585 | 銅片 | 0.950 | 0.434 | 0.072 | 0.0 | 南区 | × | 639 | 銅片 | 0.553 | 0.370 | 0.187 | 0.0 | 南区 | × |
| 586 | 銅片 | 0.805 | 0.343 | 0.083 | 0.0 | 南区 | × | 640 | 銅片 | 0.363 | 0.304 | 0.120 | 0.0 | 南区 | × |
| 587 | 銅片 | 0.606 | 0.321 | 0.087 | 0.0 | 南区 | × | 641 | 銅片 | 0.355 | 0.307 | 0.138 | 0.0 | 南区 | × |
| 588 | 銅片 | 0.488 | 0.264 | 0.062 | 0.0 | 南区 | × | 642 | 銅片 | 0.515 | 0.335 | 0.101 | 0.0 | 南区 | × |
| 589 | 銅片 | 0.487 | 0.368 | 0.180 | 0.0 | 南区 | × | 643 | 銅片 | 0.579 | 0.489 | 0.277 | 0.1 | 南区 | × |
| 590 | 銅片 | 0.652 | 0.364 | 0.281 | 0.1 | 南区 | × | 644 | 銅片 | 0.906 | 0.569 | 0.169 | 0.1 | 南区 | × |
| 591 | 銅片 | 0.751 | 0.727 | 0.174 | 0.1 | 南区 | × | 645 | 銅片 | 0.488 | 0.271 | 0.256 | 0.0 | 南区 | × |
| 592 | 銅片 | 0.705 | 0.497 | 0.138 | 0.0 | 南区 | × | 646 | 銅片 | 0.461 | 0.362 | 0.188 | 0.0 | 南区 | × |

| 序号 | 種類 | 長cm | 短cm | 厚cm | 重g | 出土位置 | 実測 | 番号 | 種類 | 長cm | 短cm | 厚cm | 重g | 出土位置 | 実測 |
|-----|-------|-------|-------|-------|-----|------|--------|-----|----|-------|-------|-------|-----|------|----|
| 647 | 銅片 | 0.917 | 0.496 | 0.178 | 0.1 | 南西区 | × | 701 | 銅片 | 0.780 | 0.449 | 0.131 | 0.0 | 南西区 | × |
| 648 | 銅片 | 0.675 | 0.585 | 0.090 | 0.0 | 南西区 | × | 702 | 銅片 | 0.795 | 0.460 | 0.213 | 0.1 | 南西区 | × |
| 649 | 銅片 | 0.916 | 0.855 | 0.180 | 0.2 | 南西区 | × | 703 | 銅片 | 0.565 | 0.452 | 0.219 | 0.1 | 南西区 | × |
| 650 | 銅片 | 0.576 | 0.402 | 0.149 | 0.0 | 南西区 | × | 704 | 銅片 | 0.619 | 0.503 | 0.155 | 0.1 | 南西区 | × |
| 651 | 銅片 | 0.435 | 0.354 | 0.144 | 0.0 | 南西区 | × | 705 | 銅片 | 0.728 | 0.492 | 0.163 | 0.0 | 南西区 | × |
| 652 | 銅片 | 0.672 | 0.371 | 0.085 | 0.0 | 南西区 | × | 706 | 銅片 | 0.928 | 0.532 | 0.224 | 0.2 | 南西区 | × |
| 653 | 銅片 | 0.548 | 0.344 | 0.084 | 0.0 | 南西区 | × | 707 | 銅片 | 0.732 | 0.664 | 0.153 | 0.1 | 南西区 | × |
| 654 | 銅片 | 0.570 | 0.288 | 0.154 | 0.0 | 南西区 | × | 708 | 銅片 | 0.690 | 0.573 | 0.146 | 0.1 | 南西区 | × |
| 655 | 銅片 | 0.570 | 0.398 | 0.132 | 0.0 | 南西区 | × | 709 | 銅片 | 0.680 | 0.596 | 0.182 | 0.1 | 南西区 | × |
| 656 | 製作破損品 | 0.450 | 0.332 | 0.156 | 0.0 | 南西区 | 312-49 | 710 | 銅片 | 0.616 | 0.557 | 0.170 | 0.0 | 南西区 | × |
| 657 | 銅片 | 0.495 | 0.377 | 0.074 | 0.0 | 南西区 | × | 711 | 銅片 | 0.736 | 0.344 | 0.284 | 0.1 | 南西区 | × |
| 658 | 銅片 | 0.464 | 0.414 | 0.099 | 0.0 | 南西区 | × | 712 | 銅片 | 0.632 | 0.437 | 0.169 | 0.0 | 南西区 | × |
| 659 | 銅片 | 0.541 | 0.260 | 0.170 | 0.0 | 南西区 | × | 713 | 銅片 | 0.697 | 0.327 | 0.134 | 0.0 | 南西区 | × |
| 660 | 銅片 | 0.650 | 0.537 | 0.259 | 0.1 | 南西区 | × | 714 | 銅片 | 0.491 | 0.415 | 0.183 | 0.0 | 南西区 | × |
| 661 | 銅片 | 0.365 | 0.288 | 0.106 | 0.0 | 南西区 | × | 715 | 銅片 | 0.480 | 0.369 | 0.101 | 0.0 | 南西区 | × |
| 662 | 銅片 | 0.375 | 0.342 | 0.105 | 0.0 | 南西区 | × | 716 | 銅片 | 0.434 | 0.383 | 0.087 | 0.0 | 南西区 | × |
| 663 | 銅片 | 0.411 | 0.384 | 0.135 | 0.0 | 南西区 | × | 717 | 銅片 | 0.403 | 0.304 | 0.152 | 0.0 | 南西区 | × |
| 664 | 銅片 | 0.358 | 0.314 | 0.094 | 0.0 | 南西区 | × | 718 | 銅片 | 0.536 | 0.250 | 0.168 | 0.0 | 南西区 | × |
| 665 | 銅片 | 0.701 | 0.338 | 0.085 | 0.0 | 南西区 | × | 719 | 銅片 | 0.342 | 0.326 | 0.054 | 0.0 | 南西区 | × |
| 666 | 銅片 | 0.466 | 0.374 | 0.090 | 0.0 | 南西区 | × | 720 | 銅片 | 0.350 | 0.301 | 0.151 | 0.0 | 南西区 | × |
| 667 | 銅片 | 0.492 | 0.392 | 0.112 | 0.0 | 南西区 | × | 721 | 銅片 | 0.718 | 0.487 | 0.171 | 0.1 | 南西区 | × |
| 668 | 銅片 | 0.429 | 0.426 | 0.062 | 0.0 | 南西区 | × | 722 | 銅片 | 0.630 | 0.540 | 0.078 | 0.0 | 南西区 | × |
| 669 | 銅片 | 0.438 | 0.371 | 0.072 | 0.0 | 南西区 | × | 723 | 銅片 | 0.729 | 0.554 | 0.157 | 0.1 | 南西区 | × |
| 670 | 銅片 | 0.641 | 0.391 | 0.127 | 0.0 | 南西区 | × | 724 | 銅片 | 0.563 | 0.406 | 0.149 | 0.0 | 南西区 | × |
| 671 | 銅片 | 0.376 | 0.385 | 0.094 | 0.0 | 南西区 | × | 725 | 銅片 | 0.527 | 0.479 | 0.221 | 0.1 | 南西区 | × |
| 672 | 銅片 | 0.540 | 0.391 | 0.084 | 0.0 | 南西区 | × | 726 | 銅片 | 0.714 | 0.436 | 0.085 | 0.0 | 南西区 | × |
| 673 | 銅片 | 0.392 | 0.311 | 0.081 | 0.0 | 南西区 | × | 727 | 銅片 | 0.885 | 0.324 | 0.068 | 0.0 | 南西区 | × |
| 674 | 銅片 | 0.778 | 0.651 | 0.189 | 0.1 | 南西区 | × | 728 | 銅片 | 0.441 | 0.312 | 0.180 | 0.0 | 南西区 | × |
| 675 | 銅片 | 0.373 | 0.330 | 0.097 | 0.0 | 南西区 | × | 729 | 銅片 | 0.649 | 0.423 | 0.206 | 0.0 | 南西区 | × |
| 676 | 銅片 | 0.460 | 0.428 | 0.127 | 0.0 | 南西区 | × | 730 | 銅片 | 0.693 | 0.436 | 0.091 | 0.0 | 南西区 | × |
| 677 | 銅片 | 0.413 | 0.254 | 0.171 | 0.0 | 南西区 | × | 731 | 銅片 | 0.507 | 0.376 | 0.077 | 0.0 | 南西区 | × |
| 678 | 銅片 | 0.492 | 0.361 | 0.172 | 0.0 | 南西区 | × | 732 | 銅片 | 0.533 | 0.389 | 0.065 | 0.0 | 南西区 | × |
| 679 | 銅片 | 0.502 | 0.299 | 0.157 | 0.0 | 南西区 | × | 733 | 銅片 | 0.357 | 0.298 | 0.088 | 0.0 | 南西区 | × |
| 680 | 銅片 | 0.797 | 0.574 | 0.108 | 0.1 | 南内区 | × | 734 | 銅片 | 0.436 | 0.341 | 0.060 | 0.0 | 南西区 | × |
| 681 | 銅片 | 0.411 | 0.295 | 0.081 | 0.0 | 南西区 | × | 735 | 銅片 | 0.406 | 0.282 | 0.132 | 0.0 | 南西区 | × |
| 682 | 銅片 | 0.475 | 0.419 | 0.128 | 0.0 | 南西区 | × | 736 | 銅片 | 0.411 | 0.374 | 0.063 | 0.0 | 南西区 | × |
| 683 | 銅片 | 0.476 | 0.365 | 0.077 | 0.0 | 南西区 | × | 737 | 銅片 | 0.726 | 0.688 | 0.185 | 0.1 | 南西区 | × |
| 684 | 銅片 | 0.765 | 0.322 | 0.231 | 0.1 | 南西区 | × | 738 | 銅片 | 0.728 | 0.493 | 0.145 | 0.0 | 南西区 | × |
| 685 | 銅片 | 0.387 | 0.299 | 0.092 | 0.0 | 南西区 | × | 739 | 銅片 | 0.606 | 0.507 | 0.247 | 0.0 | 南西区 | × |
| 686 | 銅片 | 0.623 | 0.366 | 0.231 | 0.0 | 南西区 | × | 740 | 銅片 | 0.702 | 0.410 | 0.157 | 0.0 | 南西区 | × |
| 687 | 銅片 | 0.509 | 0.373 | 0.123 | 0.0 | 南西区 | × | 741 | 銅片 | 0.824 | 0.801 | 0.259 | 0.2 | 南内区 | × |
| 688 | 銅片 | 0.482 | 0.273 | 0.222 | 0.0 | 南西区 | × | 742 | 銅片 | 0.512 | 0.482 | 0.146 | 0.0 | 南西区 | × |
| 689 | 銅片 | 0.545 | 0.480 | 0.204 | 0.0 | 南西区 | × | 743 | 銅片 | 0.623 | 0.352 | 0.189 | 0.0 | 南西区 | × |
| 690 | 銅片 | 0.723 | 0.373 | 0.140 | 0.0 | 南西区 | × | 744 | 銅片 | 0.687 | 0.282 | 0.100 | 0.0 | 南内区 | × |
| 691 | 銅片 | 0.426 | 0.336 | 0.207 | 0.0 | 南西区 | × | 745 | 銅片 | 0.593 | 0.592 | 0.102 | 0.0 | 南西区 | × |
| 692 | 銅片 | 0.445 | 0.415 | 0.099 | 0.0 | 南西区 | × | 746 | 銅片 | 0.442 | 0.404 | 0.101 | 0.0 | 南内区 | × |
| 693 | 銅片 | 0.404 | 0.393 | 0.109 | 0.0 | 南西区 | × | 747 | 銅片 | 0.509 | 0.301 | 0.215 | 0.0 | 南西区 | × |
| 694 | 銅片 | 0.401 | 0.358 | 0.065 | 0.0 | 南西区 | × | 748 | 銅片 | 0.542 | 0.372 | 0.104 | 0.0 | 南西区 | × |
| 695 | 銅片 | 0.413 | 0.294 | 0.108 | 0.0 | 南西区 | × | 749 | 銅片 | 0.400 | 0.331 | 0.109 | 0.0 | 南西区 | × |
| 696 | 銅片 | 0.561 | 0.339 | 0.154 | 0.0 | 南西区 | × | 750 | 銅片 | 0.527 | 0.265 | 0.172 | 0.0 | 南西区 | × |
| 697 | 銅片 | 0.690 | 0.391 | 0.149 | 0.0 | 南西区 | × | 751 | 銅片 | 0.724 | 0.528 | 0.252 | 0.2 | 南西区 | × |
| 698 | 銅片 | 0.578 | 0.522 | 0.089 | 0.0 | 南西区 | × | 752 | 銅片 | 0.693 | 0.523 | 0.125 | 0.0 | 南西区 | × |
| 699 | 銅片 | 0.528 | 0.504 | 0.107 | 0.0 | 南西区 | × | 753 | 銅片 | 0.680 | 0.451 | 0.189 | 0.0 | 南内区 | × |
| 700 | 銅片 | 0.615 | 0.507 | 0.054 | 0.0 | 南西区 | × | 754 | 銅片 | 0.765 | 0.398 | 0.177 | 0.0 | 南内区 | × |

| 序号 | 種類 | 長cm | 短cm | 厚cm | 重g | 出土位置 | 実測 | 番号 | 種類 | 長cm | 短cm | 厚cm | 重g | 出土位置 | 実測 |
|-----|-------|-------|-------|-------|-----|------|--------|-----|----|-------|-------|-------|-----|------|----|
| 647 | 銅片 | 0.917 | 0.496 | 0.178 | 0.1 | 南西区 | × | 701 | 銅片 | 0.780 | 0.449 | 0.131 | 0.0 | 南西区 | × |
| 648 | 銅片 | 0.675 | 0.585 | 0.090 | 0.0 | 南西区 | × | 702 | 銅片 | 0.795 | 0.460 | 0.213 | 0.1 | 南西区 | × |
| 649 | 銅片 | 0.916 | 0.855 | 0.180 | 0.2 | 南西区 | × | 703 | 銅片 | 0.565 | 0.452 | 0.219 | 0.1 | 南西区 | × |
| 650 | 銅片 | 0.576 | 0.402 | 0.149 | 0.0 | 南西区 | × | 704 | 銅片 | 0.619 | 0.503 | 0.155 | 0.1 | 南西区 | × |
| 651 | 銅片 | 0.455 | 0.354 | 0.144 | 0.0 | 南西区 | × | 705 | 銅片 | 0.728 | 0.492 | 0.163 | 0.0 | 南西区 | × |
| 652 | 銅片 | 0.672 | 0.371 | 0.085 | 0.0 | 南西区 | × | 706 | 銅片 | 0.928 | 0.532 | 0.224 | 0.2 | 南西区 | × |
| 653 | 銅片 | 0.548 | 0.344 | 0.084 | 0.0 | 南西区 | × | 707 | 銅片 | 0.732 | 0.664 | 0.153 | 0.1 | 南西区 | × |
| 654 | 銅片 | 0.570 | 0.288 | 0.154 | 0.0 | 南西区 | × | 708 | 銅片 | 0.690 | 0.573 | 0.146 | 0.1 | 南西区 | × |
| 655 | 銅片 | 0.570 | 0.398 | 0.132 | 0.0 | 南西区 | × | 709 | 銅片 | 0.680 | 0.596 | 0.182 | 0.1 | 南西区 | × |
| 656 | 製作破損品 | 0.450 | 0.332 | 0.156 | 0.0 | 南西区 | 312-49 | 710 | 銅片 | 0.616 | 0.557 | 0.170 | 0.0 | 南西区 | × |
| 657 | 銅片 | 0.495 | 0.377 | 0.074 | 0.0 | 南西区 | × | 711 | 銅片 | 0.736 | 0.344 | 0.284 | 0.1 | 南西区 | × |
| 658 | 銅片 | 0.464 | 0.414 | 0.099 | 0.0 | 南西区 | × | 712 | 銅片 | 0.632 | 0.437 | 0.169 | 0.0 | 南西区 | × |
| 659 | 銅片 | 0.541 | 0.260 | 0.170 | 0.0 | 南西区 | × | 713 | 銅片 | 0.697 | 0.327 | 0.134 | 0.0 | 南西区 | × |
| 660 | 銅片 | 0.650 | 0.537 | 0.259 | 0.1 | 南西区 | × | 714 | 銅片 | 0.491 | 0.415 | 0.183 | 0.0 | 南西区 | × |
| 661 | 銅片 | 0.365 | 0.288 | 0.106 | 0.0 | 南西区 | × | 715 | 銅片 | 0.480 | 0.369 | 0.101 | 0.0 | 南西区 | × |
| 662 | 銅片 | 0.375 | 0.342 | 0.105 | 0.0 | 南西区 | × | 716 | 銅片 | 0.434 | 0.383 | 0.087 | 0.0 | 南西区 | × |
| 663 | 銅片 | 0.411 | 0.384 | 0.135 | 0.0 | 南西区 | × | 717 | 銅片 | 0.405 | 0.304 | 0.152 | 0.0 | 南西区 | × |
| 664 | 銅片 | 0.358 | 0.314 | 0.094 | 0.0 | 南西区 | × | 718 | 銅片 | 0.536 | 0.250 | 0.168 | 0.0 | 南西区 | × |
| 665 | 銅片 | 0.701 | 0.338 | 0.085 | 0.0 | 南西区 | × | 719 | 銅片 | 0.342 | 0.326 | 0.054 | 0.0 | 南西区 | × |
| 666 | 銅片 | 0.466 | 0.374 | 0.090 | 0.0 | 南西区 | × | 720 | 銅片 | 0.350 | 0.301 | 0.151 | 0.0 | 南西区 | × |
| 667 | 銅片 | 0.492 | 0.392 | 0.112 | 0.0 | 南西区 | × | 721 | 銅片 | 0.718 | 0.487 | 0.171 | 0.1 | 南西区 | × |
| 668 | 銅片 | 0.429 | 0.426 | 0.052 | 0.0 | 南西区 | × | 722 | 銅片 | 0.630 | 0.540 | 0.078 | 0.0 | 南西区 | × |
| 669 | 銅片 | 0.438 | 0.371 | 0.072 | 0.0 | 南西区 | × | 723 | 銅片 | 0.729 | 0.554 | 0.157 | 0.1 | 南西区 | × |
| 670 | 銅片 | 0.641 | 0.391 | 0.127 | 0.0 | 南西区 | × | 724 | 銅片 | 0.563 | 0.406 | 0.149 | 0.0 | 南西区 | × |
| 671 | 銅片 | 0.376 | 0.355 | 0.094 | 0.0 | 南西区 | × | 725 | 銅片 | 0.527 | 0.479 | 0.221 | 0.1 | 南西区 | × |
| 672 | 銅片 | 0.540 | 0.391 | 0.084 | 0.0 | 南西区 | × | 726 | 銅片 | 0.714 | 0.436 | 0.085 | 0.0 | 南西区 | × |
| 673 | 銅片 | 0.392 | 0.311 | 0.081 | 0.0 | 南西区 | × | 727 | 銅片 | 0.685 | 0.324 | 0.068 | 0.0 | 南西区 | × |
| 674 | 銅片 | 0.778 | 0.651 | 0.189 | 0.1 | 南西区 | × | 728 | 銅片 | 0.441 | 0.312 | 0.180 | 0.0 | 南西区 | × |
| 675 | 銅片 | 0.373 | 0.330 | 0.097 | 0.0 | 南西区 | × | 729 | 銅片 | 0.649 | 0.423 | 0.206 | 0.0 | 南西区 | × |
| 676 | 銅片 | 0.460 | 0.428 | 0.127 | 0.0 | 南西区 | × | 730 | 銅片 | 0.693 | 0.436 | 0.091 | 0.0 | 南西区 | × |
| 677 | 銅片 | 0.413 | 0.254 | 0.171 | 0.0 | 南西区 | × | 731 | 銅片 | 0.507 | 0.376 | 0.077 | 0.0 | 南西区 | × |
| 678 | 銅片 | 0.492 | 0.361 | 0.172 | 0.0 | 南西区 | × | 732 | 銅片 | 0.533 | 0.389 | 0.065 | 0.0 | 南西区 | × |
| 679 | 銅片 | 0.502 | 0.299 | 0.157 | 0.0 | 南西区 | × | 733 | 銅片 | 0.357 | 0.298 | 0.088 | 0.0 | 南西区 | × |
| 680 | 銅片 | 0.797 | 0.574 | 0.108 | 0.1 | 南西区 | × | 734 | 銅片 | 0.436 | 0.341 | 0.060 | 0.0 | 南西区 | × |
| 681 | 銅片 | 0.411 | 0.295 | 0.081 | 0.0 | 南西区 | × | 735 | 銅片 | 0.406 | 0.282 | 0.132 | 0.0 | 南西区 | × |
| 682 | 銅片 | 0.475 | 0.419 | 0.128 | 0.0 | 南西区 | × | 736 | 銅片 | 0.411 | 0.374 | 0.063 | 0.0 | 南西区 | × |
| 683 | 銅片 | 0.476 | 0.365 | 0.077 | 0.0 | 南西区 | × | 737 | 銅片 | 0.726 | 0.688 | 0.185 | 0.1 | 南西区 | × |
| 684 | 銅片 | 0.765 | 0.322 | 0.231 | 0.1 | 南西区 | × | 738 | 銅片 | 0.728 | 0.493 | 0.145 | 0.0 | 南西区 | × |
| 685 | 銅片 | 0.387 | 0.299 | 0.092 | 0.0 | 南西区 | × | 739 | 銅片 | 0.606 | 0.507 | 0.247 | 0.0 | 南西区 | × |
| 686 | 銅片 | 0.623 | 0.366 | 0.231 | 0.0 | 南西区 | × | 740 | 銅片 | 0.702 | 0.410 | 0.157 | 0.0 | 南西区 | × |
| 687 | 銅片 | 0.509 | 0.373 | 0.123 | 0.0 | 南西区 | × | 741 | 銅片 | 0.824 | 0.801 | 0.259 | 0.2 | 南西区 | × |
| 688 | 銅片 | 0.482 | 0.273 | 0.222 | 0.0 | 南西区 | × | 742 | 銅片 | 0.512 | 0.482 | 0.149 | 0.0 | 南西区 | × |
| 689 | 銅片 | 0.545 | 0.480 | 0.204 | 0.0 | 南西区 | × | 743 | 銅片 | 0.623 | 0.332 | 0.189 | 0.0 | 南西区 | × |
| 690 | 銅片 | 0.723 | 0.373 | 0.140 | 0.0 | 南西区 | × | 744 | 銅片 | 0.687 | 0.282 | 0.100 | 0.0 | 南西区 | × |
| 691 | 銅片 | 0.426 | 0.336 | 0.207 | 0.0 | 南西区 | × | 745 | 銅片 | 0.593 | 0.592 | 0.102 | 0.0 | 南西区 | × |
| 692 | 銅片 | 0.445 | 0.415 | 0.099 | 0.0 | 南西区 | × | 746 | 銅片 | 0.442 | 0.404 | 0.101 | 0.0 | 南西区 | × |
| 693 | 銅片 | 0.404 | 0.393 | 0.109 | 0.0 | 南西区 | × | 747 | 銅片 | 0.509 | 0.301 | 0.215 | 0.0 | 南西区 | × |
| 694 | 銅片 | 0.401 | 0.358 | 0.065 | 0.0 | 南西区 | × | 748 | 銅片 | 0.542 | 0.372 | 0.104 | 0.0 | 南西区 | × |
| 695 | 銅片 | 0.413 | 0.294 | 0.108 | 0.0 | 南西区 | × | 749 | 銅片 | 0.400 | 0.331 | 0.109 | 0.0 | 南西区 | × |
| 696 | 銅片 | 0.561 | 0.339 | 0.154 | 0.0 | 南西区 | × | 750 | 銅片 | 0.527 | 0.265 | 0.172 | 0.0 | 南西区 | × |
| 697 | 銅片 | 0.690 | 0.391 | 0.149 | 0.0 | 南西区 | × | 751 | 銅片 | 0.724 | 0.538 | 0.232 | 0.2 | 南西区 | × |
| 698 | 銅片 | 0.578 | 0.522 | 0.089 | 0.0 | 南西区 | × | 752 | 銅片 | 0.693 | 0.523 | 0.125 | 0.0 | 南西区 | × |
| 699 | 銅片 | 0.528 | 0.504 | 0.107 | 0.0 | 南西区 | × | 753 | 銅片 | 0.680 | 0.451 | 0.189 | 0.0 | 南西区 | × |
| 700 | 銅片 | 0.615 | 0.507 | 0.054 | 0.0 | 南西区 | × | 754 | 銅片 | 0.765 | 0.398 | 0.177 | 0.0 | 南西区 | × |

| 番号 | 種類 | 長cm | 短cm | 厚cm | 重g | 出土位置 | 実面 | 番号 | 種類 | 長cm | 短cm | 厚cm | 重g | 出土位置 | 実面 |
|-----|----|-------|-------|-------|-----|------|----|-----|-------|-------|-------|-------|-----|------|--------|
| 755 | 銅片 | 0.663 | 0.438 | 0.238 | 0.1 | 南西区 | × | 809 | 銅片 | 0.373 | 0.269 | 0.235 | 0.0 | 南西区 | × |
| 756 | 銅片 | 0.449 | 0.395 | 0.251 | 0.1 | 南西区 | × | 810 | 銅片 | 0.855 | 0.524 | 0.249 | 0.1 | 南西区 | × |
| 757 | 銅片 | 0.590 | 0.412 | 0.073 | 0.0 | 南西区 | × | 811 | 銅片 | 0.801 | 0.341 | 0.184 | 0.0 | 南西区 | × |
| 758 | 銅片 | 0.582 | 0.312 | 0.122 | 0.0 | 南西区 | × | 812 | 銅片 | 0.538 | 0.332 | 0.217 | 0.0 | 南西区 | × |
| 759 | 銅片 | 0.541 | 0.322 | 0.176 | 0.0 | 南西区 | × | 813 | 銅片 | 0.601 | 0.279 | 0.172 | 0.0 | 南西区 | × |
| 760 | 銅片 | 0.396 | 0.364 | 0.125 | 0.0 | 南西区 | × | 814 | 銅片 | 0.570 | 0.388 | 0.108 | 0.0 | 南西区 | × |
| 761 | 銅片 | 0.498 | 0.348 | 0.115 | 0.0 | 南西区 | × | 815 | 銅片 | 0.745 | 0.393 | 0.174 | 0.0 | 南西区 | × |
| 762 | 銅片 | 0.541 | 0.415 | 0.155 | 0.0 | 南西区 | × | 816 | 銅片 | 0.362 | 0.302 | 0.191 | 0.0 | 南西区 | × |
| 763 | 銅片 | 0.547 | 0.280 | 0.210 | 0.0 | 南西区 | × | 817 | 銅片 | 0.445 | 0.406 | 0.267 | 0.0 | 南西区 | × |
| 764 | 銅片 | 0.454 | 0.319 | 0.110 | 0.0 | 南西区 | × | 818 | 銅片 | 0.555 | 0.359 | 0.219 | 0.0 | 南西区 | × |
| 765 | 銅片 | 0.555 | 0.219 | 0.122 | 0.0 | 南西区 | × | 819 | 銅片 | 0.620 | 0.437 | 0.225 | 0.0 | 南西区 | × |
| 766 | 銅片 | 0.325 | 0.269 | 0.126 | 0.0 | 南西区 | × | 820 | 銅片 | 0.465 | 0.326 | 0.151 | 0.0 | 南西区 | × |
| 767 | 銅片 | 0.478 | 0.219 | 0.119 | 0.0 | 南西区 | × | 821 | 銅片 | 0.647 | 0.338 | 0.127 | 0.0 | 南西区 | × |
| 768 | 銅片 | 0.384 | 0.352 | 0.048 | 0.0 | 南西区 | × | 822 | 銅片 | 0.451 | 0.371 | 0.250 | 0.0 | 南西区 | × |
| 769 | 銅片 | 0.324 | 0.278 | 0.079 | 0.0 | 南西区 | × | 823 | 銅片 | 0.564 | 0.295 | 0.241 | 0.0 | 南西区 | × |
| 770 | 銅片 | 0.359 | 0.250 | 0.185 | 0.0 | 南西区 | × | 824 | 銅片 | 0.493 | 0.454 | 0.144 | 0.0 | 南西区 | × |
| 771 | 銅片 | 0.362 | 0.330 | 0.073 | 0.0 | 南西区 | × | 825 | 銅片 | 0.970 | 0.435 | 0.315 | 0.2 | 南西区 | × |
| 772 | 銅片 | 0.306 | 0.289 | 0.058 | 0.0 | 南西区 | × | 826 | 銅片 | 0.647 | 0.235 | 0.064 | 0.0 | 一括 | × |
| 773 | 銅片 | 0.373 | 0.299 | 0.047 | 0.0 | 南西区 | × | 827 | 銅片 | 0.442 | 0.230 | 0.080 | 0.0 | 一括 | × |
| 774 | 銅片 | 0.350 | 0.286 | 0.055 | 0.0 | 南西区 | × | 828 | 銅片 | 0.332 | 0.328 | 0.081 | 0.0 | 一括 | × |
| 775 | 銅片 | 1.220 | 0.364 | 0.231 | 0.2 | 南西区 | × | 829 | 製作破損品 | 0.856 | 0.316 | 0.194 | 0.1 | 一括 | 312-67 |
| 776 | 銅片 | 0.445 | 0.397 | 0.158 | 0.0 | 南西区 | × | 830 | 製作破損品 | 0.725 | 0.383 | 0.165 | 0.1 | 一括 | 312-74 |
| 777 | 銅片 | 0.595 | 0.391 | 0.155 | 0.0 | 南西区 | × | 831 | 製作破損品 | 0.529 | 0.436 | 0.107 | 0.0 | 一括 | 312-79 |
| 778 | 銅片 | 0.384 | 0.383 | 0.067 | 0.0 | 南西区 | × | 832 | 製作破損品 | 0.663 | 0.408 | 0.279 | 0.1 | 一括 | 312-73 |
| 779 | 銅片 | 0.381 | 0.342 | 0.078 | 0.0 | 南西区 | × | 833 | 製作破損品 | 0.652 | 0.574 | 0.143 | 0.0 | 一括 | 312-77 |
| 780 | 銅片 | 0.506 | 0.394 | 0.186 | 0.0 | 南西区 | × | 834 | 製作破損品 | 0.632 | 0.442 | 0.139 | 0.0 | 一括 | 312-76 |
| 781 | 銅片 | 0.497 | 0.432 | 0.111 | 0.0 | 南西区 | × | 835 | 銅片 | 0.866 | 0.693 | 0.107 | 0.1 | 一括 | × |
| 782 | 銅片 | 0.650 | 0.411 | 0.125 | 0.0 | 南西区 | × | 836 | 銅片 | 0.906 | 0.533 | 0.053 | 0.0 | 一括 | × |
| 783 | 銅片 | 0.693 | 0.585 | 0.146 | 0.1 | 南西区 | × | 837 | 銅片 | 1.083 | 0.495 | 0.339 | 0.3 | 一括 | × |
| 784 | 銅片 | 0.415 | 0.405 | 0.114 | 0.0 | 南西区 | × | 838 | 銅片 | 0.666 | 0.521 | 0.291 | 0.2 | 一括 | × |
| 785 | 銅片 | 0.398 | 0.385 | 0.111 | 0.0 | 南西区 | × | 839 | 銅片 | 0.835 | 0.516 | 0.180 | 0.2 | 一括 | × |
| 786 | 銅片 | 0.503 | 0.407 | 0.159 | 0.0 | 南西区 | × | 840 | 銅片 | 0.404 | 0.308 | 0.047 | 0.0 | 一括 | × |
| 787 | 銅片 | 0.590 | 0.309 | 0.137 | 0.0 | 南西区 | × | 841 | 銅片 | 0.605 | 0.402 | 0.324 | 0.0 | 一括 | × |
| 788 | 銅片 | 0.456 | 0.400 | 0.081 | 0.0 | 南西区 | × | 842 | 銅片 | 0.539 | 0.415 | 0.065 | 0.0 | 一括 | × |
| 789 | 銅片 | 0.415 | 0.395 | 0.081 | 0.0 | 南西区 | × | 843 | 銅片 | 0.326 | 0.316 | 0.072 | 0.0 | 一括 | × |
| 790 | 銅片 | 0.471 | 0.301 | 0.073 | 0.0 | 南西区 | × | 844 | 銅片 | 0.219 | 0.211 | 0.083 | 0.0 | 一括 | × |
| 791 | 銅片 | 0.335 | 0.323 | 0.095 | 0.0 | 南西区 | × | 845 | 銅片 | 0.448 | 0.423 | 0.097 | 0.0 | 一括 | × |
| 792 | 銅片 | 0.410 | 0.302 | 0.293 | 0.0 | 南西区 | × | 846 | 銅片 | 0.555 | 0.313 | 0.074 | 0.0 | 一括 | × |
| 793 | 銅片 | 0.865 | 0.615 | 0.273 | 0.2 | 南西区 | × | 847 | 銅片 | 0.355 | 0.305 | 0.089 | 0.0 | 一括 | × |
| 794 | 銅片 | 0.646 | 0.340 | 0.149 | 0.0 | 南西区 | × | 848 | 銅片 | 0.438 | 0.396 | 0.052 | 0.0 | 一括 | × |
| 795 | 銅片 | 0.737 | 0.332 | 0.087 | 0.0 | 南西区 | × | 849 | 銅片 | 0.441 | 0.276 | 0.101 | 0.0 | 一括 | × |
| 796 | 銅片 | 0.637 | 0.330 | 0.127 | 0.0 | 南西区 | × | 850 | 銅片 | 0.379 | 0.297 | 0.115 | 0.0 | 一括 | × |
| 797 | 銅片 | 0.347 | 0.280 | 0.200 | 0.0 | 南西区 | × | 851 | 銅片 | 0.403 | 0.269 | 0.113 | 0.0 | 一括 | × |
| 798 | 銅片 | 0.289 | 0.258 | 0.142 | 0.0 | 南西区 | × | 852 | 銅片 | 0.517 | 0.454 | 0.102 | 0.0 | 一括 | × |
| 799 | 銅片 | 0.323 | 0.312 | 0.157 | 0.0 | 南西区 | × | 853 | 銅片 | 0.549 | 0.333 | 0.142 | 0.0 | 一括 | × |
| 800 | 銅片 | 0.452 | 0.301 | 0.162 | 0.0 | 南西区 | × | 854 | 銅片 | 0.412 | 0.337 | 0.108 | 0.0 | 一括 | × |
| 801 | 銅片 | 0.404 | 0.333 | 0.165 | 0.0 | 南西区 | × | 855 | 銅片 | 0.541 | 0.441 | 0.127 | 0.0 | 一括 | × |
| 802 | 銅片 | 0.345 | 0.287 | 0.274 | 0.0 | 南西区 | × | 856 | 銅片 | 0.463 | 0.408 | 0.165 | 0.0 | 一括 | × |
| 803 | 銅片 | 0.397 | 0.248 | 0.179 | 0.0 | 南西区 | × | 857 | 銅片 | 0.563 | 0.263 | 0.113 | 0.0 | 一括 | × |
| 804 | 銅片 | 0.466 | 0.255 | 0.067 | 0.0 | 南西区 | × | 858 | 銅片 | 0.542 | 0.337 | 0.113 | 0.0 | 一括 | × |
| 805 | 銅片 | 0.422 | 0.327 | 0.138 | 0.0 | 南西区 | × | 859 | 銅片 | 0.683 | 0.349 | 0.165 | 0.0 | 一括 | × |
| 806 | 銅片 | 0.305 | 0.293 | 0.191 | 0.0 | 南西区 | × | 860 | 銅片 | 0.339 | 0.337 | 0.149 | 0.0 | 一括 | × |
| 807 | 銅片 | 0.300 | 0.273 | 0.071 | 0.0 | 南西区 | × | 861 | 銅片 | 0.529 | 0.398 | 0.105 | 0.0 | 一括 | × |
| 808 | 銅片 | 0.340 | 0.276 | 0.150 | 0.0 | 南西区 | × | 862 | 銅片 | 0.429 | 0.423 | 0.122 | 0.0 | 一括 | × |

| 番号 | 種類 | 長cm | 短cm | 厚cm | 重g | 出土位置 | 実測 | 番号 | 種類 | 長cm | 短cm | 厚cm | 重g | 出土位置 | 実測 |
|-----|----|-------|-------|-------|-----|------|----|-----|-------|-------|-------|-------|-----|------|--------|
| 863 | 剥片 | 0.615 | 0.473 | 0.077 | 0.0 | 一括 | × | 885 | 剥片 | 0.469 | 0.336 | 0.200 | 0.0 | 一括 | × |
| 864 | 剥片 | 0.656 | 0.356 | 0.151 | 0.0 | 一括 | × | 886 | 剥片 | 0.629 | 0.367 | 0.074 | 0.0 | 一括 | × |
| 865 | 剥片 | 0.474 | 0.373 | 0.182 | 0.0 | 一括 | × | 887 | 製作破損品 | 0.618 | 0.371 | 0.238 | 0.1 | 一括 | × |
| 866 | 剥片 | 0.507 | 0.168 | 0.273 | 0.0 | 一括 | × | 888 | 剥片 | 0.740 | 0.594 | 0.437 | 0.2 | 一括 | × |
| 867 | 剥片 | 0.762 | 0.479 | 0.116 | 0.0 | 一括 | × | 889 | 剥片 | 1.105 | 0.835 | 0.295 | 0.2 | 一括 | × |
| 868 | 剥片 | 0.637 | 0.596 | 0.126 | 0.1 | 一括 | × | 890 | 剥片 | 0.732 | 0.716 | 0.252 | 0.2 | 一括 | × |
| 869 | 剥片 | 0.539 | 0.480 | 0.215 | 0.1 | 一括 | × | 891 | 剥片 | 0.772 | 0.583 | 0.226 | 0.1 | 一括 | × |
| 870 | 剥片 | 0.724 | 0.491 | 0.221 | 0.1 | 一括 | × | 892 | 剥片 | 0.673 | 0.582 | 0.252 | 0.2 | 一括 | × |
| 871 | 剥片 | 0.688 | 0.409 | 0.183 | 0.1 | 一括 | × | 893 | 剥片 | 0.731 | 0.509 | 0.126 | 0.1 | 一括 | × |
| 872 | 剥片 | 0.849 | 0.418 | 0.217 | 0.1 | 一括 | × | 894 | 剥片 | 0.788 | 0.465 | 0.126 | 0.1 | 一括 | × |
| 873 | 剥片 | 0.570 | 0.524 | 0.160 | 0.1 | 一括 | × | 895 | 剥片 | 0.715 | 0.374 | 0.269 | 0.1 | 一括 | × |
| 874 | 剥片 | 0.866 | 0.416 | 0.134 | 0.0 | 一括 | × | 896 | 剥片 | 0.959 | 0.555 | 0.164 | 0.1 | 一括 | × |
| 875 | 剥片 | 0.565 | 0.419 | 0.275 | 0.0 | 一括 | × | 897 | 剥片 | 0.758 | 0.389 | 0.263 | 0.1 | 一括 | × |
| 876 | 剥片 | 0.647 | 0.459 | 0.099 | 0.0 | 一括 | × | 898 | 剥片 | 0.634 | 0.535 | 0.211 | 0.1 | 一括 | × |
| 877 | 剥片 | 0.599 | 0.360 | 0.307 | 0.1 | 一括 | × | 899 | 剥片 | 0.739 | 0.417 | 0.114 | 0.0 | 一括 | × |
| 878 | 剥片 | 0.599 | 0.518 | 0.143 | 0.0 | 一括 | × | 900 | 白玉未製品 | 0.727 | 0.679 | 0.252 | 0.2 | 一括 | 312-25 |
| 879 | 剥片 | 0.620 | 0.330 | 0.218 | 0.0 | 一括 | × | 901 | 製作破損品 | 0.694 | 0.411 | 0.142 | 0.0 | 一括 | 312-75 |
| 880 | 剥片 | 0.721 | 0.312 | 0.220 | 0.0 | 一括 | × | 902 | 製作破損品 | 0.788 | 0.510 | 0.183 | 0.1 | 一括 | 312-70 |
| 881 | 剥片 | 0.743 | 0.279 | 0.134 | 0.0 | 一括 | × | 903 | 製作破損品 | 0.660 | 0.442 | 0.302 | 0.2 | 一括 | 312-69 |
| 882 | 剥片 | 0.749 | 0.257 | 0.130 | 0.0 | 一括 | × | 904 | 製作破損品 | 0.676 | 0.272 | 0.409 | 0.1 | 一括 | 312-58 |
| 883 | 剥片 | 0.591 | 0.447 | 0.123 | 0.0 | 一括 | × | 905 | 製作破損品 | 0.598 | 0.386 | 0.134 | 0.0 | 一括 | 312-78 |
| 884 | 剥片 | 0.658 | 0.525 | 0.186 | 0.0 | 一括 | × | 906 | 製作破損品 | 0.626 | 0.433 | 0.257 | 0.1 | 一括 | 312-71 |

程の棒状石材の形成時に発生した剥片と推測される。いずれにも研磨痕はみられず、特に80・81には剝離痕が顕著に残されている。

80は、長さ2834cm、幅3197cm、厚さ0.635cm、重さ57gである(図版149-2)。81は、長さ1833cm、幅3548cm、厚さ0.664cm、重さ50gである(図版149-3)。82は、長さ1292cm、幅0.587cm、厚さ0.207cm、重さ0.2gである。3点とも、北東区から出土している(図版149-4)。

出土した製品・未製品、穿孔後の製作途上の破損片についてはすべてを計測し、計測結果については第78表に示した。図示できなかった製作剥片については、表の計測値のみの報告とする。表中の番号は遺物整理番号であり、第312図の遺物掲載番号とは一致しない。図化・掲載した遺物については、実測欄に掲載番号を示した。また、重量欄の「00」という表記は、重さ0.1g未満のため計測が不能であった。

第93号住居跡(第313図)

ZT・ZU-7グリッドに位置し、南東部1/3ほどが調査区域外にある。重複する第97・98号住居跡よりも新しい。

平面形態は長方形で、カマドを西壁の中央付近に付設する。主軸長3.17m、南北幅4.25mを測り、主軸方位はN-94°-Wを指す。確認面からの深さは、0.18-0.28mほどである。覆土は自然堆積で、北側から南の方向へ埋没していった状況が観察できる。

カマドは、燃焼部に堆積していた焼土・炭化物層が確認されたにすぎない。おそらくこれは、崩落した天井部や火床面の一部と推定される。西壁中央付近の壁溝が途切れている箇所、造り付けられている。西壁がわずかに張り出した部分があるが、ここが燃焼部の奥壁に相当する。ここから、外方に煙道部が延びていたものと推測される。カマドの構築には、淡褐色粘土が用いられている。遺物の出土状況から、2点の土師器高坏が支脚に転用され(第314図3・4)、この上に甕(14)が架けられていた状態と看取できる。支脚の前面部

| 番号 | 種類 | 長cm | 短cm | 厚cm | 重g | 出土位置 | 実測 | 番号 | 種類 | 長cm | 短cm | 厚cm | 重g | 出土位置 | 実測 |
|-----|----|-------|-------|-------|-----|------|----|-----|-------|-------|-------|-------|-----|------|----|
| 863 | 剥片 | 0.615 | 0.473 | 0.077 | 0.0 | 一括 | × | 885 | 剥片 | 0.469 | 0.336 | 0.200 | 0.0 | 一括 | × |
| 864 | 剥片 | 0.656 | 0.356 | 0.151 | 0.0 | 一括 | × | 886 | 剥片 | 0.629 | 0.367 | 0.074 | 0.0 | 一括 | × |
| 865 | 剥片 | 0.474 | 0.373 | 0.182 | 0.0 | 一括 | × | 887 | 製作破損品 | 0.618 | 0.371 | 0.238 | 0.1 | 一括 | × |
| 866 | 剥片 | 0.507 | 0.168 | 0.273 | 0.0 | 一括 | × | 888 | 剥片 | 0.740 | 0.594 | 0.437 | 0.2 | 一括 | × |
| 867 | 剥片 | 0.762 | 0.479 | 0.116 | 0.0 | 一括 | × | 889 | 剥片 | 1.105 | 0.835 | 0.295 | 0.2 | 一括 | × |
| 868 | 剥片 | 0.637 | 0.596 | 0.126 | 0.1 | 一括 | × | 890 | 剥片 | 0.732 | 0.716 | 0.252 | 0.2 | 一括 | × |
| 869 | 剥片 | 0.539 | 0.480 | 0.215 | 0.1 | 一括 | × | 891 | 剥片 | 0.772 | 0.583 | 0.236 | 0.1 | 一括 | × |
| 870 | 剥片 | 0.724 | 0.491 | 0.221 | 0.1 | 一括 | × | 892 | 剥片 | 0.673 | 0.582 | 0.252 | 0.2 | 一括 | × |
| 871 | 剥片 | 0.658 | 0.409 | 0.183 | 0.1 | 一括 | × | 893 | 剥片 | 0.731 | 0.509 | 0.126 | 0.1 | 一括 | × |
| 872 | 剥片 | 0.849 | 0.418 | 0.217 | 0.1 | 一括 | × | 894 | 剥片 | 0.788 | 0.465 | 0.126 | 0.1 | 一括 | × |
| 873 | 剥片 | 0.570 | 0.524 | 0.160 | 0.1 | 一括 | × | 895 | 剥片 | 0.715 | 0.374 | 0.269 | 0.1 | 一括 | × |
| 874 | 剥片 | 0.866 | 0.416 | 0.134 | 0.0 | 一括 | × | 896 | 剥片 | 0.959 | 0.555 | 0.164 | 0.1 | 一括 | × |
| 875 | 剥片 | 0.565 | 0.419 | 0.275 | 0.0 | 一括 | × | 897 | 剥片 | 0.758 | 0.389 | 0.263 | 0.1 | 一括 | × |
| 876 | 剥片 | 0.647 | 0.459 | 0.099 | 0.0 | 一括 | × | 898 | 剥片 | 0.634 | 0.535 | 0.211 | 0.1 | 一括 | × |
| 877 | 剥片 | 0.599 | 0.360 | 0.307 | 0.1 | 一括 | × | 899 | 剥片 | 0.739 | 0.417 | 0.114 | 0.0 | 一括 | × |
| 878 | 剥片 | 0.599 | 0.518 | 0.143 | 0.0 | 一括 | × | 900 | 白玉未製品 | 0.727 | 0.679 | 0.252 | 0.2 | 一括 | × |
| 879 | 剥片 | 0.620 | 0.330 | 0.218 | 0.0 | 一括 | × | 901 | 製作破損品 | 0.694 | 0.411 | 0.142 | 0.0 | 一括 | × |
| 880 | 剥片 | 0.721 | 0.312 | 0.220 | 0.0 | 一括 | × | 902 | 製作破損品 | 0.788 | 0.510 | 0.183 | 0.1 | 一括 | × |
| 881 | 剥片 | 0.743 | 0.279 | 0.134 | 0.0 | 一括 | × | 903 | 製作破損品 | 0.660 | 0.442 | 0.302 | 0.2 | 一括 | × |
| 882 | 剥片 | 0.749 | 0.257 | 0.130 | 0.0 | 一括 | × | 904 | 製作破損品 | 0.676 | 0.272 | 0.409 | 0.1 | 一括 | × |
| 883 | 剥片 | 0.591 | 0.447 | 0.123 | 0.0 | 一括 | × | 905 | 製作破損品 | 0.598 | 0.385 | 0.134 | 0.0 | 一括 | × |
| 884 | 剥片 | 0.658 | 0.525 | 0.186 | 0.0 | 一括 | × | 906 | 製作破損品 | 0.626 | 0.433 | 0.257 | 0.1 | 一括 | × |

程の棒状石材の形成時に発生した剥片と推測される。いずれにも研磨痕はみられず、特に80・81には剝離痕が顕著に残されている。

80は、長さ2834cm、幅3197cm、厚さ0.635cm、重さ57gである(図版149-2)。81は、長さ1833cm、幅3548cm、厚さ0.664cm、重さ5.0gである(図版149-3)。82は、長さ1292cm、幅0.587cm、厚さ0.207cm、重さ0.2gである。3点とも、北東区から出土している(図版149-4)。

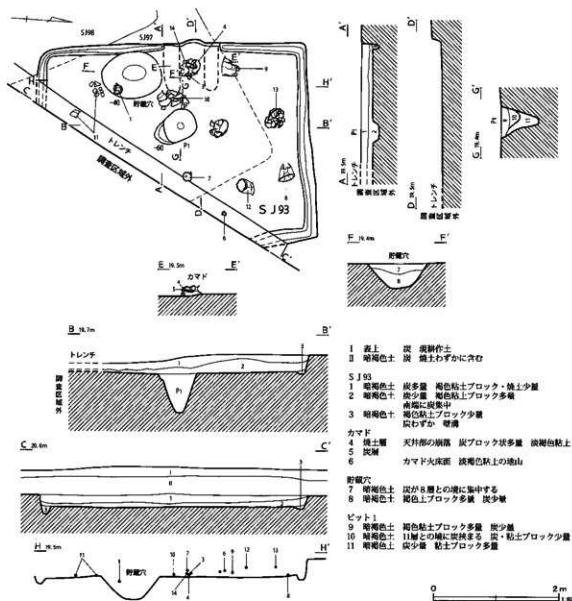
出土した製品・未製品、穿孔後の製作途上の破損片についてはすべてを計測し、計測結果については第78表に示した。図示できなかった製作剥片については、表の計測値のみの報告とする。表中の番号は遺物整理番号であり、第312図の遺物掲載番号とは一致しない。図化・掲載した遺物については、実測欄に掲載番号を示した。また、重量欄の「00」という表記は、重さ0.1g未満のため計測が不能であった。

第93号住居跡(第313図)

ZT・ZU-7グリッドに位置し、南東部1/3ほどが調査区域外にある。重複する第97・98号住居跡よりも新しい。

平面形態は長方形で、カマドを西壁の中央付近に付設する。主軸長3.17m、南北幅4.25mを測り、主軸方位はN-94°-Wを指す。確認面からの深さは、0.18~0.28mほどである。覆土は自然堆積で、北側から南の方向へ埋没していった状況が観察できる。

カマドは、燃焼部に堆積していた焼土・炭化物層が確認されたにすぎない。おそらくこれは、崩落した天井部や火床面の一部と推定される。西壁中央付近の壁溝が途切れている箇所、造り付けられている。西壁がわずかに張り出した部分があるが、ここが燃焼部の奥壁に相当する。ここから、外方に煙道部が延びていたものと推測される。カマドの構築には、淡褐色粘土が用いられている。遺物の出土状況から、2点の土器高坏が支脚に転用され(第314図3・4)、この上に甕(14)が架けられていた状態と看取できる。支脚の前面部



第313図 第93号住居跡

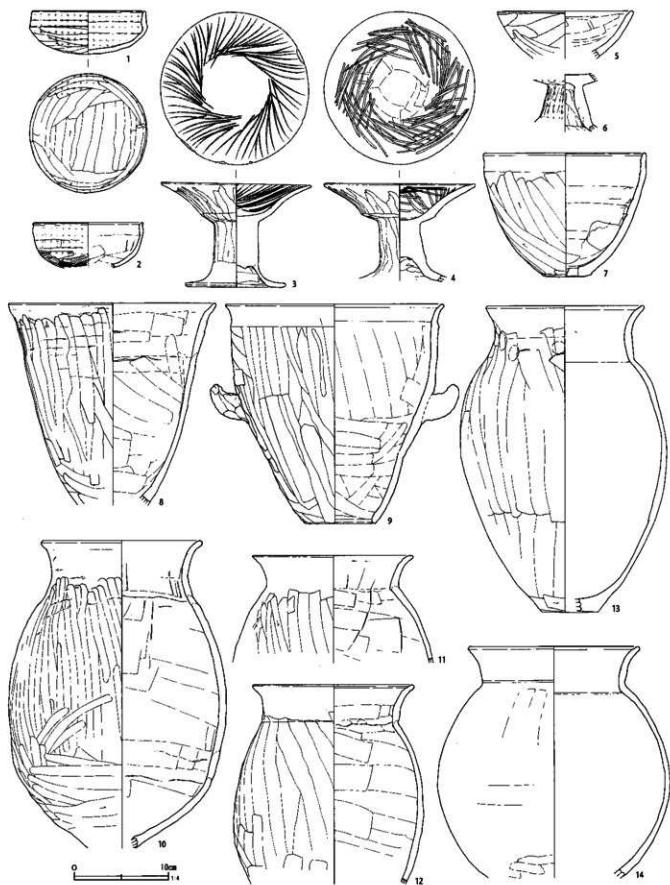
には炭化物の堆積もみられる。カマド北側の甌(9)やカマド東前面の甌(10)は、住居の埋没段階にカマドから流出した煮沸具と推定される。

貯蔵穴は、カマドの左側に付設されている。長軸0.95m×短軸0.75mの楕円形で、床面からの深さは0.40mを測る。底面は平坦であるが狭く、壁の傾斜が著しい。覆土は2層に分割され、層間には炭化物の薄い層が形成されている。これは、貯蔵穴の蓋の可能性がある。遺物は土師器環1点(1)が、上層より出土している。

ピットは、カマド前面の住居中央付近にPit1の1本が位置する。規模は、長軸0.70m×短軸0.47m×床面からの深さ0.60mである。覆土の10層と11層の層間には、薄い炭層が堆積している。Pit1の機能は不明である。

壁溝は、検出された壁に沿って全周する。幅0.14～0.22m、床面からの深さ0.04～0.07mほどである。

遺物は、カマド周辺部のほかに、住居北半部から甌と甌の煮沸具の組み合わせが、複数出土している。



第314图 第93号住居跡出土遺物

第79表 第93号住居跡出土遺物観察表 (第314図)

| 番号 | 類別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 残存 | 焼成 | 色調 | 備考 | 出土位置 | 図版 |
|----|-----|----|-------|-----|-----|-----------|-----|----|-----|------------------------|------|--------|
| 1 | 土師器 | 坏 | 118 | 46 | - | AH I J | 90 | 良好 | 明赤褐 | 坏身模倣 赤彩 No.9 | | 149-8 |
| 2 | 土師器 | 坏 | (116) | 47 | - | AH I J K | 20 | 普通 | 橙 | 比企型? 赤彩 No.8と模倣 | | |
| 3 | 土師器 | 高坏 | 154 | 110 | 106 | C I | 100 | 良好 | 橙 | 支脚転用 坏部内面暗文 No.12 | | 149-10 |
| 4 | 土師器 | 高坏 | 158 | 103 | - | ECH I K | 90 | 不良 | 橙 | 支脚転用 坏部内面暗文 No.14 | | 150-12 |
| 5 | 土師器 | 高坏 | (74) | 49 | - | ACDEH I | 20 | 普通 | 橙 | 外面二次的被熱痕 | | |
| 6 | 土師器 | 高坏 | - | 61 | - | H I J K | 80 | 普通 | 灰褐 | 赤彩 No.3 | | |
| 7 | 土師器 | 瓶 | (168) | 130 | 51 | CEH I K | 60 | 普通 | にぶ青 | 円孔小窓 φ3-5mm 横 No.4 | | 151-1 |
| 8 | 土師器 | 瓶 | 217 | 214 | - | C E I | 90 | 普通 | にぶ青 | No.1 | | 150-3 |
| 9 | 土師器 | 瓶 | 230 | 232 | 76 | CEH I K | 60 | 普通 | にぶ青 | No.7 | | 149-11 |
| 10 | 土師器 | 甕 | (167) | 324 | - | AEH I J K | 90 | 良好 | にぶ青 | 長胴化 二次的被熱 煤付着 No.8 | | 150-4 |
| 11 | 土師器 | 甕 | (168) | 113 | - | CEH K | 30 | 普通 | にぶ青 | 長胴化 外面煤付着 No.10・11 | | |
| 12 | 土師器 | 甕 | 167 | 209 | - | ACEH I J | 85 | 普通 | にぶ青 | 長胴化 No.2 | | 151-2 |
| 13 | 土師器 | 甕 | 164 | 323 | 58 | DEH | 70 | 普通 | 橙 | 長胴化 No.6 | | 150-5 |
| 14 | 土師器 | 甕 | (178) | 244 | - | CEH I K | 40 | 普通 | 明赤褐 | 長胴化 器血風化 調整単位不明瞭 No.13 | | |

第94号住居跡 (第315・316図)

ZS・ZT・7・8グリッドに位置する。第14号掘立柱建物跡と重複するが、新旧関係は不明である。北西部の1/3と南東隅付近が、調査区域外にある。

平面形態は方形で、カマドを南壁の南東コーナーよりに付設する。主軸長7.25m、東西幅7.15mを測り、主軸方位はN-149°-Eを指す。確認面からの深さは、0.29-0.40mほどである。覆土は自然堆積で、壁際から埋没し始めた状況が観察できる。

主柱穴4本の住居と推定される。このうち、Pit1・Pit2・Pit3の3本が検出され、対応する残りの1本は調査区域外にある。主柱穴の規模は、Pit1が長径0.85m×短径0.77m×床面からの深さ0.91m、Pit2が長径0.72m×短径0.67m×床面からの深さ0.99m、Pit3が長径0.65m×短径0.43m×床面からの深さ0.73mである。柱間距離は、東西方向のPit1-Pit2間が3.60m、南北方向のPit2-Pit3間が3.43mを測る。住居廃絶時に柱材が床面付近で折り抜かれてから堆積した7・8層、柱痕(9層)、柱掘り方への充填土(10-11層)が、土層から観察できる。

カマドは粘土によって構築され、燃焼部は住居壁の内側に位置する。天井部(4層)は崩落し、

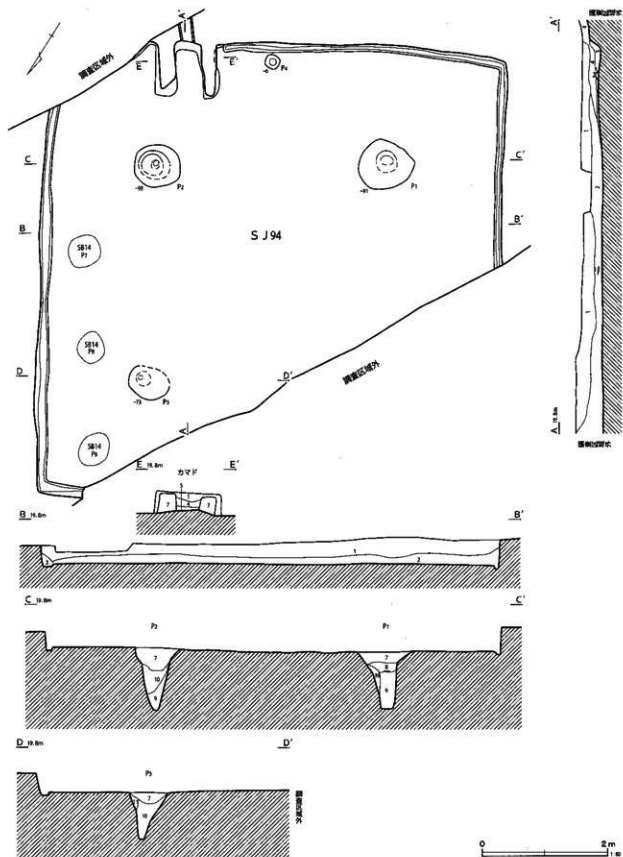
直下には灰層(5層)が形成されている。燃焼部は方形を呈し、被熱による袖部内面・火床面の焼土化が看取できる。長さ1.25m×幅0.40mである。燃焼部の中央よりやや東によった箇所に支脚が設置され、倒立させた土師器高坏(第317図13)が転用されている。奥壁が0.16mほど立ち上がり、ここから、幅0.23mの煙道部が外方へ延びる。先端部は調査区域外にあり、検出長0.33mである。支脚の上方から、土師器甕が出土しているが、同一個体の破片は住居中央付近まで広がっている。

ビットは、カマド右側の南壁際からPit4が検出されている。径0.23m、床面からの深さ0.06mと規模が小さい。カマド対面の北壁付近が調査区域外にあるため断定することは難しいが、出入り口施設の梯子穴と推定される。

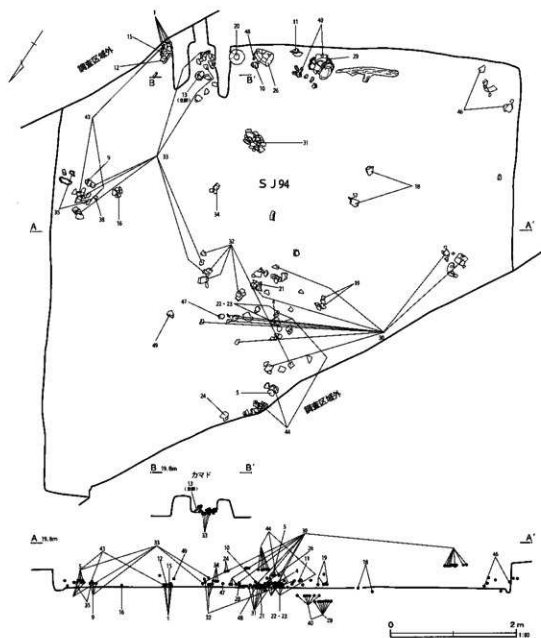
壁溝は、検出された壁に沿って全周する。幅0.12-0.22m、床面からの深さ0.05mほどである。

貯蔵穴は、検出されていない。

遺物は出土量が多く、カマド周辺部、住居中央付近、南西コーナー付近に集中する。一部を除き、床面直上付近から出土している。坏碗類の供膳具に比べ、貯蔵具の壺や煮沸具の甕・瓶の出土量が多い。また、陶邑産の須恵器の蓋か(17)と壺片(27・28)、土製丸玉(第319図48)、砥石(49)も出土している。さらに、南壁に沿って、住居の建



第315图 第94号住居跡



- S J 94
- 1 暗褐色土 炭・粘土少量 2層との境に炭が層く積まる
 - 2 暗褐色土 炭・粘土少量 褐色粘土ブロック多量
 - 3 褐色土 粘土ブロック主体
 - カマド
 - 4 褐色土 天井の崩れ土 焼土・粘土ブロック多量 炭わずか
 - 5 灰層
 - 6 粘土 カマド袖

- ピット1~3
- 7 暗褐色土 炭・褐色土少量
 - 8 暗褐色土 炭多量 褐色土少量
 - 9 柱礎 青灰色土・砂を主体 粘土含む 炭わずか
 - 10 暗褐色土 掘り方の充填 褐色粘土ブロック主体 炭わずか
 - 11 褐色土 掘り方の充填 褐色粘土ブロック主体 10層とほぼ同じ

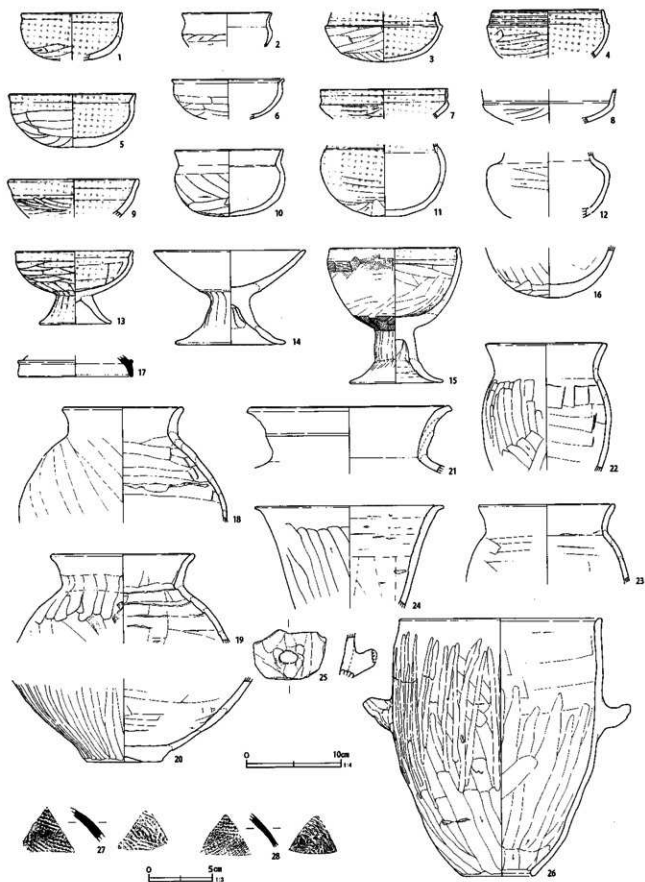
第316図 第94号住居跡遺物出土状況

築部材の一つと思われる炭化材も発見されている。

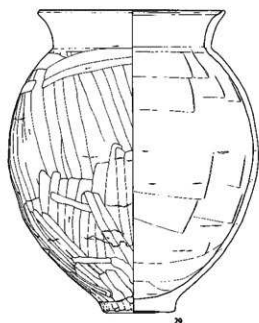
第319図48は土製の丸玉で、球形の中心に円孔が貫通している。表面にはナデ調整が施されている。径270×259cm、高さ248cm、孔径0.3cm、重さ173gである。胎土には石英・雲母・角閃石・砂

粒子が含まれ、色調はにぶい黄橙を呈している。焼成は良好である。カマド右側の甌(26)とともに、床面直上付近から出土している。(図版152-6)

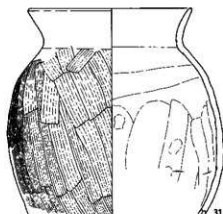
49は砥石である。下半部を欠損する。全面に著しい使用痕が確認され、現状では船首形を呈して



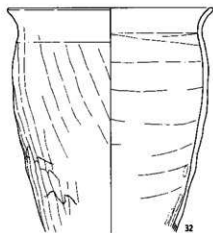
第317图 第94号住居跡出土遺物 (1)



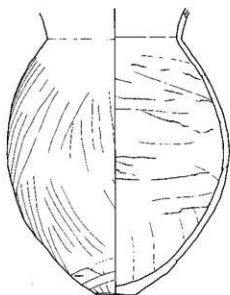
29



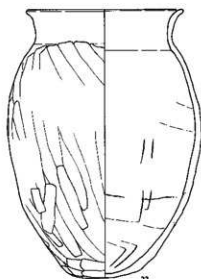
31



32



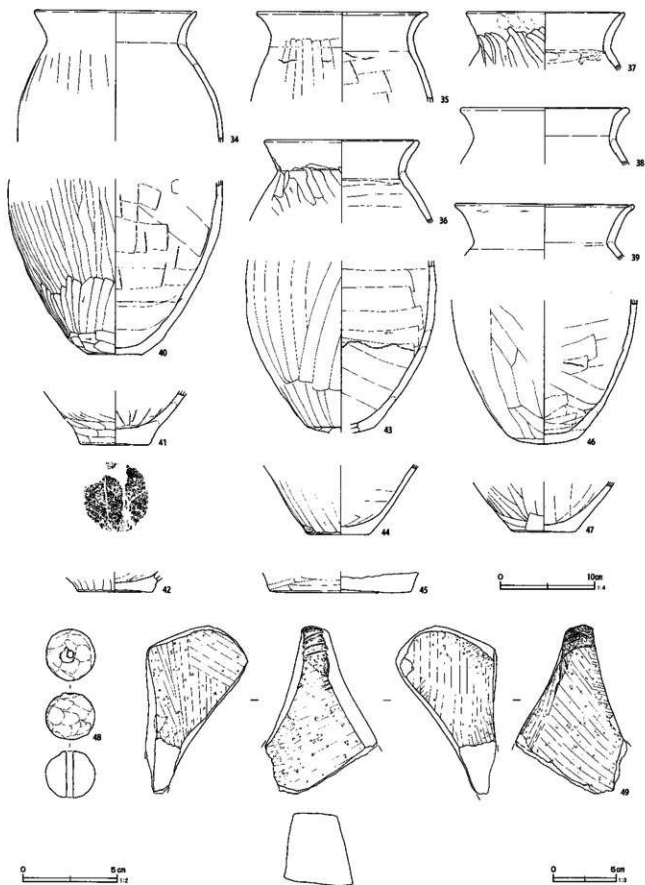
30



33



第318図 第94号住居跡出土遺物(2)



第319图 第94号住居跡出土遺物 (3)

第80表 第94号住居跡出土遺物観察表(第317~319図)

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 残存 | 焼成 | 色調 | 備考 | 出土位置 | 図版 |
|----|-----|----|--------|-----|-------|----------|----|----|-----|---|------|-------|
| 1 | 土師器 | 坏 | 106) | 50 | - | CEGHJK | 60 | 普通 | にひや | 赤彩 φ2~3mm層・石英粒多 No67~70 | | 151-3 |
| 2 | 土師器 | 坏 | (9.5) | 31 | - | CEHI | 15 | 普通 | にひや | 器面風化 赤彩不明瞭 | | |
| 3 | 土師器 | 坏 | (10.8) | 51 | - | EHIK | 30 | 普通 | にひや | 坏身横破 赤彩 | | |
| 4 | 土師器 | 坏 | (11.6) | 50 | - | EHIJK | 30 | 普通 | 赤褐 | 坏身横破 赤彩 No36 | | |
| 5 | 土師器 | 坏 | 133 | 56 | 44 | EH | 80 | 普通 | 橙 | 器面風化顕著 No44 | | 151-4 |
| 6 | 土師器 | 坏 | (11.7) | 44 | - | CEHI | 30 | 普通 | 赤 | 二次的焼熱 赤彩不明瞭 | | 151-5 |
| 7 | 土師器 | 坏 | (13.4) | 32 | - | AELK | 10 | 良好 | にひや | 坏蓋横破 赤彩 カマド | | |
| 8 | 土師器 | 坏 | - | 36 | - | CDHI | 15 | 普通 | 橙 | 坏蓋横破 | | |
| 9 | 土師器 | 坏 | (13.6) | 40 | - | EGHI | 10 | 良好 | 橙 | 器面風化 赤彩不明瞭 No4 | | |
| 10 | 土師器 | 輪 | 11.2 | 70 | - | AHIJK | 95 | 良好 | にひや | No72 | | 151-6 |
| 11 | 土師器 | 輪 | - | 75 | - | ACEHI | 50 | 普通 | 明赤褐 | 外面に二次的焼熱痕 No61 | | |
| 12 | 土師器 | 輪 | - | 71 | - | ACEHI | 50 | 普通 | 赤 | 二次焼熱 No66 | | |
| 13 | 土師器 | 高坏 | (12.3) | 77 | 72 | CEHIK | 95 | 普通 | にひや | 支脚&用 厚脚 外面・坏内面赤彩 脚部最大径7cm カマドNo75 | | 151-7 |
| 14 | 土師器 | 高坏 | 160 | 99 | (110) | EGHI | 40 | 普通 | 橙 | φ5mm層多 器面風化 赤彩・調整不明瞭 | | 152-1 |
| 15 | 土師器 | 高坏 | 135 | 142 | 94 | CEHIJK | 80 | 普通 | にひや | 赤彩 内面に黒色付着物 脚部最大径9cm No65 | | 152-2 |
| 16 | 土師器 | 輪 | - | 52 | 72 | ACDEHI | 85 | 普通 | 橙 | 外面に二次的焼熱痕 φ5~7mm層・赤色粒子 No7 | | |
| 17 | 須恵器 | 蓋小 | - | 22 | (120) | EHI | 10 | 良好 | 灰 | 陶器産 ON231~TK73 | | |
| 18 | 土師器 | 壺 | 125 | 121 | - | ABCDEHIK | 45 | 不良 | 橙 | 二次的焼熱 調整不明瞭 No57・58 | | |
| 19 | 土師器 | 壺 | (150) | 94 | - | ACDEHI | 25 | 良好 | 橙 | No32・33 | | |
| 20 | 土師器 | 壺 | - | 87 | 80 | AELIJK | 90 | 良好 | にひや | φ2~5mm層多 No71 | | |
| 21 | 土師器 | 壺 | (21.0) | 70 | - | ACEIK | 20 | 普通 | にひや | 有棧口縁 内面頸部煤状付着物 No23 | | |
| 22 | 土師器 | 小壺 | (122) | 133 | - | BCEH | 15 | 普通 | にひや | 二次的焼熱による赤色化 No37 | | |
| 23 | 土師器 | 小壺 | (140) | 84 | - | CEIK | 25 | 普通 | にひや | 二次的焼熱による赤色化 No37 | | |
| 24 | 土師器 | 瓶 | (19.4) | 108 | - | CEHIK | 10 | 普通 | 橙 | 外面に二次的焼熱痕 No47 | | |
| 25 | 土師器 | 瓶 | - | 47 | - | AELIK | 5 | 良好 | 灰黄褐 | 把手 | | |
| 26 | 土師器 | 瓶 | 21.2 | 272 | (75) | ACDEHI | 95 | 良好 | にひや | 口縁部内彎 器面粗 No73 | | 152-3 |
| 27 | 須恵器 | 蓋 | - | 34 | - | I | 5 | 良好 | 灰 | 陶器産 TK216 格子タタキ 内面ナゲ消し | | |
| 28 | 須恵器 | 蓋 | - | 26 | - | IK | 5 | 良好 | 灰 | 陶器産 TK216 格子タタキ 内面ナゲ消し | | |
| 29 | 土師器 | 甕 | 195 | 321 | 75 | ACEHIK | 95 | 良好 | 橙 | 底部木炭痕 No77 | | 153-1 |
| 30 | 土師器 | 甕 | - | 302 | 40 | CEIK | 70 | 普通 | 赤褐 | 長馴化 二次的焼熱 調整不明瞭 底部木炭痕 No15・17・18・24・27・42・49・50 | | 153-2 |
| 31 | 土師器 | 甕 | 170 | 220 | - | EHIK | 80 | 普通 | にひや | ハケメ痕 胴部にベンガラ風の赤色顔料付着 No69 | | 152-4 |
| 32 | 土師器 | 甕 | (21.6) | 236 | - | ACDEHI | 25 | 普通 | 橙 | 長馴化 二次的焼熱 φ2~5mm小窪・赤色粒子 No10・13・14・20・40 | | |
| 33 | 土師器 | 甕 | (16.2) | 281 | 73 | CHIK | 70 | 普通 | 橙 | 長馴化 底部木炭痕 カマドNo7・10 No4・5・8・9・11・12 | | 153-3 |
| 34 | 土師器 | 甕 | 170 | 136 | - | AELIK | 60 | 普通 | にひや | 長馴化 二次的焼熱 調整不明瞭 No64 カマド | | 152-5 |
| 35 | 土師器 | 甕 | (18.0) | 94 | - | EHIK | 20 | 普通 | 橙 | 長馴化 外面煤付着 No2・6 | | |
| 36 | 土師器 | 甕 | (16.0) | 87 | - | ACEHIK | 20 | 普通 | にひや | 長馴化 外面二次的焼熱痕 カマド | | |
| 37 | 土師器 | 甕 | (16.5) | 60 | - | ACEHIJK | 40 | 普通 | 灰黄褐 | カマド | | |
| 38 | 土師器 | 甕 | (18.0) | 59 | - | ABCEHIK | 10 | 普通 | 橙 | φ2~2mm層・赤粒多 No6 | | |
| 39 | 土師器 | 甕 | (18.6) | 57 | - | ABCHIK | 40 | 普通 | にひや | 小窪 内外面に二次的焼熱による煤付着 | | |
| 40 | 土師器 | 甕 | - | 184 | (58) | ABCEHIK | 40 | 普通 | にひや | 長馴化 φ5mm層多 No76・77 カマド | | |
| 41 | 土師器 | 甕 | - | 67 | 73 | ACHIK | 65 | 普通 | にひや | 長馴化 内外面二次的焼熱痕 底部木炭痕 | | |
| 42 | 土師器 | 甕 | - | 21 | 80 | CEHIK | 80 | 普通 | にひや | | | |
| 43 | 土師器 | 甕 | - | 180 | (72) | EHIK | 40 | 普通 | 明赤褐 | 長馴化 外面二次的焼熱痕 内面付着物 No5・6・70 カマド | | |
| 44 | 土師器 | 甕 | - | 73 | 66 | ACDEHIK | 60 | 普通 | にひや | 長馴化 二次的焼熱痕 No37・44・45 | | |
| 45 | 土師器 | 甕 | - | 22 | (150) | CEHIK | 60 | 普通 | 褐灰 | 内面にワラ状の炭化痕 | | |
| 46 | 土師器 | 甕 | - | 150 | (6.8) | CEHI | 10 | 普通 | 橙 | 長馴化 外面煤付着 No53・56 | | |
| 47 | 土師器 | 甕 | - | 52 | (70) | ACDEHI | 20 | 普通 | 黒 | 長馴化 赤色粒子・白色粒子多 No16 | | |

いる。上端面にタキヤ痕と、刃を垂直に当たった研ぎ傷が残されている。現存長1320cm、幅880cm、厚さ800cm、重さ4152g、石材は安山岩である。住居北半部の遺物集中区の東端から出土している。(図版152-7)

第95号住居跡 (第320図)

ZY・ZZ-14グリッドに位置し、西側1/3ほどが調査区域外にある。第81号住居跡・第13号溝跡と重複し、覆土の堆積状況からみた新旧関係は、第81号住居跡よりも先行する。

平面形態は方形で、北東壁は確認されていない。長軸長391mを測り、短軸長約37mと推定される。長軸方位はN-45°-Wを指す。確認面からの深さは0.31mほどである。覆土は自然堆積で、壁際

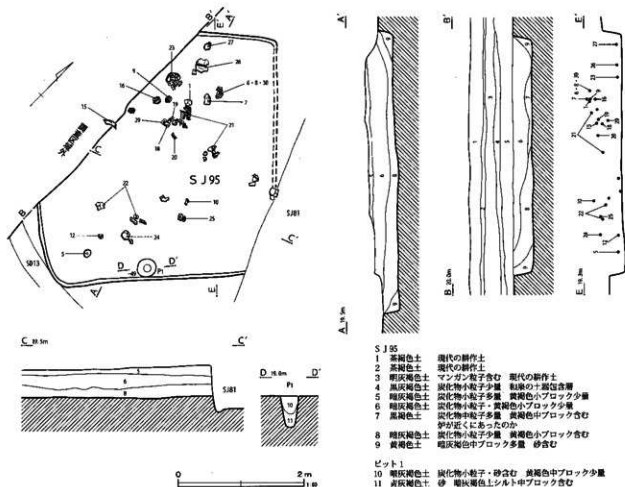
から堆積が始まり、中央部が最後に埋没するレンズ状の堆積状況が観察できる。

カマドや炉、支柱穴・貯蔵穴・壁溝は確認されていない。

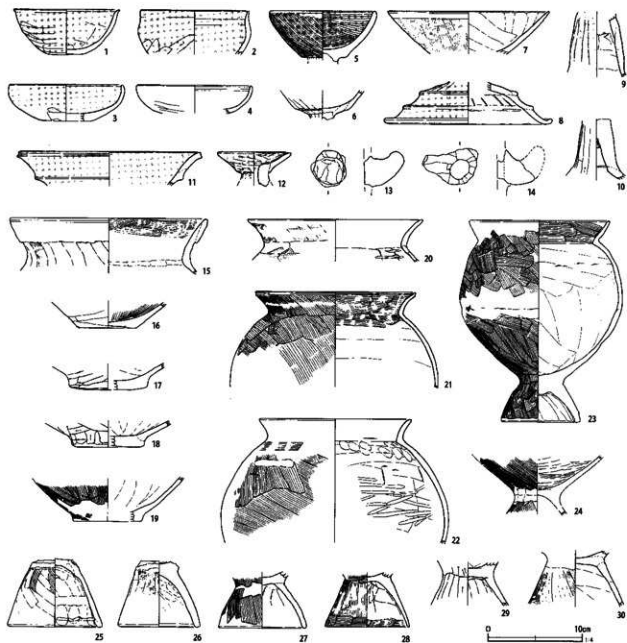
ビットは、南東壁中央付近の壁際からPit1が検出されている。径0.29m、床面からの深さ0.49mほどの規模で、出入り口部の梯子穴の機能が想定される。

遺物は古墳時代前期の土師器が主体で、遺物の時期から厨房施設は炉であったと推定される。

床面直上から出土した一群と、床面からやや浮いた状態で出土した一群に二分される。床面直上から出土した遺物の器種構成は、高坏(第321図5)・器台(12)・台付甕(23・26・27)である。床面からやや浮いた状態で出土した土器の器種



第320図 第95号住居跡



第321図 第95号住居跡出土遺物

構成は、碗（1）・高坏（7・8・9・10）・壺（15・
16・18・19）・甕（20・21・22）・台付甕（24）

25・29・30）である。基本的な器種構成や遺物年代には、差異がない。

第81表 第95号住居跡出土遺物観察表(第321図)

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 残存 | 焼成 | 色調 | 備考 | 出土位置 | 図版 |
|----|-----|-----|--------|-----|------|-------------|----|----|-------|-------------------------------|----------|-------|
| 1 | 土師器 | 甗 | (11.3) | 47 | 40 | A E I J K | 40 | 普通 | にぶ黄褐色 | 平底 赤彩 No.3 | | |
| 2 | 土師器 | 甗 | (11.4) | 47 | - | C E H J | 30 | 良好 | 浅黄褐色 | 赤彩 外面黒付着 | SJ81と整合 | |
| 3 | 土師器 | 坏 | (120) | 38 | - | C I J K | 25 | 普通 | にぶ黄褐色 | 平底 丸底 赤彩 | | |
| 4 | 土師器 | 坏 | (118) | 29 | - | C E I K | 5 | 普通 | 赤褐色 | 丸底 | | |
| 5 | 土師器 | 高坏 | 110 | 52 | - | C E H I J K | 96 | 普通 | 橙 | 赤彩 No.6 | | |
| 6 | 土師器 | 高坏 | - | 31 | - | E H I K | 40 | 普通 | にぶ黄褐色 | No.1 | | |
| 7 | 土師器 | 高坏 | (172) | 45 | - | ACDEH I J | 25 | 普通 | にぶ黄褐色 | 砂粒多 No.2 | | |
| 8 | 土師器 | 高坏 | (162) | 45 | 162 | ACEH I J K | 30 | 普通 | にぶ黄褐色 | 有段縁 外面赤彩 二次的焼成 煤付着 脚部最大径173mm | No.1 | |
| 9 | 土師器 | 高坏 | - | 69 | - | A H I J K | 90 | 良好 | にぶ黄褐色 | 外面赤彩 | No.4 | |
| 10 | 土師器 | 高坏 | - | 64 | - | ABCEH I K L | 70 | 普通 | 橙 | No.5 | | |
| 11 | 土師器 | 壺 | (190) | 35 | - | A E H I K | 10 | 良好 | にぶ黄褐色 | 有段口縁 赤彩 内面被熱 | | |
| 12 | 土師器 | 钵台 | 7.6 | 3.6 | - | C E H I K | 80 | 普通 | にぶ黄褐色 | 赤彩 φ5mm | No.12 | |
| 13 | 土師器 | 瓶 | - | 37 | - | E H I K | 5 | 普通 | にぶ黄褐色 | 把手 二次的焼成痕 | | |
| 14 | 土師器 | 瓶 | - | 34 | - | E H I K | 5 | 普通 | にぶ黄褐色 | 把手 φ2-3mm石英粒 内面黒色 | | |
| 15 | 土師器 | 壺 | (260) | 58 | - | A E H I K | 45 | 良好 | にぶ黄褐色 | 折り返し口縁 小礫多 二次的焼成 | No.24 | |
| 16 | 土師器 | 壺 | - | 29 | 61 | BCEH J | 60 | 普通 | にぶ黄褐色 | φ1-2mm片岩粒 | No.22 | |
| 17 | 土師器 | 壺 | - | 27 | (83) | A E H I J K | 25 | 良好 | にぶ黄褐色 | φ2-3mm石英粒・礫多 | | |
| 18 | 土師器 | 壺 | - | 29 | (76) | ACEH I J K | 25 | 普通 | にぶ黄褐色 | No.15 | | |
| 19 | 土師器 | 壺 | - | 47 | (72) | ACE J K | 20 | 普通 | にぶ黄褐色 | 外面黒付着 | No.14 | |
| 20 | 土師器 | 甗 | (186) | 44 | - | A C H I J | 25 | 普通 | にぶ黄褐色 | 厚口縁 | No.17 | |
| 21 | 土師器 | 甗 | 170 | 100 | - | A C D H I K | 40 | 普通 | にぶ黄褐色 | 厚口縁 | No.13・18 | |
| 22 | 土師器 | 甗 | (160) | 130 | - | A C E H J | 20 | 普通 | にぶ黄褐色 | 厚口縁 | No.7・9 | |
| 23 | 土師器 | 台付甗 | 150 | 210 | 84 | A E H I K | 80 | 普通 | 灰褐色 | 厚口縁 外面二次被熱 | No.21 | 153-4 |
| 24 | 土師器 | 台付甗 | - | 63 | - | C E I K | 70 | 普通 | にぶ黄褐色 | 外面黒付着 | No.8 | |
| 25 | 土師器 | 台付甗 | - | 62 | 99 | ABCEDEH I K | 90 | 普通 | にぶ黄褐色 | 支脚取用?二次的焼成 | No.11 | |
| 26 | 土師器 | 台付甗 | - | 68 | (82) | C E I H K | 90 | 普通 | にぶ黄褐色 | φ3-7mm礫・赤色粒子多 外面二次的焼成 | No.20 | |
| 27 | 土師器 | 台付甗 | - | 59 | 93 | ACEH I K | 95 | 普通 | にぶ黄褐色 | φ2-7mm石英粒多 外面黒付着 | No.19 | |
| 28 | 土師器 | 台付甗 | - | 57 | 89 | A C E H I | 60 | 普通 | にぶ黄褐色 | 二次的焼成 φ2mm礫多 | | |
| 29 | 土師器 | 台付甗 | - | 45 | - | A E H I J K | 80 | 普通 | にぶ黄褐色 | 煤付着 | No.16 | |
| 30 | 土師器 | 台付甗 | - | 59 | - | C E H I K | 70 | 普通 | 灰褐色 | 一部黒付着 | No.1 | |

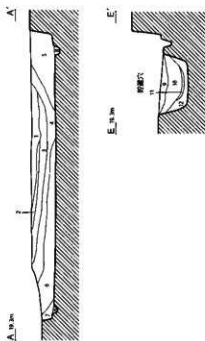
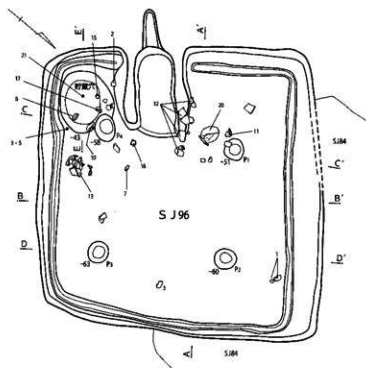
第96号住居跡(第322・323図)

ZW・ZX-14グリッドに位置し、重複する第84号住居跡よりも新しい。また、東に位置する第83号住居跡、南東に位置する第85・86号住居跡とは、ほぼ一致する方向に配置されている。

平面形態は方形で、カマドが南西壁の中央から南側によった位置に付設される。壁溝が、壁下辺からある程度の間隔をもった内側を回る。北東壁・南東壁では狭いものの、カマド右側の南西壁では0.20m、北西壁では0.43mもの間隔が開く。また、カマドの位置が南西壁中央から南によって位置していることから、カマドの位置を変更せずに拡張が行われたことが推定される。そのため、カマドを挟んだ左右では、壁の位置が段違いとなっている。

拡張後の住居跡の規模は、主軸長4.65m、東西幅4.52mを測り、主軸方位はN-131°-Wを指す。確認面からの深さは0.37mほどである。覆土は自然堆積で、北側から南側へ堆積していった状況が看取できる。拡張前の規模は、主軸長4.25m、東西幅3.81mである。

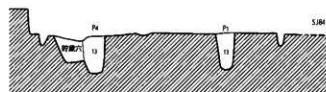
支柱穴4本の住居で、Pit1・Pit2・Pit3・Pit4の4本である。配置は平行四辺形となる。支柱穴の規模は、Pit1が長径0.35m×短径0.32m×床面からの深さ0.51m、Pit2が長径0.35m×短径0.32m×床面からの深さ0.60m、Pit3が長径0.35m×短径0.32m×床面からの深さ0.63m、Pit4が長径0.42m×短径0.32m×床面からの深さ0.58mで、均一的である。柱間距離は、主軸方向のPit1-Pit2間が1.75m、Pit3-Pit4間が2.05m、南北方向のPit1-Pit4間が



B 10.3m B'



C 10.3m C'



D 10.3m D'



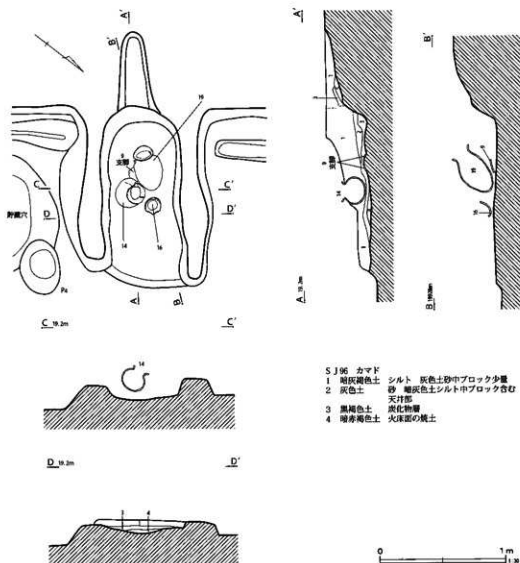
B 10.3m B'



- S J 96
- 1 暗灰褐色土 炭化物含む
 - 2 黒灰褐色土 炭化物多量
 - 3 暗灰褐色土 炭化物少量 黄褐色小ブロック・砂含む
 - 4 暗灰褐色土 3層より暗い
 - 5 暗灰褐色土 3～4層より明るい 黄褐色中ブロック含む
 - 6 暗灰褐色土 4層より暗い 黄褐色小ブロック少量 砂多量
 - 7 黄褐色土 暗灰褐色小ブロック少量
 - 8 黄褐色土 壁溝 暗灰褐色中ブロック・炭化物少量
- 貯蔵穴
- 9 暗灰褐色土 炭化物小粒少量 黄褐色中ブロック・砂含む
 - 10 暗褐色土 炭層
 - 11 暗褐色土 炭層
 - 12 褐色砂層 褐色砂主体 褐色粘土粒わずかに含む
- ピット
- 13 褐色土 砂を主体とする埋戻し層 砂多量 炭わずかに含む



第322図 第96号住居跡



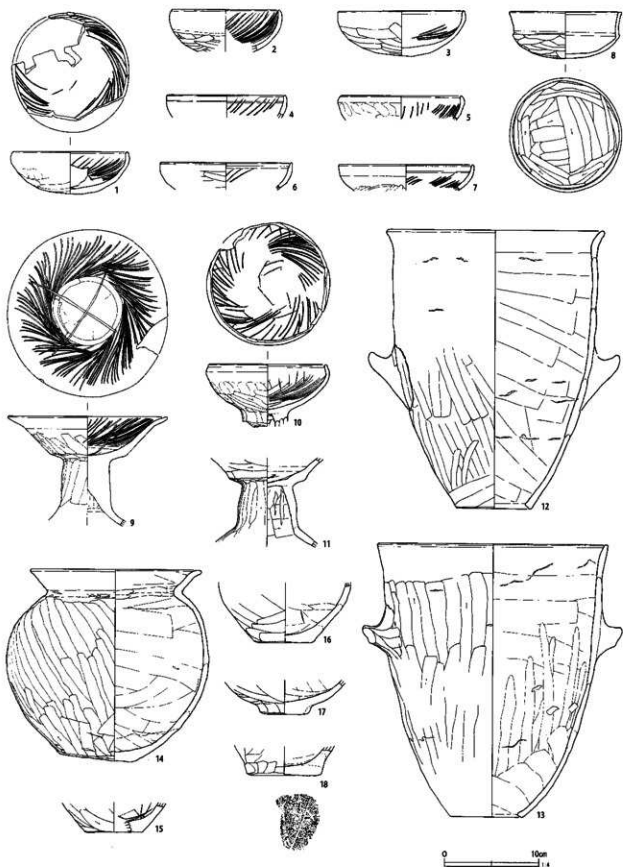
第323図 第96号住居跡カマド

210m、Pit2-Pit3間が2.03mを測る。

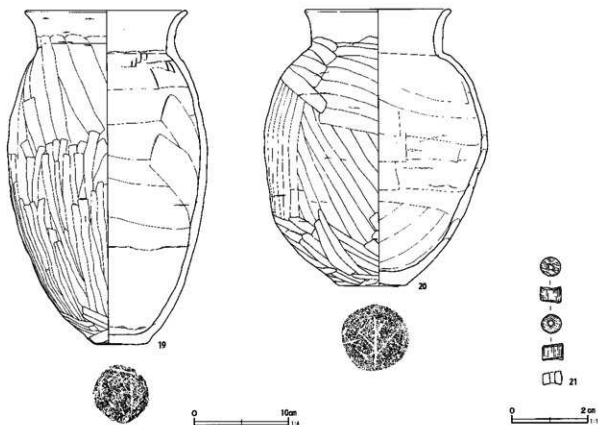
カマドは、燃烧部が住居壁よりも内側に位置し、幅の狭い煙道が外方に延びる。袖部の基礎は地山が掘り残され、灰色土（カマド2層）によって天井部が構築されている。燃烧部は隅丸長方形を呈し、壁面の焼土化がみられる。天井部は既に崩落し、直下には炭化物層（カマド3層）が形成されている。火床面には若干の凹凸がみられ、中央付近に土師器高坏（第324図9）を倒立させた状態で転用した支脚が設置されている。支脚の前側では火床面の焼土化が顕著で（カマド4層）、焚口位置が明瞭に把握できる。燃烧部の奥壁は約02

m立ち上がり、煙道部へと繋がる。煙道部は緩やかな傾斜をもちながら先端部に向かって上がっていく。カマドの規模は、主軸長2.03m、燃烧部長1.44m×幅0.61m、煙道部長0.59m×幅0.20~0.28mである。遺物は支脚の直上から土師器甕（第325図19）、支脚前方から土師器甕（14）・小型壺（16）が出土している。これらの煮沸具は、カマドに架けられた状態で放棄されたものである。

貯蔵穴は、カマド左側の南コーナー部に付設されている。長軸0.98m×短軸0.85mの楕円形で、床面からの深さは0.43mを測る。底面は平坦で、広い。覆土は自然堆積で、中間の炭層（11層）は



第324図 第96号住居跡出土遺物 (1)



第325図 第96号住居跡出土遺物 (2)

第82表 第96号住居跡出土遺物観察表 (第324・325図)

| 番号 | 種別 | 器壁 | 口径 | 器高 | 底径 | 粘土 | 残存 | 焼成 | 色調 | 備考 | 出土位置 | 図版 |
|----|-----|-----|-------|-----|------|-------------|-----|----|------|----------------------------|---------------|--------|
| 1 | 土師器 | 坏 | 122 | 44 | - | CHIK | 70 | 普通 | 橙 | 内面暗文 白色粒子多 No 4 SJ84と符合 | 外面風化調整不明瞭 | 154-12 |
| 2 | 土師器 | 坏 | (113) | 44 | - | A E H I | 40 | 普通 | 橙 | 内面暗文 白色粒子多 | No24 | |
| 3 | 土師器 | 坏 | 132 | 47 | - | A H I K | 95 | 良好 | 橙 | 白色粒子・赤色粒子多 | 調整不明瞭 No25 | 154-3 |
| 4 | 土師器 | 坏 | (124) | 23 | - | D H I | 25 | 普通 | 橙 | 内面暗文 白色粒子多 | | |
| 5 | 土師器 | 坏 | (128) | 25 | - | A I K | 25 | 良好 | 橙 | 内面暗文 | No25 | |
| 6 | 土師器 | 坏 | (139) | 28 | - | A E H I | 10 | 普通 | 明赤褐 | 内面暗文 白色粒子多 | | |
| 7 | 土師器 | 坏 | (142) | 27 | - | A C H I | 25 | 普通 | 明赤褐 | 内面暗文 白色粒子多 | No14 | |
| 8 | 土師器 | 坏 | 118 | 49 | - | C E H I K | 100 | 普通 | 赤 | 坏巻痕跡 φ1~2mm 赤色粒子多 | No18 | 154-4 |
| 9 | 土師器 | 高坏 | 168 | 114 | - | A H I | 70 | 良好 | 橙 | 支脚転用 坏内面暗文+「X」印 | カマFNo.4 | 154-56 |
| 10 | 土師器 | 高坏 | 123 | 65 | - | A C H I K | 90 | 普通 | 明赤褐 | 二次的焼成 坏内面暗文 | No17 | 155-12 |
| 11 | 土師器 | 高坏 | - | 94 | - | C D E H I | 60 | 良好 | 橙 | No7 | | |
| 12 | 土師器 | 瓶 | (228) | 293 | 40 | B E H I K | 40 | 普通 | にんじろ | 調整不明瞭 | No10~13 | |
| 13 | 土師器 | 瓶 | 242 | 288 | (76) | D E H | 80 | 良好 | にんじろ | No1 | | 154-7 |
| 14 | 土師器 | 甕 | 178 | 201 | 76 | A C E I K | 95 | 普通 | にんじろ | 埋没中の圧力による歪み | 外面煤付着 カマFNo.2 | 155-3 |
| 15 | 土師器 | 甕 | - | 31 | (60) | D E H | 30 | 普通 | 橙 | 外面に二次的焼成痕 | No21 | |
| 16 | 土師器 | 小型壺 | - | 63 | 60 | A C D H I | 90 | 普通 | 灰褐 | 外面に二次的焼成痕 | カマFNo.3 | |
| 17 | 土師器 | 壺 | - | 36 | 40 | C E H I | 30 | 普通 | 淡赤橙 | 小礫多 外面二次焼成による煤付着 | No20 | |
| 18 | 土師器 | 壺 | - | 31 | (76) | C E I K | 25 | 普通 | にんじろ | 底部木炭痕 | No15 | |
| 19 | 土師器 | 甕 | 166 | 353 | 57 | A C E H I K | 100 | 良好 | にんじろ | 長期化 底部木炭痕 胴部煤付着 | カマFNo.1 | 155-4 |
| 20 | 土師器 | 甕 | 150 | 291 | 70 | A E H I K | 95 | 良好 | にんじろ | φ2~8mm 底部木炭痕 外面煤付着 | No9 | 155-5 |

貯蔵穴の蓋が埋没したものと推測される。貯蔵穴の上層から高坏(10)・壺底部(17)が、また上方の住居覆土中から模倣坏(8)・甕(15)・白玉(21)が出土している。

壁溝は、幅0.10～0.17m、床面からの深さ0.06～0.10mほどである。

遺物は、カマド・貯蔵穴の周辺に集中し、多くは床面よりも浮いた状態で出土している。

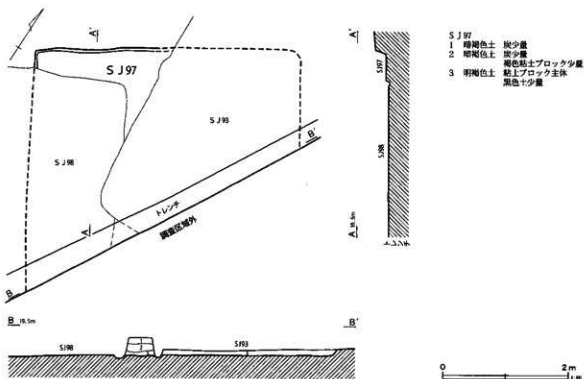
第325図21は滑石製の白玉である。直線的な円柱形で、円孔が貫通する。側面・下面には研磨が施されているが、上面は裁断された状態のままである。長径0.51cm、短径0.50cm、厚さ0.36cm、孔径0.18×0.15cm、重さ0.2gである。(図版155-6)

第97号住居跡(第326図)

ZT-7グリッドに位置する。重複する第93・98号住居跡よりも古く、北辺の西半部付近が検出されているにすぎない。

平面形態は方形と推測され、南半部が調査区域外にある。調査区域壁面での土層観察から、住居の平面規模は南北長39m以上、東西長約4.2mと推定できる。南北軸方位はN-33°-Wを指す。

カマドや炉、主柱穴・貯蔵穴・壁溝は、確認されていない。また、明確に帰属する遺物も出土していない。



第326図 第97号住居跡

第98号住居跡 (第327図)

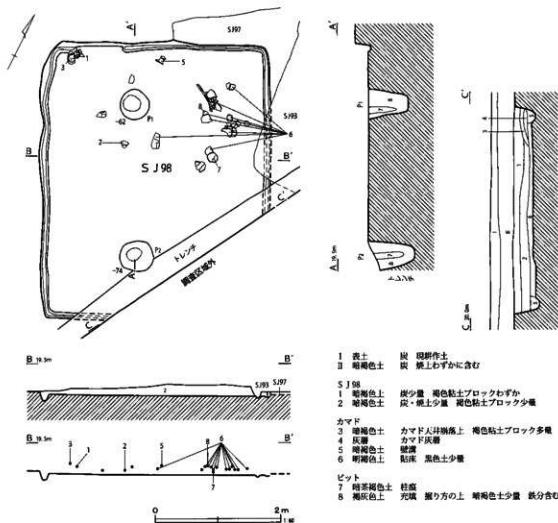
ZU-7グリッドに位置し、南東隅付近1/4ほどが調査区域外にある。第93・97号住居跡と重複する。新旧関係は、第93号住居跡が最も新しく、第98号住居跡、第97号住居跡の順に古くなる。また、南西に隣接する第92号住居跡とは、ほぼ一致する方向に配置されている。

平面形態は長方形である。平面的には検出できなかったが、調査区域壁面部の断面観察から、カマドが東壁の中央から南側に偏って付設されていたことが判明している。主軸長3.63m、南北幅4.42mを測り、主軸方位はN-63°-Eを指す。確認面からの深さは0.25mほどで、覆土は自然堆積である。床面には厚さ0.05mほどの貼床が施さ

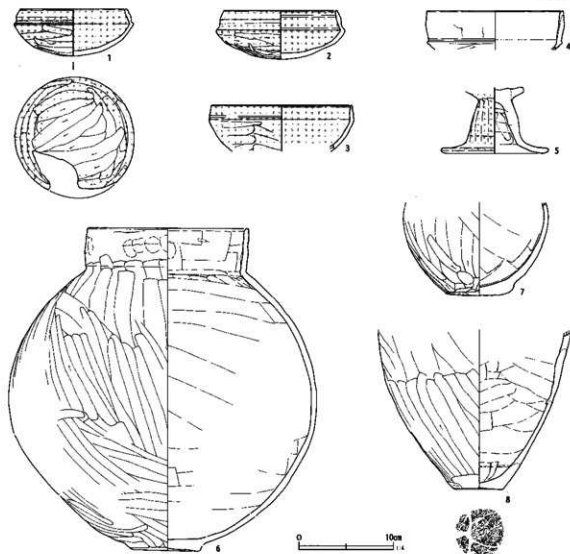
れている(6層)。

主柱穴は、Pit1・Pit2の2本である。長軸方向に並び、中心線から西側よった位置に配置されている。住居東半部には、対応する柱穴が存在しない。また、住居の平面規模も勘案すると、2本柱穴の住居と推定される。主柱穴の規模は、Pit1が長径0.48m×短径0.46m×床面からの深さ0.62m、Pit2が長径0.52m×短径0.47m×床面からの深さ0.74mで、しっかりとした掘り方をもつ。柱間距離は、2.42mを測る。土層の断面観察では、柱痕(7層)と掘り方への充填状況(8層)が観察できる。

カマドは断面のみの確認で、形状や規模は明確ではない。褐色粘土によって構築され、崩落した天井部(3層)と直下に堆積していた灰層(4層)



第327図 第98号住居跡



第328図 第98号住居跡出土遺物

第83表 第98号住居跡出土遺物観察表 (第328図)

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 残存 | 焼成 | 色調 | 備考 | 出土位置 | 図版 |
|----|-----|-----|-------|-----|-------|---------|----|----|-----|---------------------|------|-------|
| 1 | 土師器 | 坏 | 110 | 49 | - | CDEH | 80 | 良好 | 橙 | 坏身模倣 赤彩 φ2~5cm際 | No11 | 156-1 |
| 2 | 土師器 | 坏 | (120) | 51 | - | CEH | 30 | 良好 | 明赤褐 | 坏身模倣 赤彩 φ2~5cm際 | No14 | |
| 3 | 土師器 | 坏 | (158) | 48 | - | EHIKL | 10 | 普通 | にい青 | 坏身模倣 赤彩 | No12 | |
| 4 | 土師器 | 坏 | (146) | 40 | - | ADEHIK | 10 | 良好 | にい青 | 坏身模倣 | | |
| 5 | 土師器 | 高坏 | - | 70 | (102) | BEHIK | 60 | 普通 | にい青 | 外周赤彩 胴部径大径 (114) cm | No10 | |
| 6 | 土師器 | 壺 | 169 | 341 | 75 | CEGHIK | 50 | 普通 | 橙 | 直口径 No1~6・9・15 | | 156-2 |
| 7 | 土師器 | 小型壺 | - | 97 | 70 | ACDHI | 75 | 普通 | にい青 | No8 | | |
| 8 | 土師器 | 甕 | - | 167 | 52 | ACDEHIK | 80 | 普通 | にい青 | 長期化 二次的焼熱 風化顯著 煤付著 | No5 | 156-3 |

が観察される。これら二層は壁溝・貼床層の上部に堆積していることから、住居建築時の最終段階に造り付けられたことがわかる。

壁溝は、北壁の北西コーナー付近で途切れるほかは、全周する。幅0.08~0.20m、床面からの深さ0.03~0.05mほどである。

遺物は、住居北半部に集中する。比企型の坏(第328図1~3)・模倣坏(4)とともに、直立した口縁部をもつ壺(6)も出土している。また、炭化材も検出され、住居埋没時に建築部材の一部が混入したものと予想される。

第99号住居跡 (第329図)

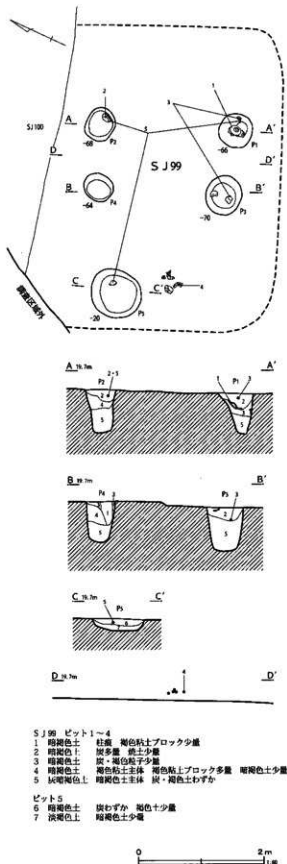
ZS-8グリッドに位置する。貼床状の硬化面と、規則的に並んだ4本のピット、浅い1本のピットからなる遺構である。硬化面を住居跡の床面、規則的に並んだ4本のピットが支柱穴、浅いピットは住居に付属する施設と推測されることから、堅穴住居の残痕と判断した。

主柱穴としたPit1・Pit2・Pit3・Pit4の規模は、Pit1が長径0.53m×短径0.53m×確認面からの深さ0.66m、Pit2が長径0.54m×短径0.48m×確認面からの深さ0.68m、Pit3が長径0.62m×短径0.56m×確認面からの深さ0.70m、Pit4が長径0.45m×短径0.45m×確認面からの深さ0.64mで、概ね均一的な規模をもつ。土層断面では、柱掘り方への充填状況が観察でき(2～4層)、Pit4では柱痕(1層)も看取される。柱間距離は、南北方向のPit1-Pit2間が2.20m、Pit3-Pit4間が2.00mを測り、周辺に位置する住居とは違和感がない。しかし、東西方向の柱間距離は、Pit1-Pit3間が1.05m、Pit2-Pit4間が1.05mと短い。そのため、4本柱穴の住居と断定することに疑問も残る。

浅い掘り方のPit5は、主柱穴としたPit1～4と比べると、平面規模はやや大きい、深さは1/3ほどである。規模や位置関係から、貯蔵穴・カマド・燃焼部の掘り方・出入口施設に関連するピットなどの機能が想定される。

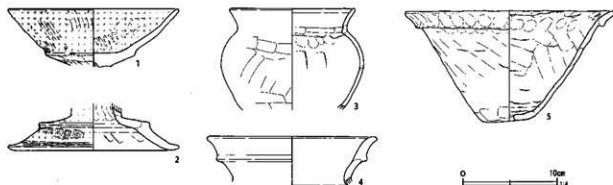
主柱穴とPit5の配置や貼床状の硬化面の範囲から、一辺4.85m前後の方形と推定される。本来ならば、第100号住居跡と重複し、北西部の一部が調査区域外にある。

遺物は、Pit1～Pit3・Pit5と、Pit5南側から出土している。第330図3の土師器小型甕はPit1とPit3からの出土遺物が接合し、5の甕はPit1とPit5間での接合関係が認められる。この接合関係からも、貼床状の硬化面と5本のピットが一連の遺構であることを裏付けている。



- S J 99 ピット1～4
 1 暗褐色土 紅褐色土ブロック少量
 2 暗褐色土 灰多量 焼土少量
 3 暗褐色土 灰・褐色粘土少量
 4 暗褐色土 褐色粘土主体 褐色粘土ブロック多量 暗褐色土少量
 5 灰褐色土 暗褐色土主体 灰・褐色土わずか
- ピット5
 6 暗褐色土 灰わずか 褐色土少量
 7 淡褐色土 暗褐色土少量

第329図 第99号住居跡



第330図 第99号住居跡出土遺物

第84表 第99号住居跡出土遺物観察表 (第330図)

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 残存 | 焼成 | 色調 | 備考 出土位置 | 図版 |
|----|-----|-----------|-----|-----|-----|-------------|-----|----|----|--|-------|
| 1 | 土師器 | 高坏 | 179 | 61 | - | E I J K | 100 | 普通 | 赤彩 | 二次的焼熱 風化顯著 No.1 | 156-4 |
| 2 | 土師器 | 高坏 | - | 49 | 182 | A C H I J K | 96 | 普通 | 赤彩 | 有段脚 赤彩 Pit2No1 | 156-5 |
| 3 | 土師器 | 小型甕 (130) | 106 | - | - | C H I J K | 40 | 普通 | 赤彩 | 外面に二次的焼熱による保存者 Pit1No3 Pit3No1 | |
| 4 | 土師器 | 甕 (174) | 52 | - | - | H I J K | 30 | 普通 | 赤彩 | 有段口縁 内外面に煤状付着 No.4 | |
| 5 | 土師器 | 甕 | 222 | 116 | 48 | A E H I J K | 80 | 普通 | 赤彩 | 折返口縁 φ5~10mm程多 Pit1No4 Pit2No1・2 Pit5No1 | 156-6 |

第100号住居跡 (第331図)

ZR-8グリッドに位置し、東側の1/2以上が調査区域外にある。本来ならば、第99号住居跡と重複する。

平面形態は方形で、カマドを東壁の中央から南寄りに付設する。主軸検出長5.05m、南北検出幅4.67m、主軸方位はN-79°-Eを指す。確認面からの深さは0.21mほどである。覆土は自然堆積を示している。

主柱穴4本の住居と推定される。このうちPit1・Pit2の2本が検出され、対応する残り2本の主柱穴は調査区域外にある。主柱穴の規模は、Pit1が長径0.40m×短径0.25m以上×床面からの深さ0.92m、Pit2が長径0.50m×短径0.43m×床面からの深さ0.90mで、平面規模に対して深い掘り方をもつ。土層断面から、柱痕(8層)と柱掘り方の充填状況(9層)が観察できる。

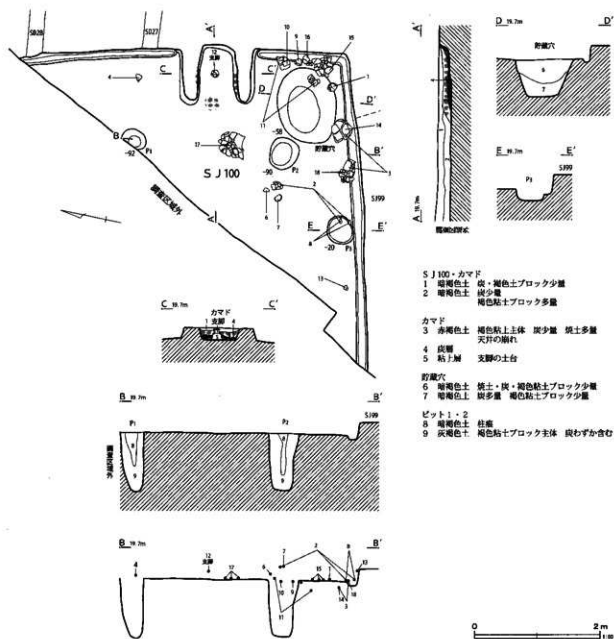
カマドは、焼成部が住居壁の内側に位置し、煙道部は検出されていない。地山が掘り残された袖部を基礎に、褐色粘土によって構築されている。天井部は崩落し、直下には炭層が形成されている。

天井部や袖部の内面の焼土化が顕著である。焼成部の掘り込みはみられず、住居床面から火床面へは平滑に繋がる。支脚には口縁部を欠損した高坏(第332図12)が正位の状態にて転用され、高さ調節のための土台として、粘土が盛り上げられている。焼成部先端付近の火床面の焼土化が著しく、焚口位置が推定できる。焼成部長0.95m×幅0.62mの規模をもつ。

貯蔵穴は、カマド右側の南東コーナー部に付設されている。長軸1.18m×短軸0.92mの楕円形で、床面からの深さは0.58mを測る。底面は平坦である。覆土の下層(7層)には多量の炭が含まれている。遺物はカマド右脇から混入した高坏(11)が上層から出土している。

南壁中央付近の壁際には、Pit3がある。径0.45m、床面からの深さ0.20mの規模である。設置された位置から、出入り口施設の梯子穴の機能が想定される。

壁溝は、検出された壁に沿って全周する。幅0.12~0.20m、床面からの深さ0.05~0.10mほどである。遺物は、カマド前面部から貯蔵穴にかかる南東

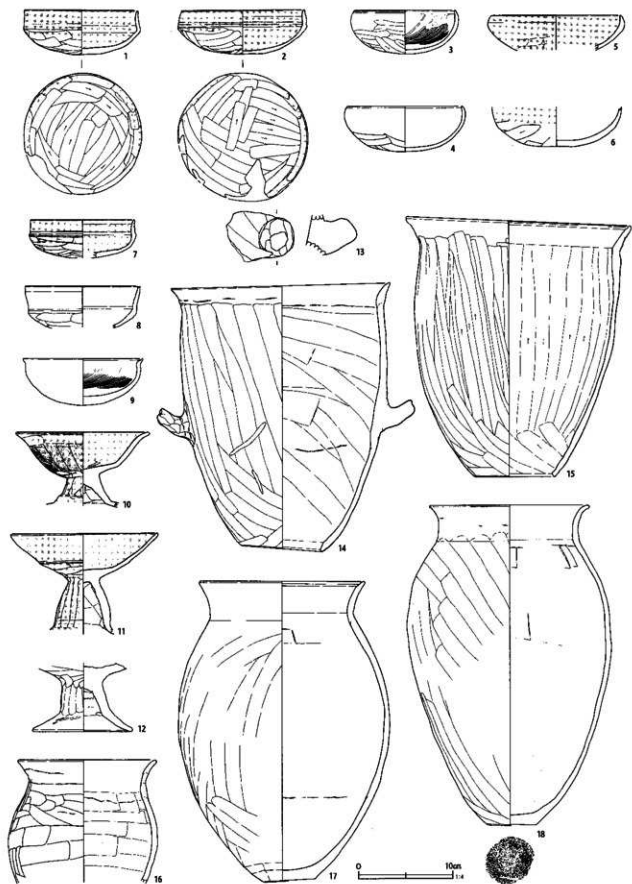


第331図 第100号住居跡

コーナー部に集中し、特に、貯蔵穴と住居壁の間の狭い範囲からの出土が顕著である。基本的には、床面の直上から検出されている。貯蔵穴の東側には坏・高坏（9・10・11）などの供膳具、貯蔵穴南側には甕・瓶（14・15・18）の煮沸具が出土している。カマドに近い方から供膳具、遠い方から煮沸具が出土しているという、不合理な位置関係は特筆される。カマド・貯蔵穴による厨房施設付近の生活用具の配置を復元する資料となる。

第101・102号住居跡（第332図）

ZS-8・9グリッドに位置する2軒の重複する住居跡である。新旧関係は、第102号住居跡の方が新しい。いずれの住居跡も、北側1/3ほどが調査区域外にある。また、西側に位置する第14号掘立柱建物跡・第15号掘立柱建物跡、東側に位置する第103号住居跡とは、ほぼ一致する方向に配置されている。



第332图 第100号住居跡出土遺物

第85表 第100号住居跡出土遺物観察表(第332図)

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 残存 | 焼成 | 色調 | 備考 | 出土位置 | 図版 |
|----|-----|----|-------|-----|------|-----------|----|----|------|------------------------------|------|-------|
| 1 | 土師器 | 坏 | 120 | 46 | - | ABGHJKL | 90 | 良好 | にひい青 | 坏身模倣 赤彩 No7 | | 156-7 |
| 2 | 土師器 | 坏 | 130 | 46 | - | ABGHJKL | 90 | 普通 | 赤彩 | 坏身模倣 赤彩 No10・13 | | 156-8 |
| 3 | 土師器 | 坏 | (109) | 46 | - | ACEGHI | 50 | 普通 | 橙 | 内面暗文 No8・9 貯蔵穴 | | |
| 4 | 土師器 | 坏 | (121) | 47 | - | ACEFGIK | 35 | 普通 | 橙 | 風化調査 調整不明瞭 No1 | | |
| 5 | 土師器 | 坏 | (138) | 36 | - | A E G H I | 10 | 普通 | にひい青 | 赤彩 | | |
| 6 | 土師器 | 鉢 | - | 41 | - | ACEFGHIKL | 10 | 普通 | 橙 | 赤彩 風化調査 調整不明瞭 貯蔵穴No14 | | |
| 7 | 土師器 | 坏 | (110) | 40 | - | AEGHIJL | 45 | 普通 | にひい青 | 坏身模倣 赤彩 No12 | | 157-1 |
| 8 | 土師器 | 坏 | (122) | 44 | - | ACEGHI | 20 | 普通 | 橙 | 坏身模倣 No10 | | |
| 9 | 土師器 | 坏 | 128 | 49 | - | A E G H K | 80 | 普通 | 橙 | 内面暗文 風化調査 調整不明瞭 No4 | | 157-2 |
| 10 | 土師器 | 高坏 | 141 | 79 | - | ACEGHI | 70 | 普通 | にひい青 | 切脚 赤彩 No3 | | 157-3 |
| 11 | 土師器 | 高坏 | 156 | 105 | - | ACEGHK | 85 | 普通 | 橙 | 赤彩(確認のみ指示) 脚部内面黒色化 貯蔵穴No1・15 | | 157-4 |
| 12 | 土師器 | 高坏 | - | 73 | 103 | ACEGHI | 55 | 普通 | 橙 | 支脚転用 短脚 外面赤彩(不明瞭) カマドNo1 | | |
| 13 | 土師器 | 瓶 | - | - | - | ACEGHK | 5 | 普通 | 橙 | 把手 φ2-5mm赤色粒子・砂粒子・小礫 No11 | | |
| 14 | 土師器 | 瓶 | 230 | 277 | 85 | ACEGHK | 95 | 普通 | にひい青 | 底部外面黒色化 No8 | | 157-5 |
| 15 | 土師器 | 瓶 | 236 | 269 | (84) | ACEGHK | 95 | 良好 | 橙 | 二次的焼熱による黒色化 No6 | | 158-1 |
| 16 | 土師器 | 小壺 | (144) | 129 | - | CEGHK | 60 | 普通 | 灰褐色 | φ1-2mm礫多 No5 | | |
| 17 | 土師器 | 壺 | 174 | 317 | 54 | ADEHI | 95 | 普通 | にひい青 | 長脚化 No2 | | 158-2 |
| 18 | 土師器 | 壺 | 166 | 338 | 52 | CEHIK | 90 | 普通 | 橙 | 長脚化 底部木葉痕 No9 | | 157-6 |

第102号住居跡は、平面形態が方形である。カマドを西壁の中央付近に付設し、主軸長5.76mを測る。南北幅は調査区域との境に北西コーナーの一部が検出されていることから、約5.6mと推定される。主軸方位はN-118°-Wを指し、確認面からの深さは0.30mほどである。覆土は土層状況の記録がないが(1-11層)、西側から埋没が開始された堆積状況が観察できる。

主柱穴4本の住居と推定される。このうちPit1・Pit2・Pit3の3本が検出され、対応する残りの1本は調査区域外にある。主柱穴の規模は、Pit1が長径0.65m×短径0.45m×床面からの深さ0.85m、Pit2が長径0.50m×短径0.50m×床面からの深さ1.00m、Pit3が長径0.62m×短径0.50m×床面からの深さ1.15mである。床面からの深さが0.85-1.15mもあり、深くしっかりと掘り方を有している。柱間距離は、主軸方向のPit3-Pit2間が2.80m、南北方向のPit1-Pit2間が2.90mを測る。柱材は床面付近で折り取られ、その際に生じた陥没部に15層が堆積している。地中に埋っていた柱材はそのまま立ち腐れて柱痕層(16層)となり、柱材を支えていた掘り方への充填層(17・18層)も観察できる。

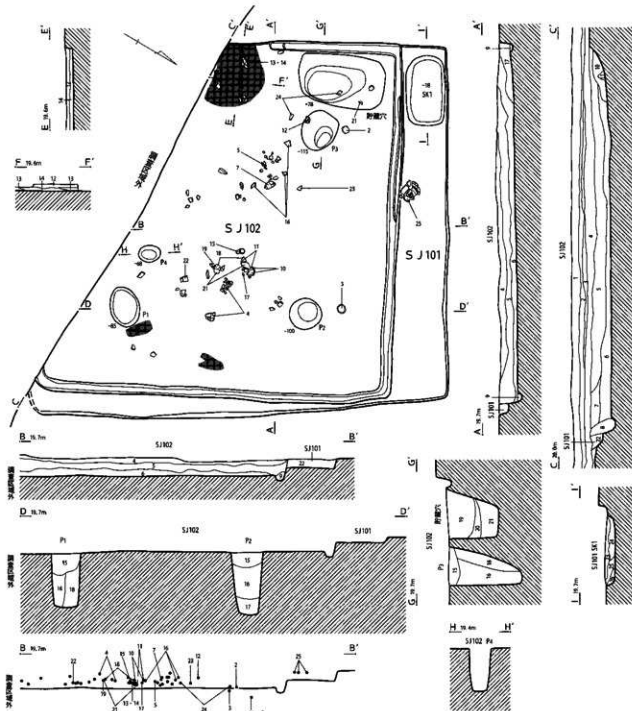
カマドは、平面的には確認されていない。調査区域境付近の西壁際から、南北0.9m×東西1.0mほどの範囲に炭化物の広がりが検出されたにすぎない。E-E'・F-F'の土層観察から天井部・袖部・灰層の一部が辛うじて把握されている。燃焼部が住居壁よりも内側に位置するタイプで、右袖の位置は、西壁の壁溝の途切れる北側となる。

貯蔵穴は、カマド右側の北西コーナー部に付設されている。長軸1.33m×短軸0.80mの長方形で、床面からの深さは0.78mを測る。底面は平坦で、壁の立ち上がりは中間に段をもつ。覆土の上層(19層)には、焼土・炭化物が多量に含まれている。北西隅壁際の上層から、滑石製の勾玉(第334図21)が出土している。

主柱穴Pit1の西側から、Pit4が検出されている。径0.31m、床面からの深さ0.68mで、しっかりと掘り方をもつ。用途や機能については明確ではない。

壁溝は、検出された壁に沿って全周する。幅0.13-0.19m、床面からの深さ0.05-0.09mほどである。

遺物は、主柱穴に囲まれた範囲内に集中する。基本的には、床面よりもわずかに浮いた状態で出



1~3

S J 102

4~9

S J 102 カマド

10~11

12 褐色粘土

13 褐色粘土

14 灰層

S J 102 ビット1~3

15 灰褐色土

16 灰褐色土

17 暗灰褐色土

18 オリーブ灰色土

粘土ブロック多量 天井部の残骸か?
 粘土ブロック多量 灰少量 椀の残骸か?
 灰土層 焼土・褐色粘土ブロック少量

粘質土 炭化物稍混じる
 粘質 砂質土 ベースに粘質土ブロック混じる
 2層に検出 やや粘性は強い

暗土主体 崩り方理土か

S J 102 貯蔵穴

19 暗灰褐色土

20 灰褐色土

21 灰褐色土

S J 101

22

S J 101内 S K 1

23 灰褐色土

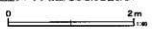
24 黄灰色土

25 黄灰色土

26 黄灰色土

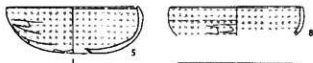
焼土・炭化物多量
 やや砂質強い 粘質土
 砂質土 灰褐色土ブロック少量

粘土質 褐色土との凝土層
 シルト質 灰褐色土ブロック(1cm)をまばらに含む
 シルト質 灰褐色土ブロック(1cm)少量 2層より
 明るく
 シルト質 灰褐色土ブロック(1cm)をほとんど含まない

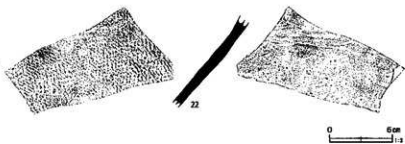
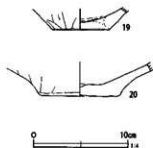
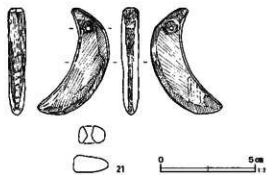
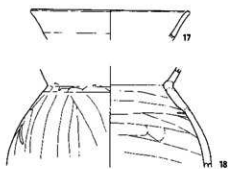
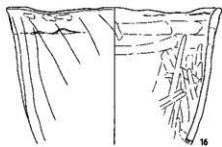
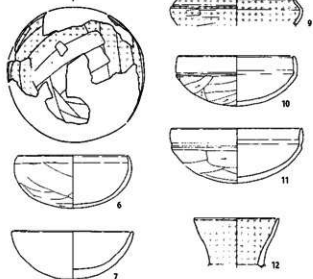
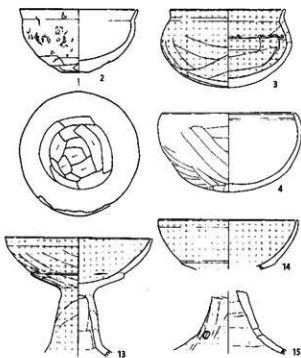


第333図 第101・102号住居跡

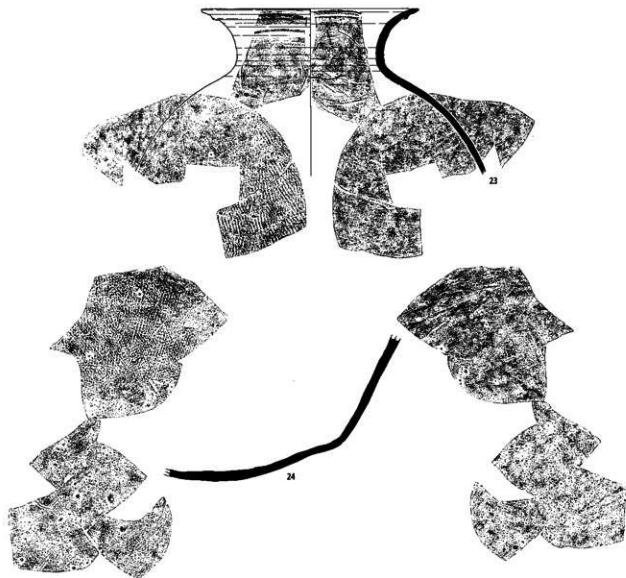
SJ101-102



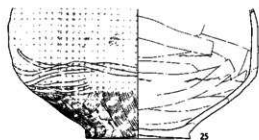
SJ102



第334图 第101·102号住居跡出土遺物(1)



SJ101



第335圖 第101・102号住居跡出土遺物（2）

第86表 第101・102号住居跡出土遺物観察表 (第334・335図)

| 番号 | 種類 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 残存 | 焼成 | 色調 | 備考 | 出土位置 | 図版 |
|----|-----|----------|------|------|--------|----------|----|------|---|--|-------|-------|
| 1 | 須恵器 | 甕 | - | - | - | I | 5 | 良好 | 黄灰 | SJ101・102 陶邑産 TK73段階? 外面に自然軸付着 | | |
| 2 | 土師器 | 輪 | 124 | 67 | 27 | ACEH | 90 | 良好 | 橙 | SJ102 平底 No9 | | 158-3 |
| 3 | 土師器 | 輪 | 121 | 81 | - | ACEHIK | 95 | 普通 | 明赤褐 | SJ102 赤彩 No45 | | 159-1 |
| 4 | 土師器 | 輪 (138) | 82 | - | CEHIK | 50 | 普通 | 橙 | SJ102 φ5cm 器多 No35・40 | | 159-2 | |
| 5 | 土師器 | 坏 | 140 | 49 | - | ACDEHI | 50 | 普通 | 明赤褐 | SJ102 赤彩 No15 | | |
| 6 | 土師器 | 坏 (116) | 55 | - | AEHK | 50 | 普通 | 橙 | SJ102 | | | |
| 7 | 土師器 | 坏 (126) | 50 | - | ACHIK | 70 | 普通 | 橙 | SJ102 器面風化顯著 調整不明瞭 No19 | | 158-4 | |
| 8 | 土師器 | 坏 (146) | 30 | - | ADEHIK | 20 | 普通 | にぶ赤褐 | SJ102 赤彩 | | | |
| 9 | 土師器 | 坏 (122) | 29 | - | HI | 40 | 普通 | にぶ赤褐 | SJ102 赤彩 | | | |
| 10 | 土師器 | 坏 | 122 | 53 | - | CEIK | 85 | 普通 | 橙 | SJ102 (横微坏) 焼成不明 No31・32 | | 158-5 |
| 11 | 土師器 | 坏 (139) | 57 | - | ACHIK | 25 | 不良 | 橙 | SJ102 (横微坏) No30・32 SJ101・102と接合 | | | |
| 12 | 土師器 | 埴 | (88) | 52 | - | ACHIK | 35 | 不良 | にぶ赤褐 | SJ102 赤彩 No7 | | |
| 13 | 土師器 | 高坏 | 155 | 125 | - | ABCDEHIJ | 90 | 普通 | にぶ赤褐 | SJ102 白色針状物質多 No1 | | 158-6 |
| 14 | 土師器 | 高坏 (146) | 52 | - | CDEH | 15 | 良好 | 橙 | SJ102 赤彩 No1 | | | |
| 15 | 土師器 | 高坏 | - | 65 | - | CEHIK | 30 | 普通 | 橙 | SJ102 外面赤彩 三方円孔 No29 | | |
| 16 | 土師器 | 瓶 (224) | 143 | - | AEHK | 20 | 良好 | にぶ赤褐 | SJ102 No10・16・20 | | | |
| 17 | 土師器 | 甕 (168) | 32 | - | ADEHI | 20 | 普通 | 灰褐 | SJ102 No33 | | | |
| 18 | 土師器 | 甕 | - | 105 | - | CEHI | 30 | 普通 | SJ102 φ3~5mm 器 No30・34 | | | |
| 19 | 土師器 | 甕 | - | 24 | 60 | AEHK | 30 | 普通 | にぶ赤褐 | SJ102 No34 | | |
| 20 | 土師器 | 甕 | - | 36 | (86) | CEHIK | 40 | 不良 | 橙 | SJ102 小樽多 SJ101・102と接合 | | |
| 22 | 須恵器 | 甕 | - | 87 | - | EHIK | 5 | 良好 | 灰 | SJ102 陶邑産 TK73段階? 自然軸付着 No35 | | |
| 23 | 須恵器 | 甕 (230) | 175 | - | EHIK | 10 | 良好 | 灰白 | SJ102 陶邑産 TK73段階? 自然軸付着 No36 No2 SE30No ZS10c | | 159-4 | |
| 24 | 須恵器 | 甕 | - | 25.6 | - | E | 5 | 良好 | 灰 | SJ102 陶邑産 TK73段階? 自然軸付着 No6・8 SK37No ZS10c | | |
| 25 | 土師器 | 壺 | - | 136 | 111 | AEHK | 75 | 普通 | にぶ赤褐 | SJ102 外面赤彩 底部木炭痕 No45 | | |

土している。

第334図1・22・第335図23・24は須恵器の甕である。直接的な接合関係にはないが、同一個体と思われる。外面には格子タタキが施され、内面の当て具痕はていねいにナデ消されている。焼成時には自然軸が付着している。1・22は胴部、23は口縁部から肩部、24は底部付近の破片である。特に、23は第103号住居跡から出土した須恵器甕(第337図21)と酷似し、直接的な接合関係にはないが、同一個体である可能性がきわめて高い。また24は、約10m離れた第37号土壌から出土した破片と接合関係にある。胎土や器形の特徴から、陶邑産のTK73段階と推定される。1は、第101・102号住居跡の一括遺物である。

第334図21は、滑石製の勾玉である。三日月形の形状で孔は両面から穿たれている。孔径は上面0.59×0.57cm、下面0.81×0.71cm、貫通部0.30×0.24cmである。全面に研磨が施されているが粗く、上

面・下面ともに成形時の剝離痕が明瞭に残されている。また側面部には工具による加工痕がみられる。長さ5.74cm×幅1.67cm×厚さ0.95cm、重さ19.1gである。(図版159-3)

第101号住居跡は、北壁から東壁付近の一部が検出され、大半の部分が後出する第102号住居跡によって攪乱されている。南北長6.75m以上、東西長5.65mを測り、長軸方位はN-31°-Wを指す。確認面からの深さは0.15mほどである。

カマドや炉・主柱穴・壁溝は、確認されていない。北西コーナー部には、土壌が付設されている。長軸1.12m×短軸0.63mの隅丸長方形で、床面からの深さは0.18mを測る。住居内の位置や平面規模からは貯蔵穴の可能性が高いが、掘り込みの浅い点が難点であり、断定はできない。

遺物は、第102号住居跡との境付近から土師器壺(25)が出土している。最大径を胴部下半部に有し、第102号住居跡から出土した遺物よりも古

式な様相を示している。底面には木葉痕が残る。

第103号住居跡（第336図）

ZS-10グリッドに位置し、南半部の1/2以上が調査区域外にある。西側に位置する第101・102号住居跡とは、ほぼ一致する方向に配置されている。

平面形態は方形で、カマドを北東壁に付設する。規模は、主軸長495m以上、幅46m以上、主軸方位はN-41°-Eを指す。確認面からの深さは0.53mほどである。覆土は自然堆積で、壁際から堆積が始まった様子が観察できる。

壁溝が検出された壁に沿って全周するが、カマド左側の北東壁から北西壁にかけて、壁の下辺と壁溝の間には間隔が開いている。そのため、北東壁はカマドを挟んだ左右で段違いとなるのに対し、壁溝は一直線上に延びている。このような状況から、北東壁の北半から北西壁にかけて、住居が拡張された可能性が考えられる。壁溝の規模は、幅0.09~0.11m、床面からの深さ0.04~0.06mほどである。

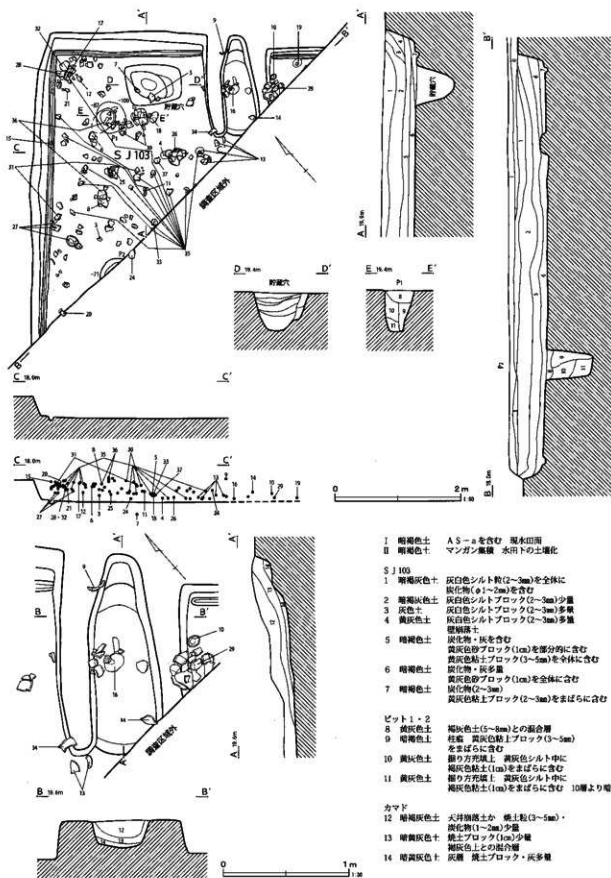
主柱穴4本の住居と推定され、このうちPit1・Pit2の2本が検出されている。対応する残りの2本の主柱穴は、調査区域外に位置する。また、Pit2もほとんどが調査区域外にある。主柱穴は、径0.5m前後、床面からの深さ0.71~0.87mの掘り方規模を有する。柱材は床面付近から折り取られ、この際、陥没部には8層が埋没している。地中に残存した柱材は柱痕となり（9層）、柱材を支えた土壌の充填状況も観察できる（10・11層）。

カマドは、燃焼部が住居壁の内側に位置する。地山が掘り残された袖部を土台として、暗褐色土（12層）によって天井部が構築されている。燃焼部には浅く掘り窪められた火床面が形成され、

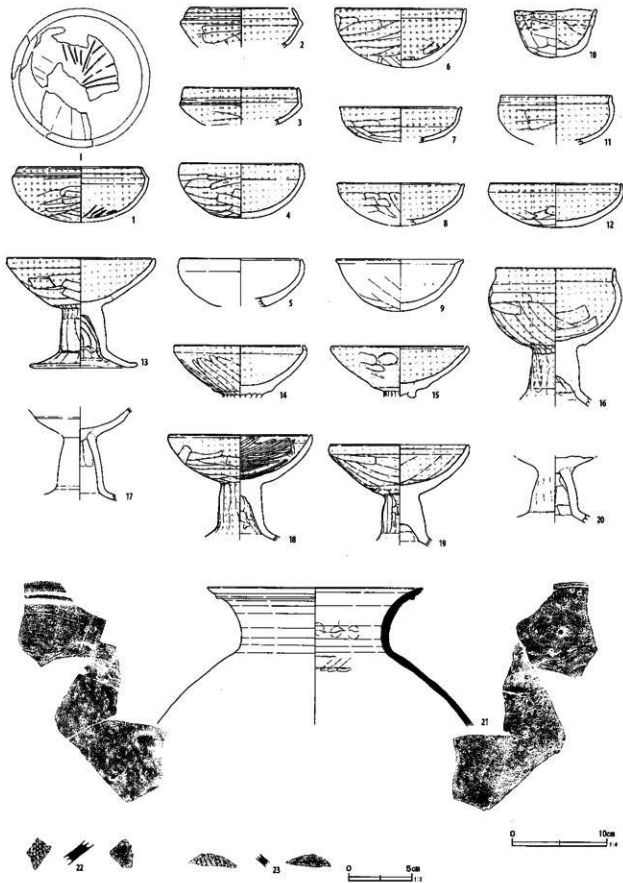
中央付近には脚部を欠損した高坏（第337図16）を倒立させて支脚に転用している。燃焼部の奥壁は、カマド右側の住居壁の延長上付近で0.10m立ち上がる。ここから0.16mほどの平坦面が続き、再び0.15m立ち上がってカマド先端部に達する。このカマド先端は、カマド左側の住居壁の延長上と一致する。このような様相から、最初の立ち上がりまでを燃焼部としてここに短い煙道部が取り付けられたカマドとするか、住居の拡張に伴ってカマドも拡大されて先端部までを一括して燃焼部と捉えるか解釈のわかれるところである。規模は、全長1.58m（1.36m+0.22m）×幅0.54mである。遺物は、右袖上から土師器甕（第338図29）が出土しているほかは、カマド周辺部から小型鉢（10）・坏（9）・高坏（13・14）といった供膳具が限定的に出土している。

貯蔵穴は、カマド左側に付設されている。長軸0.87m×短軸0.65mの長方形で、床面からの深さは1.0mを測る。覆土の状態の詳細な記録は残されていないが、土層断面図からは、一度埋められた貯蔵穴を、再度掘り返して使用した様子を読み取ることができる。遺物は、土師器坏（7）が北西壁付近上層から出土している。

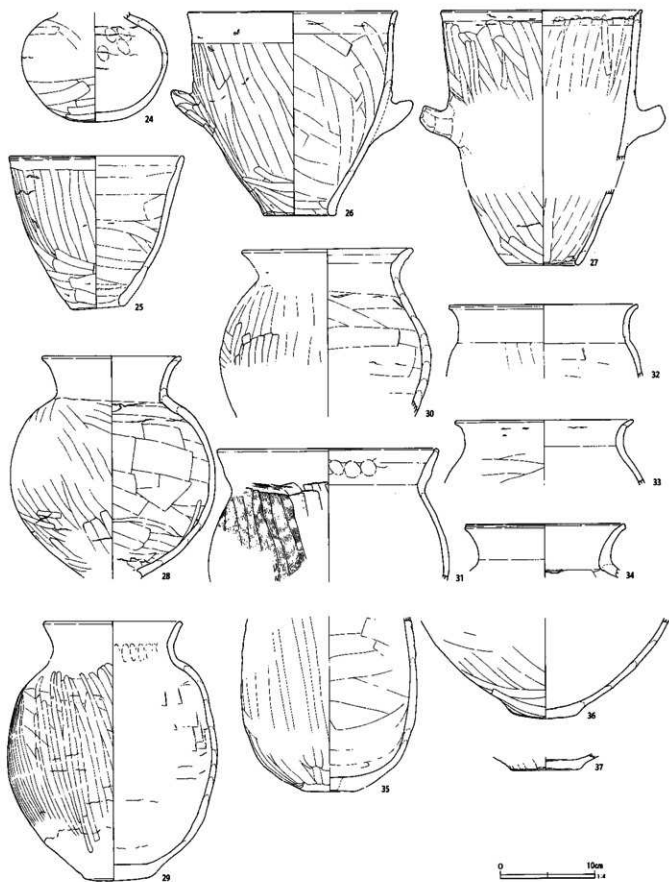
遺物は、水平・垂直方向ともに満遍なく出土している。供膳具の土師器の坏・高坏、煮沸具の土師器の甕・甗が多数ある。21・22・23は須恵器の甕である。外面には格子タタキが施され、内面の当て具痕はいいいにナデ消されている。焼成時に自然軸が付着している。第102号住居跡から出土した須恵器甕（第334・335図1・22~24）と酷似し、直接的な接合関係にはないが、同一個体である可能性がきわめて高い遺物である。胎土や器形の特徴から、陶邑産のTK73段階と推定される。



第336図 第103号住居跡



第337图 第103号住居跡出土遺物(1)



第338图 第103号住居跡出土遺物(2)

第87表 第103号住居跡出土遺物観察表 (第337・338図)

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 残存 | 焼成 | 色調 | 備考 | 出土位置 | 図版 |
|----|-----|----|-------|-----|------|-----------|-----|----|-----|--|------|-------|
| 1 | 土師器 | 坏 | (129) | 58 | - | EH I | 50 | 普通 | にぶ青 | 坏身模倣 赤彩 内面焼文 | | |
| 2 | 土師器 | 坏 | (108) | 42 | - | ACEHIK | 10 | 普通 | 赤 | 坏身模倣 赤彩 φ2-5mm | | |
| 3 | 土師器 | 坏 | (120) | 39 | - | DEH | 20 | 普通 | 橙 | 坏身模倣 赤彩 φ2-3mm石灰・長石 No46 | | 159-5 |
| 4 | 土師器 | 坏 | 126 | 57 | - | ACEHIJK | 95 | 良好 | 赤 | 赤彩 No21 | | |
| 5 | 土師器 | 坏 | (128) | 50 | - | ACDHIK | 15 | 普通 | 橙 | 器面風化・調整不明瞭 No93 | | |
| 6 | 土師器 | 坏 | 137 | 62 | - | CDEH | 70 | 普通 | にぶ青 | 赤彩 φ2-3mm釧多 No71 | | 159-6 |
| 7 | 土師器 | 坏 | (130) | 38 | - | ACHI J | 30 | 普通 | にぶ青 | 赤彩 No65 | | |
| 8 | 土師器 | 坏 | (134) | 44 | - | BEHIK | 20 | 普通 | にぶ青 | 器面風化 赤彩・調整不明瞭 No37 | | |
| 9 | 土師器 | 坏 | (133) | 54 | - | EIK | 45 | 良好 | 橙 | 器面風化 赤彩・調整不明瞭 No8 | | |
| 10 | 土師器 | 鉢 | 84 | 48 | - | ACEHIK | 100 | 良好 | にぶ青 | 手控 二次的焼熱赤彩不明瞭 No2 | | |
| 11 | 土師器 | 碗 | (116) | 52 | - | ACEHIJK | 30 | 普通 | 橙 | 赤彩 φ1-2mm石英粒 白色針状物質質少 No30 | | |
| 12 | 土師器 | 坏 | (138) | 46 | - | AHEI | 20 | 普通 | にぶ青 | 赤彩 No79 | | |
| 13 | 土師器 | 高坏 | 155 | 115 | 115 | ACDEHIK | 95 | 普通 | 橙 | 赤彩 No12-14・16 | | 159-7 |
| 14 | 土師器 | 高坏 | 136 | 55 | - | ABCDEHIJK | 60 | 普通 | にぶ青 | 二次的焼熱 赤彩不明瞭 φ5mm釧 No5 | | |
| 15 | 土師器 | 高坏 | (144) | 54 | - | CEHIK | 25 | 普通 | にぶ青 | 赤彩 No72 | | |
| 16 | 土師器 | 高坏 | 126 | 145 | - | ABCDEHIK | 95 | 普通 | にぶ青 | 支脚転用 二次的焼熱 器面風化 赤彩不明瞭 No7 | | 160-1 |
| 17 | 土師器 | 高坏 | - | 98 | - | AHEIJK | 60 | 普通 | 橙 | 二次的焼熱 風化顕著 No81 | | |
| 18 | 土師器 | 高坏 | 150 | 111 | - | ACDEHI | 75 | 普通 | にぶ青 | 赤彩 No94 | | 160-2 |
| 19 | 土師器 | 高坏 | 147 | 106 | - | ACEHIK | 90 | 普通 | にぶ青 | 赤彩 No1 | | 160-3 |
| 20 | 土師器 | 高坏 | - | 71 | - | ADEHI | 70 | 普通 | にぶ青 | 外面一部に赤彩 器面風化顕著 調整不明瞭 No36 | | |
| 21 | 須恵器 | 甕 | (230) | 145 | - | EHIK | 10 | 良好 | 灰白 | 陶器産 TK73段階 口縁部内面に自然軸付着 SJ-102-23と同一器体か No78 SK-37No1 ZS-11Gr | | 159-8 |
| 22 | 須恵器 | 甕 | - | 22 | - | E | 5 | 良好 | 灰 | 陶器産 自然軸付着 外面格子タタキ 内面ナデ消し | | |
| 23 | 須恵器 | 甕 | - | 10 | - | EH | 5 | 良好 | 灰 | 陶器産 外面格子タタキ 内面ナデ消し | | |
| 24 | 土師器 | 壺 | - | 115 | 47 | CDEHI | 100 | 普通 | 橙 | No43 | | 160-4 |
| 25 | 土師器 | 瓶 | 182 | 160 | 57 | CDEHIK | 85 | 普通 | 橙 | No35 | | 160-5 |
| 26 | 土師器 | 瓶 | (218) | 215 | 76 | ACEHIK | 80 | 普通 | 橙 | No19 | | 160-6 |
| 27 | 土師器 | 瓶 | (212) | 270 | 76 | ABCDEHIJ | 20 | 普通 | にぶ青 | No47・60・62 | | |
| 28 | 土師器 | 甕 | 144 | 223 | - | DEH | 60 | 普通 | 橙 | 台付裏の可能性が高い No80 | | 161-3 |
| 29 | 土師器 | 甕 | (141) | 271 | 61 | CEHIK | 90 | 普通 | にぶ青 | No3 | | 161-2 |
| 30 | 土師器 | 甕 | 178 | 177 | - | ACEIK | 60 | 普通 | にぶ青 | φ5-10mm釧 外周風化 No85・86 | | 161-1 |
| 31 | 土師器 | 甕 | (228) | 140 | - | CEHI | 15 | 良好 | 橙 | No31・58 | | |
| 32 | 土師器 | 甕 | (197) | 78 | - | ACDHIK | 10 | 普通 | 橙 | No80 | | |
| 33 | 土師器 | 甕 | (186) | 69 | - | DEH | 10 | 普通 | にぶ青 | 口縁部に赤彩? No38 | | |
| 34 | 土師器 | 甕 | (168) | 57 | - | DEH | 30 | 普通 | 橙 | No11 | | |
| 35 | 土師器 | 甕 | - | 134 | (53) | CEHIK | 50 | 普通 | 橙 | 長形化No15・24・25・28・32・34・63・65・66・75・76・80 | | 161-4 |
| 36 | 土師器 | 壺 | - | 105 | 68 | CDEHIJ | 30 | 普通 | にぶ青 | No37・89 | | |
| 37 | 土師器 | 甕 | - | 14 | 72 | ACEHIK | 90 | 普通 | 灰青 | φ5mm釧 No22 | | |

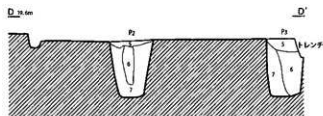
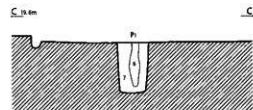
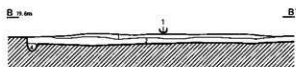
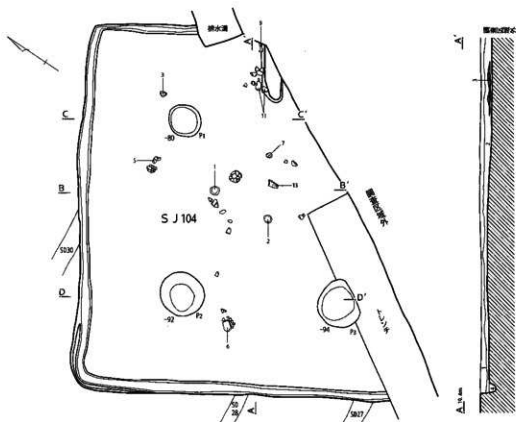
第104号住居跡 (第339図)

ZR-8・9グリッドに位置し、南半部1/3ほどが調査区域外にある。第27・28・30号溝跡と重複する。また、北西に位置する第105号住居跡とは、ほぼ一致する方向に配置されている。

平面形態は方形で、カマドを北東壁の中央付近に付設する。主軸長5.82mを測り、検出幅4.92m、主軸方位はN-58°-Eを指す。確認面からの深さは0.12-0.19mほどである。覆土は自然堆積で、2層中に堆積した炭層(3層)はカマドから流出

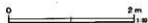
した土壌と推測される。

主柱穴4本の住居と推定され、このうちPit1・Pit2・Pit3の3本が検出され、対応する残りの1本は調査区域外にある。主柱穴の規模は、Pit1が長径0.50m×短径0.50m×床面からの深さ0.80m、Pit2が長径0.70m×短径0.70m×床面からの深さ0.92m、Pit3が長径0.75m×短径0.63m×床面からの深さ0.94mである。水平・垂直方向ともに申し分ない掘り方をもつ。柱材は住居廃絶時に住居床面付近で折り取られ、その際に生じた窪みに埋没し

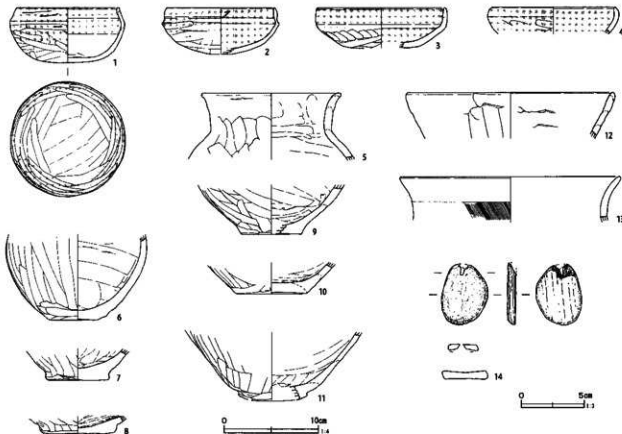


S J 104
 1 暗褐色土 灰・褐色土少量
 2 暗褐色土 灰少量 褐色土ブロック多量
 3 暗褐色土 2層中内の灰の堆積層 カマドからの焼土
 4 暗褐色土 磁溝

ビット1~3
 5 暗褐色土 灰含む 鉄分少量
 6 暗褐色土 柱礎 表面ピリ
 7 灰褐色土 圓の方充填 褐色土ブロック主材 砂含む



第339図 第104号住居跡



第340図 第104号住居跡出土遺物

第88表 第104号住居跡出土遺物観察表(第340図)

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 残存 | 焼成 | 色調 | 備考 | 出土位置 | 図版 |
|----|-----|----|-------|----|------|---------------|-----|----|------|-----------------|-------|-------|
| 1 | 土師器 | 坏 | 108 | 58 | - | ACDEHIJK | 100 | 普通 | にぶい壇 | 坏身模倣 赤彩 白色針状物貫少 | No17 | 161-5 |
| 2 | 土師器 | 坏 | (116) | 49 | - | A E H I K | 20 | 普通 | 赤褐 | 坏身模倣 赤彩 | No15 | |
| 3 | 土師器 | 坏 | (134) | 42 | - | A E H I K | 25 | 良好 | にぶい壇 | 平底 赤彩 | No25 | |
| 4 | 土師器 | 坏 | (132) | 24 | - | A E H I J K | 10 | 普通 | にぶい壇 | 赤彩 | | |
| 5 | 土師器 | 甕 | (142) | 70 | - | C E H I J K | 30 | 普通 | にぶい壇 | | No24 | |
| 6 | 土師器 | 甕 | - | 90 | 50 | C E H I K L | 50 | 普通 | 明赤褐 | φ 5~15mm 膠多 | No22 | |
| 7 | 土師器 | 甕 | - | 33 | (64) | C E I K | 50 | 普通 | にぶい壇 | | No12 | |
| 8 | 土師器 | 甕 | - | 18 | (78) | A E H I K | 25 | 良好 | 橙 | | | |
| 9 | 土師器 | 甕 | - | 52 | (64) | A C E I K | 30 | 普通 | 灰黄褐 | 外面二次的被熱・暴行音 | No9 | |
| 10 | 土師器 | 甕 | - | 33 | 74 | C E I K | 35 | 普通 | 明赤褐 | | | |
| 11 | 土師器 | 甕 | - | 71 | (71) | C H I K | 30 | 普通 | にぶい壇 | | No1・2 | |
| 12 | 土師器 | 瓶 | (220) | 48 | - | A D H K | 5 | 普通 | にぶい壇 | | | |
| 13 | 土師器 | 瓶 | (233) | 48 | - | A C D E G H I | 20 | 普通 | 橙 | | No13 | |

た土層が確認できる(5層)。地中に残された柱材は柱痕となり(6層)、柱材を支えていた掘り方への充填土層(7層)も観察できる。

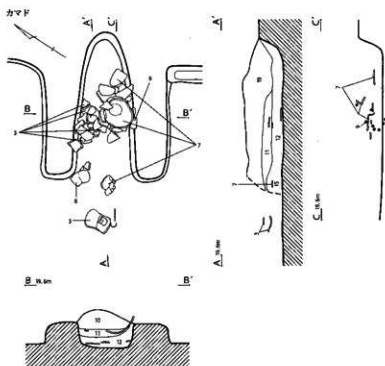
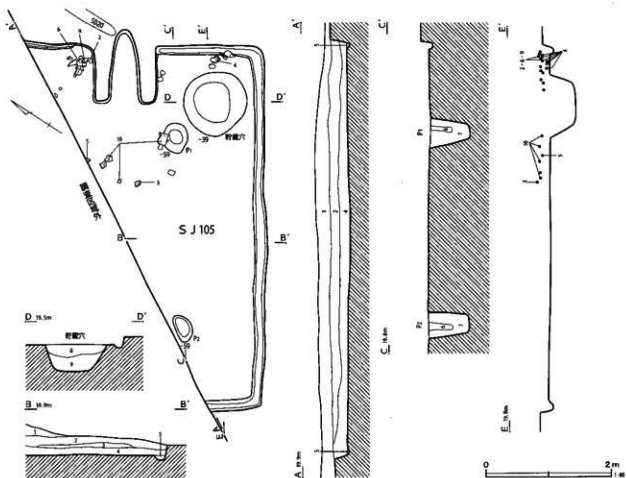
カマドは左袖の一部が検出され、大半は調査区域外にある。そのため、燃焼部・煙道部・天井部などの状況や規模等は不明な点が多い。地山が掘り残された袖部内面や火床面には、被熱による焼

土化がみられる。遺物は、袖部外壁に沿って土師器甕底部2点(第340図9・11)が、床面直上から出土している。

壁溝は、検出された壁に沿って全周する。幅0.09~0.22m、床面からの深さ0.12~0.19mほどである。

貯蔵穴・ピットは検出されていない。

遺物は、古墳時代の土師器坏・甕・瓶が出土し



- S J 105
- 1 暗褐色土 包森層 灰・褐色土を少量
 - 2 暗褐色土 灰・黄土少量
 - 3 暗褐色土 褐色粘土ブロック多量
 - 4 暗褐色土 灰・褐色土ブロック少量
 - 5 暗褐色土 埋溝

- ピット1・2
- 6 黄褐色粘質土 柱礎が斜上化したと考えられる
 - 7 灰色粘質土 掘り方穴深 黄褐色粘土ブロックを含む

- 貯蔵穴
- 8 暗褐色土 灰・褐色粘土ブロック・灰少量
 - 9 暗褐色土 灰含む 灰少量

- カマド
- 10 暗褐色土 天井構造上 灰・黄土少量
 - 11 暗褐色土 粘土ブロックを主体 天井部崩壊時に天井部内壁と灰層が結合
 - 12 灰層 炭化物層

第341図 第105号住居跡

ているが、全体的な遺物量は少ない。また、住居床面よりもやや浮いた状態で検出されている。

第340図14は石鍾である。円盤状の磔の一端を打ち欠いて研ぎ込み、紐の引っかかり部を形成している。反対側にもごく僅かな凹みが見られる。長径4.6cm、短径3.6cm、厚さ0.7cm、重さ19.3g、石材は緑泥片岩である。(図版161-6)

第105号住居跡 (第341図)

ZQ・ZR-8・9グリッドに位置し、第20号溝跡と重複する。北半部の1/2以上は、調査区域外にある。南東に位置する第104号住居跡とは、ほぼ一致する方向に配置されている。

平面形態は方形で、カマドを東壁に付設する。主軸長5.30mを測り、南北検出幅3.80m、主軸方位はN-58°-Eを指す。確認面からの深さは0.29mほどである。

主柱穴が4本となる住居で、このうちPit1・Pit2の2本が検出されている。対応する残りの2本は調査区域外にある。主柱穴の規模は、Pit1が長径0.43m×短径0.41m×床面からの深さ0.59m、Pit2が長径0.45m×短径0.26m×床面からの深さ0.59mである。柱間距離は3.05mを測る。土層断面では、柱痕(6層)と柱掘り方の充填層(7層)が観察できる。

カマドは、燃焼部の先端が住居壁の外側に張り出し、煙道部は検出されていない。地山が掘り残された袖部を土台として、暗褐色粘土によって構築されている。火床面と住居床面との明瞭な境は無く、燃焼部奥壁はやや外傾しながら0.20mほど立ち上がる。支脚は備えられていない。規模は、主軸長1.18m×幅0.48mほどである。天井部は崩落し(10層)、直下には灰層が形成されている(11・12層)。火床面・袖部内壁面は、被熱による焼土化が顕著である。遺物は燃焼部中央付近に集中し、煮沸具がカマドに架けられていた状態で出土している。土師器甕(第342図9)と、土師器壺(7)に飯(5)を備えた組み合わせが発見されていることから、架け口が二口のカマドである。

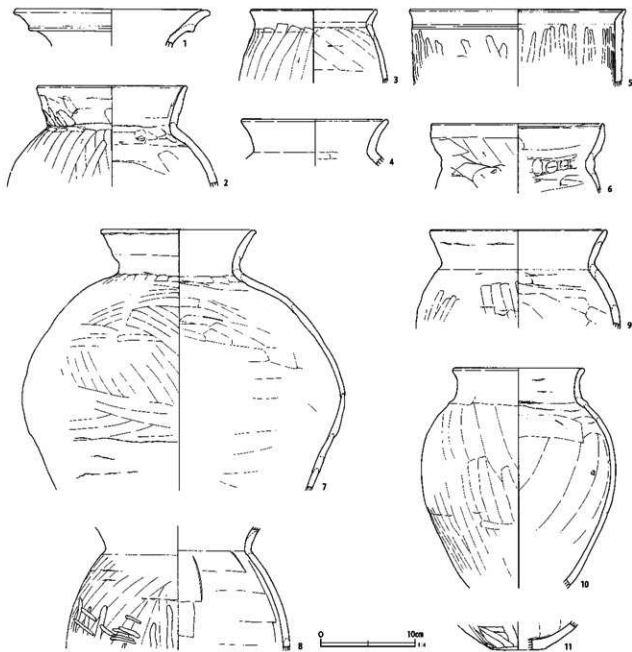
貯蔵穴は、カマド右側の東コーナー部付近に付設されている。長軸1.02m×短軸1.00mの円形で、床面からの深さは0.39mを測る。底面は平坦である。

壁溝は、検出された壁に沿って全周する。幅0.09~0.21m、床面からの深さ0.03~0.06mほどである。

遺物は、カマドとその周辺部から限定的に出土している。カマド周辺部の遺物は、床面からやや浮いた状態で検出されている。器種は甕を中心とした煮沸具で占められ、坏・高坏等の供膳具の出土がなく、特徴的である。

第89表 第105号住居跡出土遺物観察表 (第342図)

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 残存 | 焼成 | 色調 | 備考 | 出土位置 | 図版 |
|----|-----|----|-------|-----|------|---------|----|----|------|--------------|-----------------------|-------|
| 1 | 土師器 | 壺 | (204) | 49 | - | CEHIJK | 10 | 普通 | に灰・青 | 有段口縁 | | |
| 2 | 土師器 | 甕 | (157) | 106 | - | CEHIK | 30 | 普通 | 明灰緑 | Na12 カマド | | |
| 3 | 土師器 | 甕 | (131) | 77 | - | AEHIK | 25 | 普通 | に灰・青 | 外縁二次的被熱 | Na2 カマドNa14 | |
| 4 | 土師器 | 甕 | (154) | 49 | - | ACDEHI | 40 | 普通 | に灰・青 | 焼成堅緻 | Na8 | |
| 5 | 土師器 | 甕 | (228) | 81 | - | CEIK | 50 | 普通 | 明赤褐 | φ1cm層 | Na5 カマドNa19・21・29・39 | |
| 6 | 土師器 | 甕 | (180) | 73 | - | CEHIK | 20 | 普通 | に灰・青 | 異形口縁 | φ1cm層 Na12 | |
| 7 | 土師器 | 壺 | 159 | 274 | - | ACDEHI | 65 | 普通 | に灰・青 | 器面風化顕著 | Na26 カマドNa15・23 貯蔵穴 | 162-1 |
| 8 | 土師器 | 甕 | - | 130 | - | ACDEHIK | 20 | 普通 | に灰・青 | 二次的被熱・外縁風化顕著 | カマドNa16 | |
| 9 | 土師器 | 甕 | (184) | 104 | - | ACEIK | 20 | 良好 | 黄灰 | 外縁風化・調整不明瞭 | φ1cm層 Na12 カマドNa31・36 | |
| 10 | 土師器 | 甕 | (135) | 232 | - | DEHI | 40 | 普通 | 明赤褐 | 長期化 | Na3・4・6 カマド | |
| 11 | 土師器 | 甕 | - | 30 | (60) | CEHIK | 30 | 普通 | 黒褐 | | | |



第342図 第105号住居跡出土遺物

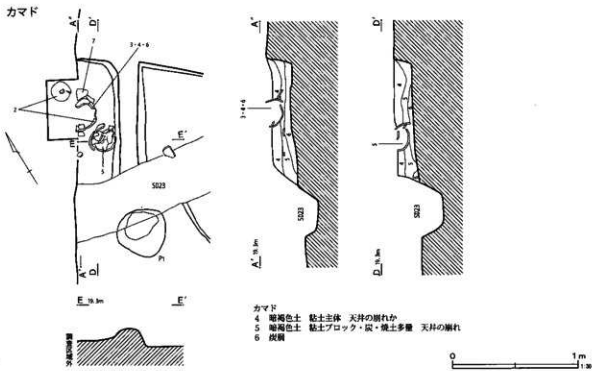
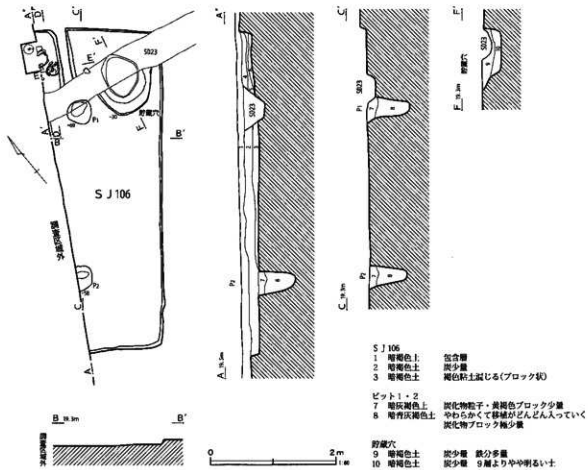
第106号住居跡（第343図）

ZO・ZP-9・10グリッドに位置し、北半の2/3前後が調査区域外にある。第23号溝跡と重複し、新旧関係は第106号住居跡よりも新しい。

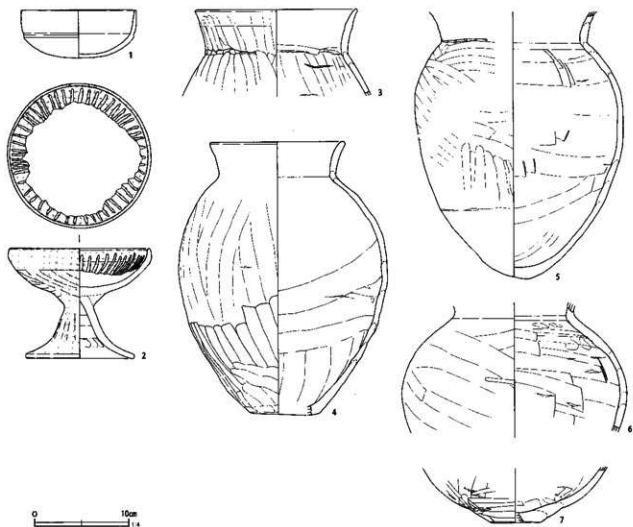
平面形態は方形で、カマドを北東壁に付設する。主軸長5.17mを測り、主軸方位はN-39°-Eを指す。確認面からの深さは0.15mほどである。覆土は自然堆積で、土層断面から、カマドの設置さ

れた北東側から南西側に向かって埋没していった様子が観察される。

主柱穴4本の住居で、このうちPit1・Pit2の2本が検出されている。対応する残りの2本の主柱穴は調査区域外にある。主柱穴の規模は、Pit1が長径0.40m×短径0.38m×床面からの深さ0.69m、Pit2が径0.40m×床面からの深さ0.58mである。柱間距離は、2.65mを測る。土層断面には、柱痕は



第343図 第106号住居跡



第344図 第106号住居跡出土遺物

第90表 第106号住居跡出土遺物観察表 (第344図)

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 残存 | 焼成 | 色調 | 備考 | 出土位置 | 図版 |
|----|-----|----|-------|-----|-------|-----------|----|----|------|-------------------------------|------|-------|
| 1 | 土師器 | 環 | (120) | 50 | - | H I K | 30 | 普通 | 昏 | 環裏模倣 | | 162-1 |
| 2 | 土師器 | 高坏 | (146) | 115 | (110) | C E H I K | 80 | 普通 | にぶい昏 | 支脚転用 赤彩 内面暗文 (外周部のみ残存) No6・7 | | 図-2・3 |
| 3 | 土師器 | 甕 | (170) | 92 | - | A D H I L | 25 | 普通 | 橙 | No6 | | |
| 4 | 土師器 | 甕 | 166 | 279 | 62 | A H I K | 85 | 普通 | にぶい昏 | 長脚化 外面二次的被熱 No6 カマド | | 162-4 |
| 5 | 土師器 | 甕 | - | 279 | - | C D H I | 50 | 普通 | にぶい昏 | 長脚化 外面二次的被熱 窪付着 No5 カマド ZP9Gr | | 162-5 |
| 6 | 土師器 | 甕 | - | 140 | - | A C H I K | 30 | 普通 | にぶい昏 | φ5~10mm 壁 器面風化顕著・調整不明瞭 No6 | | |
| 7 | 土師器 | 甕 | - | 57 | (50) | C E H I K | 20 | 普通 | にぶい昏 | No4 | | |

みられない。

カマドは、調査区域境に位置しているため、南半部のみを検出である。また、前面部は重複する第23号溝跡によって攪乱され、検出長は約10mである。焼成部の先端が住居壁と一致し、煙道部は検出されていない。地山が掘り残された袖部を土台として、暗褐色粘土(4・5層)によって構築

されている。第23号溝跡による攪乱のため、焼成部の掘り込みの有無は明確ではないが、火床面が焼成部先端に向かって緩やかに上がっていく様相から、住居床面と火床面の境は設けられていないものと推測される。焼成部奥壁はほぼ直立し、高低差は0.22mほどである。天井部内面の被熱による焼土化が顕著で、焼土化部を5層として分層

した。崩落した天井部の直下には、炭層（6層）が形成されている。また倒立させた土師器高坏（第344図2）を転用した支脚が、燃焼部の比較的奥側に設置されている。遺物は支脚よりも前面部から、土師器甕2点が前後に並んで出土している。土層断面をみると、この2点の甕の部分は天井部が抜けていることから、二口の架け口にて2点の甕が掛かった状態で埋没したものと思われる。

貯蔵穴は、カマド右側の東コーナー部に付設されている。北半部を重複する第23号溝跡によって攪乱されている。長軸0.98m以上×短軸0.92mの楕円形で、床面からの深さは0.30mを測る。壁面は中間に段をもち、底面は平坦である。

ピット・壁溝は設置されていない。

遺物は、カマド周辺部からの出土に限定される。また、カマド内から出土した遺物量も、架け口にて甕が架けられた状態で発見された住居跡として

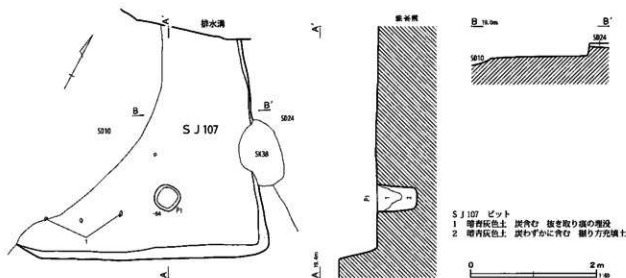
は少ない。

第107号住居跡（第345図）

ZS-15・16グリッドに位置する。第10号溝跡・第24号溝跡・第38号土壌と重複するが、新旧関係は明確ではない。

平面形態は、南北方向に長軸をもつ長方形と予想される。南北長3.47m、東西長3.95mを検出し、南北軸方位はN-30°-Wを指す。南西部の第10号溝跡と重複する付近がコーナー部となるため、東西長は4m強と推定される。確認面からの深さは0.60mほどである。覆土の堆積状況は、観察されていない。

支柱穴の本数は推測できないが、発見されたPit1は主柱穴に相当する。規模は、径0.42m×床面からの深さ0.64mである。住居廃絶時に、柱穴が掘り返されて、柱材が抜き取られている（1層）。



第345図 第107号住居跡



第346図 第107号住居跡出土遺物

第91表 第107号住居跡出土遺物観察表（第346図）

| 番号 | 種類 | 器種 | L径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 残存 | 焼成 | 色調 | 備考 | 出土位置 | 図取 |
|----|-----|----|-------|----|----|-------------|----|----|-----|----------|-------|----|
| 1 | 土師器 | 坏 | (138) | 30 | - | A E H I J K | 20 | 普通 | 濃い赤 | 白色針状物質少量 | Nal・3 | |

カマドや炉・貯蔵穴・ピット・壁溝等は検出されていない。遺物の出土量は少なく、住居南半部

にまばらにみられる。図示し得たのは、このうちの土師器坏1点のみである（第346図）。

2. 掘立柱建物跡

本報告が対象とする城敷遺跡北半部から発見された掘立柱建物跡は、3棟（第13～15号掘立柱建物跡）である。いずれの掘立柱建物跡も、まとまった竪穴住居跡群に隣接し、このうち、第14号掘立柱建物跡と第15号掘立柱建物跡は、方向を揃えて並んでいる。限定された調査区域の状況から把握し難いが、南半部の状況も加味すると、竪穴住居跡群に隣接した空間地に、2～3棟の掘立柱建物跡が軒を並べている傾向が窺われる。

第13号掘立柱建物跡（第347図）

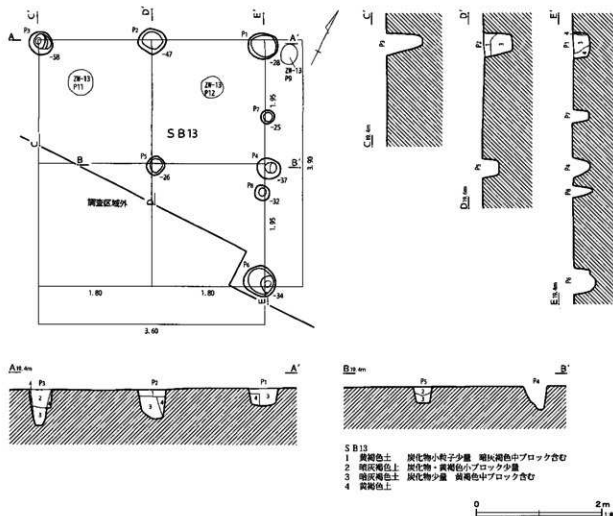
ZW-12・13グリッドに位置し、重複する遺構はない。東側に隣接する第76号住居跡とは、ほぼ

一致する方向に配置されている。

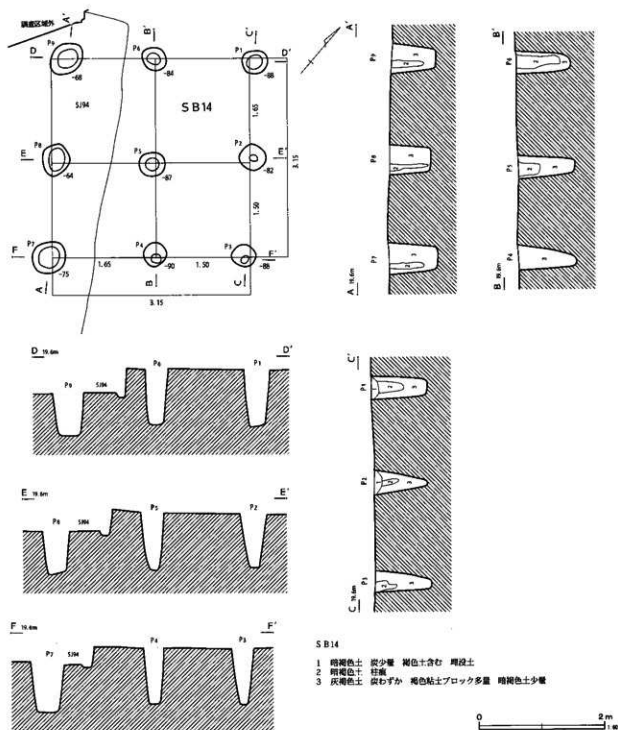
桁行2間×梁行2間の総柱建物跡と推測される。南北軸の方位は、N-27°-Wを指す。発見された柱穴は9本中6本（Pit1～6）で、ほかは調査区外にある。周囲から、同規模のピットが多数検出されているが、柱並びや柱間距離が合致しないことから、ピット群と判断した。

規模は、南北390m×東西360m、面積1404㎡である。柱間距離は、南北方向が195m、東西方向が180mに統一され、規則性が高い。

東列では、中間柱を挟むように2本のひと回り規模の小さなピットがある（Pit7・8）。確認面からの深さが他の柱穴と等しく、ピットの位置関係



第347図 第13号掘立柱建物跡



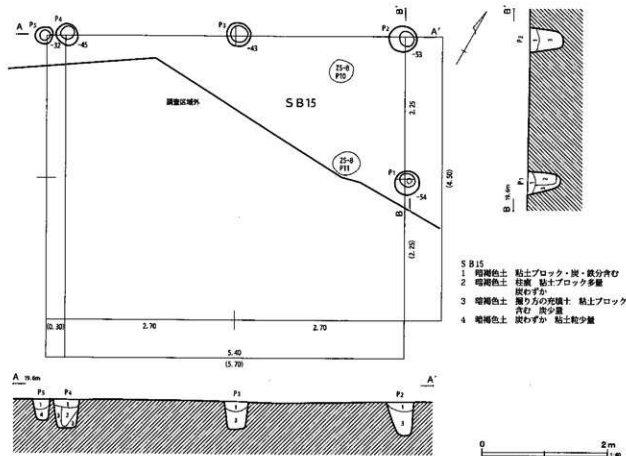
第348図 第14号獨立柱建物跡

も考慮すると、扉口両脇の辺付・方立に関わる柱穴と推測される。

中央の東柱(Pit5)の深さは、他の柱穴の平均と比較すると、約0.15m(37%)ほど浅い。この差をもって上屋構造を限定することは尚早であ

るが、倉庫ではなく、高床式の居住建物であった可能性が高い。

覆土が観察された柱穴は、北列のPit1~3と東柱のPit5の4本である。いずれの柱穴も柱材が抜き取られ、1~3層が柱抜き取り痕に堆積した土



第349図 第15号掘立柱建物跡

層である。そして4層が、柱掘り方に充填されていた土層の名残である。

出土した遺物はない。

第14号掘立柱建物跡 (第348図)

ZS・ZT-7・8グリッドに位置する。南側に近接する第15号掘立柱建物跡、東側に隣接する第102号住居跡とは、ほぼ一致する方向に配置されている。また、第94号住居跡と重複するが、新旧関係は不明である。

桁行2間×梁行2間の総柱建物跡である。規模は、南北3.15m×東西3.15m、面積9.9225㎡である。柱間距離には南・東側が1.50m、北・西側が1.65mという規則性が認められる。南北軸の方は、N-40° -Wを指す。

柱穴の平面径は0.35～0.53m程でバラつきがあ

るが、底面の標高は画一的で相応の建築・土木技術をもっていたことが窺われる。東柱 (Pit5) の深さも同様で、上屋機能には高床式倉庫が想定される。

覆土の堆積状況は、2層が柱痕、3層が柱掘り方への充填土で、1層は柱痕部の木質腐朽・陥没後の堆積と捉えられる。よって、建物の機能終了後、柱材は地表面付近で切断され、埋設された部分は地中に取り残されたものと推定される。

出土した遺物はない。

第15号掘立柱建物跡 (第349図)

ZS-8グリッドに位置する。北側に近接する第14号掘立柱建物跡や、周囲に所在する第94・99・101・102号住居跡とは、ほぼ一致する方向に配置されている。

発見された柱穴は、基本的には4本 (Pit1~4) で、ほかは調査区外にある。

東西2間の建物跡で、東西長5.40m・柱間距離2.70mを測る。Pit4の0.30m西側には、やや規模の小さなPit5が存在する。対応するPit位置すべてが調査区外にあるため断定できないが、建替・拡張が行われた可能性が考えられる。南北方向の柱間数は不明であるが、Pit2-Pit1の柱間距離が2.25mを計測する。

以上のことから、規模が東西5.40m (5.70m) ×南北4.50m、面積24.3㎡ (25.65㎡)、桁行2間×梁行2間の(脚)柱建物跡が復元される。南北軸方位はN-30° -Wを指す。

柱穴の覆土は、2層が柱痕で、3層が柱掘り方の充填土である。Pit5の柱掘り方充填土4層には3層と異なる土壌が堆積し、建替時に伴う土壌と考えることができる。

出土した遺物はない。

3. 土壌

本報告が対象とする城敷遺跡北半部から発見された土壌は、9基（第30～38号土壌）である。住居跡や溝跡の途切れた空間地に散発的に分布する。2～3基がまとまったような様相も見られないわけではないが、積極的に一単位として括れるほどの位置関係にはない。

第37号土壌（第350図）

ZS-10グリッドに位置し、重複する遺構はない。

平面形態は、円形である。長軸長0.65m、短軸長0.60m、確認面からの深さ0.23mを測る。長軸方位はN-28°-Wを指す。

遺物は、上層の1層から須恵器甕がまとまって出土している（第352図1～5）。外面には格子タキが施され、内面の当て具痕はいいねいにナデ消されている。これらは、直接的な接合関係にはないが、第101～103号住居跡から出土した第334・335図1・22～24、第337図21と酷似し、同一個体と思われる。胎土や器形から陶邑産のTK73段階と推定される。

第31号土壌（第350図）

ZS-14グリッドに位置し、重複する遺構はない。三方を第4・10・16号溝跡によって画された、住居が構築されていない区域に所在する。

平面形態は、楕円形である。長軸長4.03m、短軸長2.05mと、大型の土壌である。底面は北から南に向かって傾斜を持ち、確認面からの深さは北側で0.47m、南側で0.63mを測る。長軸方位はN-38°-Wを指す。覆土は2層で、上層には多量の炭が含まれ、また間層にも炭が薄く堆積している。

遺物は、出土していない。

第38号土壌（第350図）

ZS-16グリッドに位置する。第107号住居跡・第24号溝跡と重複するが、新旧関係は明確ではない。

平面形態は、楕円形である。規模は現存で、長軸長1.06m、短軸長0.65m、確認面からの深さ0.27mを測る。長軸方位はN-38°-Wを指す。覆土は1層の自然堆積である。

遺物は、出土していない。

第36号土壌（第350図）

ZW-6グリッドに位置する。第88号住居跡と重複し、この部分の壁は検出されていない。両者の新旧関係は不明である。

平面形態は、楕円形である。長軸長は3.05mを測り、短軸長は約1.6mと推測される。底面は中央が段を有して窪み、確認面からの深さは上段が0.25m、底面までが0.38mを測る。長軸方位はN-58°-Eを指す。

覆土は上下2層に分層される。上層には多量の炭・焼土が含まれ、長軸上の有段付近から古墳時代の土師器坏・壺・甕、須恵器甕（陶邑産）が出土している（第353図）。

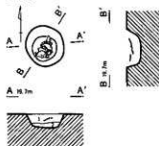
第35号土壌（第350図）

ZW-7グリッドに位置する。重複する遺構はない。

平面形態は、円形である。長軸長2.63m、短軸長2.33m、確認面からの深さ0.04～0.09mを測る。長軸方位はN-16°-Wを指す。

遺物は、古墳時代の土師器瓶片が1片のみ出土している。細片のため図示できないが、胎土には白色針状物質が含まれている。

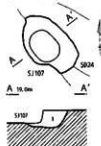
SK 37



SK 37

- 1 暗褐色土 炭少量 粘土粒子多量
- 2 暗褐色土 炭・粘土粒子少量

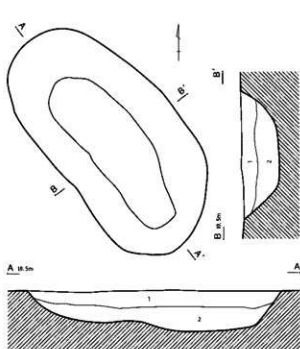
SK 38



SK 38

- 1 暗褐色土 炭少量

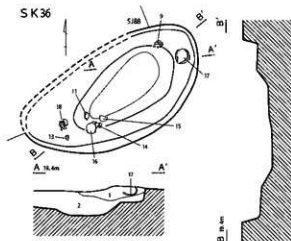
SK 31



SK 31

- 1 灰褐色土 炭多量 オリブ灰色粘土ブロック含む
- 2 暗褐色土 オリブ灰色粘土ブロック主体 炭少量

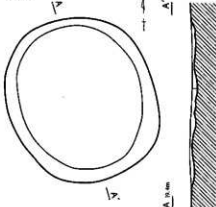
SK 36



SK 36

- 1 暗褐色土 炭・粘土多量
- 2 暗褐色土 炭・粘土少量

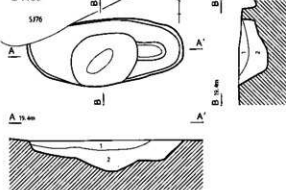
SK 35



SK 35

- 1 暗褐色土 炭わずか

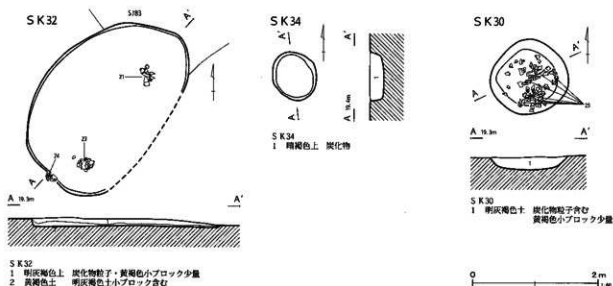
SK 33



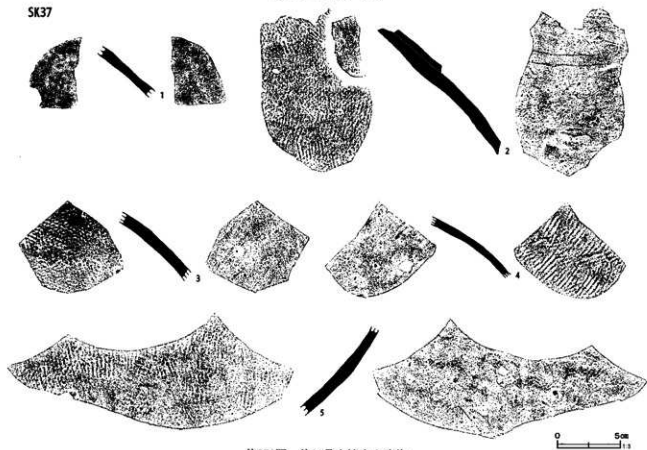
SK 33

- 1 暗褐色土 炭化物粒子含む 炭褐色小ブロック少量
- 2 暗褐色土 炭より暗い 炭化物粒子多量(上層に集中) 黄褐色土ブロック多量 埋め戻しの土





第351図 土壌 (2)



第352図 第37号土壌出土遺物

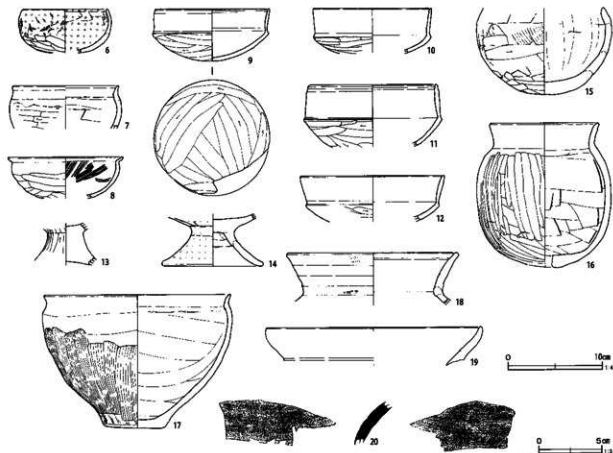
第33号土壌 (第350図)

ZW-13グリッドに位置する。重複する第76号住居跡との新旧関係は不明である。

平面形態は、長楕円形である。長軸長245m、短軸長1.05mを測り、長軸方位はN-87°-Eを

指す。底面の中央が円形に掘込まれ、東側には溝状の浅い掘込みが見られる。確認面からの深さは、西側0.21m、中央部0.50m、東側0.32mである。覆土は上下2層に分層され、下層には多量の炭化物粒子と黄褐色土ブロックを含み、人為的に埋め戻

SK36



第353図 第36号土壌出土遺物

された土層と観察できる。

遺物は、出土していない。

第32号土壌 (第351図)

ZW-14・15グリッドに位置する。覆土の堆積状況から、重複する第83号住居跡よりも新しい。

長軸方向東辺部の壁を検出できなかったが、平面形態は楕円形と推定される。長軸長3.02m、確認面からの深さは最大0.13mを測る。短軸長は約2mと推定される。長軸方位はN-45° - Eを指す。

遺物は、北半の中央付近から土師器高坏 (第354図21)、南半壁際付近から土師器甕 (24)・壺 (23) が出土している。

第34号土壌 (第351図)

ZW-19グリッドに位置し、重複する遺構はない。

平面形態は、円形である。長軸長0.80m、短軸長0.70m、確認面からの深さ0.22mを測る。長軸方位はN-23° - Wを指す。

遺物は、出土していない。

第30号土壌 (第351図)

ZX-15グリッドに位置し、重複する遺構はない。

平面形態は、やや角張った円形である。長軸長1.25m、短軸長1.20m、確認面からの深さ0.21mを測る。長軸方位はN-89° - Eを指す。

遺物は、底面から浮いた状態で、土師器甕 (第354図25) が割れた状態で出土している。

SK32



21

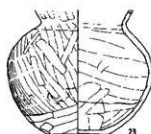


22

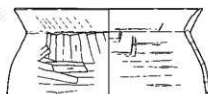
0

10cm

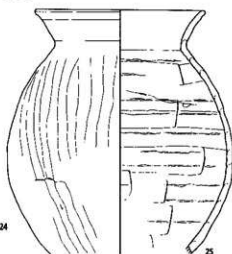
1:4



23



SK30



25

第354図 第30・32号土壇出土遺物

第92表 土壇出土遺物観察表 (第352・353・354図)

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 残存 | 焼成 | 色調 | 備考 | 出土位置 | 図版 |
|----|-----|-----|-------|-----|-------|--------|----|----|-----|---------------------------|---------------------|-------|
| 1 | 須恵器 | 壺 | - | 54 | - | I | 5 | 普通 | 灰 | SK37 陶色産 TK73脱脂 | No1 SJ102・103上同一體 | |
| 2 | 須恵器 | 壺 | - | 113 | - | EH IK | 5 | 良好 | 灰 | SK37 陶色産 TK73脱脂 焼成時に割破片付着 | SJ102・103上同一體 | |
| 3 | 須恵器 | 壺 | - | 54 | - | DEHIK | 5 | 良好 | 黄灰 | SK37 陶色産 TK73脱脂 自然輪 | No1 SJ102・103上同一體 | |
| 4 | 須恵器 | 壺 | - | 64 | - | ADEHIK | 5 | 良好 | 黄灰 | SK37 陶色産 TK73脱脂 自然輪 | No1 SJ102・103上同一體 | |
| 5 | 須恵器 | 壺 | - | 88 | - | CIH | 5 | 良好 | 灰 | SK37 陶色産 TK73脱脂 | No1 SJ102・103上同一體 | |
| 6 | 土師器 | 坏 | (96) | 47 | - | CDEHIJ | 30 | 普通 | にみづ | SK36 赤彩 | | |
| 7 | 土師器 | 瓶 | (110) | 45 | - | AHIK | 10 | 普通 | 明赤褐 | SK36 赤彩不明瞭 | | |
| 8 | 土師器 | 瓶 | (120) | 43 | - | CEIK | 50 | 普通 | 橙 | SK36 内面暗文 器面風化 赤彩不明瞭 | | 163-2 |
| 9 | 土師器 | 坏 | 119 | 54 | - | CDEH | 70 | 良好 | 橙 | SK36 坏蓋模倣 赤色粒子多 | No3 | 163-3 |
| 10 | 土師器 | 坏 | (127) | 47 | - | BCDHIK | 30 | 普通 | 橙 | SK36 坏蓋模倣 | | |
| 11 | 土師器 | 坏 | (134) | 65 | - | ABCHIK | 20 | 普通 | 橙 | SK36 坏蓋模倣 赤色粒子多 | No7 | |
| 12 | 土師器 | 坏 | (154) | 48 | - | ACDHI | 10 | 普通 | 橙 | SK36 坏蓋模倣 | | |
| 13 | 土師器 | 高坏 | - | 44 | - | CEIK | 70 | 普通 | にみづ | SK36 No8 | | |
| 14 | 土師器 | 高坏 | - | 55 | (103) | ACEHIK | 66 | 普通 | にみづ | SK36 短脚 外面赤彩 | No5 | |
| 15 | 土師器 | 小型壺 | - | 91 | - | BCEHIK | 90 | 普通 | 橙 | SK36 欠損部二次加工 (輪・軸に転用か?) | No4 | 163-5 |
| 16 | 土師器 | 小型壺 | 114 | 152 | - | DEH | 95 | 普通 | にみづ | SK36 瓶に転用か? | No6 | 163-4 |
| 17 | 土師器 | 鉢 | 195 | 141 | 66 | DEGHI | 80 | 普通 | 橙 | SK36 内面風化 | No2 | 163-6 |
| 18 | 土師器 | 壺 | (178) | 55 | - | ACEHIK | 30 | 普通 | にみづ | SK36 器面風化 赤彩不明瞭 | No1 | |
| 19 | 土師器 | 壺 | (227) | 40 | - | BCEHIK | 10 | 普通 | にみづ | SK36 赤彩不明瞭 | | |
| 20 | 須恵器 | 壺 | - | 40 | - | I | 5 | 良好 | 灰 | SK36 陶色産 | 5世紀代 | |
| 21 | 土師器 | 高坏 | (154) | 57 | - | EHIJ | 30 | 普通 | にみづ | SK32 赤彩不明瞭 内外面に二次的の被熱痕 | No3 | |
| 22 | 土師器 | 瓶 | (146) | 50 | - | ACHIJ | 15 | 普通 | にみづ | SK32 赤彩不明瞭 赤色粒子多 | | |
| 23 | 土師器 | 壺 | - | 131 | 64 | ACEIK | 80 | 普通 | にみづ | SK32 外面に二次的の被熱による煤付着 | No2 | 163-7 |
| 24 | 土師器 | 壺 | (197) | 91 | - | ACEIK | 10 | 普通 | にみづ | SK32 外面に二次的の被熱痕 | No1 | |
| 25 | 土師器 | 壺 | 176 | 258 | - | ACEHIK | 30 | 普通 | にみづ | SK30 外面に二次的の被熱痕 | No1-2-7-14-15-18-20 | 164-1 |

4. 溝跡

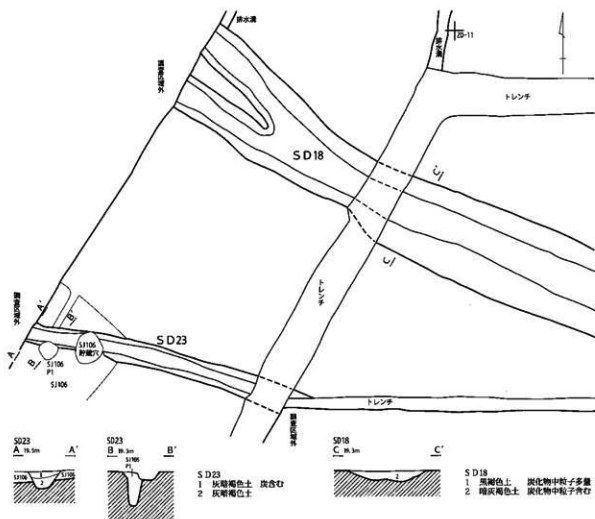
本報告が対象とする城敷遺跡北半部から発見された溝跡は、21条（第10～30号溝跡）である。このほかに、大溝跡とした河川に人工的な施設を設けた第4号溝跡がある。各溝跡は、第4号溝跡の存在を抜きにして考えることはできない。第22号溝跡のように併走、第10号溝跡のように直交するような位置関係を示すものもある。また、住居跡は第4号溝跡を避けるように構築されている。当然のことながら、第4号溝跡の影響を色濃く受ける各溝跡は、概ね住居跡のない空間に掘削されているものが多い。

ZQ・ZR・8・9グリッドに位置する第19・

20・21号溝跡と第27・28・29・30号溝跡は例外的で、住居跡との重複が著しい。他の溝跡と比較すると、これら7条の溝跡の幅は狭く、浅く、それぞれが平行・直交する位置関係に分布する一群である。7条の溝跡によって、一つの区画が形成されていたものと推定される。

第18号溝跡（第355図）

調査区北西端のZO-10～12グリッドに位置し、第23号溝跡と併走する。重複する遺構が無く、近辺には住居跡が少ない。そのため、時代性が不明確ではあるが、集落の外周を画していた機能も考



第355図 溝跡 (1)

えられる。

西端部で二股に分かれていることから、本来は2条の溝が合流した溝跡と考えられる。覆土の堆積状況では、上下2層に分層される自然堆積層であり、同時期に機能していた溝跡と推定される。検出長21.2m、上幅1.24~1.76m・下幅0.64~0.80m、確認面からの深さ0.30~0.34mを測る。走行方位はN-65°-Wを指す。また、二股に分かれる西端部の規模は、北側が上幅0.84m・下幅0.46m、確認面からの深さ0.30m、南側が上幅0.76m・下幅0.46m、確認面からの深さ0.27mである。溝底標高は、西端部付近18.85m、土層断面ポイントC-C'付近18.72m、中央付近18.61m、東端部付近18.63mを計測し、溝底は西から東の方向に

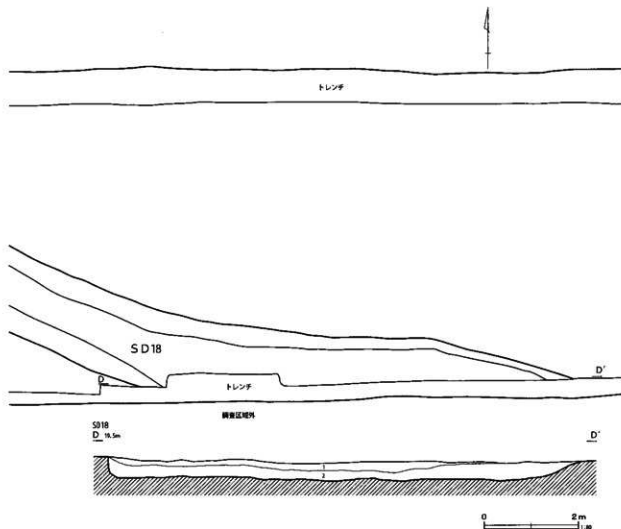
向かって下る傾斜をもっている。

遺物は、古墳時代前期の壺・甕片が出土しているが、いずれも細片のため図示し得たのは3点である。第361図1・3が壺、2が甕である。1には凸帯・横線文・鋸歯文が、2・3には縄文が施されている。

第23号溝跡（第355図）

ZO-10・11グリッドに位置する。道路幅の調査区域が交差する交差点に位置し、西側・東側ともに調査区域外に繋がる。北側に走る第18号溝跡と併走する。重複する第106号住居跡よりも新しい。

検出長6.04m、上幅0.44~0.52m・下幅0.20~0.26

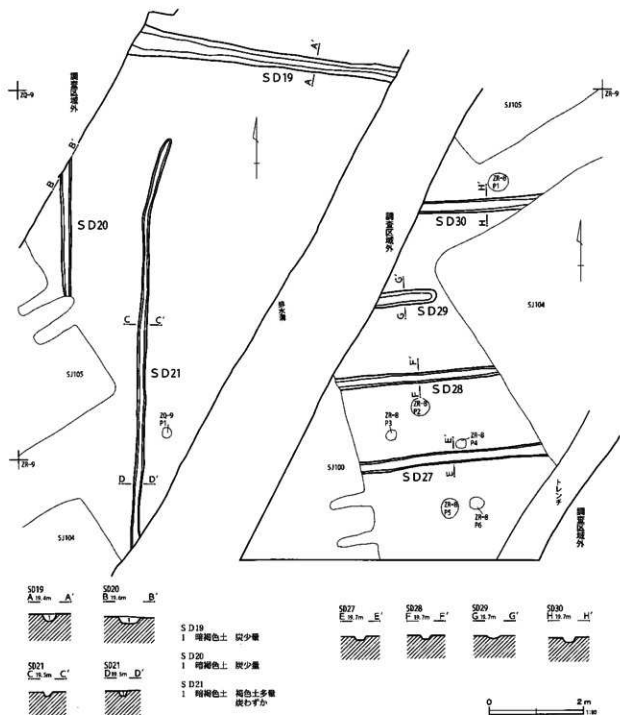


m、確認面からの深さ0.17~0.20mを測る。走行方位はN-77°-Wを指す。溝底標高は、西側調査区域境界付近1884m、中央付近1885m、東側調査区域境界付近1885mを計測し、溝底には傾斜がみられない。

遺物は出土していない。

第19・20・21・27・28・29・30号溝跡 (第356図)

ZQ・ZR-8・9グリッドに位置する7条の溝跡である。それぞれが平行もしくは直交する位置関係に分布し、溝跡の幅・深さに共通項をもつ。他の溝跡にはほとんど見られない住居跡との重複も顕著である。そのため、他の溝跡とは用途の異



第356図 溝跡 (2)

なることが予想される。また、共通する様相を示す溝跡の集中する分布状況には、単純な溝跡の集合体ではなく、7条の溝跡によって形成された一区画として土地が利用された可能性が推定される。

第19号溝跡 (第356図)

ZQ-9グリッドに位置する。第20・21号溝跡と直交する位置関係にあるが、調査区域内では重複しない。

検出長5.6m、上幅0.25～0.60m・下幅0.07～0.33m、確認面からの深さ0.14～0.18mを測る。走行方位はN-82°-Wを指す。溝底標高は、東端部付近19.05m、中央付近19.00m、西端部付近19.00mを計測し、溝底は東から西の方向に下る傾斜をもっている。

遺物は出土していない。

第20号溝跡 (第356図)

ZQ-9グリッドに位置する。第21号溝跡と併走し、第19号溝跡と調査区域外で直交する。また第105号住居跡と重複するが、新旧関係は不明である。

検出長30m、上幅0.16～0.22m・下幅0.08～0.10m、確認面からの深さ0.07～0.10mを測る。走行方位はN-0°-Eを指す。溝底標高は、北端部付近19.19m、南端部付近19.19mを計測し、溝底は水平が保たれている。

遺物は出土していない。

第21号溝跡 (第356図)

ZQ・ZR-9グリッドに位置する。第20号溝跡と併走し、第19号溝跡と調査区域外で直交する。

検出長8.8m、上幅0.16～0.18m・下幅0.09m、確認面からの深さ0.08mを測る。北側の先端でわずかに屈曲し、走行方位は北端部N-15°-E、ほかはN-2°-Eを指す。溝底標高は、屈曲部付近19.14m、中央付近19.14mを計測し、溝底の傾

斜はみられない。

遺物は、古墳時代前期の土器器台付甕の細片が1片出土しているが、図示し得ない。

第27号溝跡 (第356図)

ZR-8グリッドに位置し、第28・29・30号溝跡とほぼ等間隔に併走する。第100・104号住居跡と重複するが、新旧関係は不明である。

検出長5.9m、上幅0.25～0.26m・下幅0.20～0.21m、確認面からの深さ0.10mを測る。走行方位はN-84°-Eを指す。溝底標高は、西端付近19.33m、東端付近19.29mを計測し、溝底は西から東の方向に下る傾斜をもっている。

遺物は出土していない。

第28号溝跡 (第356図)

ZR-8グリッドに位置し、第27・29・30号溝跡とほぼ等間隔に併走する。第100・104号住居跡と重複するが、新旧関係は不明である。

検出長5.4m、上幅0.20～0.22m・下幅0.11～0.14m、確認面からの深さ0.07～0.09mを測る。走行方位はN-85°-Eを指す。溝底標高は、西端付近19.33m、東端付近19.38mを計測し、溝底は東から西の方向に下る傾斜をもっている。

遺物は出土していない。

第29号溝跡 (第356図)

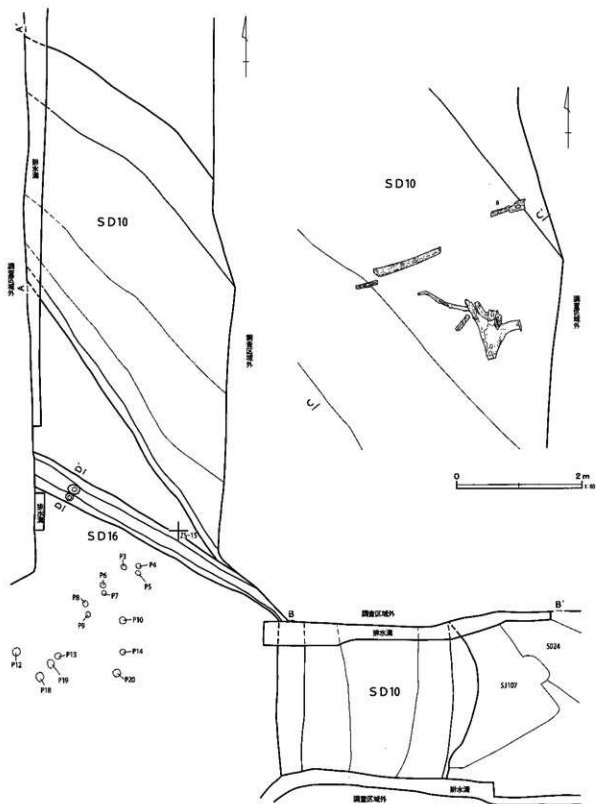
ZR-8グリッドに位置し、第27・28・30号溝跡とほぼ等間隔に併走する。

検出長1.3m、上幅0.30m・下幅0.23m、確認面からの深さ0.05m、中央付近の溝底標高19.34mを測る。走行方位はN-85°-Eを指す。

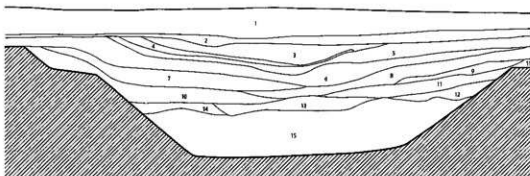
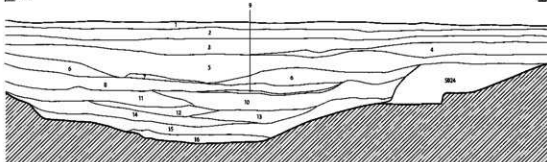
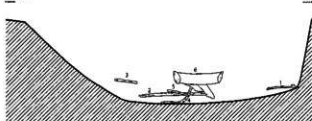
遺物は出土していない。

第30号溝跡 (第356図)

ZR-8グリッドに位置し、第27・28・29号溝跡とほぼ等間隔に併走する。第104号住居跡と重

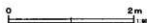


第357図 溝跡(3)

S10
A 20.1mS10
B 20.1mS10
C 16.1mS16
D 19.3m

- A-A'
- 1 褐色土 表土層
 - 2 褐色土 黄灰色粘土を含む 鉄屑多量
- S D10
- 3 褐色土 粘上質 黄灰色粘土・炭化物を含む マンガン分布する
 - 4 褐色土 黄灰色粘土多量含む 炭化物 (3~8mm) 少量
 - 5 褐色土 黄灰色粘土ブロック (1m) をまばらに含む 炭化物
 - 6 暗褐色土 黄灰色粘土ブロック (1m) をまばらに含む 炭化物 (3~5mm) を全体に含む 5層より細かい
 - 7 暗褐色土 黄灰色粘土ブロック (1m) をまばらに含む 炭化物 (3~5mm) 少量 6層より細かい
 - 8 暗褐色土 黄灰色粘土ブロック (1m) 多量 炭化物 (1~2mm) 散石
 - 9 黄灰色土 黄灰色粘土ブロック (1m) ・炭化物 (1cm) 少量
 - 10 黄灰色土 灰白粘土ブロック (2~3mm) 多量 炭化物 (1~2mm) 散石 9層のグラ化した層
 - 11 明黄灰色土 淡青灰色粘土ブロック (1m) 多量 炭化物 (3~5mm) 少量
 - 12 黄灰色土 淡青灰色粘土ブロック (1m) 多量 炭化物 (2~3mm) 少量
 - 13 暗褐色土 淡青灰色粘土ブロック (2~3mm) ・炭化物 (1~2mm) 全体を含む
 - 14 淡緑灰色土 淡緑灰色粘土と砂の混土層
 - 15 黒灰色土 淡緑灰色粘土ブロック (2~3mm) 多量 炭化物 (3~5) を全体に含む

- B-B'
- 1 褐色土 鉄分・マンガン沈積
 - 2 赤褐色土 酸化鉄の集積層 シルト質 水田下の土壌
 - 3 褐色土 酸化鉄が集積する マンガン沈積 シルト質 水田下の土壌
- S D10
- 4 暗褐色土 シルト質 灰白色粘土ブロック (5~8mm) 全体を含む
 - 5 褐色土 粘上質 マンガン分布する
 - 6 赤赤褐色土 酸化鉄の集積層
 - 7 褐色土 灰白色ブロック (2~3mm) を多く含む 炭化物少量
 - 8 暗褐色土 灰白色ブロック (1~2mm) 少量 マンガン・鉄分沈積 砂を多く含む 炭化物
 - 9 暗褐色土 砂を多く含む 炭化物 シルト質
 - 10 暗褐色土 シルト質 淡青灰色粘土ブロック・炭化物 (2~3mm) を全体を含む
 - 11 褐色土 粘上質 炭化物 (2~3mm) をまばらに含む
 - 12 暗褐色土 炭化物 (1~2mm) をまばらに含む
 - 13 暗褐色土 炭化物 (3~8mm) をやや多く含む
 - 14 褐色土 粘上質 炭化物 (1~2mm) をまばらに全体を含む
 - 15 淡緑灰色土 粘上質 炭化物 (1~2mm) を多く含む 有機質を含む



複するが新旧関係は不明である。

検出長46m、上幅0.23～0.26m・下幅0.14～0.16m、確認面からの深さ0.07mを測る。走行方位はN-88°-Eを指す。溝底標高は、西端付近19.28m、東端付近19.26mを計測し、溝底は西から東の方向に下る傾斜をもっている。

遺物は出土していない。

第10号溝跡 (第357図)

ZR-14・15、ZS-15グリッドに位置する。第16号溝跡・第107号住居跡と重複するが、新旧関係は不明である。また、調査区域境界壁の断面観察では第24号溝跡との交差が確認され、第10号溝跡の方が新しい。

総検出長約238m、上幅5.30～6.70m・下幅1.32～2.24mを測り、きわめて幅が広い。調査区域外のZR-15グリッドで屈曲し、走行方位はZR-14・15グリッドがN-43°-W、ZS-15グリッドがN-4°-Eを指す。確認面からの深さは1.02～1.68mほどである。溝底標高は、ZR-14・15グリッド西端付近17.51m・東端付近17.52m、ZS-15グリッド北端付近17.82m・南端付近17.86mを計測し、溝底は南から北の方向に下る傾斜をもっている。

覆土の堆積状況は自然堆積で、上層から下層まで全体的に粘土ブロックが多くみられる。また、上層には鉄分やマンガンが堆積し、下層には炭化物が含まれている。

遺物は、北側検出部の東端部から古墳時代前期～中期の土師器と木製品が出土している。特に木製品は溝底付近から検出されている。出土量は少なく、図示したほかには土師器細片14片である。

第361図8は木製品の盤で、平面は方形である。図上部分は被熱により焼失し、炭化痕が著しい。図下部分は欠損している。板材から成形された刳物である。平らな底部から短い口縁部が立ち上がる形状で、口縁部は両短辺部ともに一部分である

が残存している。器厚は底部に比べ、口縁部は厚い。口縁部近くでは、刳込みの工具痕が観察できる。背面には台脚がケズリ出されている。四足の台脚と推定されるが、長辺方向に対応する台脚は剥離し、残存していない。長さ9.8cm、幅4.4cm、高さ3.3cmの長方形である。木目に沿った長辺方向には手斧等のケズリによって形づくり、木目と直交する短辺方向は鑿等で垂直に成形されている。そのため、台脚部短辺裾部には工具痕による凹みが残っている。背面全体はケズリによって調整されているが、器面の剥離箇所が多く、上面に比べて雑な仕上がりにある。大きさは、長さ60.6cm、現存幅11.3cm、高さ6.2cm、底部板厚1.6cm、口縁部板厚1.8cmである。木取りは柾目、樹種はスギである。(図版164-2・3、取り上げNo.1)

第16号溝跡 (第357図)

ZR-14、ZS-14・15グリッドに位置する。第10号溝跡と重複するが、新旧関係は不明である。

検出長9.3m、上幅0.70～1.00m・下幅0.24～0.46m、確認面からの深さ0.14～0.17mを測る。走行方位はN-60°-Wを指す。溝底標高は、西端付近19.05m、中央付近19.08m、東端付近19.10mを計測し、溝底は東から西の方向に下る傾斜をもっている。

西端付近には、径0.16～0.25m、底面の高さがほぼ一致する2本のピットが並んでいる。南側に分布するZS-14グリッドのピットとは平面規模が異なるため、第16号溝跡に伴うピットと断定される。用途は不明である。

覆土の堆積状況は明確ではないが、土層断面B-B' 7層が相当する可能性があり、その場合には、第10号溝跡よりも新しい遺構となる。

遺物は出土していない。

第22号溝跡 (第358図)

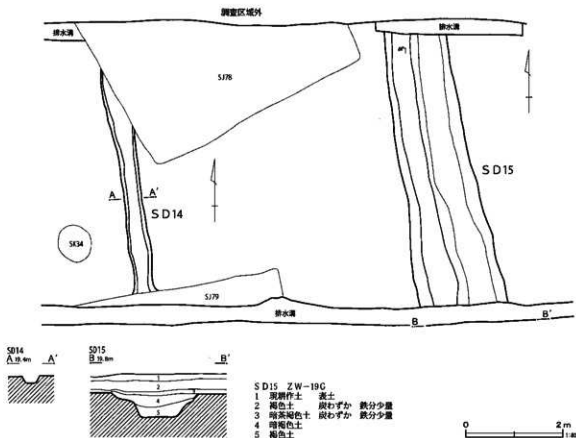
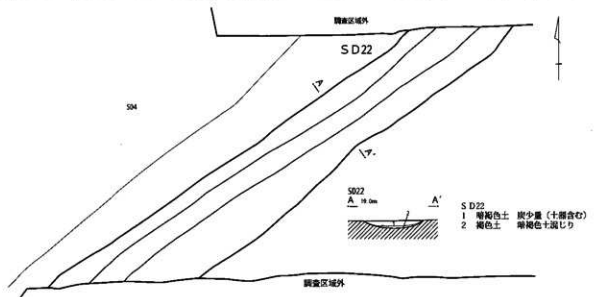
ZW-10・11グリッドに位置し、第4号溝跡第

2地点の東側を併走する。そのため、第4号溝との関連が目されるが、検出された箇所から導き出すことは困難である。

検出長88m、上幅1.26~1.58m・下幅0.36~0.56m、確認面からの深さ0.09~0.16mを測る。走行方位

はN-57°-Eを指す。溝底標高は、東端付近18.58m、中央付近18.55m、西端付近18.59mを計測し、溝底に傾斜はみられない。

遺物は、古墳時代前期の土師器台付甕が1片出土しているが、碎片のため図示し得ない。



第358図 溝跡(4)

第14・15・11号溝跡 (第358・359図)

ZW-19・20グリッドに併走する3条の溝跡で、水田の畦畔に伴うような溝跡と推測される。

第14号溝跡 (第358図)

ZW-19グリッドに位置し、A-20グリッドまで継続する溝跡と推測される。第15・11号溝跡と併走する。北側で第78号住居跡、南側で第79号住居跡と重複する。新旧関係は、覆土の堆積状況から第78・79号住居跡の方が新しい。

検出長4.8m、上幅0.36~0.46m・下幅0.22~0.34m、確認面からの深さ0.12~0.18mを測る。走行方向

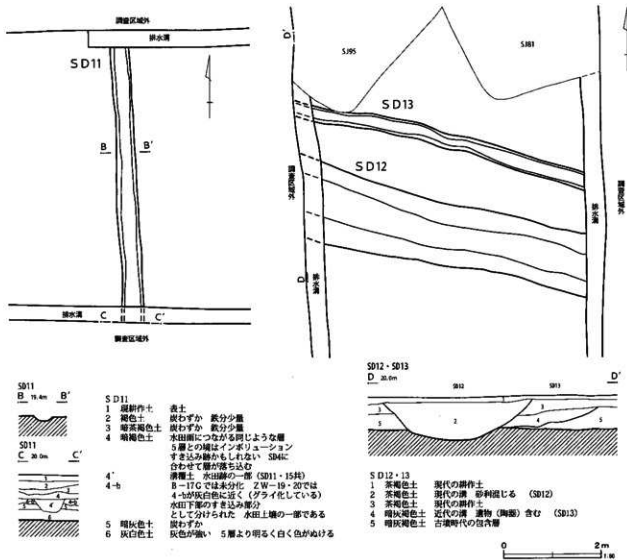
はN-8°-Wを指す。溝底標高は、第78号住居跡と重複する北端付近18.99m、中央付近19.02m、第79号住居跡と重複する南端付近19.00mを計測し、溝底の傾斜はみられない。

遺物は、古墳時代後期~奈良時代の土師器環・皿・壺・甕片が出土しているが、いずれも細片のため図示し得ない。

第15号溝跡 (第358図)

ZW-19グリッドに位置し、A-20グリッドまで継続する溝跡と推測される。

東側に浅いテラス部をもつ。検出長5.6m、上



第359図 溝跡 (5)

幅128～180m・下幅0.46～0.74m、確認面からの深さ0.11～0.21mを測る。走行方位はN-12°-Wを指す。溝底標高は、北端付近1895m、中央付近1897m、南端付近1891mを計測し、溝底は北から南の方向に下る傾斜をもっている。

遺物は出土していない。

第11号溝跡（第359図）

ZW-20グリッドに位置する。

検出長5.4m、上幅0.36～0.38m・下幅0.22～0.28m、確認面からの深さ0.08～0.10mを測る。走行方位はN-3°-Wを指す。溝底標高は、北端付近19.02m、中央付近19.02m、南端付近19.01mを計測し、溝底はほぼ水平である。

遺物は出土していない。

第12号溝跡（第359図）

ZZ-14・15グリッドに位置し、第13号溝跡と併走する。

検出長5.8m、上幅1.24～1.54m・下幅0.50～0.70m、確認面からの深さ0.14～0.17mを測る。走行方位はN-75°-Wを指す。溝底標高は、西端付近18.84m、中央付近18.85m、東端付近18.84mを計測し、溝底はほぼ平坦である。

出土遺物は少なく、図示した平瓦片1点のみである（第361図4）。

第13号溝跡（第359図）

ZZ-14・15グリッドに位置し、第12号溝跡と併走する。

検出長5.8m、上幅0.24～0.36m・下幅0.13～0.24m、確認面からの深さ0.06～0.07mを測る。走行方位はN-76°-Wを指す。溝底標高は、西端付近18.93m、中央付近18.94m、東端付近18.99mを計測し、溝底は東から西の方向に下る傾斜をもっている。

遺物は、須恵器甕片、土師器杯・甌・甕片が出

土しているが、いずれも細片のため図示し得ない。

第17号溝跡（第360図）

ZS-11グリッドに位置する。重複する遺構はない。

検出長6.2m、上幅1.04～1.34m・下幅0.12～0.44m、確認面からの深さ0.26～0.36mを測る。走行方位はN-19°-Eを指す。溝底標高は、北端付近19.11m、中央付近19.17m、南端付近19.23mを計測し、溝底は南から北の方向に下る傾斜をもっている。

第17号溝跡の西側には第103号住居跡が隣接するが、東側には住居跡の分布がみられない。出土した遺物がなく、時期を特定し得ないが、集落の外側を画する溝跡の機能も想起される。

第24号溝跡（第360図）

ZS-16・17グリッドに位置する。第107号住居跡と重複し、新旧関係は不明である。また、調査区域境界壁の断面観察では第10号溝跡との文差が確認され、第24号溝跡の方が古い。さらに第25・26号溝跡と走行方位をわずかに変えて併走する。

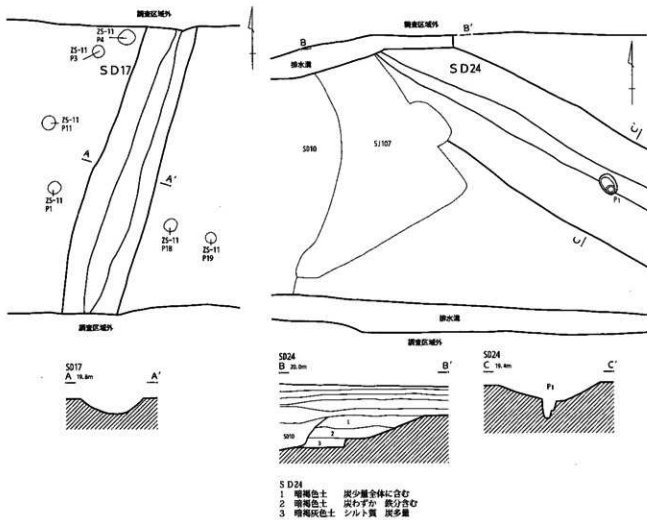
検出長1.26m、上幅1.84～2.32m・下幅0.32～0.48m、確認面からの深さ0.37～0.48mを測る。走行方位はN-62°-Wを指す。溝底標高は、西端付近18.64m、中央付近18.83m、東端付近18.70mを計測し、溝底は中央部が最も深い。

溝の中には、径0.25～0.40mほどのピットが5本検出されている。周囲にピットがみられない区域であり、これらのピットが溝跡に伴う遺構と推測される。用途は明確ではないが、第24号溝跡に架けられた橋の橋脚が埋め込まれた柱穴と推定することも可能である。

遺物は出土していない。

第25号溝跡（第360図）

ZS-16・17グリッドに位置し、第26号溝跡と併



第360図 溝跡 (6)

走する。

検出長84m、上幅1.04~1.86m・下幅0.39~0.84m、確認面からの深さ0.39~0.51mを測る。走行方位はN-43°-Wを指す。溝底標高は、北端付近1864m、中央付近1867m、南端付近1869mを計測し、溝底は南から北の方向に下る傾斜をもっている。

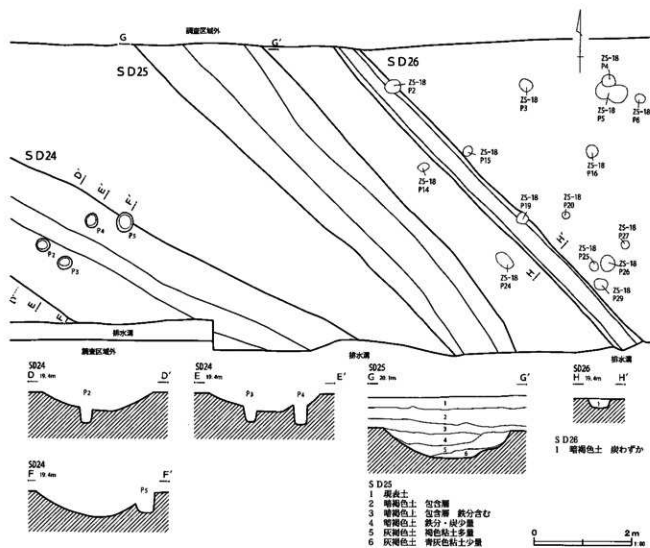
覆土は自然堆積で、遺物は出土していない。

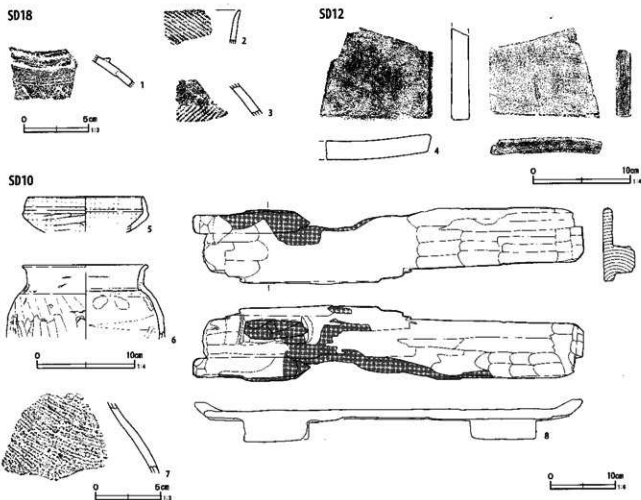
第26号溝跡 (第360図)

ZS-18グリッドに位置し、第26号溝跡と併走する。周辺に分布するグリッドピットとの重複がみられる。

検出長84m、上幅0.42~0.52m・下幅0.24~0.32m、確認面からの深さ0.10~0.18mを測る。走行方位はN-40°-Wを指す。溝底標高は、北端付近1898m、中央付近1892m、南端付近1894mを計測し、溝底は北から南の方向に下る傾斜をもっている。

遺物は出土していない。





第361図 溝跡出土遺物

第93表 溝跡出土遺物観察表 (第361図)

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 残存 | 焼成 | 色調 | 備考 | 出土位置 | 図版 |
|----|------|-----|-------|-----|----|--------|----|----|-------|------|------------------------|----|
| 1 | 土師器 | 壺 | - | 25 | - | ADEHIK | 5 | 普通 | 橙 | SD18 | ZO-10-11Gr | |
| 2 | 吉ヶ谷系 | 壺 | - | 26 | - | ACHIK | 5 | 普通 | にぶ・黄緑 | SD18 | ZO-10-11Gr | |
| 3 | 吉ヶ谷系 | 壺 | - | 20 | - | AHIK | 5 | 普通 | 灰白 | SD18 | ZO-10-11Gr | |
| 4 | 瓦 | 平瓦 | - | - | - | HIK | 5 | 良好 | 灰 | SD12 | 縦9.3cm 横10.8cm 厚さ1.9cm | |
| 5 | 土師器 | 坏 | (118) | 3.6 | - | EHI | 10 | 普通 | にぶ・橙 | SD10 | 坏身模数 赤彩 ZR-15Gr上層 | |
| 6 | 土師器 | 小型壺 | (126) | 7.6 | - | CDE | 40 | 普通 | にぶ・黄緑 | SD10 | 二次的被熱痕 ZR-15Gr上層・下層 | |
| 7 | 吉ヶ谷系 | 壺 | - | 6.4 | - | CEI | 5 | 普通 | にぶ・黄緑 | SD10 | ZS-15-16Gr | |

5. 大溝跡

城敷遺跡では、幅が広く、深い、大規模な溝跡が7地点にわたって検出されている。各地点の規模や覆土の堆積状況、出土遺物の種類・時期などには類似点が多いことから、同一の大溝跡と判断し、第4号溝跡として報告する。

この大溝跡は、古墳時代に城敷遺跡の集落のなかを縫うように蛇行していた河川跡と推定される。第362図に、予想されるルートを示した。

最西端の第4地点(ZZ-3・4グリッド、A-4・5・6・7グリッド)を基点に、西側から遺跡内に入り込む。第4地点では、西から東へ「し」の字状にカーブを描き、北上する。途中、第2地点(ZW-ZX-8・9・10グリッド)を経由し、第1地点(ZT-ZU-ZV-14・15グリッド)に至る。ここで屈曲して南方へ向きを変え、第3地点(ZW-15・16・17・18グリッド)に向かう。その後、第5地点(A-16・17グリッド)→第6地点(E・F・G-13・14・15・16グリッド)→第7地点(M・N・O・P-14・15グリッド)の順に緩やかに蛇行しながら南下し、調査区南端部で西側に抜けていく。また、先述した第10号溝跡は、第4号溝跡第1地点北側に位置し、他の溝跡に比べて規模も大きいことから、第4号溝跡に合流する可能性がきわめて高い。

城敷遺跡の集落は、この河川を避けるように営まれているため、大きく3地点に分割されてしまっている。しかし、河川の流れによって集落が分断されてしまったわけではない。当時の人々は、河川の流れを自然に任せていたわけではなく、人為的に流路がコントロールされている。大溝跡からは堰状施設や護岸施設、河川敷のようなテラス部等、人工的な土木事業の痕跡がみられる。また、随所に河川岸に昇降するための階段状施設や祭祀の場等の諸施設も設けられている。このように、生活の中で積極的に大溝跡が活用されていた痕

跡が多数発見され、大溝跡が集落と一体となって機能していたことは確実である。その一方では、集落の消長にも大溝跡の影響が大きく、流路の変更や水位の変化が運動したことが予想される。

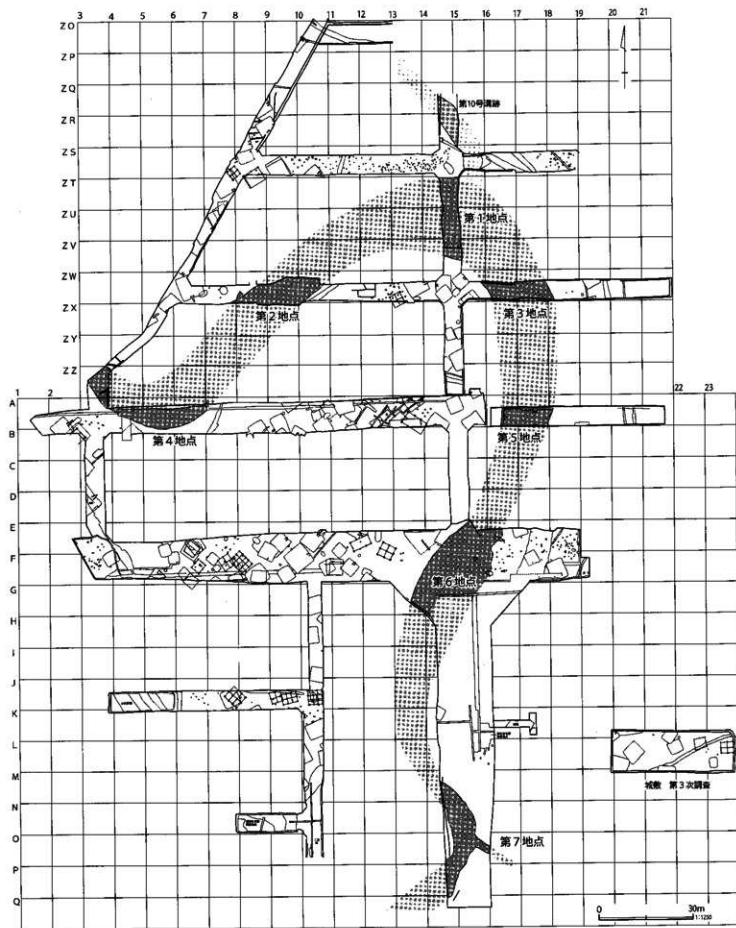
大溝跡の第4号溝跡は、7地点にわたって検出されている。本報告では、このうちの第1～3地点を対象とする。第4地点の一部も本報告の対象区域に含まれるが、第5～7地点と一括して次報告とする。

第4号溝跡第1地点(第363・364図)

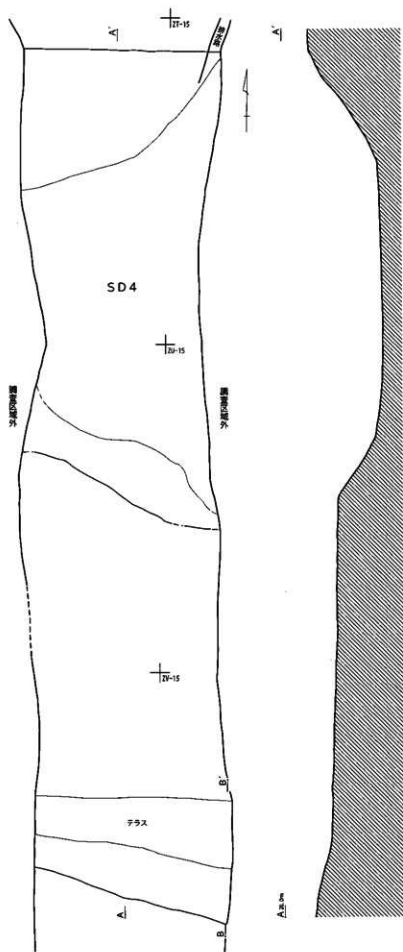
第4号溝跡第1地点は、第2地点～第1地点～第3地点と「へ」の字状に繋ぐ頂点に位置し、ZT-ZU-ZV-14・15グリッドを東西方向に走る。第1地点と南東側の第3地点との位置関係から、第4号溝跡は第1地点付近で急激なカーブを描いて屈曲する。カーブに囲まれた内側には、第76・80～86・95・96号住居跡、第13号掘立柱建物跡が位置する。

第4号溝跡第1地点では、住居跡の所在する河川流路の南側にテラス部が設けられている。テラス部は、幅120～128m、比高差0.7mほどの人工的に削平されたごく緩やかな斜面部である。このテラス部を形成することによって、河川との比高差を和らげ、河川の生活利用を容易にするための工夫と捉えられる。また増水時には掘削部も容積として加わることとなり、水害対策の一手段である可能性も考えられる。現在の河川における、堤防と流路の間の河川敷に相当する。

第4号溝跡第1地点の北岸は、明確には捉えられていない。平面規模は、西端では上幅25.5m・流路上幅12.7m・流路底幅7.00m・テラス幅12.8m、東端では上幅26.8m・流路上幅14.8m・流路底幅12.5m・テラス幅12.0mを測る。流路底幅が西端と東端で5.5mも差異が生じているが、これは流



第362图 第4号清跡地点配置图

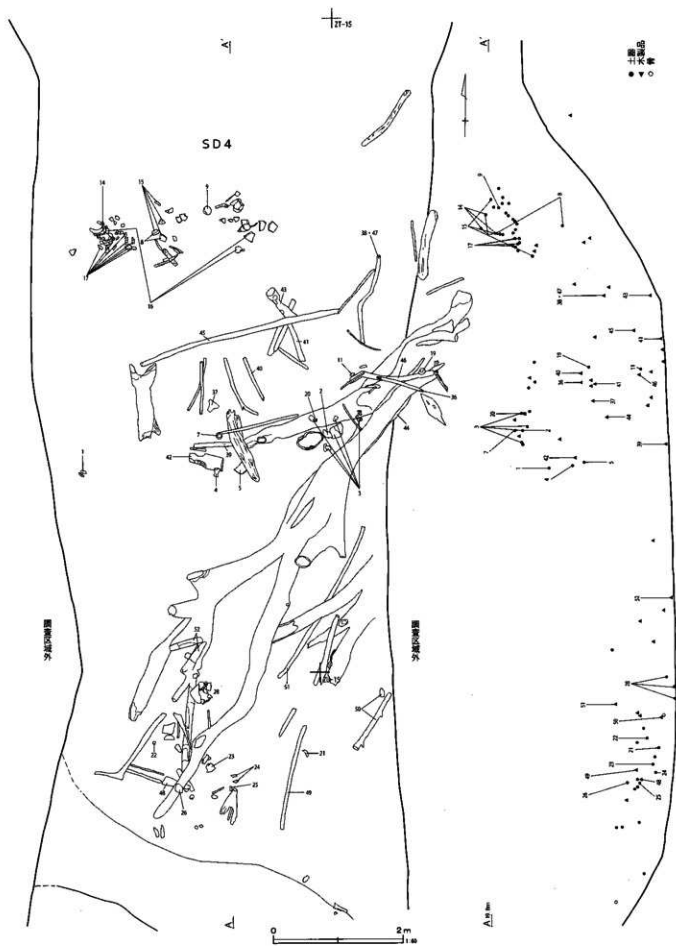


- SD4 第1地点
- 1 茶褐色土 現代の耕作土
 - 2 茶褐色土 現代の耕作土
 - 3 暗灰褐色土 水田耕作上の土壌化が進んでいる部分
 - 4 暗灰褐色土 3層より暗い 水田の耕作土
水田(時期不明)
 - 5 明灰褐色土 3層より暗い 水田(時期不明)
 - 6 暗灰褐色土 マンガン粒子少量 水田(時期不明)
 - 7 暗灰褐色土 マンガン粒子少量
 - 8 明灰褐色土 6層より暗い 炭化物小粒子・黄褐色
中ブロック少量 SD4テラスの礎土
黄褐色土ブロック含む 炭化物粒子少量
SD4テラスの礎土



0 4m
1:20

第363図 第4号溝跡第1地点



第364图 第4号沟第1地点遗物出土状况

路蛇行部の浸食作用の影響と推測される。確認面から溝底までの深さは、北側21m、南側19mで浸食作用の加わる北側が深く、堆積作用が働く南側が高くなっている。各要所の標高は、西端部の北上辺19.22m・北下辺17.11m・南下辺17.25m・テラス北端18.40m・北上辺18.58m、東端部の北上辺19.09m・北下辺17.62m・南下辺17.20m・テラス北端18.10m・北上辺19.06mを計測する。

第4号溝跡第1地点では、テラス部北西部から北東の方角に向かって、長さ8m以上の大木が横たわっている。流路の南岸から北岸に届くほどの長さである。「橋」を想起して精査を行ったが、橋脚等の橋を支えたような痕跡は見発されていない。また大木自体も捻じれた形状で、橋桁としての利用は考え難い。また、堰状の施設も想像できるが、この大木と溝底の隙間を塞ぐような人為的な行為が認められない。よって、流路際に自生していた樹木が、何らかの原因によって流路内に倒れ込んでしまった可能性が高い。

遺物は、流路内に横たわる大木の周辺部から須恵器・土師器・木製品が多量に出土している。遺物の分布状況は、大木によって南北に二分割されることから、北側をAブロック、南側をBブロックと呼称する。また、Aブロックでは、小振りな坏や長胴甕等の7世紀代の土師器を中心とする北岸付近の一群と、大木の北側に近接した木製品と5世紀代の須恵器・土師器を中心とする一群に分割される。木製品には椅子の脚や紡織具、建築部材、さらに漆の樹液が採取された漆原木も検出されている。

またBブロックでは、大木の下から約3mもの長さを有する一木から削り出した梯子が発見されている。この梯子を必要とする建造物は、櫓や高床建造物などの相当な高さをもつ大規模なものに限定される。高床建造物も二間四方ほどのムラの小さなクラではなく、豪族居館や祭殿などの特別な建造物が想定される。そして、城敷遺跡の

集落内を流れる大溝跡から発見された長さ3mの梯子の存在は、城敷遺跡のなかにこの長大な梯子を必要とする建造物が建立されていたことを物語っている。残念ながら、発掘調査では該当する建物遺構は見発されていないが、第4号溝跡第1地点南側の至近距離内に大型建造物が建立されていたことは疑う余地がない。これに加えて、北群Aブロックの5世紀代の須恵器は当時としては宝器的な逸品であり、城敷遺跡を巨大建物とこれらの宝器の所有が可能であった地位の集落として位置付けることができる。

第1地点Aブロックの遺物

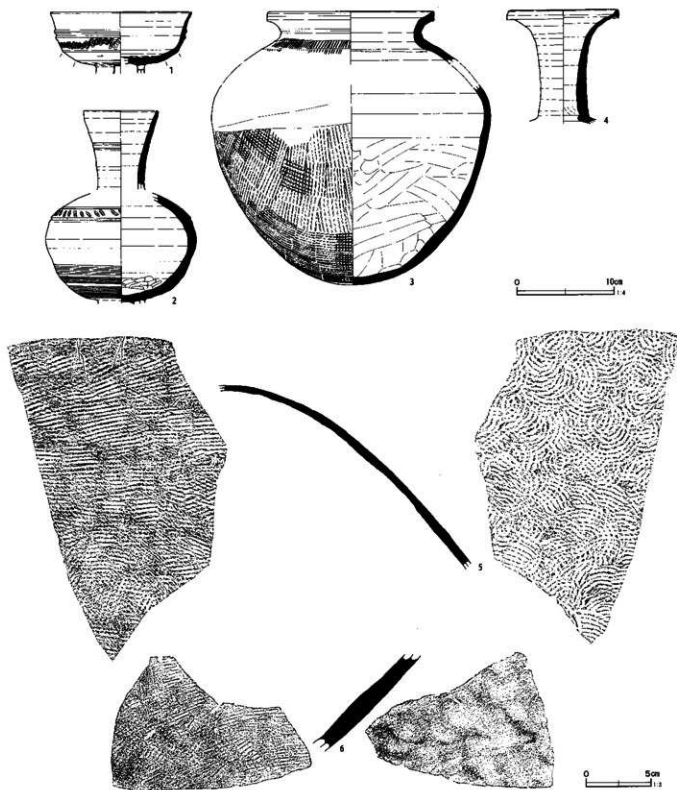
(第365・366・368～370図)

第365・366図1～20、第368図36～第370図47は第4号溝跡第1地点の遺物集中区北群(Aブロック)から出土した遺物である。このうち、8・9・13～17は、北岸付近から出土した小振りな坏や長胴甕等を中心とする土師器である。

第365図1～6は須恵器で、大型樹木の北側に近接した地点から木製品と共伴している。

1は、短脚四方透かしの無蓋高坏と思われる。器壁が薄い端正な造りで、外面には櫛描波状文が施されている。四方透かしに古い要素がみられる。透かしは鉄製工具によって切り抜かれ、工具痕が残る。器形の特徴から6世紀代の東海産と推定される。坏部内面には、焼成時の自然釉が附着している。

2は、脚付の長頸壺である。頸部付近を欠損するが、酷似した特徴や出土状況から同一個体として復元した。口縁部の中段部には平行沈線が巡る。肩部には沈線によって画されたなかに刺突文、胴部下半にはカキ目が施されている。形状から7世紀代と推測される。胎土には白色針状物質が含まれているが、奈良・平安時代の南比企産須恵器に含まれるものと比べると、細かいもので、少ない。在地産と推定されるが、産地は特定できない。

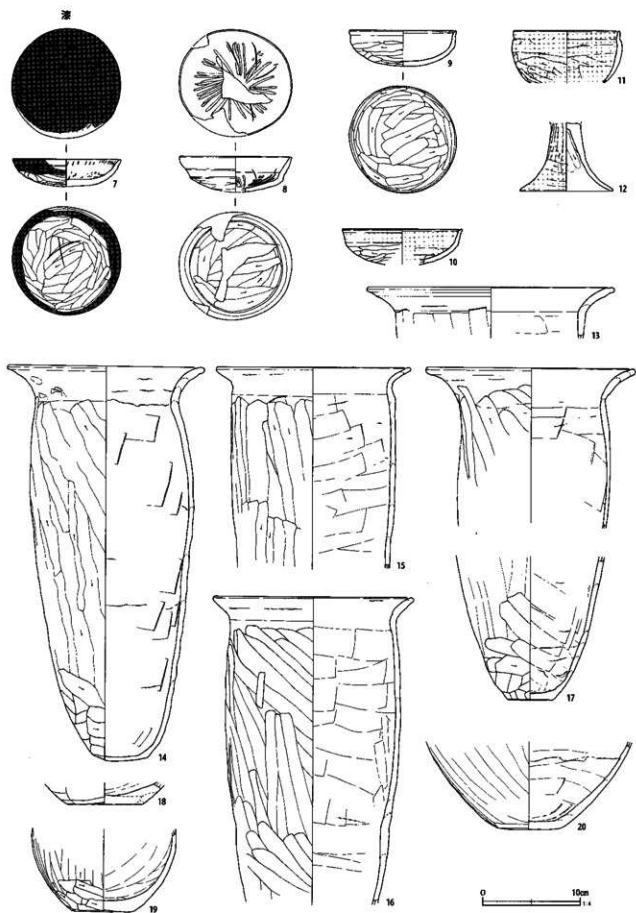


第365図 第4号溝跡第1地点出土遺物(1)

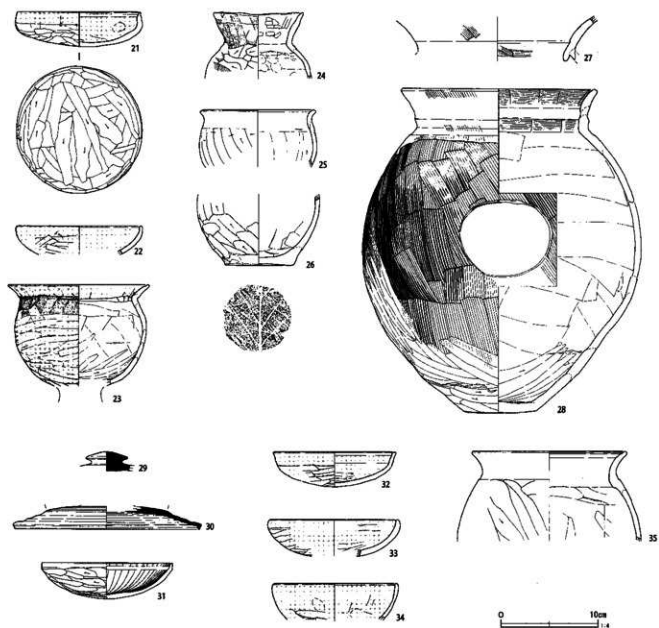
全体的に厚手の造りで、外面の大半と内面の口縁部上半には、焼成時の自然釉が付着している。

3は、甕である。外面には平行タタキの後に肩部にナデが、内面は下半部にナデ、上半部にロク

ロナデが施されている。二次的な被熱が窺われ、外面の風化が著しい。特に底部は顕著である。また、内面は燻されたような暗灰色化している。胎土中に白色針状物質が含まれていることから南



第366图 第4号溝跡第1地点出土物(2)



第367図 第4号溝跡第1地点出土遺物（3）

比企産で、7世紀代と推定される。

4は、長頸瓶である。覆土の上層から出土し、第369図42の柄穴と欠き込みの仕口加工が施された重厚な建築部材と共伴している。胎土に白色針状物質が含まれることから南比企産である。堅緻な造りで、器面には黒色斑点がみられる。時期は7世紀末～8世紀前半頃と推定される。またこれと共伴する7の土師器坏には、内面と外面の上半部に漆が塗布されている。また29・30の須恵器蓋や31の土師器北武蔵暗文坏がある。これらの遺物

は、共伴した建築部材の時期と第4号溝跡の埋没時期を類推する貴重な資料である。

5・6は南比企産の須恵器甕の胴部破片である。5は薄手の造りで、外面のタタキ痕と内面の当て具痕を明瞭に残す。また外面全体に、焼成時の自然釉が付着している。6は外面には平行タタキ後にナデ、内面にはナデが施されている。

第368図36～第370図47は、第1地点Aブロックから出土した木製品である。

第368図36は、紡織具の一部と推定される部材

第94表 第4号溝跡第1地点出土遺物観察表 (第365~367図)

| 番号 | 種類 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 残存 | 焼成 | 色調 | 備考 | 出土位置 | 図版 | |
|----|-----|-----|--------|-------|------|---------|-----|----|-----|-------------------------|-----------------------------------|---------|--|
| 1 | 須恵器 | 高坏 | (142) | 63 | - | EH1K | 40 | 良好 | 灰 | 東海産 6C代か 四方透かし | ZT-14GrNo41 | 166-1 | |
| 2 | 須恵器 | 附付蓋 | 75 | 197 | - | EHJ | 40 | 良好 | 暗灰 | 在地産 (不明) 7C代 | ZT-14GrNo3 ZT-15Gr上層 | 165-1 | |
| 3 | 須恵器 | 甕 | (168) | (280) | - | EHJ | 40 | 良好 | 灰 | 南北企産 7C代か 外面二次的焼熟 風化顯著 | ZT-14GrNo2・4・6・8 | 165-2 | |
| 4 | 須恵器 | 長頸瓶 | (111) | 115 | - | IJK | 70 | 良好 | 灰白 | 南北企産 7C末~8C前半 内外面に自然附着付 | ZT-14GrNo42 | 165-3 | |
| 5 | 須恵器 | 甕 | - | 21.3 | - | EIJ | 5 | 良好 | 灰 | 南北企産 | ZT-14GrNo45 | | |
| 6 | 須恵器 | 甕 | - | 106 | - | EJ | 5 | 良好 | 灰 | 南北企産 | ZT-14Gr | | |
| 7 | 土師器 | 坏 | 11.0 | 2.8 | - | AEIK | 100 | 良好 | 褐灰 | 内面~口縁部外面に漆塗布 内面暗文 | ZT-14GrNo13 | 166-4 | |
| 8 | 土師器 | 坏 | 11.4 | 3.6 | - | CEHIK | 85 | 普通 | にぶ青 | 模倣坏 内面暗文 石灰・赤色・黒色粒子多 | ZT-14GrNo27・28 | 166-4 | |
| 9 | 土師器 | 坏 | 10.8 | 3.6 | - | AEHJ | 100 | 良好 | 青 | ZT-14GrNo32 | | | |
| 10 | 土師器 | 坏 | (122) | 3.6 | - | AEHK | 20 | 普通 | にぶ青 | 模倣坏 赤彩 | ZT-14Gr | | |
| 11 | 土師器 | 坏 | (11.0) | 4.3 | - | HI | 20 | 良好 | にぶ青 | 赤彩 焼成堅緻 | ZT-14GrNo51 | | |
| 12 | 土師器 | 高坏 | - | 70 | (94) | CEHIJ | 20 | 普通 | 浅黄橙 | 器面風化顯著 | ZT-14Gr | | |
| 13 | 土師器 | 甕 | (25.1) | 5.3 | - | EHIKL | 30 | 普通 | 青 | 長頸化 小雛多 | ZT-14・15Gr | | |
| 14 | 土師器 | 甕 | 19.9 | 40.5 | 41 | CEH | 90 | 良好 | にぶ青 | 長頸化 | ZT-14GrNo24 | | |
| 15 | 土師器 | 甕 | 19.7 | 20.4 | - | ACEHIJK | 30 | 普通 | にぶ青 | 長頸化 外面一部赤色化 | ZT-14GrNo22・25・28 ZT-14・15Gr | 165-4 | |
| 16 | 土師器 | 甕 | (20.3) | 31.4 | - | AEHIJK | 50 | 良好 | 灰黄 | 長頸化 外面焼熟痕 | ZT-14GrNo24・36・37 | | |
| 17 | 土師器 | 甕 | (21.0) | - | 46 | CEHIK | 20 | 普通 | 灰黄 | 長頸化 | ZT-14GrNo16・17・19・20 ZT-14・15Gr上層 | | |
| 18 | 土師器 | 甕 | - | 23 | (76) | ACEHIJ | 25 | 普通 | にぶ青 | ZT-14・15Gr | | | |
| 19 | 土師器 | 小型甕 | - | 8.4 | 6.0 | AEHIJK | 40 | 良好 | 灰黄陶 | 小雛・赤色粒子多 | ZU-15GrNo14 | | |
| 20 | 土師器 | 甕 | - | 90 | 62 | ACEIK | 25 | 普通 | 灰黄陶 | ZT-14GrNo6 | | | |
| 21 | 土師器 | 坏 | 12.6 | 3.5 | - | ADEHI | 100 | 良好 | にぶ青 | 比企型坏 赤彩 赤色粒子・小雛多 | ZU-14GrNo9 | 164-5 | |
| 22 | 土師器 | 坏 | (12.9) | 2.9 | - | ACEIK | 15 | 普通 | にぶ青 | 赤彩 石英粒・片岩粒子多 | ZU-14GrNo19 | | |
| 23 | 土師器 | 高坏 | 14.4 | 10.3 | - | ACEHIK | 95 | 普通 | にぶ青 | 赤彩 | ZU-14GrNo3 | 166-2 | |
| 24 | 土師器 | 小型甕 | (9.7) | 6.8 | - | CEHIK | 40 | 良好 | 黄灰 | ZU-14GrNo5 | | | |
| 25 | 土師器 | 小型鉢 | (11.4) | 5.8 | - | ACEHIK | 15 | 普通 | 灰黄陶 | ZU-14GrNo4 | | | |
| 26 | 土師器 | 小型鉢 | - | 7.2 | 6.7 | ACEHIK | 70 | 普通 | にぶ青 | 底部木煮痕 黒色粒子多 | ZU-14GrNo23 | | |
| 27 | 土師器 | 壺 | - | 4.6 | - | ACEIK | 5 | 普通 | 灰黄陶 | 赤色粒子多 | ZU-14Gr | | |
| 28 | 土師器 | 甕 | (19.6) | 33.2 | 7.4 | ACEHIK | 95 | 普通 | 橙 | 胴部焼成貫穿孔 有粒口縁 | ZU-14GrNo20 | 166-3 | |
| 29 | 須恵器 | 甕 | - | 1.9 | - | EHIJ | 90 | 普通 | 灰 | つまみ 南北企産 外面に二次的焼熟痕 | ZT-14Gr | | |
| 30 | 須恵器 | 甕 | (19.0) | 2.2 | - | EHIJ | 25 | 良好 | 灰白 | 南北企産 内外面二次的焼熟による煤付着 | ZT-14Gr | | |
| 31 | 土師器 | 坏 | (13.5) | 3.7 | - | ACEHIK | 45 | 良好 | 灰黄陶 | 北武蔵型坏 | ZT-14・15Gr | | |
| 32 | 土師器 | 坏 | (12.5) | 3.5 | - | CEHIK | 20 | 普通 | にぶ青 | 模倣坏 赤彩 | ZT・ZU-14・15Gr | | |
| 33 | 土師器 | 坏 | (13.0) | 3.7 | - | CEIK | 20 | 普通 | 褐灰 | 北武蔵型坏 赤彩 焼成堅緻 | ZU-15Gr ZU-14・15Gr | | |
| 34 | 土師器 | 坏 | (12.8) | 3.7 | - | AETJK | 10 | 良好 | 褐灰 | 北武蔵型坏 | 赤彩 白色針状物質多 | ZU-15Gr | |
| 35 | 土師器 | 甕 | (15.6) | 9.1 | - | ACDEHIK | 10 | 普通 | にぶ青 | ZT・ZU-14・15Gr | | | |

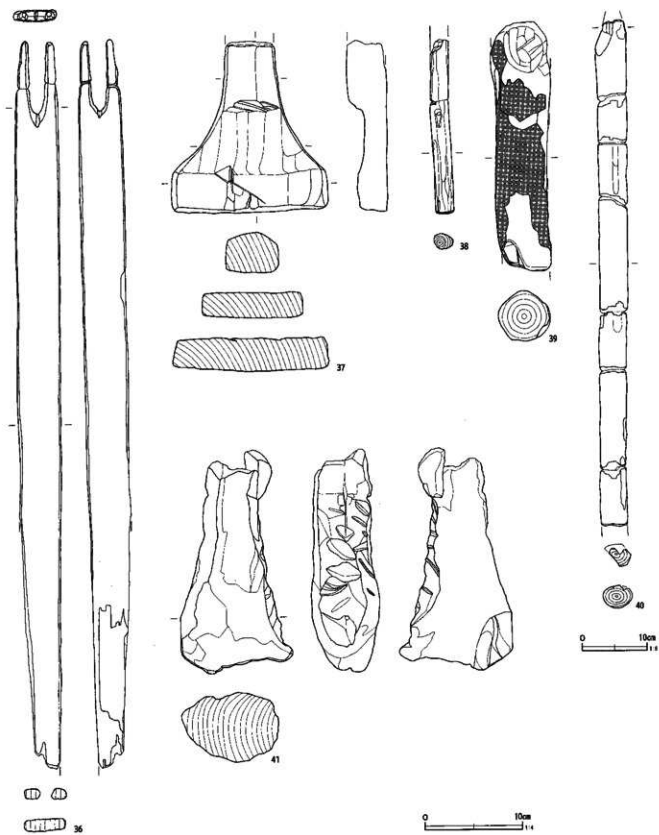
である。幅の狭い板材で、両端には二股となる切り込みが入れられている。現存長74.7cm、幅4.3cm、厚さ1.1~1.3cm、木取りは柾目、樹種はモミ属である。(図版172-1、取り上げNo.1)

37は腰掛の脚板である。上端部は欠損しているが、本来ならば、上端の出柄によって座板と結合させ、座板に対して外側に「ハ」の字に開くように斜めに組み合わせる部材である。板材から、富士山型を呈した台形に削り出されている。表面の加工は三段に分割され、上段は横位に湾曲するようにケズリが施され、横断面は蒲筍形である。中段には抉るような加工が行われ、上段との境には

粗い刃物痕が明瞭に残されている。下段は上段よりも薄く、平面的に仕上げられている。一方、背面には上端から下端まで縦位のケズリが施され、平滑な仕上げりである。現存高17.5cm、幅は上段部5.4cm、下段部で16.0cm、厚さは上段部4.1cm、中段部2.3cm、下段部3.4cm、木取り追柾目、樹種はスギである。(図版172-2、取り上げNo.6)

38は農具等の柄と推定される。幅1.9cm、厚さ1.5cmの丸木材の端部には面取りが施されている。現存長17.8cm、樹種はモミ属である。(図版172-3、取り上げNo.10)

39・40は垂木である。



第368图 第4号溝跡第1地点出土遺物(4)

39は、欠損した上端部に欠き込み痕が残る。現存長25.5cm、幅5.2cm、厚さ5.1cm、芯持ち丸木、樹種はクワノキである。欠き込み部以外に加工はみられない。部分的に、炭化した箇所がある。(図版172-4・5、取り上げNo41)

40の背面には、人為的な加工痕ではないが、表面部が剝離した部分があり、断面形が蒲針状を呈している。先端が抉られ、垂木として加工されている。現存長78.0cm、幅4.4cm、厚さ3.4cm、芯持ち丸木、樹種はクワ属である。(図版173-1、取り上げNo50)

41は建築部材と思われるが、部位は不明である。分枝部の材を加工したもので、切断部の工具痕がきわめて粗い。現存長21.5cm、幅9.8cm、厚さ7.1cm、樹種はクワ属である。(図版173-2、取り上げNo47)

第369図42は、梁材・桁材などの水平構造の建築部材である。芯持ち材を面取り、断面長方形に成形されている。柱材と継ぐ仕口部は、長さ135cm×深さ6.6cmほどの範囲が方形平滑にケズリ窪められている。この加工された仕口部が下側となる横架材である。また、長径6.2cm×短径5.5cmの楕円孔が貫通し、穿孔には鉄鑿等が用いられている。仕口部より先端は2.5cmほど細くなり、上面先端は斜めに削られて、面が形成されている。表面的な加工痕は判別が難しく、きわめて丁寧に仕上げられている。本来は長尺な部材であり、現存長51.1cm、幅11.0cm、厚さ14.7cmで、樹種はサカキである。

仕口部の楕円孔は、柱材から延びる長い出納が貫通する通納の柄穴である。さらに、方形の欠き込みをも形成し、柱材との接合を強化するための工夫が行われている。また材が太く、正確に長方形に形づくられた技術等から、しっかりとした相応の建造物の建築部材と推測される。なお、この遺物は第365図4の須恵器長頸瓶と伴出する。(図版174-1~5、取り上げNo43)

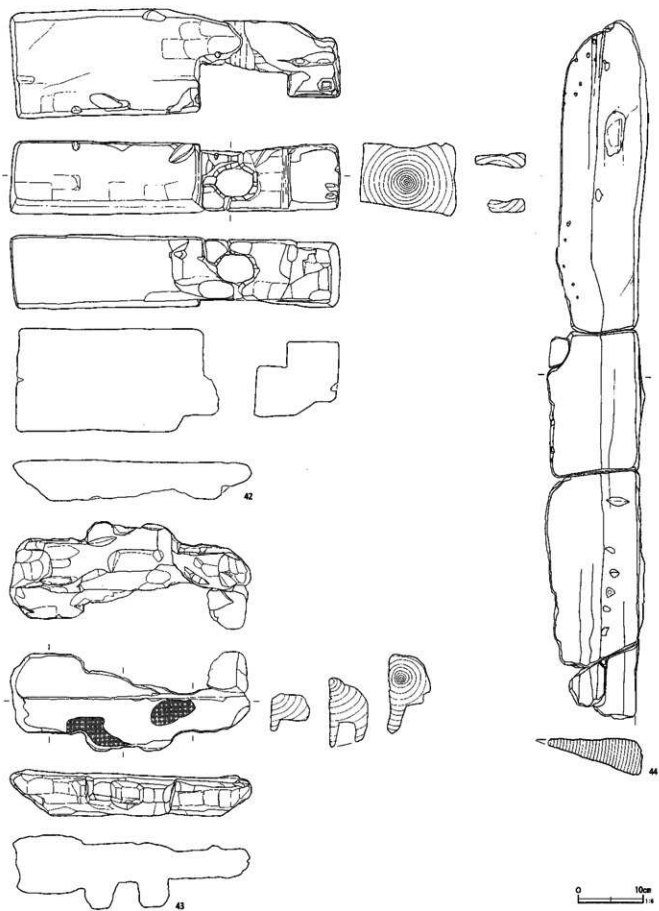
43は建築部材である。部位は明確ではないが、肘木等の横架材の一部と推定される。形状は幅広のY字形を呈している。Y字形の縦線部には下方から、48cm×3.1cm、深さ39cmの方形の柄穴が穿たれている。この柄穴に柱材などの直立する部材が繋がれ、Y字形の股部で直行する横架材と接合される構造と推定される。正面にはケズリ加工が施され、きわめて平滑に仕上げられている。背面は上半部・下端部が削られて板状となり、中央部はT字形に厚く残り、両端が斜めに削り落とされている。T字形の上面・下面・側面のいずれにも、面が形成されている。長さ37.5cm、幅15.1cm、厚さ6.7cm、木取りは半割り、樹種はサカキである。正面の一部に炭化部がある。(図版173-3、取り上げNo44)

44は板材である。みかん割り材の方面と側面部を加工したもので、断面は三角形である。背面は、割り裂かれた製材時のままの状態である。現存長107.4cm、現存幅14.4cm、厚さ5.5cmで、建築部材や矢板等の用途が考えられる。樹種はツブラジイである。(図版175-1、取り上げNo6)

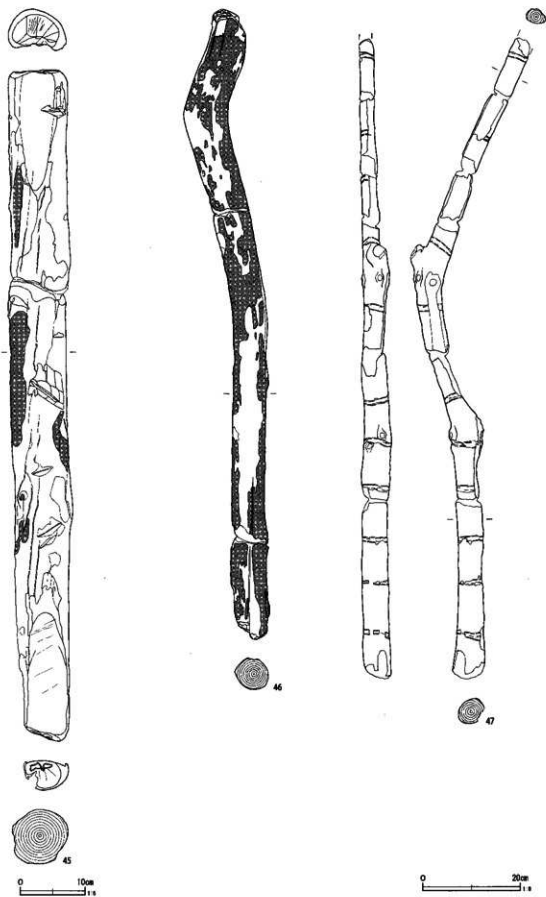
第370図45は丸木の建築部材である。上端面・下端面に切断痕がみられ、転用時に長さを調節した痕跡と推定される。側面部には上端付近に面を揃えた加工が施され、特に下端部の加工はやや深く、欠き込み状の抉り痕とみることもできる。よって、桁梁材等の横架材であった可能性が考えられる。現存長103.2cm、幅8.5cm、厚さ8.2cm、樹種はサカキである。一部樹皮が残存し、炭化している。(図版175-2、取り上げNo43)

46は芯持ち丸木の柱状材で、両端部が切断されている。ほかに特別な加工は施されておらず、表面的には炭化部分が多い。上方部でわずかに屈曲し、長さ128.8cm、幅6.8cm、厚さ6.2cmである。樹種は同定していない。(図版176-1、取り上げNo52)

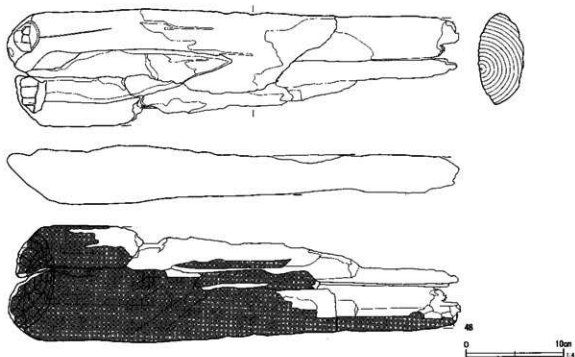
47は、漆液を採取した掻き取り痕が残る漆原木



第369图 第4号沟第1地点出土遗物(5)



第370图 第4号溝跡第1地点出土遺物(6)



第371図 第4号溝跡第1地点出土遺物(7)

である。2ヶ所の分枝部が切断された屈曲材の芯持ち丸木で、現存長131.6cm、径6.0cm、8年輪である。遺存状態は、表皮が剝離し、靱皮部の師管(栄養分の通路)に沿ってある漆液溝の痕跡がわずかに残る程度の状態である。

表面には、約1cm間隔で平行する上下二条の漆液を掻き取った線刻が刻まれている。約11~13cmほどの間隔で、11ヶ所が認められる。線刻は鋭く、鉄製の刀子等が用いられたと推定される。漆液は表皮の裏にあるので、通常、線刻はあまり深くないが、本例では比較的深くまで刻まれている。また、線刻は直線的に一気に刻まれず、短いスパンで不連続に繋げていく独特の方法で行われている。硬い樹皮に傷をつけるのにはかなり力を要するので、少しずつ傷をつけたものと解釈できる。

上下ともに折損しており、他の用途への使用痕は認められない。(図版171-1~5、取り上げNo.10)

放射性炭素年代測定の結果は、1950年を基点とする測定年代 1480 ± 30 BP、補正年代 1450 ± 30 BP、

暦年較正年代calAD590-calAD643である。樹皮まで存在する遺物であり、古墳時代後期6世紀末から7世紀前半の年代間は、第4号溝跡の存続期間と一致する。なお、放射性炭素年代測定の結果報告は、次巻にまとめて掲載する。

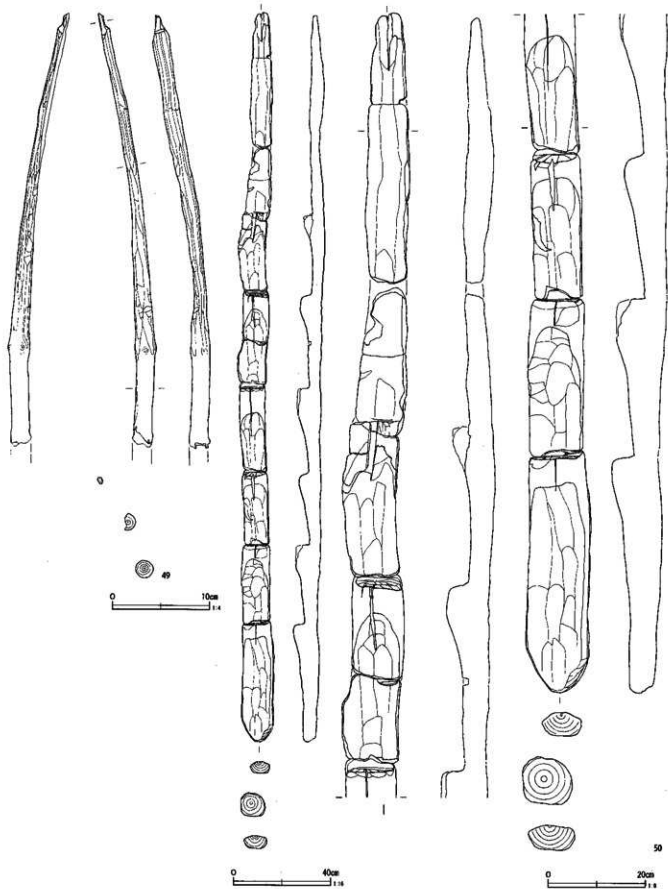
第1地点Bブロックの遺物(第367・371~373図)

第367図21~28、第371図48~第373図52は、第4号溝跡第1地点の遺物集中区南群(Bブロック)から出土した遺物である。

第367図28は、胴部に円孔が穿たれた土師器の甕である。長さ約3mの梯子(第372図50)に接近した、溝底から出土している。口縁部下半には低い突帯状の稜がみられ、胴部の円孔は焼成前の穿孔と観察される。きわめて祭祀的な様相が強く、長大な梯子が大溝跡のなかから出土した意義を考える上で、鍵となる資料である。

第371図48~第373図52は、第1地点Bブロックから出土した木製品である。

第371図48は作業台である。芯持半截材の半截面を下面とし、その反対面を平坦に加工した台で



第372图 第4号清跡第1地点出土遺物(8)

ある。左端部には切断痕が残り、右側は欠損している。現存長45.9cm、幅11.6cm、厚さ4.5cmを測る。上面・下面ともに多くの部分が炭化している。樹種はウルシである。(図版178-1・2、取り上げNo24)

第372図49は弓である。湾曲した芯持ち材に加工を施したもので、樹種はイヌガヤである。末弭から矢摺付近までが残存している。

矢摺から鳥打にかけては樹皮を剥いたままの状態で、枝葉材を掃ったほかは加工が行われていない。鳥打から末弭にかけては、半截状に内側が削り取られているが、材の湾曲と合致していないため、捻じれたような形状を呈している。外側には工具痕の幅が狭いケズリが施されている。末弭は正面および左右両側から削り込まれ、明瞭な段を形成して細く加工されている。しかし、左側は欠損しているために、現状では直線的な形状となってしまうている。

大きさは現存長44.7cmで、本来ならば1m以上の長さとなる。幅は末弭部0.5~0.7cm、鳥打部1.7~1.9cm、矢摺部1.8cm、厚さは末弭部0.5cm、鳥打部0.8~1.8cm、矢摺部1.8cmである。

鳥打から末弭にかかる内側の半截加工は、仕上げ感が感じられないほどに粗い。また材の湾曲と合致しないねじれた形状を呈していることから、使用中に裂けた可能性も考えられる。本来、イヌガヤは非常にねじれの多い樹種であり、通常は被熱してねじれを修正するが、その名残と思われる炭化部が確認できる。(図版179-1~3、取り上げNo7)

50は、芯持ち丸木材を削り込んで成形した一木の梯子である。長さ297.7cmを測り、きわめて長尺な梯子である。

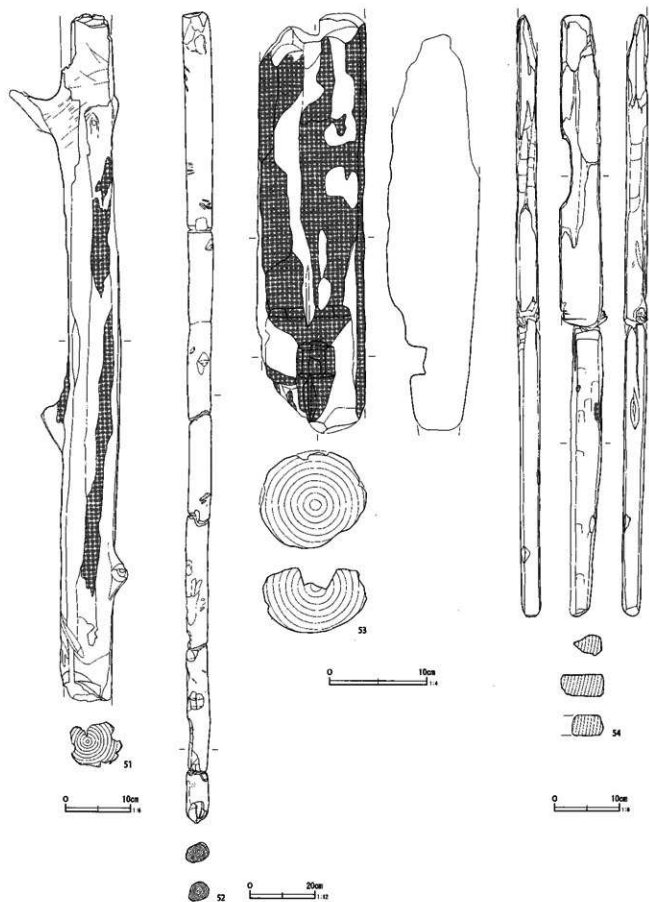
足掛部は6カ所で、段間幅は、下から第1段48.3cm、第2段31.9cm、第3段29.6cm、第4段34.9cm、第5段37.8cm、第6段32.4cm、最上段82.8cmである。足掛部の高さおよび厚さは、第1段4.6cm・10.0cm、第

2段5.8cm・10.2cm、第3段4.1cm・8.8cm、第4段3.8cm・8.3cm(現存)、第5段4.0cm・8.4cm、第6段3.4cm・7.9cm(現存)である。足掛部上面の工具痕は、明瞭に残す。

背面にはケズリ加工を施し、平面を形成している。側面は、全体的に直線的な形状となるように、部分的にケズリが施されている。下端部は両側面から加工を施し、船の先端のような形状を呈している。幅は下端から上端に向かって細くなり、下端部では13.0cm、足掛部第1段11.7cm、第2段11.1cm、第3段10.2cm、第4段10.3cm、第5段10.7cm、第6段10.2cm、ここから急激に狭くなり上端が4.4cmとなる。厚さも同様で、下端部が4.7cm、上端部が1.8cmである。この状況と連動して、年輪幅も下端部より上端部の方が狭くなっていることから、材とした樹木が生長した方向に利用していることが分かる。樹種はコナラ属コナラ亜属コナラ節である。(図版181-1~7、取り上げNo15)

長さ約3m、幅44~130cmの梯子で、最上段が長さ82.8cmと長いのが特徴である。長さに対し華奢な感があり、二本一対にして横木を渡した組み梯子の部材の可能性も想定した。しかし、横木を固定した仕口や疔痕、緊縛痕などはみられない。よって、一本で梯子としての機能を果たしていたものと推定される。また、長さ約3mの梯子を必要とする建造物は、櫓や高床建造物などの相当な高さをもつ大規模なものである。高床建造物も二間四方ほどの倉庫ではなく、豪族居館や祭殿などの特別な建造物が想定される。

第373図51は建築部材のY字材で、柱材の一つと推定される。芯持ちの分枝材を利用したもので、分枝部は折損している。頂部には切断痕が残る。鉋や手斧等の工具によって、木目方向に対しやや斜めに切断している。下方部は折損している。表面の一部は、被熱により炭化している。現存長105.5cm、幅7.2cm、厚さ6.5cm、樹種はカヤである。(図版180-1、取り上げNo8)



第373図 第4号遺跡第1地点出土遺物(9)

樹種はコナラ属アカガシ亜属である。(図版179-4、取り上げNo無し)

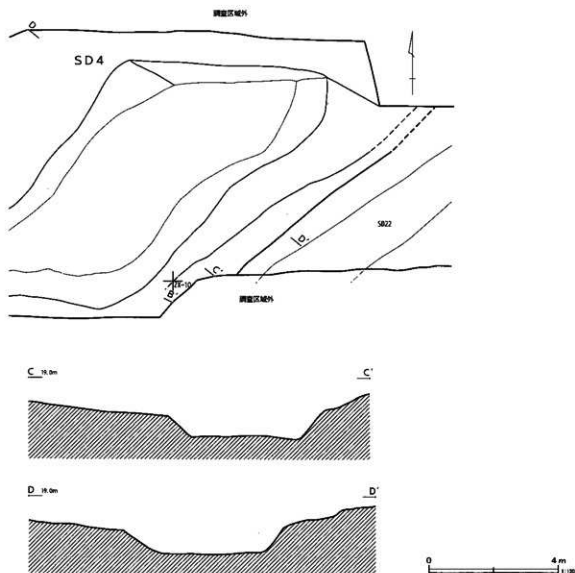
古墳時代の通常の建物ならば、横架材は簡単に乗せられるだけである。しかし、この資料は、仕口部が柄差しによってしっかりと固定されるタイプである。そこで、強固な枠組みを必要とする建物の部材と推定され、高床建物やステータスのある建造物が想像される。

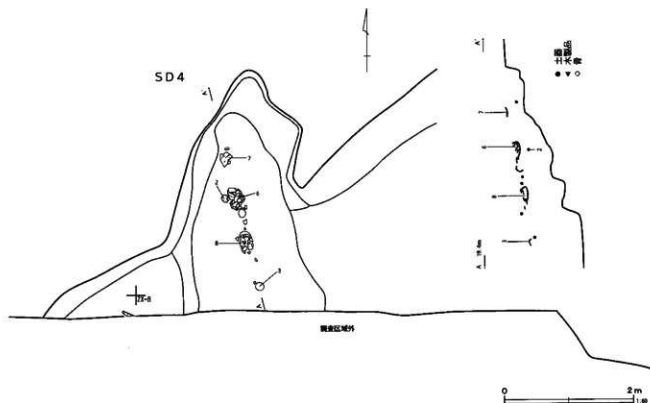
54は建築部材の板材で、部位は不明である。図上端付近には、挟り込んだような加工痕が認められる。加工は上下両方向から施工され、断面は三

角形になっている。左側面部は面取られているが、工具痕から一時的な加工か、二次的な加工かの判断はできない。この部分が二次加工であれば、楣や蹴放し等の板材であった可能性もある。現存長93.8cm、幅43~65cm、厚さ3.0~3.3cm、木取りは柁目、樹種はツガ属である。(図版180-2~4、取り上げNo無し)

第4号溝跡第2地点 (第374~377図)

第4号溝跡第2地点は、南西の第4地点から北上し、最北端の第1地点に至る中継地点にあたる。





第375図 第4号溝跡第2地点遺物出土状況(1)

走行方位をN-46°-Eに向け、ZW・ZX-8・9・10グリッドに位置する。北西側には、17軒の住居跡(第87~94・97~106号住居跡)と第14・15号掘立柱建物跡が存在する。

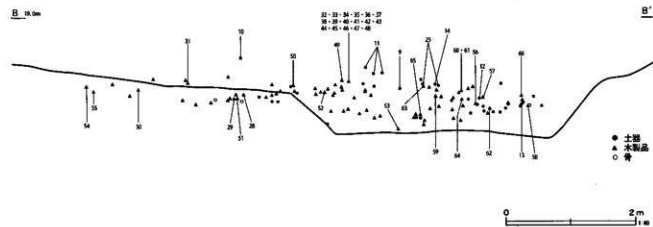
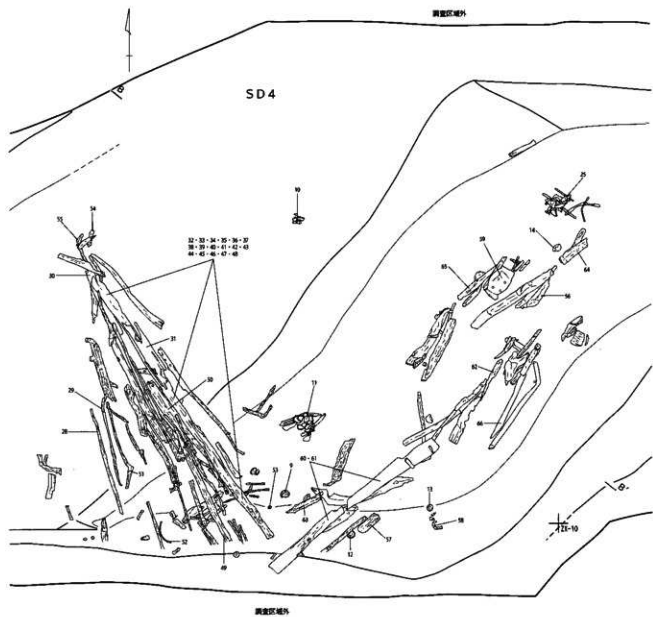
第4号溝跡第2地点では、上幅136mを測る。集落の所在する北西岸が、段幅の広い階段状に掘削されている。段数は2段で、上段は幅26m・比高差0.30m、下段は幅48m・比高差1.15mとなる。流路溝底との比高差は0.32~1.10mである。流路上幅は6.2m・溝底幅3.1mで、対岸の南東岸にも階段状の掘り方がわずかにみられる。各要所の標高は、南側から北側へ向かって下る傾斜を示している。北西岸上辺19.06~19.10m、上段部18.73~18.87m、下段部17.65~18.26m、溝底17.02~17.32m、南東岸上辺18.66mを計測する。

北西岸の最西端部には、昇降施設が付設されている。第4号溝跡に直交する短い溝状の遺構で、幅の狭い底面が段数6段以上の階段状に成形さ

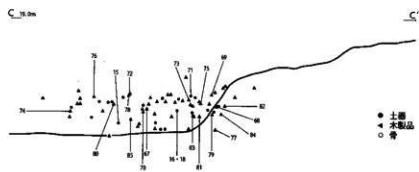
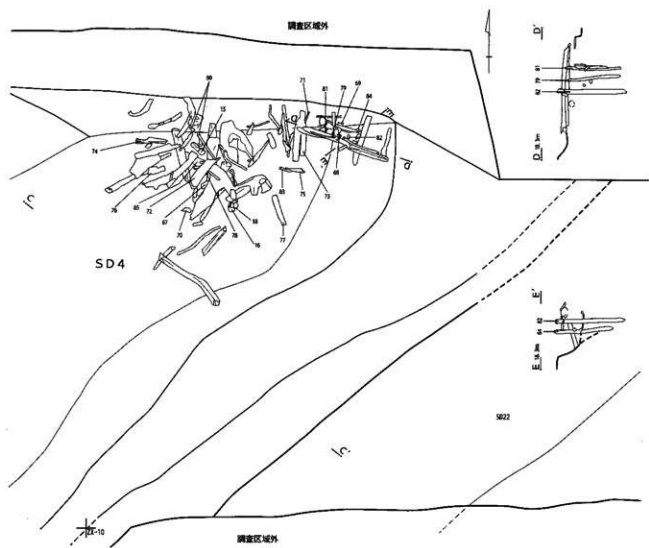
れている。上幅1.60~2.20m、下幅0.25~0.84m、検出長3.70m、比高差1.24mである。傾斜角24°のきつい斜面を、階段状に整地することによって緩和している。この階段状の施設は、取水や作業時の通路としての機能が推定される。階段状の各段は基本的には水平で、波板状の掘り方はみられない。

昇降施設から出土した遺物は、第378図1~8に図示した。ほとんどが、昇降施設が概ね埋没した後に堆積した2層から出土している(第375図)。5世紀末~6世紀の土師器・甕・甔を中心としている。甔は完存率が高く、出土量の少ない深身の平底である。また、甕(8)に甔(7)が備えられた状態で検出されるなど、祭祀行為を想起させるような出土状況を示している。

昇降施設の約12m東側から、長尺の木製品が大量に発見されている。北西岸が幅広の階段状に掘削された下段から流路にわたって、第4号溝跡の流れに直交するように木製品の長手方向に揃え



第376図 第4号溝跡第2地点遺物出土状況(2)



第377图 第4号沟第2地点遗物出土状况(3)

られ、横木列が形成されている。範囲は、幅2m長さ55m以上におよんでいる。これらの木製品の多くは、柱材・梁材・垂木・楣等の建築部材がほとんどである。出土状況から、長大な木材を選んで人為的に並べて、堰状の施設を構築したものと見える。流路の流れを堰き止めて、流路の水位を調節する機能が窺われる。標高値から、流路の流れは南西から北東へ方向が想定されることから、堰状施設によって南西部の水位が上がることになる。そして堰状施設の南西部には昇降施設があり、水位を上げることによって取水や作業が川岸から近い位置で行えるように工夫されたものと推定される。また、長大な建築部材を選択しているのは、堰状施設という用途から、水流に対する耐久性が重視されているからでもある。

堰状施設の下流の北東側流路内からも、多量の木製品が出土している。これらの木製品も長尺なものが多い。ここでは、長手方向を第4号溝跡の走行方向に揃えて配されている。また、第2地点の北端部では杭が打ち込まれ、これらの木材が固定されていた状況も検出されている。このように形成された木列には、護岸の機能が想定される。堰状施設の南西部から直下にも、護岸施設と同様に、走行方向に長手を向ける木材がみついている。少なくとも、昇降施設付近から第2地点北端部までは、護岸施設が設けられていたものと推定される。護岸施設は、堰状施設による水流の変化から川岸を保護し、居住域を水害から守るために形成されたものであろう。護岸施設にも、建築部材が多く用いられ、作業台等の生活用品も転用されている。

第4号溝跡第2地点から出土した遺物は、出土地点から概ね4分割することができる。一つは昇降施設から出土した一群である(Aブロック、第375図)。次は、堰状施設に用いられた木製品と直近から出土した土器群で(Bブロック、第376図左半部)、TK47併行と推測される須恵器坏身(第

378図9)が含まれている。最後に護岸施設部であるが、堰状施設から走行方向に沿って並ぶ木列群(Cブロック、第376図右半部)と、第2地点最北端の杭によって固定された密集する一群(Dブロック、第377図)に二分される。両ブロックともに、木製品と5世紀代の土器が相伴している。また、Cブロックからは、馬具の輪鍔や、容器の四脚槽・曲物底板なども出土している。輪鍔の形状は須恵器TK47段階にみられる限定的なもので、Bブロックから出土したTK47併行期と思われる須恵器坏身(9)と年代的な齟齬がない。さらに四脚槽はほぼ完存品であり、古式須恵器・木製輪鍔との相伴状況に祭祀的な要素が窺われる。

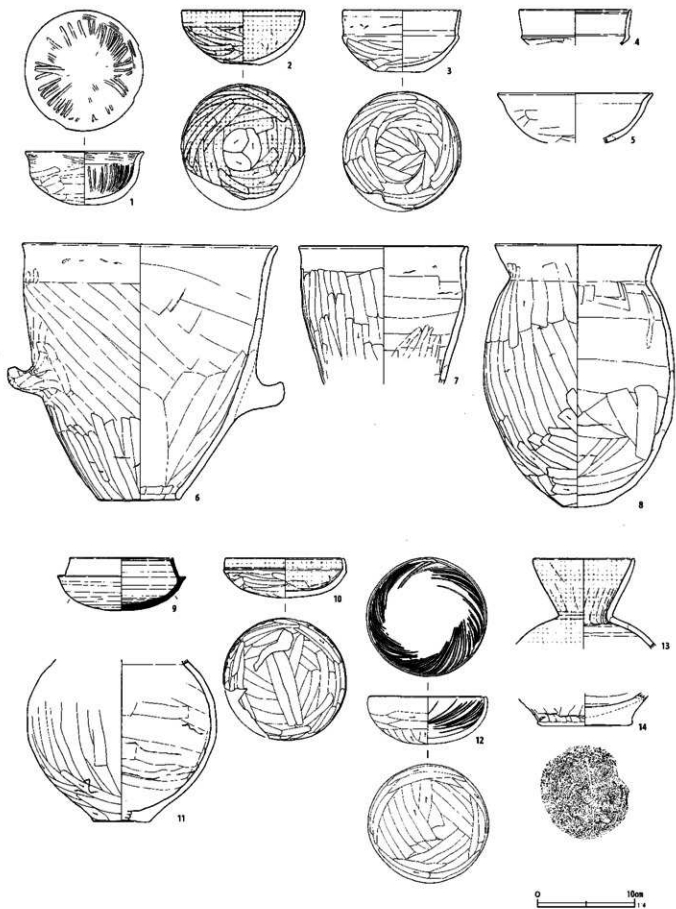
第2地点Bブロックの遺物(第378・380~385図)

第378図9~11の須恵器・土器と第380図28~第385図55の木製品は、第4号溝跡第2地点の堰状施設に用いられた木製品と直近から出土した土器群である。

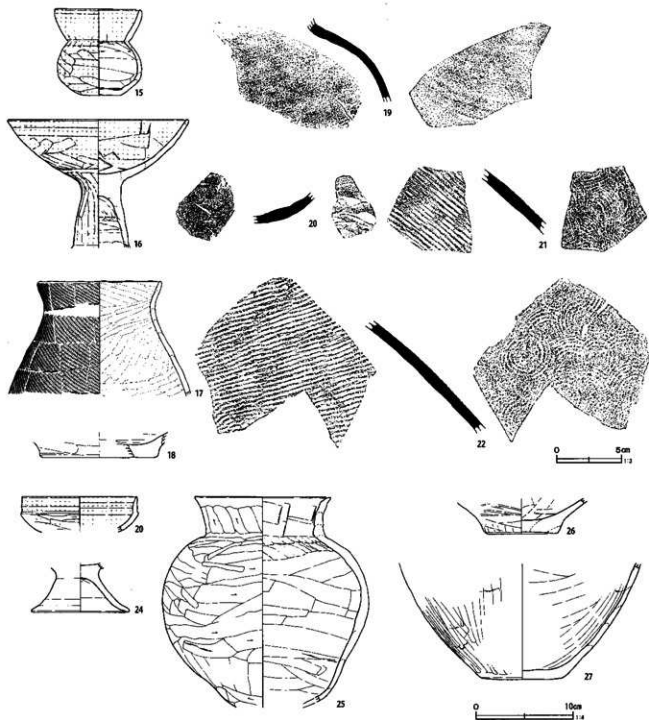
第378図9は陶器産と推定される須恵器の坏身で、器形からTK47期と思われる。

第380図28は垂木である。先端から約23.5~39.5cm内側に、桁材と組み合わせるための欠き込みが施されている。また、先端から7.3~9.3cm付近には溝状の圧痕がみられ、緊縛時の紐の圧痕と考えられる。本来は断面円形の芯持ち丸木材を、断面が扁平な楕円形となるように一面のみに加工を施し、前記した欠き込みも同面に行われている。他の部分には加工は施されておらず、全体的に樹皮が残存している。現存長168.9cm、幅4.9cm、厚さ2.6cm~3.6cm、樹種はクスノキ科である。(図版182-1・2、取り上げNo.29)

29は、枝が掃われた細い芯持ち丸木が使用されている。先端には、杭先状のケズリが施されているが鋭さに欠ける。また、長さ比べて細い形状から、垂木と推定される。現存長141.7cm、幅4.4cm、



第378图 第4号溝跡第2地点出土遺物(1)



第379図 第4号溝跡第2地点出土遺物(2)

厚さ29cm、樹種はスダジイである。(図版182-3、取り上げNo30)

30は建築部材の梁材である。上端部には切断痕が残り、下端部は焼失している。芯持ち丸木材の一面のみに幅8~9cmの平坦面を形成し、長さ160cm、深さ18cmの方形の欠き込みが整形されている。立ち上がり部には粗い工具痕が明瞭に残さ

れている。現存長1194cm、幅115~121cm、厚さ72~101cm、樹種はサカキである。(図版182-4、取り上げNo27)

第381図31は、建築部材の楣と推定される。両端部は凹形に加工され、出入り口施設両脇の方立や辺付と継がれ、ここから幅5cm前後の長手方向の切り込みには、小脇板が嵌り込む。楕円形に穿

第95表 第4号溝跡第2地点出土遺物観察表 (第378・379図)

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 残存 | 焼成 | 色調 | 備考 | 出土位置 | 図版 |
|----|------|-----|-------|-----|-------|---------|-----|----|------|---------------------------------|------|-------|
| 1 | 土師器 | 坏 | 120 | 55 | - | ACEHIK | 100 | 普通 | にんべい | 内面暗文 二次的被熱 ZW-8Gr昇降施設 | | 図-1-2 |
| 2 | 土師器 | 坏 | (126) | 54 | 39 | CEHI | 70 | 普通 | にんべい | 平底 外面赤彩 (薄塗部のみ図示) ZW-8GrNo3昇降施設 | | 167-3 |
| 3 | 土師器 | 坏 | 121 | 63 | 51 | DEHIJK | 85 | 普通 | にんべい | 平底 外面二次的被熱 ZW-8GrNo9昇降施設 | | 167-4 |
| 4 | 土師器 | 坏 | (116) | 36 | - | ACHIJK | 15 | 普通 | 橙 | 厚面模倣 ZW-8Gr昇降施設 Px10 | | |
| 5 | 土師器 | 坏 | (160) | 51 | - | EHIK | 10 | 普通 | 橙 | 小椀多 器面風化調整不明瞭 ZW-8Gr昇降施設 | | |
| 6 | 土師器 | 瓶 | 260 | 263 | 80 | EHIK | 90 | 普通 | 橙 | ZW-8GrNo昇降施設 | | 168-1 |
| 7 | 土師器 | 瓶 | (170) | 140 | - | ACEHK | 30 | 良好 | 橙 | φ5cm大の小椀多 ZW-8GrNo2昇降施設 | | |
| 8 | 土師器 | 甕 | 170 | 268 | 49 | CEHI | 70 | 普通 | 橙 | 長胴丸 ZW-8GrNo6昇降施設 | | 168-3 |
| 9 | 須恵器 | 坏身 | (106) | 54 | - | EIK | 70 | 良好 | 灰 | 陶色産 TK47 ZW-9GrNo5 | | 167-5 |
| 10 | 土師器 | 坏 | 120 | 40 | - | A E I K | 90 | 良好 | にんべい | 模倣坏 赤彩 ZW-9GrNo7 | | 167-6 |
| 11 | 土師器 | 甕 | - | 166 | 58 | ACEHI | 30 | 普通 | にんべい | ZW-9GrNo3 | | 167-8 |
| 12 | 土師器 | 坏 | 120 | 49 | - | ABHIK | 95 | 普通 | 橙 | 内面暗文 外面風化調整 ZW-9GrNo214 | | 167-7 |
| 13 | 土師器 | 埴 | (103) | 92 | - | CHIK | 50 | 普通 | にんべい | 赤彩 ZW-9GrNo6 | | |
| 14 | 土師器 | 帝 | - | 33 | 98 | ACEHI | 85 | 普通 | にんべい | 底部木炭痕 ZW-9GrNo43 | | |
| 15 | 土師器 | 小形壺 | (87) | 87 | - | CEHIK | 80 | 普通 | にんべい | 赤彩 ZW-10GrNo10 | | 168-4 |
| 16 | 土師器 | 高坏 | 184 | 131 | - | ACEHIK | 60 | 良好 | にんべい | 赤彩 外面二次的被熱 ZW-10GrNo102 | | |
| 17 | 弥生 | 甕 | (125) | 116 | - | AGIK | 20 | 良好 | 暗褐 | 単筋丸 ZW-10Gr一拵 | | |
| 18 | 中世陶器 | 鉢 | - | 26 | (118) | CEIJ | 20 | 普通 | 褐灰 | 在産品? 内面二次的被熱 ZW-10GrNo102 | | |
| 19 | 須恵器 | 壺 | - | 80 | - | I | 5 | 良好 | 灰白 | 東海産 ZW-10Gr | | |
| 20 | 須恵器 | 甕 | - | 29 | - | EHI | 5 | 良好 | 灰 | 東海産か TK47併行 | | |
| 21 | 須恵器 | 甕 | - | 65 | - | I | 5 | 良好 | 灰 | 東海産 | | |
| 22 | 須恵器 | 甕 | - | 112 | - | EHI | 5 | 良好 | 灰 | 東海産 | | |
| 23 | 土師器 | 坏 | (119) | 36 | - | AHIK | 10 | 良好 | 赤 | 模倣坏 内外赤彩 ZW-10Gr | | |
| 24 | 土師器 | 台付壺 | - | 51 | (100) | AEI | 80 | 良好 | 灰褐 | 二次的被熱による黒色化 ZW-10Gr | | |
| 25 | 土師器 | 甕 | 140 | 216 | - | EH | 80 | 普通 | 橙 | 小椀多・大粒炭入物多 ZW-9GrNo8 | | 168-2 |
| 26 | 土師器 | 壺 | - | 36 | (68) | A E H I | 30 | 普通 | にんべい | 外面赤彩不明瞭 ZW-10Gr | | |
| 27 | 土師器 | 甕 | - | 118 | 84 | CEHIK | 50 | 普通 | 灰青濁 | 外面二次的被熱 ZW-10Gr | | |

たれた孔は扉の軸穴で、材同士の摩擦による摩擦が著しい。観音開きの扉で、扉軸穴の心間間は約70cm、扉口幅は60cm前後と推定される。断面形はL字形で、建物内側の辺が扉側に立ちあがる。正面部及び側面部にはケズリ加工を施し平滑に仕上げているのに対し、背面は割り裂いた状態である。可能性として、上面を割り裂いて転用していることが推測される。現存長121.8cm、幅16.9cm、厚さ5.5cm、木取りは追柾目、樹種はモミ属である。(図版183-1、取り上げNo.2)

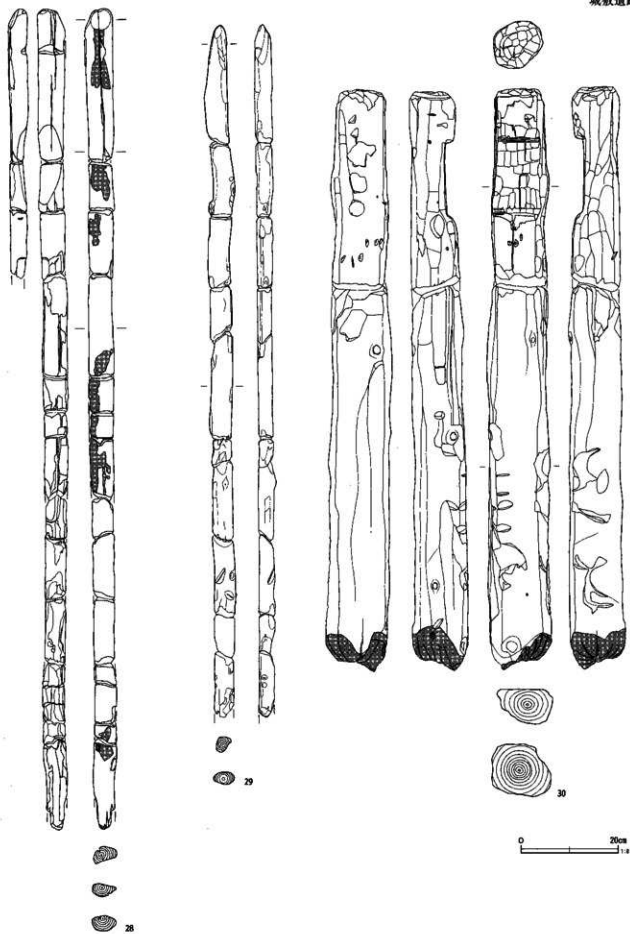
第381図32～第384図48は、同一の遺物として取り上げた建築部材である(取り上げNo.18)。しかし、残存状態が悪く、細片に分かれてしまい、接合も困難な状況である。そのため、特徴的な加工が確認される部品を図示した。建築部材の部位は不明であるが、各部品の形状・断面形状や加工痕などから、楣や蹴放し等の出入り口施設に関連する建

築板材や棟押等が考えられる。木取りは各部品大きさと未確定な位置状況から判断は困難で、追柾目・板目・みかん割り材など異なる結果が導かれている。樹種はコナラ属アカガシ亜属である。

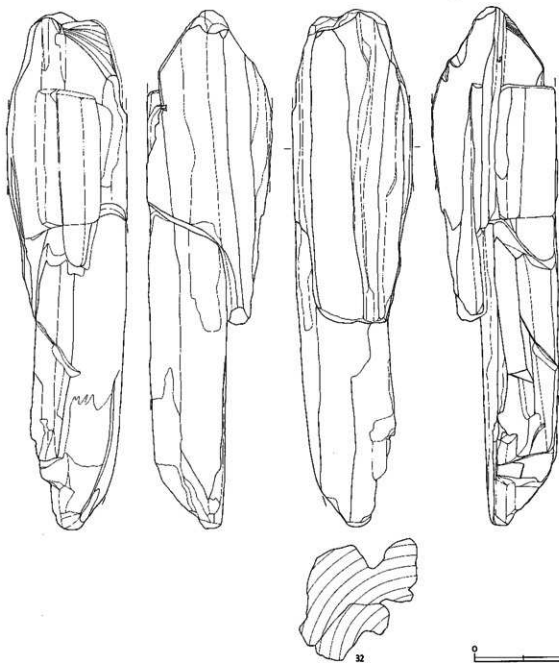
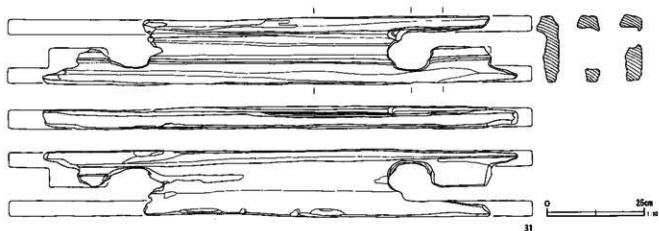
第381図32は断面がL字形の部材で、外側平面一面の長手方向に幅3.3cm、深さ2.4cmのV字溝が抉り込まれている。本来は柱状の長手の部材と想定されるが、折損している。特に図上端には人為的な切断痕がみられ、工具痕の状況から二次的な加工痕と判断される。現存長53.3cm、幅12.2cm、厚さ12.6cmである。(図版183-2)

第382図33は、断面鉤形を意識した形状となっている。図上辺中央の凹み部には加工痕が看取され、輪雑込加工や孔となる可能性が高い。一方、図下端部には出枅が整形されている。現存長61.1cm、幅14.6cm、厚さ8.0cmである。(図版183-3)

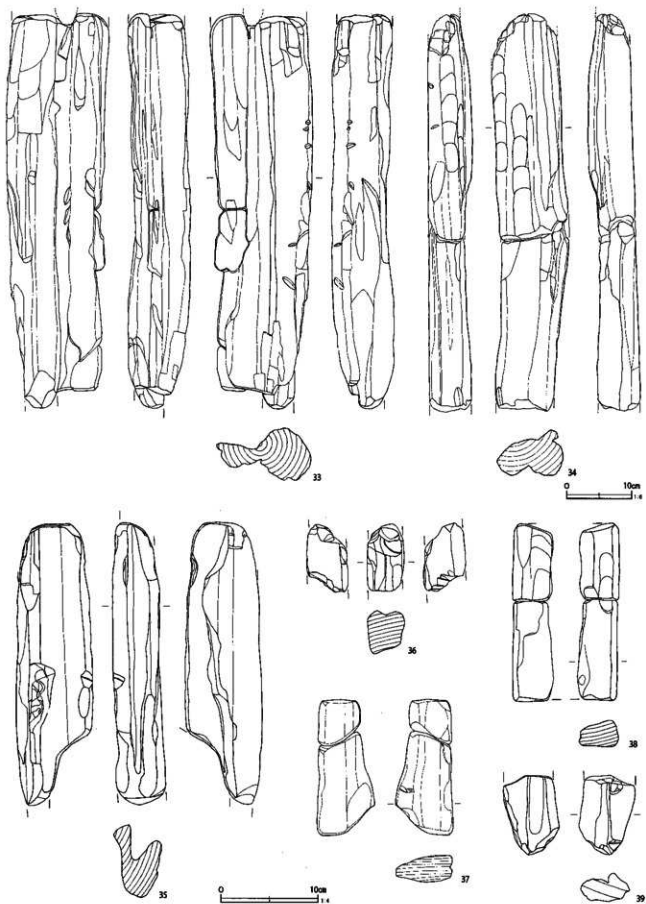
34も断面鉤形に削り出したものである。本来は



第380図 第4号溝跡第2地点出土遺物(3)



第381图 第4号溝跡第2地点出土遺物(4)



第382図 第4号溝跡第2地点出土遺物(5)

さらに長尺の材で、頂部には二次転用時に切断された粗い工具痕が残っている。現存長61.4cm、幅102cm、厚さ7.0cmである。(図版184-1)

35は断面形が「レ」形を呈し、鉤形のL形部をV字形に掘り込んだものである。図下側の抉りは扉軸や入り口施設の部材が嵌め込まれた孔とも推測される。現存長29.1cm、幅7.4cm、厚さ4.8cmである。(図版184-2)

36は、長手方向の一面が断面V字形に抉られている。現存長6.9cm、幅3.8cm、厚さ4.3cmである。(図版184-3)

37は表裏両面にケズリが施され、平滑に仕上げられている。側面の一方は、断面形が浅いV字形を呈している。板状に加工された形態や断面形から、壁板(樋部倉削)の可能性もあり、木取りも板目である。現存長13.9cm、現存幅5.8cm、厚さ2.6cmの破片のため詳細は判断できない。(図版184-5)

38は、図上端の木口部と一方の側面が残存している。木口部には工具痕はみられないが、年輪が圧迫されたような様子が看取できる。側面部は、ケズリによって面取りされている。現存長8.2cm、現存幅4.0cm、厚さ2.5cmである。(図版185-1)

39は断面鉤形に整形された部材で、凹部はしっかりとした面がつくられている。現存長5.4cm、現存幅8.1cm、厚さ2.1~2.7cmである。(図版184-4)

第383図40は、断面L字形に加工された材で、L字形の内角付近は直角を意識したようなケズリが施されている。現存長21.5cm、現存幅5.0~6.6cm、水平部厚3.3cm、垂直部厚1.0cmである。(図版185-2)

41は、上面中央に木目方向の浅い溝状のケズリが施されて、断面鉤形を意識した形状となっている。現存長10.4cm、現存幅6.9cm、厚さ1.4~3.0cmである。(図版185-3)

42は蒲鉾形の断面形である。上面にはケズリが施され、下面は製材時に割り裂かれたままの状態

で、全体に黒色化している。残存長22.1cm、幅6.4cm、厚さ2.6cmである。(図版185-5)

43は断面形が鉤形に類似し、上面には浅い溝状の凹部が整形されている。現存長17.4cm、現存幅5.9cm、厚さ2.6cmである。(図版186-1)

44は、割り材の一面を断面鉤形に削り出されている。現存長20.6cm、現存幅6.1cm、高さ3.6cm、厚さ1.4cmである。(図版186-2)

45は断面L字形に加工された板材で、段差裾部が浅い溝状にケズリが施されている。現存長9.1cm、現存幅4.8cm、隆起部厚さ2.1cm、板部0.8cmである。(図版185-4)

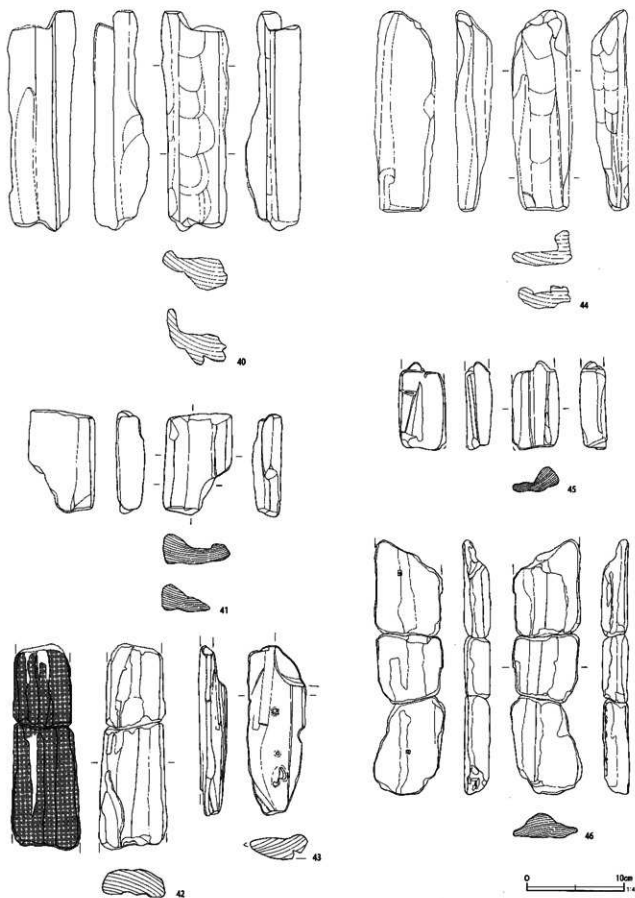
46は断面が凸形で、中央部が隆起するように加工が施されている。現存長26.2cm、現存幅6.5cm、厚さ1.5~2.4cmである。(図版186-3)

第384図47は断面が凸形で、中央部が隆起するように加工が施されている。平面的な抉り部は、他の部材が嵌め込まれた孔と推定される。背面は、製材時の割り裂かれた状態のままである。現存長16.5cm、現存幅6.7cm、厚さは凸部3.1cm、板部1.1~1.7cmである。(図版186-4)

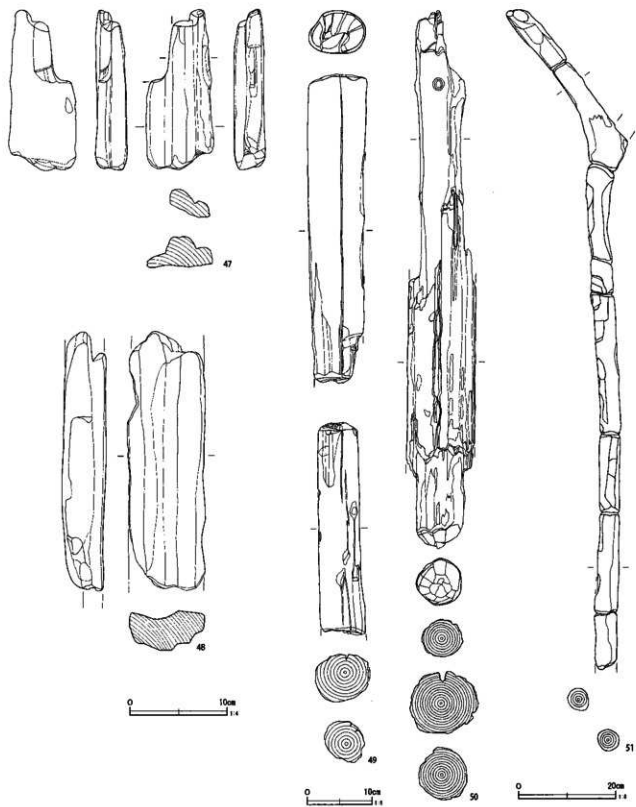
48は、割り材の一面を明瞭な稜を形成しないものの、断面鉤形に削り出したものである。現存長26.5cm、現存幅7.8cm、厚さ3.4cmである。(図版187-1)

49は、直接的には接合しないが、樹種・加工状況・出土状況などから、同一個体の部分材と考えられる。芯持ち丸木の表面を整形した柱材で、頂部には切断痕を残す。図上の材の大きさは現存長47.3cm、現存幅8.3cm、厚さ7.3cm、図下の材は現存長32.6cm、現存幅6.2cm、厚さ6.4cmである。少なくとも、長さ1m以上の柱材と推定される。樹種はコナラ属アカガシ亜属である。(図版187-3、取り上げNo19)

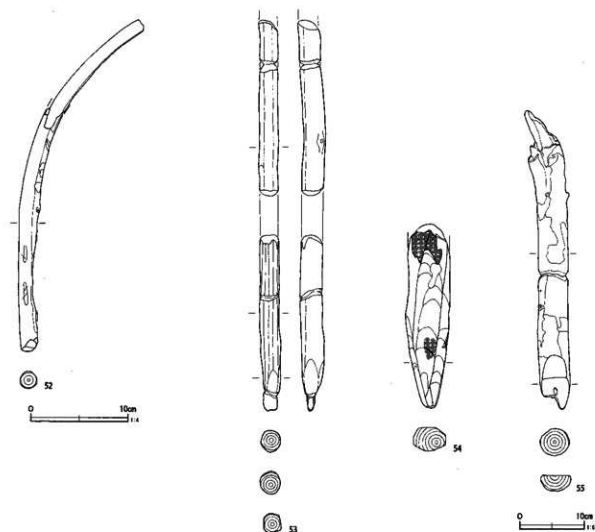
50は柱材である。上半部と下端部は、風化により表面が深く剝離している。下端部には切断痕がみられる。木繊維が空いた状態のために年輪が目



第383图 第4号溝跡第2地点出土遺物(6)



第384图 第4号清跡第2地点出土遺物(7)



第385図 第4号溝跡第2地点出土遺物(8)

立ってしまい判別し難いが、二次的な切断痕と推定される。現存長110.4cm、径12.6～14.0cm、芯持ち丸木、樹種はコナラ属アカガシ亜属である。(図版188-1、取り上げ№25)

51は、Y字材の転用品もしくは分枝材の一方の枝を掃って垂木等に用いられていた建築部材である。図頂部先端は、杭先状に二方向からケズリ加工が行われているが、鋭さはない。工具痕は比較的平滑であり、一次成形時の加工と推測される。現存長135.6cm、径4.3～4.5cm、芯持ち丸木で、樹種はコナラ属アカガシ亜属である。表面には樹皮が残存している。(図版190-1・2、取り上げ№31)

第385図52は、芯持ち丸木材である。大きく弧

を描く形状から弓である可能性が高い。下部部には加工痕が残り、切断されたものと思われる。現存長33.9cm、直径1.8cmを測る。樹種はモミ属である。(図版189-1、取り上げ№32)

53は杭である。杭先加工は正背二面から行われ、先端が平整状になっている。加工痕は不明瞭である。現存長54.0cm以上、径3.0～3.4cm、芯持ち丸木、樹種はクマシデ属イヌシデ節である。(図版192-1・2、取り上げ№215)

54は杭先で、大部分を欠損している。加工は4ブロックに分割され、図化した背面に先端部のみ、両脇は4～5段に連なるケズリを施し、最後に図中央のケズリを直線的に行っている。現存長28.7cm、径6.7cm、木取りは芯持ち丸木、樹種はクワ

属である。表面の一部には、炭化した箇所がみられる。(図版187-2、取り上げNo41)

55は、芯持ち丸木先端を加工した杭である。本来の材が、分枝部によって屈曲していた箇所から折損している。杭先の加工は、一面方向からのみ行われている。現存長45.8cm、径4.7cm、樹種はウコギ属である。表面の一部は、樹皮が残存している。(図版188-3、取り上げNo70)

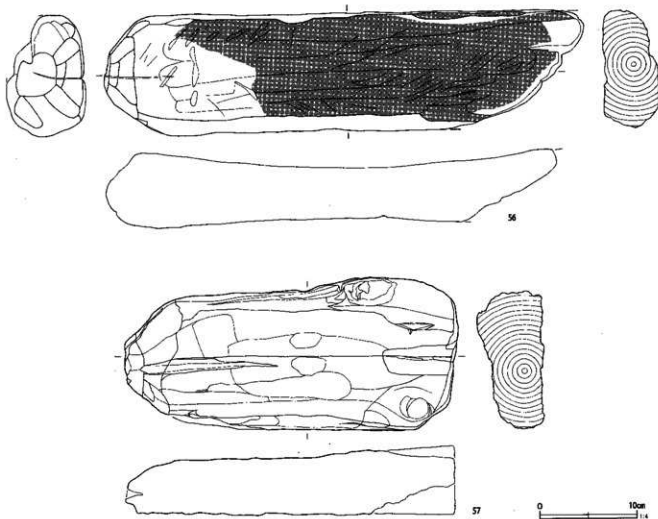
第2地点Cブロックの遺物 (第378・386~389図)

第378図12~14の土師器と第386図56~第389図66の木製品は、護岸施設として走行方位に沿って並べられた木列群に用いられた木製品と、伴出した土器群である。土師器は、木製品の上面から出土している。

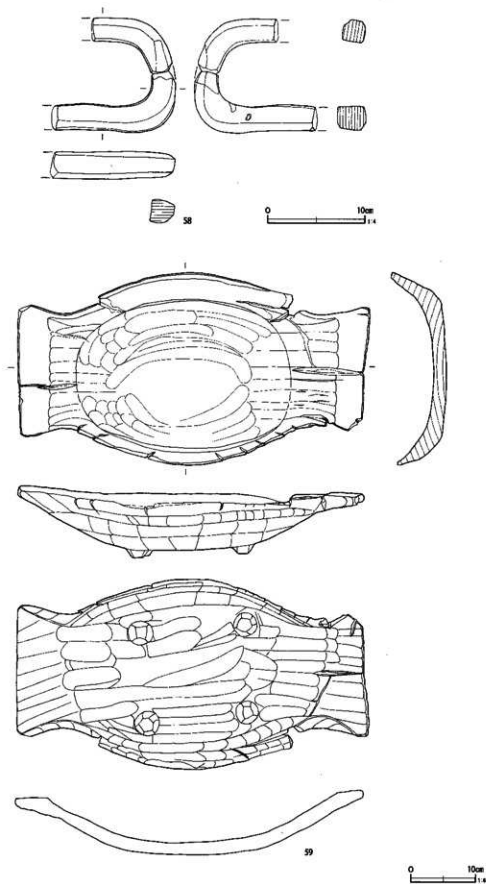
第386図56・57は作業台である。

56は、左端には材を切り出した切断痕が明瞭に残り、右側は欠損する。芯持ち材の2面を割り落とし、作業面にケズリ加工を加えて、表面が平滑に仕上げられている。使用の影響により中央に湾曲しながらくぼみ、大部分が炭化している。一部に刃物の痕跡と思われる裂痕が残る。現存長47.3cm、幅11.5cm、高さ5.7cmである。樹種はコナラ属アカガシ亜属である。(図版191-1、取り上げNo62)

57には、半割り材(芯を残す)が用いられている。木口右端は木目に対してほぼ垂直に切断され、左端は杭先状の切断痕となっている。両者の違いは、木の乾燥度による可能性が高く、左端は乾燥が進んで木が硬くなってしまっからの切断痕



第386図 第4号溝跡第2地点出土遺物(9)



第387図 第4号溝跡第2地点出土遺物 (10)

と推定される。よって、本品は二次的な転用品と想定される。大きさは、長さ34.3cm、幅14.2cm、厚さ6.9cm、樹種はコナラ属クスギ節である。(図版191-2、取り上げNo50)

第387図58Iは、輪盤と推定される。板目材を隅丸長方形の輪状に削り出したもので、外周部は面取りされている。現存幅12.6cm、高さ11.7cmである。太さは上辺部で22×2.3cm、下辺部で25×2.9cm、側辺部で24×2.3cmである。樹種はクリである。形状的には、TK47段階にのみ見られる限定的な製品とされる。

上辺の欠損部が中央の軸部付近であるにもかかわらず、軸部の痕跡がみられない。また、乗馬時に足を掛けた下辺内面の角は明瞭に残り、使用した痕跡を窺うことができない。そのため、器種は門である可能性も考えられる。(図版188-2、取り上げNo12)

59Iは、四脚の槽である。平面形状は所謂双方中円形で、中央が楕円形、長手方向の両側に方形部が羽根状に広がる。長辺は外側へ膨らむ中央部から直線的な両端部が繋がり、一方、短辺は直線的である。口縁部(側面部)の立ち上がりは、内面では曲線的な不明瞭なもので、両端部(短辺部付近)で幅4.2~4.8cmほどの平坦面を有する。外面では長辺方向にしっかりとした稜を形成するのに対し、短辺方向には境界をもたずに立ち上がり、先端部のみ境をもって外反する。底部には径36~3.8cm、高さ1.0~1.5cmほどの半球状の台脚がケズリ出されている。

横木取りの材を削り込んで成形した刳物である。内面の加工は、工具痕を判別し難いほど丁寧な仕上げている。また、楕円形の中央部から方形の両端部に移行する括れ部では、外形と相似するようにケズリ込まれている。外面の工具痕も、判別が容易ではなく、きわめて精製されている。

長さ54.2cm、幅30.1cm、高さ11.0cm、器厚2.2cmの大品型である。端部のごく一部を欠損するのみで、

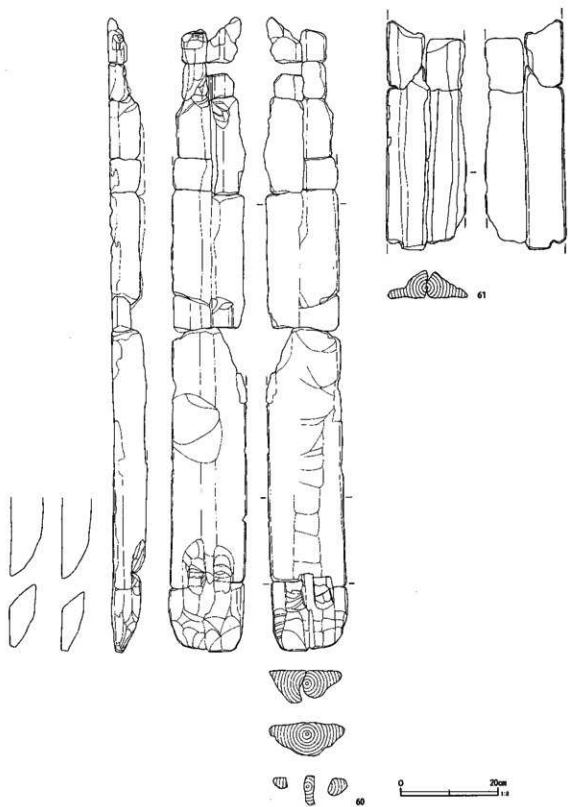
残存状態は極めて良好である。また、長辺方向の口縁部外面上半部に、被熱による炭化部がある。樹種はスギである。(図版192-3~5取り上げNo1)

第388図60Iは建築部材である。肉厚の板材で、端部付近に2孔並んだ柄穴が貫通している。切妻の破風材周辺の材で破風を立ち上げる軸受けの棟押か、横架材と推定される。断面は凸形を呈し、平面部はケズリ加工によって平滑に整えられている。背面は柄穴よりも外側の端部には丁寧なケズリが施されているが、全体的に粗い仕上げである。また反対側には欠き込み状の挟りが入り、他の材との仕口を形成している。柄穴は約45~50°の角度で斜めに穿たれ、上面で長さ6.2cm、幅4.2cmの方形孔である。このように、一方では柄差し形式によって斜め方向に材と材を繋ぎ、他方では欠き込みによって材と材を交差させる仕口加工が施された横架材である。現存長129.7cm、幅14.5~15.4cm、厚さ6.7~6.9cm、木取りは芯持面取り、樹種はツブラジイである。木取りが容易に取れる半割り材ではなく芯持ち材であることから、相当の荷重を支える構造材と推定される。(図版193-1~3、取り上げNo48)

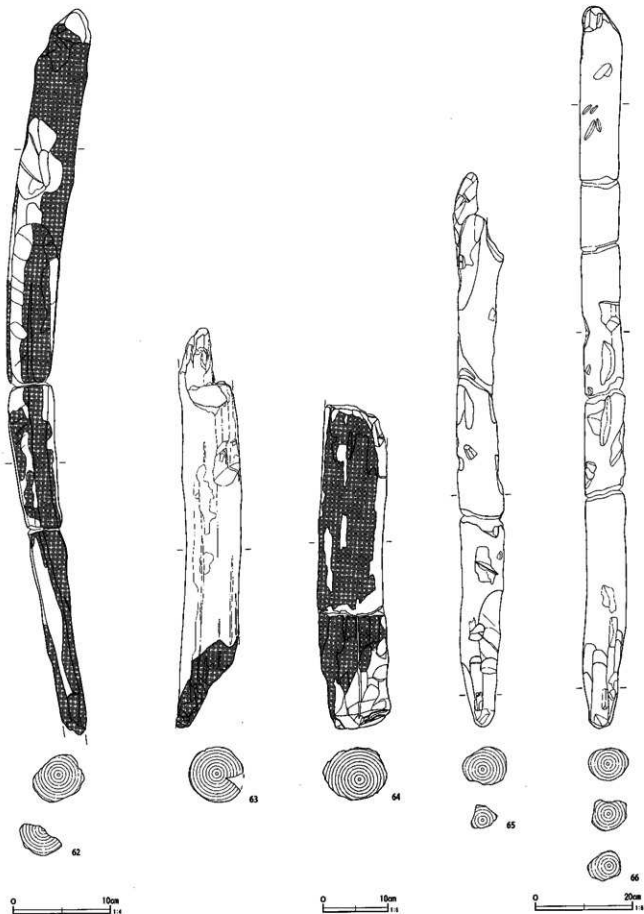
放射性炭素年代測定の結果は、補正年代1590±20BP、暦年較正年代calAD427-calAD533である。

61Iは60と酷似した建築部材であるが、直接的な接合関係がないので別遺物として報告する。芯持ち材を面取りし、樹種もツブラジイと一致する。よって、相当の荷重を支える構造材で、切妻の破風材周辺の材で破風を立ち上げる軸受けの棟押か横架材と推定される。平面部はケズリ加工によって平滑に整えられているのに対し、背面は粗い仕上げである。現存長45.6cm、幅16.4cm、厚さ5.3cmである。(図版193-4、取り上げNo48)

第389図62Iは垂木と思われる。接合された最上段の部材下半部が欠き込み状に挟られている。またその先には桁材との緊縛紐がずれないように



第388图 第4号溝跡第2地点出土遺物 (11)



第389图 第4号溝跡第2地点出土遺物 (12)

したケズリ痕もみられる。現存長74.3cm、残存幅3.8～5.3cm、残存厚29～46cmである。木取りは芯持ち丸木、樹種はハイノキ属である。表面は部分的に炭化している。(図版190-3、取り上げNo64)

63は欠き込みをもつ柱状の建築部材である。図上端部は欠き込み部分で折損し、下部は焼失している。また、欠き込み部の6cmほど下側にも、狭い範囲であるが浅い欠き込み状のケズリが施されている。現存長61.7cm、径8.5cmである。芯持ち丸木材で、樹種は同定していない。(図版194-1・2、取り上げNo44)

64は柱材である。丸木材の表面の所々にケズリを施し、ほぼ均一な太さに整えている。下端部には、手斧による切痕が明瞭に残存している。現存長49.9cm、幅9.7cm、厚さ8.0cm、樹種はクマシテ属イヌシテ節である。表面的ではあるが、全体に炭化している。(図版191-3、取り上げNo55)

65・66は杭である。

65は杭先加工の工具痕が粗く、頂部には分枝材を切断した痕跡が残る。背面には部分的に加工が施されていることから、柱状の建築部材を二次転用したものと推定される。現存長85.7cm、幅6.8cm、厚さ5.9cm、杭先部幅4.2cm、厚さ3.5cm、芯持ち丸木、樹種はケンボナシ属である。(図版194-3～5、取り上げNo98)

66は、柱材から転用された杭である。上端付近は柱材製作時の一次加工痕や切断痕が残存する。また側面にも所々に面取り状の加工痕がみられる。杭先部は、工具痕の違いから、図左部が一次加工痕、ほか杭転用時の二次的な加工痕と推定される。杭先の二次加工部を除き部分的に炭化し、杭先左部の一次加工痕部にも炭化がみられる。長さ147.8cm、幅6.8～8.3cm、厚さ6.2～6.6cm、芯持ち丸木、樹種はコナラ属アカガシ亜属である。(図版195-1・2、取り上げNo67・207)

第2地点Dブロックの遺物 (第379・390～393)

第379図15～19と第390図67～第393図85は、第2地点最北端の杭によって固定されて密集する木製品と伴出した土器である。特に、木製品との共伴が明確な15・16の土器の小型壺と高坏は、木製品の時期を知る手掛かりとなる資料である。

第379図17は吉ヶ谷系の甕である。胴部から肩部にかけては張りが弱く、高い位置にある頸部から短い口縁部が開く。外面には、単節RLの縄文が反時計回りに4段施文されている。最上段は口縁部に限定され、頸部以下の文様との間に隙間が生じている。2段目以下は、上下端が重なり合うように施文されている。縄文の下端部には、原体の端部を他のもので縛った痕跡(他縛痕)がみられる。口唇部から内面にかけては、左から右の方向へナデ調整が行われている。出土地点は明確に把握されていないが、河川を生活に取り込んだ城敷遺跡の集落形成の開始期を知る手掛かりとなる資料である。

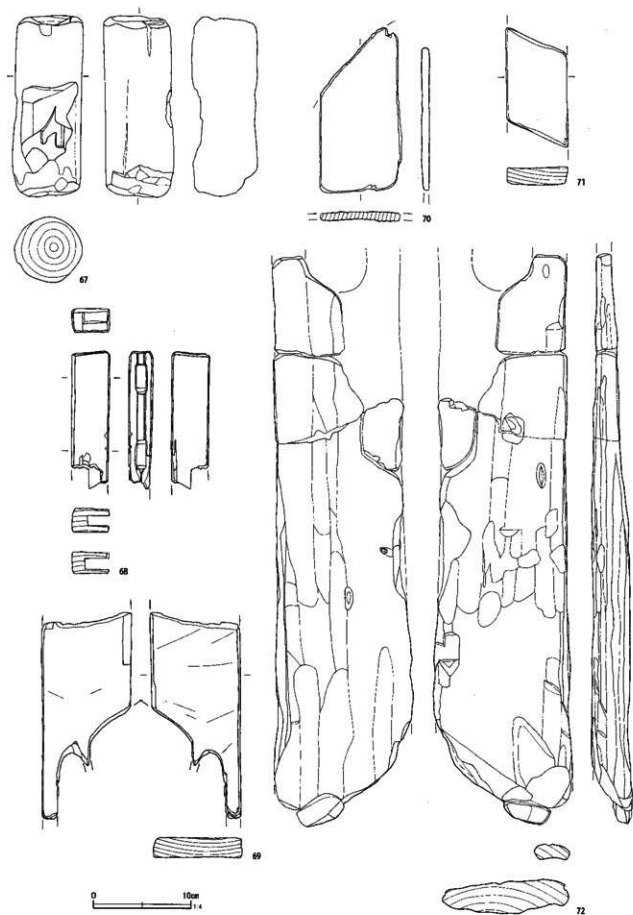
18は中世の在産産鉢で、後世の混入品と思われる。

19は須恵器壺の肩部の破片である。外面には平行タタキ、内面にはロクロナデがみられる。また外面の1/3ほどに、焼成時に付着した緑色の自然釉が残る。胎土の特徴や緑色の自然釉から、東海産である。

第390図67～第393図85は、第2地点北端部に密集していた木製品である。

第390図67は木錘である。両端部は切断され、下端の一面には段が整形されている。側面の中央付近は欠き込み状に挟られているが、ケズリ痕が粗雑で、二次的な加工痕と推定される。よって、本来は円柱状の材が、木錘に転用されたものであろう。長さ18.5cm、幅7.0cm、厚さ6.7cmを測る。木取りは芯持ち丸木で、樹種はクワ属である。(図版199-1、取り上げNo163)

68は、棒状の角材である。各面は丁寧に整形さ



第390图 第4号沟跡第2地点出土遺物 (13)

れ、断面は端正な長方形を呈している。長手方向の側面には、方形の納穴が2孔並んで穿たれている。現存する木口面には、仕口材の圧痕がみられる。現存長13.9cm、幅4.8cm、厚さ2.4cmである。納穴の大きさは、上方が縦2.3cm×横1.2cm×深さ2.3cm、下方は縦 [30] cm×横1.3cm×深さ2.5cmを測る。木取りは板目で、樹種はスギである。(図版196-1、取り上げNo170)

69は楣もしくは蹴放しの破片である。扉の軸穴と小脇板のはめ込み孔が穿たれている。孔部で欠損しているために、孔の大きさは不明である。孔の残存部に工具痕はみられず、使用による摩耗が著しい。また表面の加工痕も明確に捉える事ができないが、きわめて平滑な器面である。一部に、浅い線刻状の裂痕が確認できる。現存長21.2cm、現存幅9.1cm、厚さ2.0cmである。木取りは板目で、樹種はスギである。(図版196-2、取り上げNo143)

70は曲物の底板の破片である。平面台形を呈した板材で、図上側の斜め辺が側板に接する面となる。残存状況から、大型の曲物と推定される。現存長16.9cm、現存幅8.1cm、厚さ1.0cmである。木取りは追極目で、樹種はスギである。(図版197-1、取り上げNo127)

71は、平面が平行四辺形の板材である。上端・下端ともに木目に対し斜めに辺が形成されていることから、人為的に切断されたものと推定される。しかし、工具痕がみられず、鋸状のもので切断された可能性が高い。また、用途も想定しにくいことから、二次的に切断された板材と推測される。他の面にも工具痕はみられず、平滑な丁寧なつくりである。現存長12.5cm、幅6.3cm、厚さ1.9cmを測る。木取りは板目で、樹種はスギである。(図版197-2、取り上げNo139)

72は板材である。両面ともに加工が施されているが、一方は平滑に丁寧な仕上げである。側面部分は面取り状のケズリは行われていない。おそらく

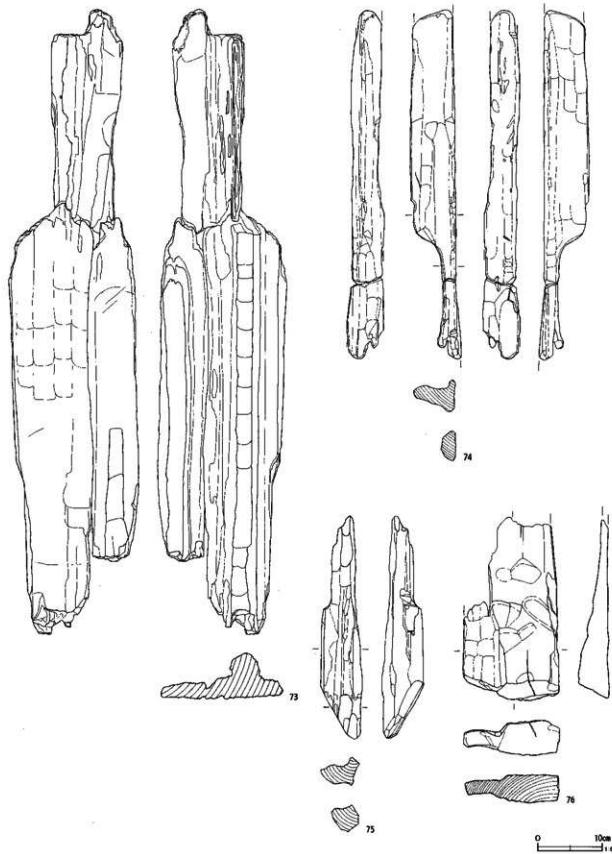
は、建物の床や壁などに用いられていた板材と推定される。丁寧な仕上げと見える方が建物の内側、他方が外側として、風食差が表れていることが予想される。現存長58.5cm、幅12.9cmで、厚さは図右から左へ薄くなり35~15cmである。木取りは板目で、樹種はキハダである。(図版197-3、取り上げNo110)

第391図73は、断面凸形の建築部材である。断面形状から棟押等の横架材とも思われるが、板目という木取りから荷重に耐えがたく、別の用途を想定する必要がある。両端部が欠損しているために明確ではないが、図上端部が孔となる可能性があり、蹴放し等の出入り口施設の部材も候補となる。凸型部の削り出しは、木繊維の腐食により加工痕が計画ではない。現存長96.1cm、幅18.9cm、厚さ6.9cm、樹種はモミ属である。(図版198-1、取り上げNo155)

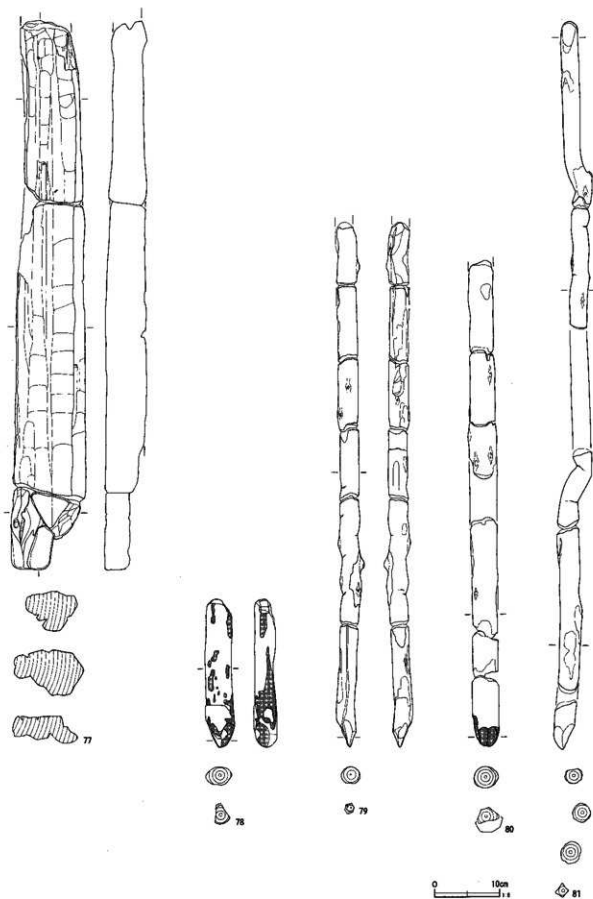
放射性炭素年代測定の結果は、補正年代1705±20、暦年較正年代calAD263-calAD384である。

74は、楣や蹴放し等の建築部材と推定され、断面は横向きの凸形を呈している。本来は、相応の幅をもっていた板材と思われる。挟りは扉軸や入り口施設の部材が嵌めこまれた孔と推定される。この挟り部から続く長辺に加工痕はみられないが、比較的きれいな状態であることから、用途は不明であるが二次的に転用されたものと想定される。可能性として椅子の脚が考えられる。現存長53.8cm、幅6.5cm、厚さは最大部5.0cm、板部2.3cmである。木取りは芯近くの板目、樹種はモミ属である。(図版197-4、取り上げNo108)

75は、芯持みかん割り材の一方の割り面が断面鉤形に成形されたもので、楣や蹴放し等の出入り口施設に関連する板状部材の一部と推定される。先端部は、木目に対し斜め方向にケズリが施されて、面取られている。現存長34.6cm、現存幅3.7~6.3cm、厚さ3.0~3.5cm、樹種はカヤである。(図版199-2、取り上げNo119)



第391図 第4号溝跡第2地点出土遺物 (14)



第392图 第4号溝跡第2地点出土遺物 (15)

76は、建築部材と考えられる板材が二次的に転用されたものである。図上面には粗雑な刃物痕が明瞭に残り、二次的な加工痕と推測される。背面は板材に割り裂かれた状態のまま、ケズリなどの加工痕はみられない。側面には加工が施され、きれいな面が形成されている。現存長28.3cm、幅14.8cm、厚さ4.3cm、木取りは追柂目、樹種はカヤである。(図版199-4、取り上げ№106)

第392図77は柱材である。半割り材の側面をケズリ、やや扁平な六角柱状に加工されていたものと推定される。現状では背面部に粗雑な二次加工痕が刻まれている。下端部は残存部が少なく明確ではないが、手斧等で切断されたものと推定される。上端部は折損する。現存長81.9cm、幅10.7cm、最大厚7.0cm、樹種はムクロジである。(図版200-1、取り上げ№150)

78は垂木と思われる。先端部は左右二方向から杭先状に加工されているが、工具痕は両方とも頂部には至っていない。そのため、先端は丸い。また対面する折損部付近には、欠き込み状のケズリが施されている。さらに、中間付近は細くなっており、緊縛によるものとも考えることもできる。現存長22.7cm、幅4.1cm、厚さ3.0cm、木取りは丸木、樹種はコナラ属アカガシ亜属である。一部に樹皮が残り、全体的に黒色化している。(図版199-3、取り上げ№135)

79-81は、垂木から転用した杭である。

79の上端付近には、桁材との接点部の圧痕もしくは緊縛痕と推定される凹みが見られる。杭先加工は、先端の短い範囲に材を回転させながら行っている。表面の風化により不明瞭ではあるが、二次加工による工具痕と推測される。現存長81.0cm、幅2.9cm、厚さ2.7cm、丸木材、樹種はスダジイである。(図版201-1・2、取り上げ№147)

80の背面には所々に加工痕が残され、上2片にかけては欠き込み状のケズリ痕が残されている。これらは垂木作成時の一時的な加工痕と推定さ

れる。また杭先は材を回転させながら加工し、加工後に焼き入れを行っているために炭化している。現存長68.9cm、幅3.3cm、厚さ3.7cm、芯持ち丸木、樹種はコナラ属アカガシ亜属である。(図版200-5・6、取り上げ№111)

81の上端にはケズリ加工が残り、垂木に用いられた際の加工痕と思われる。杭先には材を回転させながら4回の加工が施されている。工具痕は粗く、二次加工痕と推測される。現存長93.0cm、径2.3~3.3cm、芯持ち丸木、樹種はツブラジイである。一部樹皮が残存している。(図版200-2~4、取り上げ№145)

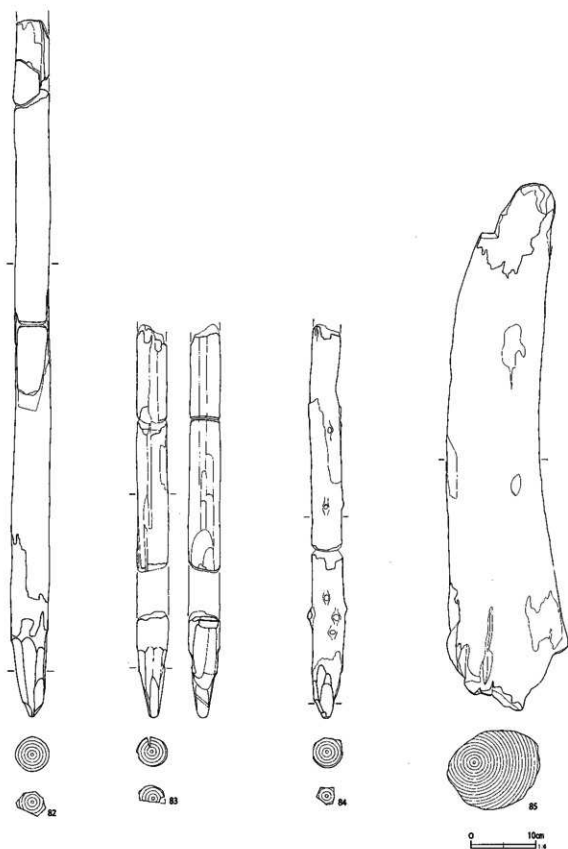
第393図82-85は杭である。

82の杭先加工は材を回転させながら、7回に分割して行っている。現存長107.4cm、径5.4cm、杭先幅4.5cm、厚さ3.4cm、芯持ち丸木、樹種はツバキ属である。部分的に樹皮が残存している。(図版196-3・4、取り上げ№146)

83の杭先部は半割り状態で、円面部にケズリ加工を施してとがらせている。半断面はやや幅広の工具によって加工され、横方向の深い刃物痕が残されている。直接接合されない直上の部材には欠き込み状のケズリ痕がみられ、これと材の太さを勘案すると、垂木材が杭に転用された可能性が高い。現存長53.8cm、幅4.6cm、厚さ4.6cm、杭先部幅3.9cm、厚さ2.6cm、芯持ち丸木、樹種はコナラ属アカガシ亜属である。(図版198-2・3、取り上げ№120)

84は太い枝材を用いた物で、小枝を振り掃って使用している。先端部の加工は回転させながら6回にわたって杭先状に加工し、断面が六角形となっている。基本的にはほかの加工は施されていない、全体的に樹皮に覆われた状態で残存している。頭部側は欠損し、残存長60.7cm、軸部径4.7cmを測る。樹種はクリである。(図版195-3・4、取り上げ№144)

85は用途不明材もしくは自然木である。上端付



第393图 第4号溝跡第2地点出土遺物 (16)

近の側面に工具痕が残るが、上下端ともに炭化しているために明確ではない。現存長81.5cm、幅18.6cm、厚さ12.2cm、芯持ち丸木、樹種はクリである。(図版201-3、取り上げNo161)

第2地点一括遺物 (第379図)

第379図20~27は、第4号溝跡第2地点一括遺物である。基本的には、帰属する遺物集中群(A~Dブロック)が特定できない資料である。20~22は須恵器、23~27は土師器である。

20は須恵器甕の底部の破片、21・22は須恵器甕の胴部の破片である。20は外面がナデ、内面には突き具痕が残る。TK47併行期の東海産か。21・22は同一個体で、外面に平行タタキ、内面に当て具痕がみられる。胎土の特徴から東海産と推定される。

第4号溝跡第3地点 (第394図)

第4号溝跡第3地点は、北北西の第1地点から南下し、南方の第5地点に至る中継点に位置する。ZW-15・16・17・18グリッドを南北方向に縦断し、走行方位はN-30°-Wを指す。第1地点から第3地点を経由して第5地点に繋がるカーブに囲まれた内側には、第76・80~86・95・96号住居跡、第13号掘立柱建物跡が位置する。

第4号溝跡第3地点でも、住居跡の所在する河川流路の西側にテラス部が設けられている。テラス部の機能は第1地点と同様で、幅9.45m、比高差0.68mほどの人工的に削平されたごく緩やかな斜面部が形成されている。このテラス部は、第1地点から第7地点まで、250m以上もの長い距離にわたって付設されている。このような大規模な土木工事を竣工しながら、生活の中に河川を積極的に取り込んでいた様子を窺うことができる。平面規模は、上幅18.9m、流路上幅9.4m、流路底幅5.2m、確認面から溝底までの深さは、西側1.8m・東側1.9mで浸食作用の加わる東側が深く、堆積

作用の働く西側が浅くなっている。

各要所の北端と南端の標高は、西側上辺19.05m・18.97m、テラス部西辺18.50m・18.48m、テラス部東辺18.28m・18.31m、溝底西辺17.18m・17.18m、溝底東辺17.11m・17.12m、東側中段18.26m・18.15m、東側上辺18.67m・18.98mを計測する。概ね、北側の標高が高く、南側へ下る傾斜をもっている。

遺物は、大半のものが溝底から出土している。第1・2地点と同様に、木製品も出土しているが、他の地点と比べると点数は少ない。木製品には容器の槽と、建築部材の板材や柱材、またこれを再加工した杭等がある。一方、テラス部からは、吉ヶ谷系の壺(28)と、6世紀代の土師器模倣杯(27)が出土している。

注目される遺物は、第395図2の須恵器樽形甕である。人為的に破砕した破片が溝中に投棄されたような状態で、南北6mにわたる範囲からみつがっている。また須恵器坏壺(1)や完形率の高い土師器坏(3~11)や高坏(16~21)、赤彩された土師器鉢(14)・埴(第396図22)、須恵器甕(26)、木製容器の槽(第397図29)等が出土している。さらに、滑石製の有孔円板(24・25)や、小型坏(3)のなかから有孔円板状の製品を製作するに足る扁平な滑石片3枚が検出されている。このような樽形甕の破砕行為や、祭祀遺物の有孔円板や完形率の高い供膳具や木製槽などの集中した出土状況から、「水辺の祭祀」が執り行われたことが推定される。これらの一括遺物は、「お供え物を入れる器」として用いられた祭器である。また、樽形甕は儀式終了後に破砕し、破片を溝中へ撒いたものと思われる。

また、12・13の土師器北武蔵型暗文坏の存在は、第1地点と同様に、大溝跡の埋没時期を知る手掛かりとなる資料である。

第3地点から出土した遺物（第395～398図）

第395図1は、須恵器杯蓋である。3×25cmほどの碎片であり、第4号溝跡第2地点から出土しているTK47併行期と推定される須恵器杯身（第378図9）を参考に復元した。口縁端部等はシャープな造りで、胎土は緻密である。口縁端部にTK23段階の古い様相もみられる。陶邑産と推定される。

2は、須恵器の椀形甕である。胎土の様相や断面小豆色、器面黒灰色の色調から、陶邑産と推定される。図上の右側を基部として成形し、左側に蓋を載せるように製作されている。現状では、いずれも剥落している。正面中央のやや上位に円孔が穿たれている。文様帯は、2条（一部3条）一単位の平行沈線によって5区画に分割され、その後、各区に6本組の描波状文を二段施文されている。内面はロクロナデ後、縦方向の指ナデが施されている。左端部には指押さえの痕跡が残り、端部が外上方に引き出されている。長さ240cm、胴部最大径162cm、右端（基部）推定径104cm、左端（蓋部）推定径96cmである。器形の特徴や大きさなどから、TK83（TK73併行段階）に類別が求められる。

第396図26は須恵器甕である。丸底の底部付近の破片のため、器形復元は行っていない。外面には平行タタキ、内面には当て具裏がみられるが、内面の処理は雑である。また、底部の粘土板の痕跡も明瞭である。胎土や器面の様相は、第4号溝跡第1地点から出土した須恵器甕（第365図3）と近似する。在地産（末野産？）と推定される。

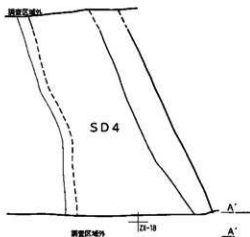
24は、滑石製有孔円板の欠損品である。上辺と右辺の側面に研磨が施されているが、直線的な形状を呈するため、二次的な加工と推測される。円孔が2孔穿たれ、孔径は0.20～0.21cmである。表裏面とも丁寧に研磨され、平滑に仕上げられている。残存長1.88cm、残存幅2.43cm、厚さ0.27cm、重さ26gである。（図版170-9）

25は、滑石製有孔円板の未製品である。三角形に削ぎとられた扁平な石材に、円孔が2孔穿たれている。孔径は0.15～0.18cmである。全面に剝離痕を明瞭に残す。裏表面の一部に捺痕が認められるが、製品と比較すると程遠い器面の状態である。側面には研磨は施されていない。長さ2.09cm、幅2.65cm、厚さ0.46cm、重さ44gである。（図版170-8）

27・28はテラス部から出土し、27が土師器模倣杯である。28は吉ヶ谷系の甕で、口唇部には、単節LRの縄文原体が丁寧に回転押圧されている。外面の口縁部から胴部上半にかけて、単節LRの縄文が左から右へ、上から下へという順序で施文されている。縄文施文後に、胴部下半にはヨコ位のミガキが施されている。底部は平底で、底面はミガキによって丁寧に仕上げられている。口縁部外面には、粘土紐の巻き上げ痕を明瞭に残す。内面には胴部下半にミガキが行われた後、胴部上半から口縁部にかけてナデが施されている。

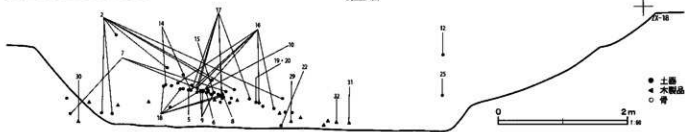
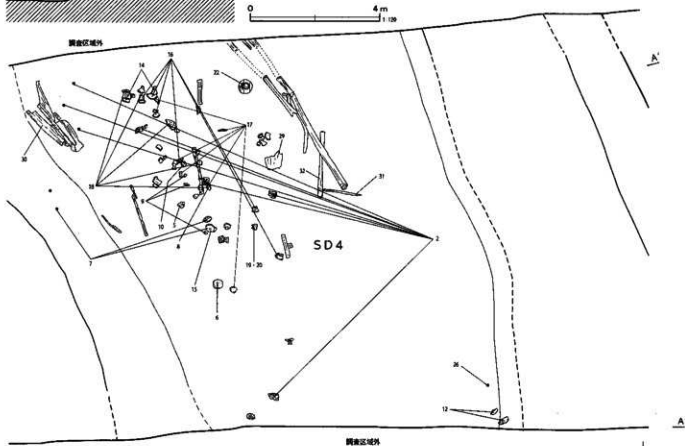
第397図29は、木目方向を長辺とする隅丸長方形もしくは楕円形の槽である。大半を欠損し、長辺から短辺にかかる付近のみが残存している。柁目横木取りの材を削り抜いて成形し、器面には削り痕が残る。口縁部は、長辺では端部を欠損する。底面から外傾しながら開く直線的な口縁で、厚さは底面から端部に向かって薄くなる。短辺の口縁部は底面からの立ち上がり付近が残存しているのみであるが、先端部には二次的な加工が施されている。二次的な転用に伴うものか、補修されたものかは断定できない。底部は平底で、台脚はみられない。現存長25.8cm、現存幅24.7cm、現存高6.8cm、厚さ1.6cmを測る。樹種はスギである。（図版202-1、取り上げNo59）

30は板材である。用途として、建築部材の壁板・床板等のほかに、側面の一方がわずかに挟られていることから、原始機の経送具の可能性も考えられる。現存長59.8cm、幅10.4cm、厚さ1.7cmを測る。

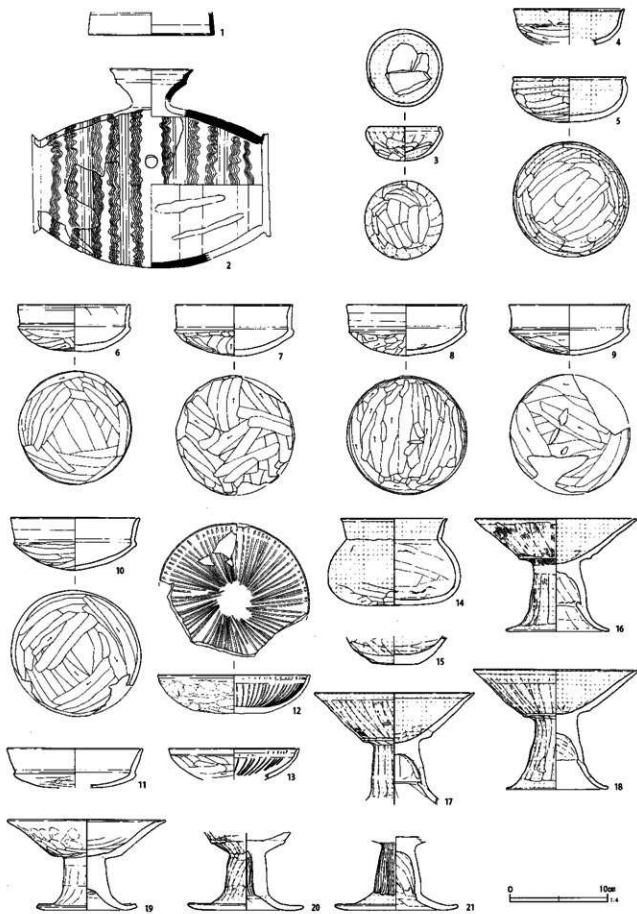


SD4 第3地点

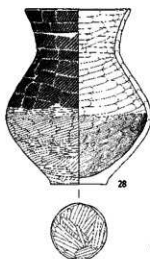
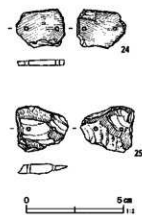
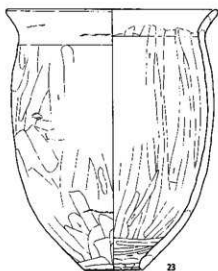
- 1 腐解作土 表土
- 2 褐色土 炭わすか 炭少量
- 3 暗赤褐色土 炭わすか 炭少量
- 4 暗褐色土 穴の跡につながる同じ土層 5層との境は複雑 すき込み跡かもしれない SD4に合わせて層が落ち込む
- 5 暗褐色土 7・8より明るい 炭わすか
- 6 灰白色土 灰色が強い 5・7・8層より明るく白く色がぬける
- 7 暗灰色土 6層より暗い 炭わすか
- 8 暗灰色土 7層より暗い 暗色がかかる 炭わすか
- 9 暗赤灰色土 炭少量 10・11層より明るく12層より暗い 9~13層がSD4の主な埋め土
- 10 暗赤灰色土 11層より明るい 粘土層 炭少量
- 11 暗赤灰色土 12層より暗い 粘土層 炭少量
- 12 暗赤灰色土 炭多量 灰色粘土状に含む 10・11層より明るい
- 13 暗灰色土 炭多量 砂質粘土層 炭の薄層挟まる



- 土器
- ▲ 木製品
- 骨



第395图 第4号溝跡第3地点出土遺物(1)



第396图 第4号溝跡第3地点出土遺物(2)

第96表 第4号溝跡第3地点出土土物観察表 (第395・396図)

| 番号 | 種別 | 図様 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 残存 | 焼成 | 色調 | 備考 | 出土位置 | 図版 |
|----|-----|-----|-------|------|------|---------------|-----|----|-------|--|-------------|----|
| 1 | 須恵器 | 坏蓋 | (129) | 23 | - | I K | 5 | 良好 | 灰 | 陶器座か TK47 ZW-17Gr | | |
| 2 | 須恵器 | 樽形壺 | (85) | 20.3 | - | I | 45 | 良好 | 黒灰 | 陶器座 TK88 (TK73群行役用) 長さ24.0cm 胴部最大径16.2cm 右端部定径10.4cm 左端径9.6cm ZW-17GrNo1・4・5・10-13 露露面下層 | 169-1 ~6 | |
| 3 | 土師器 | 坏 | 73 | 35 | - | A E H I K | 100 | 普通 | 橙 | 赤彩 扁平滑石3枚付着 ZW-17Gr | 170-1 | |
| 4 | 土師器 | 坏 | (114) | 37 | - | C D E H I | 20 | 良好 | にんべん青 | 赤彩 ZW-17Gr下層 | | |
| 5 | 土師器 | 坏 | 116 | 46 | - | D E H | 100 | 良好 | にんべん青 | 比色型坏 赤彩 ZW-17GrNo20・39・下層 | 168-5 | |
| 6 | 土師器 | 坏 | 117 | 48 | - | A C H I K | 100 | 良好 | 橙 | 坏蓋模倣 ZW-17GrNo46 | 168-6 | |
| 7 | 土師器 | 坏 | 120 | 52 | - | A E I | 80 | 良好 | 橙 | 坏蓋模倣 焼成時の黒化色 ZW-17GrNo7・36・40 | 170-2 | |
| 8 | 土師器 | 坏 | 121 | 52 | - | A C H I J K | 100 | 良好 | 橙 | 坏蓋模倣 ZW-17GrNo52 | 170-3 | |
| 9 | 土師器 | 坏 | (122) | 51 | - | A H I K | 60 | 普通 | 橙 | 坏蓋模倣 外面に二次的被熱痕 ZW-17GrNo30・34・41・下層 | 170-4 | |
| 10 | 土師器 | 坏 | 132 | 53 | - | C D H | 80 | 良好 | にんべん青 | 坏蓋模倣 ZW-17GrNo28・下層 | 170-5 | |
| 11 | 土師器 | 坏 | (140) | 40 | - | A H I K | 10 | 良好 | 橙 | 坏蓋模倣 ZW-17Gr下層 | | |
| 12 | 土師器 | 坏 | (155) | 40 | - | C E H I K | 70 | 普通 | 明赤褐 | 北武蔵型甗文坏 外面煤付着 ZW-17GrNo9 | 171-3 | |
| 13 | 土師器 | 坏 | (134) | 32 | - | A C D H I | 20 | 普通 | 橙 | 北武蔵型甗文坏 ZW-17Gr下層 | | |
| 14 | 土師器 | 鉢 | (108) | 90 | - | C H | 30 | 普通 | にんべん青 | 赤彩 二次的被熱痕 ZW-17GrNo14・19・20・下層 | 171-4 | |
| 15 | 土師器 | 鉢 | - | 29 | 50 | A C E I K | 70 | 良好 | にんべん青 | 赤彩 小礫多 ZW-17GrNo41 | | |
| 16 | 土師器 | 高坏 | 167 | 115 | 107 | A C D E H I J | 95 | 良好 | にんべん青 | 赤彩 ZW-17GrNo17・19・27・28・44・45 | 171-5 | |
| 17 | 土師器 | 高坏 | 165 | 114 | - | C E H I K | 80 | 普通 | にんべん青 | 赤彩 ZW-17GrNo19・23・27・29・35・47・下層 ZW-19下層 | 171-6 | |
| 18 | 土師器 | 高坏 | 169 | 122 | 103 | A E H I J K | 90 | 良好 | にんべん青 | 赤彩 φ1~2mm大含有物多 ZW-17GrNo15・18・22・32・35 | 171-7 | |
| 19 | 土師器 | 高坏 | (162) | 92 | 104 | A D E G H I K | 60 | 普通 | にんべん青 | 短頸 坏部内面器面風化顯著 ZW-17GrNo43 | 170-6 | |
| 20 | 土師器 | 高坏 | - | 79 | 120 | A C E H I K | 45 | 普通 | にんべん青 | 赤彩 黒色塵粒子多 ZW-17GrNo43・下層 | | |
| 21 | 土師器 | 高坏 | - | 75 | 127 | A E H I J | 100 | 良好 | にんべん青 | 赤彩 直上ZW-17Gr | | |
| 22 | 土師器 | 埴 | 94 | 145 | - | A D H I J | 90 | 良好 | にんべん青 | 赤彩 ZW-17GrNo55 | 170-7 | |
| 23 | 土師器 | 甗 | (212) | 26.9 | (60) | C H I J K | 25 | 普通 | にんべん青 | ZX-17Gr | | |
| 26 | 須恵器 | 壺 | - | 189 | - | E I K | 20 | 良好 | 灰 | 在地産(米野原か) ZW-17GrNo8 | | |
| 27 | 土師器 | 坏 | (132) | 43 | - | C E H I K | 20 | 良好 | 橙 | ZW-16Gr | | |
| 28 | 五領 | 壺 | (110) | 181 | 58 | A E G I | 50 | 良好 | 橙 | 卑脚LR ZW-16GrNo1 | | |

木取りは板目で、樹種はモミ属である。(図版202-2、取り上げNo68)

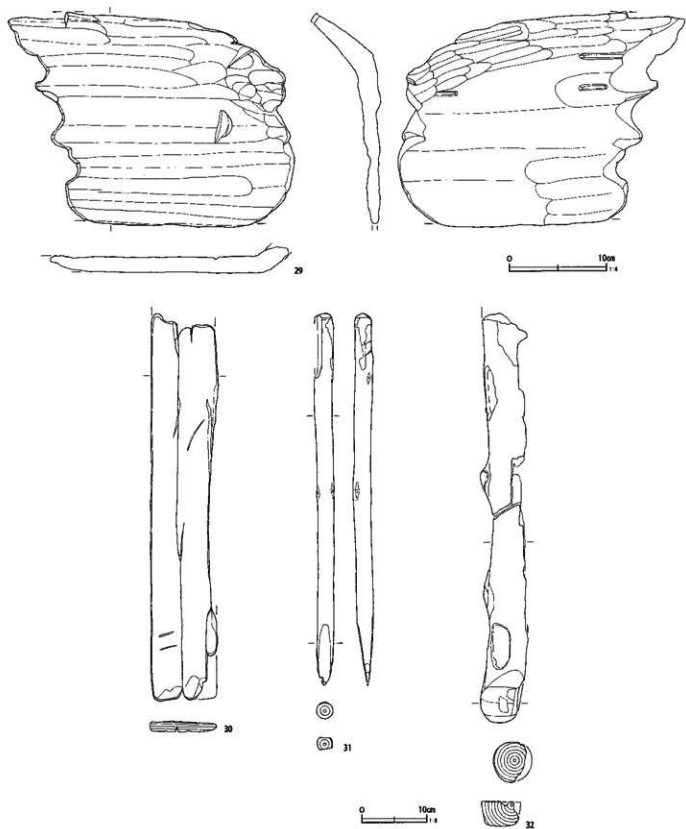
31は杭である。芯持ち丸木の先端部を、両面から杭先状に加工されている。さらに先端部には両側からケズリが施され、より鋭利な形状となっている。頭部は潰れており、杭を打ち込んだ時の敲打痕の可能性もある。また側面には裂痕がみられるが、使用時のものか後世のものかは判断できない。現存長56.7cm、径2.4~2.6cm、樹種はモミ属である。(図版202-3~5、取り上げNo65)

32は、杭と思われる。柱状の芯持ち丸木材の先端部に、片面から長さ7.4cmほど杭先状の加工を施している。しかし、材に対して加工距離が短い。ため、鋭利な先端部は形成されていない。また両側面・背面にも不明瞭なケズリがみられ、幅約5.7cmの断面方形に整形されている。鈍重な先端部や粗い加工痕などから、柱材を二次的に転用した可

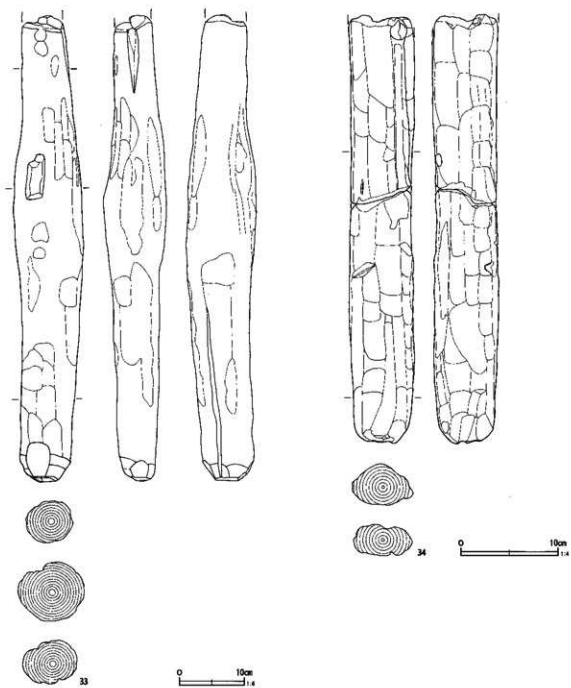
能性が高い。現存長63.2cm、径6.2cmを測る。樹種はクワ属である。(図版204-1、取り上げNo64)

第398図33は、柱状の建築部材である。芯持ち丸木の先端部を鉋・手斧等の工具で切断した材で、表面的には一部ケズリが施されている。反対側は欠損し、現存長72.0cmを測る。太さは現存部分の中間付近が膨らみ、上端付近が幅7.3cm×厚さ6.4cm、中間のもっとも太いところが幅10.4cm×厚さ9.1cm、切断痕付近が幅8.3cm×厚さ6.8cmである。樹種はコナラ属アカガシ亜属である。一部、被熱により炭化している。(図版203-1)

34は、柱状の建築部材である。芯持ち丸木材の表面をケズリ加工し、やや扁平な柱状材に整形している。下端部には切断痕が残り、上端は欠損している。現存長44.1cm、幅6.0~6.3cm、厚さ3.1~4.3cmを測る。表面の一部には、炭化した部分がある。樹種は同定していない。(図版203-2)



第397図 第4号溝跡第3地点出土遺物(3)



第398图 第4号溝跡第3地点出土遺物(4)

6. ビット

城敷遺跡の調査で検出されたビットは、住居跡等の遺構の少ない区域に分布する傾向が窺われる。

ZS-9～ZS-11グリッドの第101・102号住居跡と第17号溝跡に挟まれた区域では、2m前後の間隔を開けながらビットが発見されている。ビット列状に分布するような傾向もみられるが、建造物となるような配置の組み合わせを確認できなかったため、ビットとして報告する。

ZS-11～ZS-14グリッドの東西約30m間は、ビットのみによって構成されている区域である。径0.2～0.3m前後、深さ0.2m前後の小ビットが集中している。

ZS-17・18グリッドでは、併走する第25号溝跡と第26号溝跡との関連を予想させるビット群である。

ZW-12・13グリッドにもビットの集中区がある。西側に位置する第76号住居跡を境に、住居の分布がみられなくなる区域である。南側には第13号掘立柱建物跡が所在することから、これらのビット群が掘立柱建物跡となる可能性も否定できない。しかし発掘調査では組み合わせを把握することができなかったため、ビットとして報告する。

各ビットの長径・短径・確認面からの深さ、重複関係等については、第97表に示した。

第97表 城敷遺跡ビット一覧表

| グリッド | 番号 | 長径(m) | 短径(m) | 深さ(m) | 備考 | グリッド | 番号 | 長径(m) | 短径(m) | 深さ(m) | 備考 |
|-------|----|-------|-------|-------|----|-------|------|--------|--------|-------|----|
| ZQ-9 | 1 | 0.22 | 0.21 | 0.230 | | ZS-10 | 8 | 0.22 | 0.21 | 0.144 | |
| ZR-8 | 1 | 0.44 | 0.38 | 0.167 | | | 9 | 0.16 | 0.15 | 0.127 | |
| | 2 | 0.38 | 0.37 | 0.517 | | | 10 | 0.28 | 0.27 | 0.236 | |
| | 3 | 0.25 | 0.22 | 0.211 | | | 11 | 0.21 | 0.21 | 0.190 | |
| | 4 | 0.23 | 0.20 | 0.190 | | | 12 | 0.24 | 0.23 | 0.115 | |
| | 5 | 0.45 | 0.37 | 0.244 | | | 13 | 0.28 | 0.25 | 0.217 | |
| | 6 | 0.31 | 0.26 | 0.168 | | ZS-11 | 1 | 0.38 | 0.37 | 0.214 | |
| ZS-7 | 1 | 0.32 | 0.28 | 0.430 | | | 2 | 0.29 | 0.26 | 0.181 | |
| ZS-8 | 1 | 0.36 | 0.24 | 0.402 | | | 3 | 0.25 | 0.25 | 0.206 | |
| | 2 | 0.26 | 0.22 | 0.443 | | | 4 | 0.36 | 0.31 | 0.253 | |
| | 3 | 0.26 | 0.23 | 0.452 | | | 5 | 0.21 | 0.18 | 0.313 | |
| | 4 | 0.41 | 0.39 | 0.567 | | | 6 | 0.23 | 0.20 | 0.267 | |
| | 5 | 0.30 | 0.28 | 0.597 | | | 7 | 0.26 | 0.22 | 0.305 | |
| | 6 | 0.26 | 0.22 | 0.424 | | | 8 | 0.22 | 0.20 | 0.202 | |
| | 7 | 0.23 | 0.22 | 0.541 | | | 9 | 0.21 | 0.19 | 0.110 | |
| | 8 | 0.24 | 0.23 | 0.329 | | | 10 | 0.25 | [0.10] | 0.322 | |
| | 9 | 0.24 | 0.23 | 0.434 | | | 11 | 0.29 | 0.28 | 0.111 | |
| | 10 | 0.40 | 0.36 | 0.504 | | | 12 | 0.33 | 0.28 | 0.382 | |
| | 11 | 0.44 | 0.36 | 0.469 | | | 13 | 0.14 | 0.14 | 0.255 | |
| ZS-9 | 1 | 0.28 | 0.27 | 0.248 | | | 14 | 0.18 | 0.17 | 0.305 | |
| | 2 | 0.50 | 0.41 | 0.131 | | 15 | 0.16 | 0.16 | 0.265 | | |
| | 3 | 0.66 | 0.59 | 0.168 | | 16 | 0.34 | 0.27 | 0.132 | | |
| | 4 | 0.32 | 0.26 | 0.332 | | 17 | 0.28 | 0.27 | 0.236 | | |
| | 5 | 0.38 | 0.31 | 0.244 | | 18 | 0.28 | 0.25 | 0.090 | | |
| | 6 | 0.25 | 0.22 | 0.264 | | 19 | 0.22 | 0.21 | 0.220 | | |
| ZS-10 | 1 | 0.29 | 0.29 | 0.292 | | 20 | 0.33 | 0.31 | 0.269 | | |
| | 2 | 0.56 | 0.52 | 0.100 | | 21 | 0.23 | 0.21 | 0.171 | | |
| | 3 | 0.26 | 0.24 | 0.184 | | 22 | 0.78 | 0.61 | 0.254 | | |
| | 4 | 0.36 | 0.34 | 0.254 | | 23 | 0.21 | 0.20 | 0.158 | | |
| | 5 | 0.34 | 0.32 | 0.194 | | 24 | 0.30 | [0.12] | 0.238 | | |
| | 6 | 0.36 | 0.31 | 0.155 | | ZS-12 | 1 | 0.28 | 0.22 | 0.242 | |
| | 7 | 0.36 | 0.30 | 0.186 | | | 2 | 0.26 | 0.26 | 0.140 | |

| グリッド | 番号 | 長径(m) | 短径(m) | 深さ(m) | 備考 | グリッド | 番号 | 長径(m) | 短径(m) | 深さ(m) | 備考 | | |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|------------------|-------|--|
| ZS-12 | 3 | 0.24 | 0.21 | 0.174 | | ZS-13 | 27 | 0.17 | 0.17 | 0.111 | | | |
| | 4 | 0.24 | 0.23 | 0.152 | | | 28 | 0.21 | 0.20 | 0.098 | | | |
| | 5 | 0.17 | 0.16 | 0.266 | | | 29 | 0.22 | 0.20 | 0.106 | | | |
| | 6 | 0.26 | 0.20 | 0.177 | | | 30 | 0.24 | 0.24 | 0.187 | | | |
| | 7 | 0.23 | 0.22 | 0.288 | | | 31 | 0.20 | 0.20 | 0.124 | | | |
| | 8 | 0.22 | 0.20 | 0.239 | | | 32 | 0.20 | 0.19 | 0.106 | | | |
| | 9 | 0.18 | 0.17 | 0.190 | | | 33 | 0.24 | 0.20 | 0.147 | | | |
| | 10 | 0.24 | 0.20 | 0.080 | | | 34 | 0.32 | 0.32 | 0.335 | | | |
| | 11 | 0.20 | 0.18 | 0.080 | | | 35 | 0.32 | 0.27 | 0.317 | | | |
| | 12 | 0.27 | 0.19 | 0.140 | | | 36 | 0.23 | 0.20 | 0.151 | | | |
| | 13 | 0.30 | 0.21 | 0.109 | | | 37 | 0.32 | 0.29 | 0.139 | P38と重複 P37と重複 | | |
| | 14 | 0.20 | 0.20 | 0.096 | | | 38 | 0.16 | 0.12 | 0.078 | | | |
| | 15 | 0.20 | 0.18 | 0.075 | | | 39 | 0.30 | 0.29 | 0.177 | | | |
| | 16 | 0.32 | 0.20 | 0.292 | | | 40 | 0.25 | 0.19 | 0.288 | | | |
| | 17 | 0.17 | 0.16 | 0.096 | | | 41 | 0.16 | 0.12 | 0.140 | | | |
| | 18 | 0.24 | 0.22 | 0.284 | | | 42 | 0.17 | 0.16 | 0.069 | | | |
| | 19 | 0.20 | 0.18 | 0.178 | | | ZS-14 | 1 | 0.31 | 0.30 | 0.200 | | |
| | 20 | 0.18 | 0.16 | 0.095 | | | | 2 | 0.24 | 0.20 | 0.103 | | |
| | 21 | 0.40 | 0.25 | 0.102 | | | | 3 | 0.20 | 0.16 | 0.141 | | |
| | 22 | 0.23 | 0.17 | 0.072 | | | | 4 | 0.18 | 0.14 | 0.098 | | |
| | 23 | 0.26 | 0.16 | 0.100 | | | | 5 | 0.22 | 0.16 | 0.139 | | |
| | 24 | 0.50 | 0.12 | 0.218 | | | | 6 | 0.19 | 0.14 | 0.127 | | |
| | 25 | 0.24 | 0.22 | 0.185 | | | | 7 | 0.15 | 0.14 | 0.134 | | |
| | 26 | 0.30 | 0.26 | 0.125 | | | | 8 | 0.19 | 0.16 | 0.155 | | |
| | 27 | 0.12 | 0.12 | 0.063 | | | | 9 | 0.18 | 0.13 | 0.141 | | |
| | 28 | 0.27 | 0.26 | 0.232 | | | | 10 | 0.23 | 0.22 | 0.126 | | |
| | 29 | 0.22 | 0.22 | 0.083 | | | | 11 | 0.18 | 0.18 | 0.188 | | |
| | 30 | 0.20 | 0.20 | 0.092 | | | | 12 | 0.26 | 0.23 | 0.160 | | |
| | ZS-13 | 1 | 0.24 | 0.23 | 0.189 | | | | 13 | 0.20 | 0.19 | 0.170 | |
| | | 2 | 0.28 | 0.24 | 0.094 | | | | 14 | 0.17 | 0.17 | 0.149 | |
| 3 | | 0.18 | 0.17 | 0.070 | | 15 | | 0.31 | 0.16 | 0.162 | | | |
| 4 | | 0.16 | 0.16 | 0.092 | | 16 | | 0.50 | 0.44 | 0.191 | | | |
| 5 | | 0.21 | 0.21 | 0.149 | | 17 | | 0.41 | 0.36 | 0.201 | | | |
| 6 | | 0.20 | 0.16 | 0.079 | | 18 | | 0.26 | 0.23 | 0.291 | | | |
| 7 | | 0.18 | 0.16 | 0.092 | | 19 | 0.24 | 0.22 | 0.172 | | | | |
| 8 | | 0.56 | 0.56 | 0.322 | | 20 | 0.24 | 0.22 | 0.154 | | | | |
| 9 | | 0.18 | 0.18 | 0.184 | | 21 | 0.18 | 0.15 | 0.183 | | | | |
| 10 | | 0.15 | 0.15 | 0.230 | | 22 | 0.29 | 0.26 | 0.125 | | | | |
| 11 | | 0.16 | 0.15 | 0.166 | | 23 | 0.36 | 0.28 | 0.171 | | | | |
| 12 | | 0.20 | 0.20 | 0.256 | | 24 | 0.23 | 0.23 | 0.102 | | | | |
| 13 | | 0.18 | 0.22 | 0.356 | | 25 | 0.18 | 0.14 | 0.197 | | | | |
| 14 | | 0.35 | 0.35 | 0.184 | | 26 | 0.32 | 0.26 | 0.152 | | | | |
| 15 | | 0.36 | 0.20 | 0.141 | | 27 | 0.18 | 0.17 | 0.127 | | | | |
| 16 | | 0.25 | 0.18 | 0.116 | | 28 | 0.25 | 0.24 | 0.148 | | | | |
| 17 | | 0.14 | 0.14 | 0.037 | | 29 | 0.23 | 0.18 | 0.143 | | | | |
| 18 | | 0.17 | 0.14 | 0.295 | | 30 | 0.18 | 0.14 | 0.130 | | | | |
| 19 | | 0.26 | 0.20 | 0.320 | | 31 | 0.18 | 0.16 | 0.147 | | | | |
| 20 | | 0.26 | 0.20 | 0.152 | | 32 | 0.25 | 0.20 | 0.132 | | | | |
| 21 | | 0.24 | 0.22 | 0.304 | | 33 | 0.24 | 0.20 | 0.131 | | | | |
| 22 | | 0.24 | 0.22 | 0.120 | | 34 | 0.24 | 0.20 | 0.176 | | | | |
| 23 | | 0.20 | 0.18 | 0.172 | | 35 | 0.24 | 0.19 | 0.153 | | | | |
| 24 | | 0.22 | 0.20 | 0.110 | | 36 | 0.36 | 0.28 | 0.230 | | | | |
| 25 | | 0.19 | 0.18 | 0.218 | | 37 | 0.14 | 0.11 | 0.121 | | | | |
| 26 | | 0.20 | 0.20 | 0.080 | | 38 | 0.24 | 0.21 | 0.091 | | | | |

| グリッド | 番号 | 長径(m) | 短径(m) | 深さ(m) | 備考 | グリッド | 番号 | 長径(m) | 短径(m) | 深さ(m) | 備考 | |
|-------|----|-------|-------|-------|---------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|--|
| ZS-14 | 39 | 0.17 | 0.16 | 0.141 | | ZS-18 | 27 | 0.17 | 0.17 | 0.070 | | |
| | 40 | 0.20 | 0.18 | 0.090 | | | 28 | 0.23 | 0.18 | 0.172 | | |
| | 41 | 0.30 | 0.16 | 0.149 | | | 29 | 0.28 | 0.22 | 0.110 | | |
| | 42 | 0.22 | 0.19 | 0.123 | | | 30 | 0.32 | 0.24 | 0.180 | | |
| | 43 | 0.20 | 0.17 | 0.063 | | | ZU-14 | 1 | 0.22 | 0.22 | 0.230 | |
| | 44 | 0.18 | 0.18 | 0.136 | | | ZW-7 | 1 | 0.33 | 0.33 | 0.428 | |
| ZS-17 | 1 | 0.25 | 0.22 | 0.102 | | | 2 | 0.33 | 0.30 | 0.351 | | |
| | 2 | 0.20 | 0.20 | 0.128 | | | 3 | 0.30 | 0.28 | 0.418 | | |
| | 3 | 0.20 | 0.19 | 0.082 | | ZW-12 | 1 | 0.24 | [0.16] | 0.322 | | |
| | 4 | 0.24 | 0.23 | 0.068 | | | 2 | 0.32 | 0.30 | 0.291 | | |
| ZS-18 | 1 | 0.30 | 0.16 | 0.103 | | | 3 | 0.41 | 0.35 | 0.429 | | |
| | 2 | 0.33 | 0.29 | 0.370 | SD26と重複 | | 4 | 0.40 | 0.39 | 0.519 | | |
| | 3 | 0.27 | 0.24 | 0.452 | | | 5 | 0.36 | 0.34 | 0.362 | | |
| | 4 | 0.27 | 0.24 | 0.190 | P5と重複 | | 6 | 0.52 | 0.50 | 0.450 | | |
| | 5 | 0.64 | 0.34 | 0.179 | P4と重複 | | 7 | 0.46 | 0.38 | 0.522 | | |
| | 6 | 0.21 | 0.18 | 0.141 | | | 8 | 0.33 | 0.29 | 0.410 | | |
| | 7 | 0.28 | 0.26 | 0.043 | | | 9 | 0.25 | 0.24 | 0.414 | | |
| | 8 | 0.24 | 0.23 | 0.128 | | | 10 | 0.19 | 0.16 | 0.297 | | |
| | 9 | 0.30 | 0.22 | 0.217 | | | 11 | 0.35 | 0.32 | 0.297 | | |
| | 10 | 0.36 | 0.24 | 0.159 | | ZW-13 | 1 | 0.30 | 0.29 | 0.320 | | |
| | 11 | 0.48 | 0.42 | 0.150 | PI2と重複 | | 2 | 0.22 | 0.22 | 0.250 | | |
| | 12 | 0.33 | 0.22 | 0.182 | PI1と重複 | | 3 | 0.28 | 0.28 | 0.196 | | |
| | 13 | 0.43 | 0.32 | 0.149 | | | 4 | 0.37 | [0.32] | 0.335 | | |
| | 14 | 0.24 | 0.17 | 0.180 | | | 5 | 0.40 | 0.32 | 0.378 | | |
| | 15 | 0.22 | 0.17 | 0.195 | | | 6 | 0.36 | [0.24] | 0.205 | P7と重複 | |
| | 16 | 0.26 | 0.24 | 0.158 | | | 7 | 0.35 | 0.26 | 0.420 | P6と重複 | |
| | 17 | 0.32 | 0.29 | 0.132 | | | 8 | 0.29 | 0.26 | 0.446 | | |
| | 18 | 0.44 | 0.33 | 0.093 | | | 9 | 0.32 | 0.26 | 0.377 | | |
| | 19 | 0.25 | 0.24 | 0.102 | SD26と重複 | | 10 | 0.30 | 0.28 | 0.343 | | |
| | 20 | 0.16 | 0.14 | 0.070 | | | 11 | 0.40 | 0.40 | 0.500 | | |
| | 21 | 0.19 | 0.16 | 0.067 | | | 12 | 0.36 | 0.35 | 0.357 | | |
| | 22 | 0.17 | 0.17 | 0.077 | | | 13 | 0.32 | 0.30 | 0.407 | | |
| | 23 | 0.28 | 0.25 | 0.258 | | ZW-18 | 1 | 0.20 | 0.20 | 0.300 | | |
| | 24 | 0.40 | 0.22 | 0.169 | | | 2 | 0.24 | 0.22 | 0.321 | | |
| | 25 | 0.20 | 0.18 | 0.131 | | ZX-15 | 1 | 0.68 | 0.37 | 0.123 | | |
| | 26 | 0.34 | 0.29 | 0.129 | | | | | | | | |

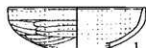
7. グリッド遺物

発見されたグリッドが明確ではあるが、その一方で、帰属する遺構が不明な遺物を、グリッド遺物として第399・400図に掲載した。

第399図1はZO-9グリッドから出土した土師器坏、2はZP-9グリッドから出土した平底の土師器坏、3はZS-8グリッドから出土した土師器壺の口縁部である。

4～12は、ZW-11グリッドから出土した遺物である。4は須恵器甕の口縁部で、外面には櫛描波状文が2条残存している。白色針状物質を含む南比企産である。5は壺の肩部で、内外面ともにナデが施されている。また外面には焼成時の緑色の自然釉が付着している。胎土や釉の特徴から東海産である。6は土師器坏、7は土師器甕の底部、

ZO-9^g リット



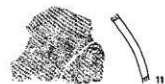
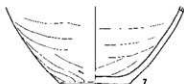
ZP-9^g リット



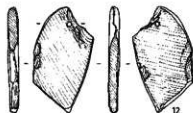
ZS-8^g リット



ZW-11^g リット



0 5cm
4-5 1:1



ZW-14^g リット



ZW-15^g リット

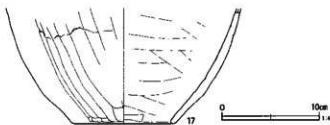
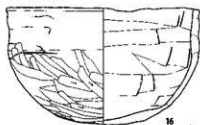


0 5cm
10-11 1:1



0 5cm
12 1:1

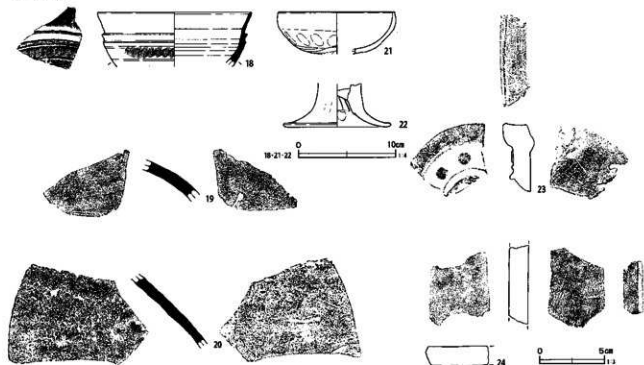
ZW-20^g リット



0 10cm
17 1:1

第399図 グリッド出土遺物 (1)

ZY-47' リット



第400図 グリッド出土遺物(2)

第98表 グリッド出土遺物観察表 (第399-400図)

| 番号 | 種別 | 器種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土 | 残存 | 焼成 | 色調 | 備考 | 出土位置 | 図版 |
|----|-----|-----|-------|-----|-------|----------|----|----|------|------------------------------------|------|-------|
| 1 | 土師器 | 坏 | (140) | 42 | - | AH I J K | 30 | 普通 | にひい橙 | ZO-9Gr 赤彩 | | |
| 2 | 土師器 | 坏 | 130 | 55 | 4.3 | CEHI | 60 | 普通 | 橙 | ZP-9Gr 平底 赤彩 (外面は確認部のみ図示) | | 204-3 |
| 3 | 土師器 | 壺 | 129 | 61 | - | AEH | 25 | 普通 | 橙 | ZS-8Gr 赤彩 二次的焼熱による風化顯著 | | |
| 4 | 須恵器 | 甕 | - | 58 | - | I J K | 5 | 良好 | 灰 | ZW-11Gr 南比企産 | | |
| 5 | 須恵器 | 壺 | - | 25 | - | I K | 5 | 良好 | 灰 | ZW-11Gr 東海産 緑色の自然輪付着 | | |
| 6 | 土師器 | 坏 | 138 | 40 | - | ACEHIK | 60 | 普通 | 橙 | ZW-11Gr | | 204-4 |
| 7 | 土師器 | 甕 | - | 79 | (70) | EHIK | 30 | 普通 | にひい橙 | ZW-11Gr 二次的焼熱による風化顯著 φ3~5cm継多 | | |
| 8 | 土師器 | 高坏 | - | 97 | - | CEH | 80 | 普通 | 浅黄橙 | ZW-11Gr 外面赤彩 | | |
| 9 | 土師器 | 高坏 | - | 76 | - | ABEHK | 70 | 普通 | にひい橙 | ZW-11Gr 外面赤彩 | | |
| 10 | 弥生 | 壺 | - | 61 | - | ACEIK | 5 | 普通 | 灰黄褐 | ZW-11Gr 卑耶RL | | |
| 11 | 弥生 | 壺 | - | 52 | - | AEIJK | 5 | 普通 | にひい橙 | ZW-11Gr 卑耶RL | | |
| 13 | 土師器 | 高坏 | - | 36 | 119 | AEHI | 55 | 普通 | 灰褐 | ZW-14Gr 赤彩 二次的焼熱痕 | | |
| 14 | 土師器 | 甕 | (172) | 62 | - | ABHIK | 40 | 普通 | 灰黄褐 | ZW-15Gr 外面輪付着 | | |
| 15 | 土師器 | 壺 | - | 26 | 48 | CEH | 40 | 普通 | にひい橙 | ZW-15Gr 二次的焼熱痕 | | |
| 16 | 土師器 | 鉢 | 190 | 118 | - | ACHIJK | 75 | 普通 | 黒褐 | ZW-20Gr | | 204-5 |
| 17 | 土師器 | 瓶 | - | 118 | (104) | AEHI | 20 | 普通 | にひい橙 | ZW-20Gr 二次的焼熱痕 小継多 | | |
| 18 | 須恵器 | 高坏 | (158) | 56 | - | EIK | 15 | 良好 | 灰 | ZY-4Gr№5 陶色産か TK23~TK47群? 自然輪付着 | | |
| 19 | 須恵器 | 甕 | - | 30 | - | E I J K | 5 | 良好 | 灰 | ZY-4Gr 南比企産 | | |
| 20 | 須恵器 | 甕 | - | 66 | - | CEIK | 5 | 良好 | 灰 | ZY-4Gr 東海産 | | |
| 21 | 土師器 | 坏 | 120 | 43 | - | ACEHI | 65 | 普通 | 橙 | ZY-4Gr№3 | | 204-6 |
| 22 | 土師器 | 高坏 | - | 44 | (100) | ACHIK | 70 | 普通 | 橙 | ZY-4Gr№7 器面風化赤彩-調整不明 胴部截人形(11.1)cm | | |
| 23 | 瓦 | 軒丸瓦 | - | - | - | I K | 10 | 良好 | 灰 | ZY-4Gr 推定径140cm 厚さ30cm 巴・珠文 | | |
| 24 | 瓦 | 平瓦 | - | - | - | K | 5 | 良好 | 灰 | ZY-4Gr 縦80cm×横65cm×厚さ20cm | | |

8・9は土師器高坏の脚部である。10・11は吉ヶ谷系の壺の破片で、外面には単節RLの縄文が施されている。12は、剣形石製模造品の可能性の高いもので、長軸上の縁辺部には円孔が穿たれている。しかし、両側面の形状が丸いため剣形の形状には程遠く、表裏面に鑄の表現もみられない。表裏面・側面に研磨が施されているが、深い擦痕を残し、器面が波打っている等、粗さが目立つ。また、厚さも均一で、剣先部縁辺を薄く仕上げるような加工痕もみられない。よって、剣形模造品の未製品と思われる。上端部・下半部を欠損する。現在長5.03cm、幅2.92cm、厚さ0.61cm、重さ15.2gである。(図版204-2)

13は、ZW-14グリッドから出土した土師器高坏の脚裾部である。柱状の脚から屈曲して開いている。

14・15は、ZW-15グリッドから出土した土師器甕の口縁部と、土師器壺の底部である。14は外

面頸部にハケを残し、15は上げ底状に中央部が凹んでいる。

16・17は、ZW-20グリッドから出土した。16は土師器鉢で、17は単孔式の土師器甕である。

第400図18~24は、ZY-4グリッドから出土した。18は須恵器無蓋高坏の坏部の破片である。稜が2段で、体部外位面には、2条の平行沈線に画された間に褥描波状文が施されている。器形や大きさから、TK23~TK47併行期と推定される。器形や胎土の様相は東海産とは異なり、陶邑産の可能性がある。19・20は須恵器甕の肩部の破片である。内外面ともにナデが施され、20の外面には焼成時の緑色の自然釉が付着している。19は南比企産、20は東海産である。21は土師器坏、22は土師器高坏で短脚である。23は軒丸瓦、24は平瓦である。23には巴文と珠文が施されている。いずれも中世以降の瓦片である。

VI 自然科学分析

銭塚遺跡・城敷遺跡の発掘調査では、弥生時代後期から古墳時代、奈良・平安時代の集落が発見されている。また、古墳時代および奈良・平安時代頃の河川跡や溝跡が検出され、本来なら腐朽してしまう、木製品、自然木、種実、獣骨といった多くの有機質の遺物が出土している。さらに、城敷遺跡からは、漆掻きの痕跡がある木材が発見されている。これらの遺物は、当時の生活の環境や資源利用の様相を如実に伝える貴重な資料である。

そこで、遺跡が営まれていた当時の生活環境や資源利用の解明や、炭素同位体比を用いて絶対年代を測定し、考古学的な資料に年代の枠組みを与えることを目的として、自然科学分析を実施した。

出土木製品については、樹種同定と年代測定を行った。特に、銭塚遺跡第14号掘立柱建物跡の柱穴から出土した礎板は、県内でも出土例が少なく、自然科学的手法により年代が検討された事例もない。そこで、炭素同位体比を用いた年代測定

(C14 AMS法)を実施した。

出土獣骨については動物種と部位を、出土種実は種類を同定した。樹種・獣骨・種実の同定結果は県内類例資料との比較を行い、遺跡が営まれていた当時の生活環境や資源利用等の検討を行った。

また、城敷遺跡から出土した漆掻きの痕跡がある木材については、赤外線分光分析を実施し、漆植物学的樹種同定とともに、樹液の化学的同定を試みた。

なお、自然科学分析は平成19～20年度に分割して実施した。本報告では、このうち、銭塚遺跡から出土した資料の樹種・骨・種実の同定と木製品の放射性炭素年代測定の結果、および城敷遺跡から出土した漆掻きの痕跡がある木材の赤外線分光分析の結果を掲載した。城敷遺跡の樹種・骨・種実の同定や木製品の放射性炭素年代測定の結果については、次巻で報告する。

1. 銭塚遺跡の自然科学分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

銭塚・城敷遺跡は、埼玉県東松山市高坂に所在し、比企南丘陵東端の高坂台地北側に広がる都幾川が形成した沖積地に立地している。発掘調査では、弥生時代後期から古墳時代、奈良・平安時代の集落が発見されている。また、古墳時代および奈良時代頃の河川跡や溝跡が検出されており、こ

れらの遺構からは、生活用具や農具、建築部材等の様々な木製品が出土している。

本報告では、銭塚遺跡から出土した木製品や動物遺存体・種子を対象に自然科学分析調査を実施し、遺構や遺物の年代に関わる資料の作成、動物遺存体の種類・部位について検討する。

(1) 樹種同定

1. 試料

試料は、第14号掘立柱建物跡より出土した礎板1点である(第197図10)。試料の詳細は、結果と

ともに第99表に示す。

2. 分析方法

(1) 試料採取

木製品の木取及び保存状況を観察した後、剃刀を用いて木口（横断面）・柁目（放射断面）・板目（接線断面）の3断面の徒手切片を直接採取する。また、複数の破片等からなる試料は、接合面を利用して木片を採取し、木片から切片を作製する。自然木については、年輪の広い場所や狭い場所を避けて木片を採取し、木片から切片を作製する。

(2) 前処理及び同定

切片は、ガム・クロラル（抱水クロラル、アラビアゴム粉末、グリセリン、蒸留水の混合液）で封入し、プレバートとする。プレバートは、生物顕微鏡で木材組織を観察する。

各試料で観察された木材組織の特徴を現生標本と比較して種類を同定する。同定の根拠となる顕微鏡下での木材組織の特徴等については、島地・伊東（1982）、Wheeler他（1998）、Richter他（2006）を参考にする。また、各樹種の木材組織については、林（1991）、伊東（1995, 1996, 1997, 1998,

1999）や独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースを参考にする。

3. 結果

結果を第99表に示す。第14号掘立柱建物跡出土礎板は、針葉樹（ヒノキ科）に同定された（第401図）。以下に解剖学的特徴等を記す。

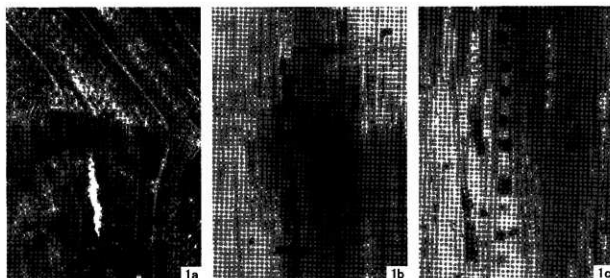
・ヒノキ科（*Cupressaceae*）

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行は緩やか～やや急で、晩材部の幅は狭い。樹脂細胞は晩材部付近に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成される。分野壁孔は保存が悪く観察できない。放射組織は単列、1-10細胞高。

組織の状態からヒノキ科の中でもヒノキ属の可能性はあるが、分野壁孔が観察できないなど全体的に保存状態が悪く種類の同定に至らなかったため、本報告ではヒノキ科に留めている。

第99表 銭塚遺跡 樹種同定結果

| 試料番号 | 図版番号 | 器種 | 木取 | 遺構 | 時期 | 樹種 |
|------|---------|----|-----|------------|------|------|
| 1 | 第197図10 | 礎板 | 分割材 | 第14号掘立柱建物跡 | 奈良時代 | ヒノキ科 |



1. ヒノキ科（試料番号1）

a: 木口, b: 柁目, c: 板目

200 μ m: a
100 μ m: b, c

第401図 銭塚遺跡 木材

4. 考察

錢塚遺跡から出土した木製品は、針葉樹（ヒノキ科）の樹種が確認された。以下に、分析対象とした試料について木材利用に関する考察を行う。

試料は、奈良時代の所産とされる。礎板は、分割材であり、木理が通直で割裂が高く、加工が容

易な材質を有するヒノキ科の利用が認められた。

埼玉県内では、小沼耕地遺跡（駒西町）の中世の礎板を対象とした調査ではクリを主とする結果が報告されている（能城・鈴木，1991）が、奈良時代の礎板については樹種に関する資料が無く、当該期の木材利用については不明である。

引用文献

- 橋本真紀夫・高橋敦 1997 「伊興遺跡から出土した木製品の樹種」『伊興遺跡 下水道敷設工事に伴う発掘調査』足立区伊興遺跡調査会，397-418.
- 林昭三 1991 『日本産木材 顕微鏡写真集』京都大学木質科学研究所.
- 伊東隆夫 1995 『日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ. 木材研究・資料，31』京都大学木質科学研究所，81-181.
- 伊東隆夫 1996 『日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ. 木材研究・資料，32』京都大学木質科学研究所，66-176.
- 伊東隆夫 1997 『日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ. 木材研究・資料，33』京都大学木質科学研究所，83-201.
- 伊東隆夫 1998 『日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅳ. 木材研究・資料，34』京都大学木質科学研究所，30-166.
- 伊東隆夫 1999 『日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅴ. 木材研究・資料，35』京都大学木質科学研究所，47-216.
- 能城修一・鈴木三男 1986 「鍛冶谷・新田口遺跡出土木材の樹種」『埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第62集 鍛冶谷・新田口遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団，398-410.
- 能城修一・鈴木三男 1991 「埼玉県駒西町小沼耕地遺跡から出土した木製品の樹種」『埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第100集 小沼耕地遺跡 県立駒西養護学校関係埋蔵文化財発掘調査報告』埼玉県埋蔵文化財調査事業団，163-166.
- バリノ・サーヴェイ株式会社 1989 「1号住居址出土炭化材同定」『勝呂庵寺 勝呂庵寺F地区（西入間警察署勝呂駐在所）発掘調査報告書』坂戸市遺跡発掘調査団，45-47.
- バリノ・サーヴェイ株式会社 1993 「中耕遺跡出土遺物の自然科学分析報告」『埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第125集 坂戸市中耕遺跡 住宅・都市整備公団坂戸入西地区土地区画整理事業関係埋蔵文化財発掘調査報告 -VI- 本文編（第1分冊）』財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団，321-365.
- バリノ・サーヴェイ株式会社 2000 「掘立柱建物跡出土木材樹種同定」『埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第246集 築道下遺跡Ⅳ 行田南部工業団地造成事業関係埋蔵文化財発掘調査報告Ⅴ<第3分冊>』埼玉県埋蔵文化財調査事業団，626-629.
- バリノ・サーヴェイ株式会社 2004 「下田町遺跡の化学分析」『埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第296集 下田町遺跡Ⅰ 大里地区高規格堤防整備事業関係埋蔵文化財発掘調査報告<第2分冊>』埼玉県埋蔵文化財調査事業団，440-453.
- バリノ・サーヴェイ株式会社 2005a 「北島遺跡の自然科学分析」『埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第303集 北島遺跡ⅠⅠ』埼玉県埋蔵文化財調査事業団，173-177.
- バリノ・サーヴェイ株式会社 2005b 「北島遺跡第19地点出土木製品の樹種同定」『埼玉県埋蔵文化財調査報告書第305集 北島遺跡ⅠⅢ』埼玉県埋蔵文化財調査事業団，222-234.
- Richter H.G., Grosser D., Heinz L. and Gasson P.E. (編) 2006 『針葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト. 伊東隆夫・藤井智之・佐野雄三・安部久・内海泰弘（日本語版監修）』海青社，70p[Richter H.G., Grosser D., Heinz L. and Gasson P.E. (2004) *IAWA List of Microscopic Features for Softwood Identification*].

- 高地謙・伊東隆夫 1982 『図説木材組織』地球社, 176p.
- 鈴木三男・能城修一 1991 『小敷田遺跡の木材化石群集』『埼玉埋蔵文化財調査事業団報告書第96集 行田市・熊谷市 小敷田遺跡 一般国道17号線熊谷バイパス関係埋蔵文化財発掘調査報告<河川跡遺物編・第Ⅱ分冊>』財団法人埼玉埋蔵文化財調査事業団, 268-318.
- 高橋敦 2005 『建築材及び井戸枠材』『埼玉埋蔵文化財調査事業団報告書第293集 北島遺跡区』埼玉埋蔵文化財調査事業団, 460-464.
- Wheeler E.A., Bass P. and Gasson P.E. (編) 1998 『広葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト』伊東隆夫・藤井智之・佐伯浩 (日本語版監修) 海青社, 122p. [Wheeler E.A., Bass P. and Gasson P.E. (1989) *IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification*]
- 吉川純子・藤根久 1993 『上戸塚正上寺遺跡出土大型植物化石と木材』『財団法人群馬埋蔵文化財調査事業団発掘調査報告書第149集 上戸塚正上寺遺跡 一般河川中川小規模河川改修工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』財団法人群馬埋蔵文化財調査事業団, 114-145.

(2) 放射性炭素年代測定

1. 試料

試料は、銭塚遺跡第14号掘立柱建物跡から出土した木製品2点である(第100表)。以下に、試料採取時の観察所見を記す。

試料1 礎板 (SB14 第197図12)

樹皮が認められないミカン割材である。試料は、観察範囲内の最外年輪部分より採取している。

試料2 礎板 (SB14 第197図15)

ミカン割材である。試料は、観察範囲内の最も外側の年輪を含む箇所を割れ目内より採取した木片である。

2. 分析方法

木製品の木取りを観察した後、可能な限り最外部の年輪から試料を採取する。また、採取する年輪幅は、可能な限り数年以内に取める。これらの試料について、目的物と異なる年代を持つものが付着している場合は、ピンセットや超音波洗浄等により物理的に除去する。その後、HClによる炭酸塩等酸可溶成分の除去、NaOHによる腐植酸等アルカリ可溶成分の除去、HClによりアルカリ処

理時に生成した炭酸塩等酸可溶成分を除去する(酸・アルカリ・酸処理)。

試料をバイコール管に入れ、1gの酸化銅(II)と銀箔(硫化物を除去するため)を加えて、管内を真空にして封じきり、500℃(30分)850℃(2時間)で加熱する。液体窒素と液体窒素+エタノールの温度差を利用し、真空ラインにてCO₂を精製する。真空ラインにてバイコール管に精製したCO₂と鉄・水素を投入し封じ切る。鉄のあるバイコール管底部のみを650℃で10時間以上加熱し、グラファイトを生成する。

化学処理後のグラファイト・鉄粉混合試料を内径1mmの孔にプレスして、タンダム加速器のイオン源に装着し、測定する。測定機器は、3MV小型タンダム加速器をベースとした14C-AMS専用装置(NEC Pelletron 9SDH-2)を使用する。AMS測定時に、標準試料である米国国立標準局(NIST)から提供されるシェウ酸(HOX-II)とバックグラウンド試料の測定も行う。また、測定中同時に13C/12Cの測定も行うため、この値を用いて

第100表 銭塚遺跡 放射性炭素年代測定分析試料

| 試料番号 | 遺構名 | 図版番号 | 器種 | 本取 | 割種 |
|------|------------|---------|----|------|----|
| 1 | 第14号掘立柱建物跡 | 第197図12 | 礎板 | ミカン割 | - |
| 2 | 第14号掘立柱建物跡 | 第197図15 | 礎板 | ミカン割 | - |

$\delta^{13}C$ を算出する。

放射性炭素の半減期はLIBBYの半減期5,568年を使用する。測定年代は1950年を基点とした年代(BP)であり、誤差は標準偏差(One Sigma: 68%)に相当する年代である。得られた測定値は、 $\delta^{13}C$ の値を元に同位体効果の補正を行う。さらに、補正値をRADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV5.02 (Copyright 1986-2005 M Stuiver and PJ Reimer)を用いて暦年較正を実施する。その際、誤差として標準偏差(One Sigma)を用いる。

暦年較正とは、大気中の ^{14}C 濃度が一定で半減期が5,568年として算出された年代値に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の ^{14}C 濃度の変動、及び半減期の違い(^{14}C の半減期 $5,730 \pm 40$ 年)を較正することである。暦年較正に関しては、本来10年単位で表すのが通例であるが、将来的な暦年較正プログラムや暦年較正曲

線の改正時の再計算、再検討に対応するため、1年単位で表記している。本分析では、北半球の大気中炭素に由来する較正曲線を用い、暦年較正結果は測定誤差 σ 、 2σ (σ は統計的に真の値が68%の確率で存在する範囲、 2σ は真の値が95%の確率で存在する範囲)の値を示す。表中の相対比(確立分布)とは、 σ 、 2σ の範囲をそれぞれ計算された較正年代が複数の年代幅を示す場合に、各年代幅の範囲内で真の値が存在する確率の総和を1とし各年代幅における確率を相対的に示したものである。

3. 結果

同位体効果による補正を行った測定結果(補正年代)、暦年較正結果を第101表に示す。試料の補正年代は、試料1は 1570 ± 30 BP、試料2は 1590 ± 20 yrBPを示す。

補正年代に基づく暦年較正結果(σ)は試料1がcalAD434-539、試料2はcalAD426-532である。

第101表 錢塚遺跡 放射性炭素年代測定及び暦年較正結果

| 試料名 | 補正年代 (yrBP) | $\delta^{13}C$ (‰) | 補正年代 (暦年較正用) (yrBP) | 暦年較正年代 (cal) | | | 相対比 | 測定機関 Code. |
|------------------------------------|----------------|-----------------------|---------------------------|--------------|-------------------------|-------|------------|---------------|
| | | | | σ | 2σ | | | |
| 試料1 第14号独立柱建物跡 礎板 第197図12 | 1570 ± 30 | -25.03 ± 0.81 | 1567 ± 33 | σ | cal AD 434 - cal AD 493 | 0.677 | IAAA-81022 | |
| | | | | | cal AD 506 - cal AD 522 | 0.176 | | |
| | | | | 2σ | cal AD 419 - cal AD 564 | 1.000 | | |
| 試料2 第14号独立柱建物跡 礎板 第197図15 | 1590 ± 20 | -23.73 ± 0.17 | 1591 ± 18 | σ | cal AD 426 - cal AD 441 | 0.204 | PLD-14584 | |
| | | | | | cal AD 455 - cal AD 460 | 0.006 | | |
| | | | | 2σ | cal AD 484 - cal AD 532 | 0.730 | | |
| | | | | | cal AD 423 - cal AD 535 | 1.000 | | |

(3) 骨同定

1. 試料

試料は、8世紀中葉～後葉、あるいは、9世紀中葉とされる第12号溝跡から出土した骨類2試料(試料1・2)である。

2. 分析方法

一部の試料については、一般工作用接着剤を用いて接合する。試料を肉眼で観察し、その形態的

特徴から、種類および部位の特定を行う。

3. 結果

検出された種類は、脊椎動物門(Vertebrata)哺乳綱(Mammalia)ウマ目(Perissodactyla)ウマ科(Equidae)ウマ(Equus caballus)である。

これらの試料のうち、試料1(SD12 ZO151 取り上げNo540)は菌根部が破損するウマの右上



1.ウマ右上顎第4前臼歯(No1:2次 SD12 ZO15,1) 2.獣類下顎骨(No2:2次 SD12 ZO15,1)
3.獣類下顎骨(No2:2次 SD12 ZO15,1)

第402図 銭塚遺跡 出土骨

第102表 銭塚遺跡 骨同定結果

| 試料番号 | 遺構 | グリッド | 取り上げNo | 種類 | 部位 | 左右 | 部分 | 数量 | 備考 |
|------|--------|----------|--------|----|---------|----|----|----|--------|
| 1 | 第12号溝跡 | ZO-15・16 | 540 | ウマ | 上顎第4前臼歯 | 右 | 破損 | 1 | 臼歯高663 |
| 2 | 第12号溝跡 | ZO-15・16 | 1066 | 獣類 | 下顎骨 | | | 7+ | |

顎第4前臼歯であった。臼歯高は66.3mmを計ることから、西中川ほか(1991)を参考とすると4～5歳程度の若い個体と考えられる。一方、試料2(SD12 ZO15, 1取り上げNo1066)は、獣類の下顎

引用文献

西中川駿・本田道輝・松元光春 1991 「古代遺跡出土骨からみたわが国の牛、馬の渡来時期とその経路に関する研究」『平成2年度文部省科学研究費補助金(一般研究B)研究成果報告書』99p.

(4) 種実同定

1. 試料

試料は、第26号土壙(7世紀末～8世紀初頭)、第2号井戸跡(中世)より出土した種実遺体(No1・2)である。

2. 分析方法

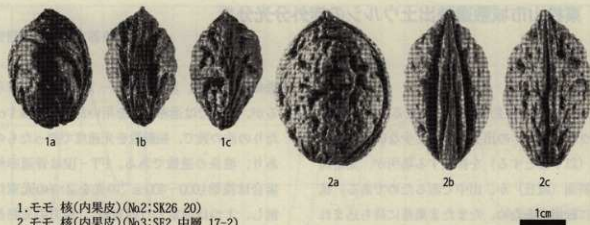
種実遺体を双眼実体顕微鏡下で観察する。現生標本および石川(1994)、中山ほか(2000)等の図鑑との対照から、種類と部位を同定し、個数を数えて表示する。分析後は、種実遺体を種類別に容器に入れ、70%程度のエタノール溶液で液浸し、保管する。

3. 結果

結果を第103表に示す。各遺構から検出された

骨とみられる破片であった(第402図・第102表)。同一地点より出土した試料であることを考慮すると、ウマの可能性もある。

種実は、落葉小高木で栽培種のモモの核(試料1・試料2)に同定された(第403図)。以下に、各分類群の形態的特徴を記す。
・モモ(*Prunus persica* Batsch)バラ科サクラ属核(内果皮)が検出された。試料2は灰褐色、試料1は炭化しており黒色。やや扁平な広楕円体。大きさは、試料1が長さ24.74mm、幅17.65mm、厚さ14.84mm、試料2が長さ31.85mm、幅24.71mm、厚さ18.2mmを測る。頂部は尖り、基部は切形で中央部に湾入した齧がある。1本の明瞭な縦の縫合線上が発達し、背面正中線に細い縦隆条が、腹面正中線には浅い縦溝とその両側に幅の狭い帯状部がある。内果皮は厚く硬く、表面は縦に流れる



1. モモ 核(内果皮)(No2;SK26 20)
2. モモ 核(内果皮)(No3;SE2 中層 17-2)

第403図 錢塚遺跡 種実遺体

第103表 錢塚遺跡 種実同定結果

| 試料番号 | 遺構 | 試料記載 | 分類群 | 部位 | 状態 | 個数 | 備考 |
|------|--------|---------|-----|--------|-------|----|--------------------------|
| 1 | 第26号土壇 | 20 | モモ | 核(内果皮) | 定形 炭化 | 1 | 長さ247mm, 幅176mm, 厚さ148mm |
| 2 | 第2号井戸跡 | 中層 17-2 | モモ | 核(内果皮) | 定形 | 1 | 長さ318mm, 幅247mm, 厚さ182mm |

不規則な線状の深い窪みがあり、全体として粗いしわ状に見える。

4. 考察

錢塚遺跡の各遺構から出土した種実遺体は、落葉高木のモモの核であった。モモは、栽培種であり、果実が食用に種子内の仁は薬用などに利用さ

引用文献

石川茂雄 1994 原色日本植物種子写真図鑑。石川茂雄図鑑刊行委員会、328p。

中山至大・井之口希秀・南谷忠志 2000 日本植物種子図鑑。東北大学出版会、642p。

れる。モモは、いずれも定形であり、試料1は炭化した状態であった。これらの保存状態や7世紀末～8世紀初頭の第26号土壇や中世の第2号井戸跡から出土していることを考慮すると、果実の利用や廃棄された残滓の可能性がある。

2. 東松山市城敷遺跡出土ウルシの赤外分光分析

漆器文化財科学研究所

(1) はじめに

漆利用の歴史は約9,000年にわたる。だがウルシ(ウルシノキ)の出土は極めて少ない。それは漆液(以下漆とする)を採取する場所が、集落周辺の斜面(段丘)か、山中であるためである。杭などに転用するため、たまたま集落に持ち込まれたウルシが日の目を見ることができ、貴重な遺物の1つといえよう。縄文時代最古のウルシは東京都東村山市下宅部遺跡(縄文後期中葉漆)例で、70本中40本に漆掻き取りの痕跡が認められ、赤外分光分析による調査も実施されている¹⁾。古墳時代(5世紀)の城敷遺跡例はこれに次ぐ古いものとなる(第370図47)。

今回は植物学的樹種同定とともに、樹液の化学的同定の試みをおこなった。表皮は剝離しており、韌皮部の篩管(栄養分の通路)にそってある漆液溝もほとんどなく、わずかに痕跡が残る状態であったが、ここから試料を採取した。以下、その分析結果を報告する。

(2) 分析の方法

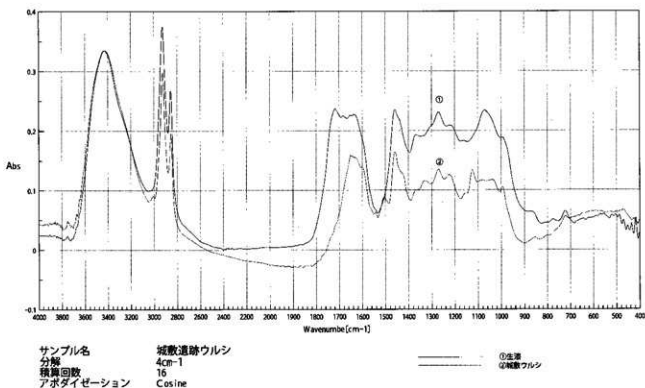
分光学(Spectroscopy)は「光と物質との相互作用によって生じる光の強度やエネルギー変化を調べる学問」²⁾であり、固有の振動をしている分子に波長を連続的に変化させて赤外線照射してゆくと、分子の固有振動と同じ周波数の赤外線が吸収され、分子構造に応じたスペクトルが得られる。このスペクトルから分子構造を解析する方法を赤外線吸収スペクトル法(Infrared Absorption Spectroscopy)という。

漆塗膜の分析にはフーリエ変換赤外分光法(Fourier Transform Infrared Spectroscopy, FT-IR)を用いた。赤外光は近赤外(波数14,000~4,000 cm^{-1} 、波長700nm~2.5 μm)、普通赤外(波数4,000~400 cm^{-1} 、波長2.5~25 μm)、遠赤外(波

数400~10 cm^{-1} 、波長25 μm ~1mm)に分けられるが、ここでは通赤外光を用いた。波数は1 cm 当たりの波の数で、振動数を光速度で割ったものであり、波長の逆数である。FT-IRは普通赤外の場合は波数4,000~400 cm^{-1} の光を2つの光束に分割し、1つは固定し(固定鏡)、他方の光路長は可動ミラー(可動鏡)を用いて変化させる。つまり干渉計から位相の異なる光が出るわけで、2つの光束間の距離が変化すると干渉の結果、加え合わさった部分と差し引かれた部分の系列が生ずることによって強度の変化が起こる。すなわち干渉図形が得られる。フーリエ変換という数学的操作を行うと、干渉図形は時間領域から振動数領域のスペクトル点の1つに変換される。ピストンの長さを連続的に変化させ、ミラーBの位置を調節して光束Bの光路を変化させる。この変化させた各点において、つぎつぎとフーリエ変換を行うと完全な赤外スペクトルが得られる³⁾。

このようにして得られたスペクトルをあらかじめ得られている基準のスペクトルと比較することによって、塗装(膠着)液の同定ができる。分析試料は2mgを採取しKBr(臭化カリウム)100mgをメノウ鉢で磨り潰して、これを錠剤成形器で加圧成形したものを用いた(錠剤法)。測定条件は分解能4 cm^{-1} 、積算回数16、アポダイゼーション関数Cosine。縦軸は吸光度(Abs)、横軸は波数(cm^{-1})である。測定機器は日本分光製FT-IR420。

第404図(ノーマライズ)は城敷遺跡の漆(②)と岩手県浄法寺産生漆塗膜(①)の赤外線吸収スペクトルを重ねたもの。②はほぼ①の吸収と重なり、漆同定要素である3,400 cm^{-1} (水酸基、OH伸縮)、2,925 cm^{-1} (炭化水素の非対称伸縮振動)、2,850 cm^{-1} (炭化水素の対称伸縮振動)、1,650~



第404図 城敷遺跡 赤外線吸収スペクトル

1,630 cm^{-1} (糖タンパク)、1,465 cm^{-1} (活性メチレン基)、1,280 cm^{-1} (フェノール) と左右のショルダー、1,070~1,030 cm^{-1} (ゴム質) などの吸収が認められる。ほかに注目すべき2つの特徴が確認できた。1つは993 cm^{-1} 付近の共役トリエンの吸収が認められること、いま1つは1,720 cm^{-1} (カルボニル基) 付近の吸収がわずかしかないことである。これらの特徴から、ウルシオール側鎖の酸化重合反応があまり進行していない段階で、土中 (水中) に廃棄されたことが考えられる。

(3) おわりに

城敷遺跡のウルシは、現存する全長が131.6cm、幅6cm、8年輪である。遺存状況は冒頭に記したように表皮は剝離し、韌皮部の篩管 (栄養分の通路) にそってある漆液溝もほとんどなく、わずかに痕跡が残る状態であった。線刻 (掻き取り痕、

11~13cm間隔) は鋭く、上下2段 (間隔約2cm) になっており、それも直線でいっきに線刻するのではなく、弧状に不連続につなげるという独特の方法。東村山山下宅部遺跡のウルシの線刻は不連続に一周しており、約16cm間隔で行っている。線刻部分からは黒色の樹液が滲み出し、ミミズ腫れ (縮み) 状になっていた。比企郡吉見町の西吉見条里遺跡のウルシ (7世紀後半~8世紀前半) では、螺旋状に一周する線刻 (10~13cm) が認められている。こうした線刻痕は専用の漆掻き鎌が出現する前段階であるため、各地でさまざまな道具による採取法が工夫されたことを示している。今回の赤外分光分析からは、漆の同定とスペクトルの特徴から、ウルシの廃棄にせまる情報を取り出すことができたことは幸いであった。

註

- 1) 四柳嘉章 2006 「赤外分光分析によるウルシの同定」『下宅部遺跡Ⅰ』東京都都市整備局西部住宅建設事務所・東村山山下遺跡調査会・下宅部遺跡調査団
- 2) 山田富貴子 1988 「赤外線吸収スペクトル法」『機器分析のてびき』化学同人

- 3) SILVERSTEIN・WEBSTER、荒木峻・益子洋一郎ほか訳 1999 『有機化合物のスペクトルによる同定法—MS、IR、NMRの併用 第6版』東京化学同人

Ⅶ 調査のまとめ

はじめに

銭塚遺跡第2次・3次調査区からは住居跡62軒、掘立柱建物跡19棟他の遺構が検出された。

城敷遺跡は多数の遺構が検出されているが、本報告ではAグリッドライン以北を対象とし、住居跡31軒、掘立柱建物跡3棟と大溝跡等を掲載した。残りは次回の報告で詳細を述べることとなる。

本稿ではまず、出土土器を整理する中で、弥生

時代から平安時代の遺物を大きくI期～X期に分け、その特徴と概要を示す。その後、時期別の遺構を抽出し、遺構数の時期的な動態と集落域の変化を概観することでまとめに代えたい。なお、反町遺跡を含めた遺跡群全体の土器様相、集落変遷の詳細は、全報告の終了した段階でまとめる予定である。

1. 銭塚遺跡・城敷遺跡出土遺物の編年の位置について

(1) 弥生時代 (I期)

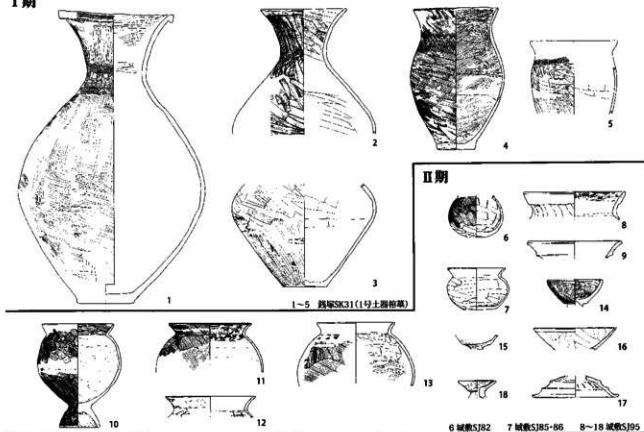
弥生時代の遺物は銭塚遺跡第1号土器棺が唯一例であり、櫛描文を施した土器が出土した。複合口縁の大型壺(高さ60.2cm)を棺身とし、単口縁の壺口縁部と底部、甕2個体を蓋として用いていた。大型壺(第405図1)は複合部に振幅の細かい櫛描波状文、頸部には2段の等間隔止め簾状文と、その上下にやはり振幅の細かい櫛描波状文を施文していた。振幅の細かい波状文を施文した複合口縁をもつ壺は、坂戸市相撲場遺跡第2号住居跡から出土している(谷井1973)。頸部簾状文とその上下に波状文をもつ複合口縁壺は、反町遺跡第11号方形周溝墓(福田2009)、高坂台地上に位置する代正寺遺跡第4号方形周溝墓(鈴木1991)、和光市午王山遺跡108号住居跡等から出土している。

蓋に使用した単口縁壺(第405図2)は頸部に細い篋描沈線による羽状文が施文されている。同一文様の類例は拾えないが、岩鼻遺跡2次A調査区9号住居跡(江原1993)から横位の篋描沈線区画に矢羽根状文様を施文する壺が出土し、反町遺跡第2号土器棺墓出土の複合口縁壺頸部に篋描斜格子文を施文する例がある(第410図1)。本例には篋描横位区画はないが、型的には矢羽根状文の退化形態と看做することができるだろう。

甕は胴部が緩やかに張るもの(第405図4)と、胴部の張りが弱いもの(第405図5)の二者がある。前者はやや長胴気味の器形で、口唇部に刻み、頸部に櫛描波状文を2段施文する。後者は口縁部を欠くが、補描線よりも口縁部は長く延びるものと思われる。括れの弱い器形で、頸部に櫛描波状文(6条1単位)が1段施文されていた。いずれも文様帯は頸部に収斂し、胴部文様帯はない。また、頸部文様帯も波状文のみで、櫛描簾状文は欠落している。

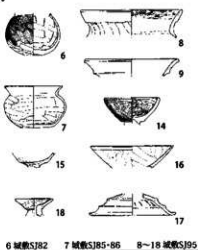
さて、これらの土器群の編年的な位置について若干検討しておきたい。櫛描文が盛行する土器であり、弥生時代後期、いわゆる岩鼻式に該当することは疑いない。岩鼻式は東松山市岩鼻遺跡を標識遺跡にした型式名で、吉ヶ谷式との関係を含め、長い期間議論されてきたが、近年の検討により後期前半の土器形式として共通理解が得られてきた(松本2003)。また、柿沼幹夫は岩鼻式土器を検討する中で、岩鼻式を1期～3期に分割する編年案を唱えた(柿沼2006)。その中で第2期の画期として複合口縁壺の出現を挙げており、第405図1の複合口縁壺は岩鼻2期以降に比定される。一方、2の単口縁壺には篋描羽状文があり、中期的な文様要素の残存と思われる。壺・甕の文様帯は頸部にまとまり、胴部に展開しない点が特徴で

I期



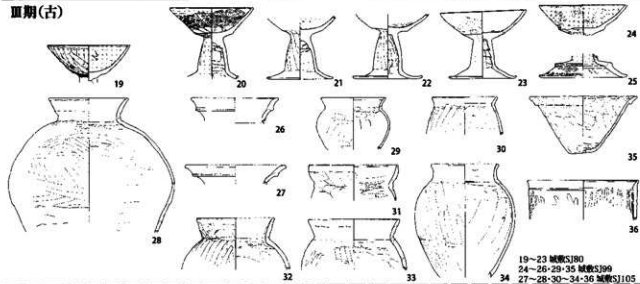
1-5 瓦塚SK31(1号土器相草)

II期



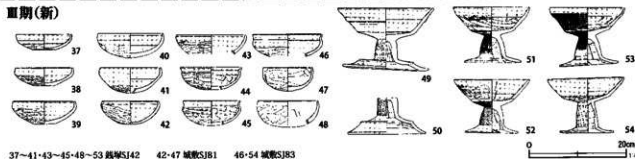
6 城敷SJ82 7 城敷SJ85-86 8-18 城敷SJ95

III期(古)



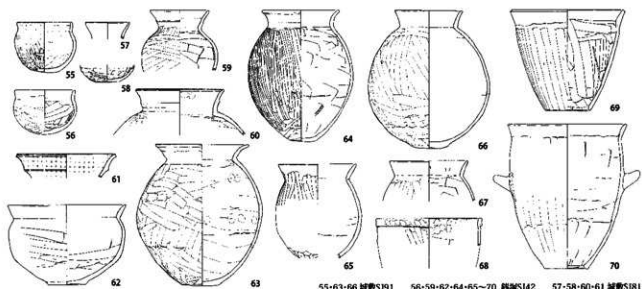
19-23 城敷SJ80
24-26-29-35 城敷SJ90
27-28-30-34-36 城敷SJ105

III期(新)



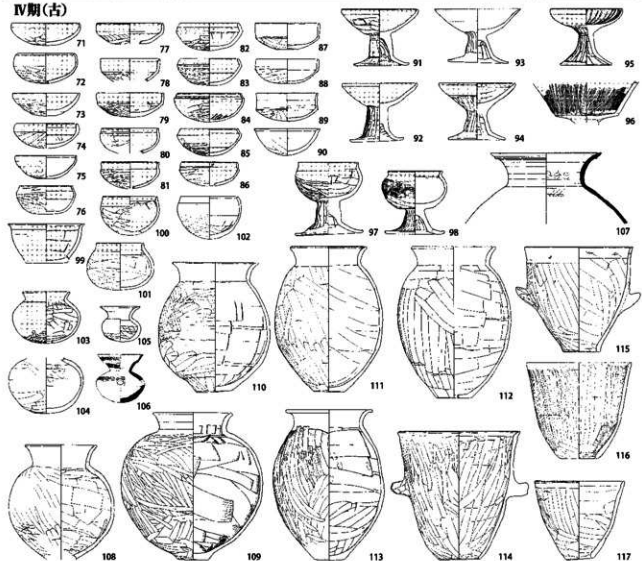
37-41-43-45-48-53 瓦塚SJ42 42-47 城敷SJ81 46-54 城敷SJ83

第405图 土器変遷図(1)



55-63-66 城墩SJ91 56-59-62-64-65-70 钱墩SJ42 57-58-60-61 城墩SJ81

IV期(古)



71-80-84-90-91-104-107-108-115-117 城墩SJ103 72-81-98-110-111-114 城墩SJ76 75-89 城墩SJ78
76-77-86 城墩SJ104 73-74-79-87-88-94-100 钱墩SJ52 78-85-92-93-95-97-99-103-105-109-113 钱墩SJ46
82-83-101-102-106-112-116 钱墩SJ4

0 20cm
1:4

第406图 土器変遷図(2)

ある。第405図4の甕は頸部に波状文を2段施文するタイプで、反町遺跡第10号方形周溝墓(第410図6)、高坂台地上に隣接する代正寺遺跡第73号住居跡(第410図5:鈴木1991)に類例がある。坂戸市終遺跡第2号方形周溝墓例(第410図7:加藤2001)にみられるような胴部に広く多段波状文が施文される以前の段階であろう。概ね柿沼編年2期に対応する土器群と考えておきたい。

(2) 古墳時代前期(Ⅱ期)

古墳時代前期の集落は銭塚遺跡の南に展開する城敷遺跡にある。銭塚遺跡では下層遺構として調査した堤防状遺構と第28号溝跡がその可能性をもつのみである。今回報告分では城敷遺跡第82号住居跡、第85・86号住居跡、第95号住居跡が該当する。前二者は器種組成が不明であり、時期判別が難しい。第95号住居跡からは台付甕、複合口縁壺、高坏、小型器台、鉢が出土している。台付甕は3点あり、口縁部が「く」の字状に外折する点は共通する。第405図10は比較的小型で胴部の張りは弱い。脚部も短い。11は口唇端部が上方に摘み上げられている。

隣接する反町遺跡には該期の大集落が展開している。集落部分は未報告であるが、溝跡出土の多量の遺物が報告されている(福田2009)。本例と対比されるのは、河川流路第48号溝跡出土遺物である。同溝跡からは複合口縁壺や台付甕、坏部下端に面をもつ小型高坏、小型器台も含め、主要器種の大半は出土している(第410図8~14)。

反町遺跡の古墳時代前期土器(五領式土器)について、報告者の福田は大きく新・古のⅡ期に区分した。第48号溝跡は反町遺跡古段階(日本考古学協会新潟シンポ編年第7期並行)に比定されている。本例も第48号溝跡との類似性が高く、反町遺跡古段階に対応すると考えられる。しかしながら、反町遺跡溝跡資料は、福田も述べるようにある程度の時期幅や混入を見込まなければならず、

住居跡資料での検証が欠かせない。今後、反町遺跡・城敷遺跡住居跡出土土器の整理結果を踏まえた再吟味が必須となる。

(3) 古墳時代中期(Ⅲ期)

古墳時代中期土器は、従来から和泉式と呼称されている。和泉式土器と前段階の五領式土器との差異は基本的には台付甕・小型器台の消滅と平底甕の成立、「有稜坏屈折脚」高坏と小型埴の盛行などに象徴される。下限は通例に従い、鬼高期の指標となる須恵器模倣坏の出現以前の土器群を指すこととした。

五領期最新相から鬼高期初頭に至る土器群については多くの研究蓄積があるが、代表的なものとしては中村倉司による6期に分けた編年案がある(中村1999)。中村はカマドの導入時期、大型甕の出現時期の地域差を踏まえて、緻密な編年案を示した。中村編年Ⅰ・Ⅱ期を五領期、Ⅴ・Ⅵ期を模倣坏の出現から鬼高期に充て、Ⅲ・Ⅳ期を和泉期に対比させた。細分に関しては城敷遺跡の整理が終了した時点での課題とした。

まず、Ⅲ期古段階では城敷遺跡第80号住居跡・99号住居跡・105号住居跡出土土器がある(第405図19~36)。特徴は「有稜坏屈折脚」のいわゆる和泉型高坏が多出することである。比較的大型で、脚が長い点に特色がある(19~23)。「有稜坏有段脚」高坏も伴出する(25)。本遺跡では小型埴の構成比が低いようだ。壺は単口縁(28・34)と二重口縁系(26・27)がある。段の表現はやや弱い。前代の系譜を引く小型の鉢形甕が伴う(35)。36は大型甕と思われる。大形甕は須恵器・韓式土器を模倣したと考えられ、本期中に成立するものであろう。甕は全形の判明する資料はないが、単口縁で、胴部の膨らみは大きい(32・33)。明確な坏類は組成に加わらない段階である。周辺地域では深谷市白草遺跡第16号住居跡(磯崎1992)、川越市上組Ⅱ遺跡第22号住居跡(黒坂1989)等があ

る。上組Ⅱ遺跡第22号住居跡(第410図15~23)では、長脚の和泉型高坏が多量に出土し、増が伴う。壺と甕は非常にプローションが似ており、明確に分離できない。

Ⅲ期新段階は坏類(供膳器)を定量に伴うようになる。甗や増類には須恵器を模倣した製品があるし、初期須恵器が伴う例が存在する以上、坏類増加の背景には、須恵器坏・蓋類の波及が想定されるが、周辺地域ではまだ典型的な模倣坏は伴わないようである。中村倉司の分類する源初坏と擬模倣坏(註1)に相当するだろう(中村1999他)。坏類は内湾口縁で平底(第405図37~39)、内湾口縁で丸底(40~42)、口縁部が小さく外反する鉢タイプのもの(44~46)、丸腕風やそれ以外のもの(47・48)などがある。44は口縁内側が内削ぎ状に内斜する。在地産の坏類は多くが赤彩されている。赤彩行為そのものは強固な在地的な手法として確立しており、その意味ではいわゆる比企型坏(土器)に継承される要素ではあるが、形態的にはまだ直接的に比企型坏に連続するとは言いが切れないようだ。

高坏は有段脚高坏(49・50)と有稜坏屈折脚高坏(51~54)が存続する。後者の脚部は前段階に比して、明らかに短脚化が進んでおり、新出の傾向を見出すことができる。

小型・中型の増類は存在するが、良好な例はない(第406図55~58)。壺は口縁部中位に段をもつタイプが存続するが、段は退化的である(59~61)。

甕は胴部の膨らみが強いが、若干長胴化の兆しが見れる(63・64・67)。該期の銭塚第42号住居跡ではカマドが設置されており、該期以降カマドの普及・一般化に連動して甕の長脚化が進む。

甗は須恵器模倣が定着し、大・小、または大・中・小に分化する(69・70)。70は把手が付く。比企地域周辺の甗は把手付が目立つようだ。周辺地域では東松山市駒堀遺跡4・5・9・10号住居跡(今

泉1974)、東松山市舞台遺跡A92号住居跡(井上1979)などに類例が認められる。駒堀遺跡第10号住居跡(第410図24~36)は坏類の構成比が高く、坏蓋口縁部を比較的忠実に模倣した坏(28)を含むことから本期~次期に掛かるとすべきかもしれない。

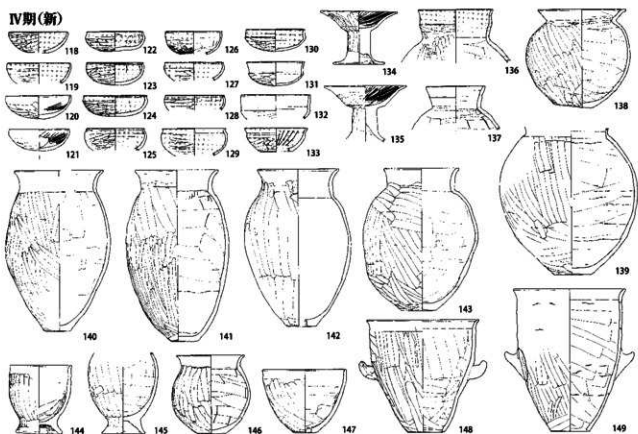
(4) 古墳時代後期(Ⅳ・Ⅴ期)

第Ⅳ期は古墳時代後期、従来の鬼高Ⅰ式に相当する。前段階との連続性は高く、坏類にあっては典型的な須恵器坏身・坏蓋を模倣した、所謂模倣坏を定量で含む点に特色がある。新・古の2段階に分かれる。

古段階の土師器坏類は、前段階の系譜を引く内湾口縁のもの(第406図71~75)と坏蓋模倣坏(77~79・87~89)、坏身模倣坏(76・82~86)、口縁が小さく外反する鉢タイプ(80・81)、内斜口縁坏(90)などがある。前段階の坏類には平底のものが定量で含まれていたが、この段階には丸底が優勢となる。土師器坏類の大半は赤彩が施されており、在地産土師器の伝統を継承している。須恵器を模倣したタイプは比企型模倣坏という呼び方もできる。一方、非赤彩の坏蓋模倣坏(87~89)は薄手で作りが良い。胎土に角閃石を多く含む点から、北武蔵地域を中心とする利根川流域で生産された可能性が高い。赤彩された模倣坏を在地産あるいは比企型模倣坏と呼べば、非在地産、北武蔵型模倣坏という一群に括ることができようか。それはともあれ、前段階以来の内湾口縁坏あるいは内斜口縁坏、鉢タイプの坏類が存続する中に、典型的な須恵器坏身・坏蓋模倣坏が器種組成の一角を構成するようになる。

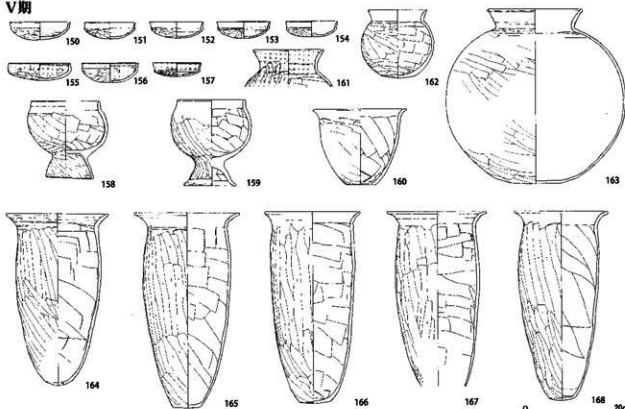
有稜坏屈折脚高坏は坏部下端の稜が退化する。坏部はまだ比較的深さを保っている(91~94)。坏や碗(鉢)を載せた高坏も定量で存在する(95・97・98)。96は大型高坏で、中村分類の「大形深坏型高坏」に相当すると思われる。このタイプ

IV期(新)



118-123~125-136-139 城敷S192 119-122-127~129-132-133-137-140-145 城敷S188
 120-121-131-135-138-141-143-149 城敷S196 126-130-134-147-148 城敷93 144-146 城敷S187

V期



150 熊取S115 151~154-157~168 熊取S155 155 城敷SD4 156 熊取SD29

第407图 土器変遷図(3)

は北武蔵地域では、模倣坏の出現と軌を一にして成立することが指摘されており(中村1999)、本遺跡においても模倣坏成立と同一段階に出現しており、同じ動きの中で理解できる。

埴類は存続するが、構成比は低下する。銭塚遺跡第46号住居跡出土の105は小型埴で、須恵器産を模倣した可能性もあろうか。

土師器甕(110~113)は長胴化傾向が現れ、器高30cm前後のものが増加する。胴部の膨らみはまだ強い。壺(108・109)は胴部の丸みが強く、甕との器形上の差異は明確になる。口縁部に突帯をもつ壺はおそらく残存すると思われるが、本遺跡では存在が明確ではない。甕は大・中・小に分化している。

初期須恵器はこの段階以降、住居跡出土例が確認できる。106は甕。口縁部と頸部に櫛波状文、胴部最大径に刺突文をもつ。口唇部内面が内削ぎ状に窪む等の特徴から陶邑産TK23段階と考えられる。107は城敷第103号住居跡から出土した。同一個体と思われる破片は隣接する第102号住居跡から出土している。口唇部は先細りして丸みをもち、面取りがない。端部外面に突帯が巡る。陶邑窯跡群TK73号窯跡に類例がある(田辺1981)。陶邑編年TK73~TK216段階と考えられる。城敷第102号住居跡、第103号住居跡はいずれも第IV期古段階に位置付けられ、須恵器産の推定年代の方が古くなる。

因みに、城敷遺跡第4号溝跡第3地点から出土した須恵器樽形甕(第411図55)は器内がセピア色を呈する部分があり、陶邑産と推定される。長さ(幅)24.0cm、樽部最大径16.2cmと樽形甕の中では大型(長さの長い)製品である。河川流路内から故意に破砕された状態で、土師器模倣坏に伴って出土した。土師器模倣坏は該期に置くのが妥当であるが、樽形甕は他例同様伴出土器よりも明らかに古相を示す。

樽形甕の生産量は非常に少なく、小郷利幸の集

成によれば、全国で100例余りの出土数に留まる(小郷2001)。陶邑古窯跡群ではON231号窯、TK73号窯、TK208号窯等で生産されているが、TK23型式以降は生産されなくなるという(小郷前掲書)。県内ではさいたま市八王子(白銀遺跡)出土の樽形甕が有名である(大塚1959)。

さて、酒井清治はON231号窯出土の樽形甕を胴部の閉塞技法などからA類~C類の3タイプに分類した(酒井1999)。本例は閉塞部が外れているため周縁内側の突帯の状態が不明確であるが、酒井分類B類またはC類に該当する可能性が高い。口縁部が大きく外反する点からはC類に近いといえようか。C類は樽部の形態が円筒形に近いものから胴部中央が膨らむピア樽形に変遷するという(酒井前掲書)。本遺跡例は大型・横長で、極端なピア樽形にはならない。また、全体が5区に分割され、各区とも櫛波状文が2条巡っている。口縁部が小さく外反する点も古相を示し、TK208型式までは降らず、TK73~TK216型式が妥当であると考えている(註2)。TK73型式に平行するTK83号窯(中村1994)から本例と比較的類似した樽形甕が出土している(第411図57)。なお、特殊な出土状態から河川祭祀に使用された可能性が高い。

同じく第4号溝跡からは初期須恵器の範疇に入る坏身が出土している(第411図54)。口唇部内面が内傾する凹面をなし、底部のヘラケズリ範囲もせまいことから、陶邑産TK47型式と考えておきたい。

本論に戻るとIV期古段階としたこの段階に所謂比企型坏が出現するのか否かが問題となる。水口の紹介した東松山市久米田遺跡A地区第3号住居跡(埼玉県1984)の例をみると、該期に想定される土器群に比企型坏様の坏が伴出しており、本期には出現した可能性が高いと思われるが、今のところ、本遺跡群内では本期には確認できない。遺跡群全体の様相が判明した段階で再検討しな

なければならないが、ここでは比企型坏の成立をⅣ期新段階と捉えておきたい。

Ⅳ期古段階の類例を周辺地域で求めると、東松山市舞台遺跡第3号住居跡(第410図37~42)・同第4号住居跡(谷井1974)が挙げられる。舞台遺跡では、模倣坏と鉢型の坏、内湾口縁坏が伴うが、比企型坏はまだ出現しない。舞台遺跡第4号住居跡からは陶器編年TK216~TK208段階と思われる須恵器坏身が出土している(第411図52・53)。坂戸市桑原遺跡では第34号住居跡が該当しようか(村田1992)。

第Ⅳ期新段階は内湾口縁坏(第407図118~121)や模倣坏(130~132)に、比企型坏が伴出する(122~129)。比企型坏は口縁部が一度内湾し、端部を小さく外反させるもので、初現段階のものは腰高な器形である。内面は赤彩、外面も口縁部から底部付近まで広範囲に赤彩されるものが多い。

高坏は構成比が減少する。134・135は前段階の406図92の系譜を引くものであろうが、小型化し、坏部が浅くなり、脚部は円柱状に太い。

壺は口縁部に弱い稜をもつものがある(第407図136・137)。甕は長胴化が進行し、器高は30~35cm前後のものが増加する(140~143)。小型甕(138・146)、小型台付甕(144・145)も組成の一角を占めるようだ。瓶は大・中・小の3種がある。大・中の製品は須恵器模倣タイプで把手が付くものが目立つ。但し、城敷遺跡第96号住居跡からは比企型坏が出土していない。同一タイプの高坏と比企型坏をもつ第93号住居跡の様相から該期に含めた。Ⅳ期古段階から新段階とすべきかもしれない。坂戸市桑原遺跡第2・14・25号住居跡(村田前掲書)、坂戸市棚田遺跡第4号住居跡(石坂1995)が典型例となろう。桑原遺跡や棚田遺跡では比企型坏が成立すると間もなく、模倣坏や他の坏から比企型坏に坏類の主体が転換するようである。

Ⅴ期の遺物様相はⅣ期とは大きく異なり、明ら

かに断絶がある(第407図150~168)。比企型坏は小型化し(156)、口唇部内面に沈線を巡らすものが出現している(155)。

比企型坏を編年した水口由紀子に従えば、Ⅲ段階第3小期の特徴に合致する(水口1989)。須恵器坏蓋模倣+口唇部内面沈線を特徴とする比企型坏「B系列」も存在する(157)。水口は該期を6世紀末葉~7世紀初頭頃とみており、本稿Ⅳ期との間には少なくとも1世紀近い断絶が想定される。

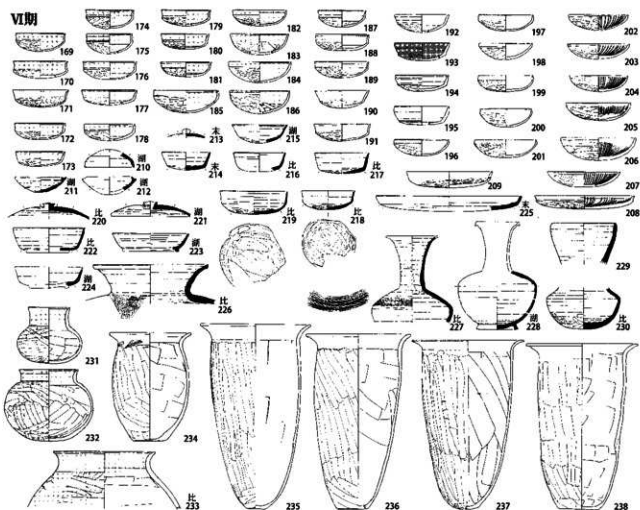
土師器模倣坏(150)は口径が12cm前後に縮小しており、155・156の比企型坏の方が古相を示す。151~154と157は銭塚遺跡第55号住居跡から出土した。口径が11cmを切るほどに小型化している。北武蔵型坏や統比企型坏を伴わないため本期に置いたが、集落構成上は次期以降に展開する集落の初現段階と考えた方がよい。161は壺で、赤彩される。163は大型壺である。158・159は小型台付甕、160は小型甕である。

土師器甕は長胴化がピークに達する。器高は40cmを超えるものもある。胴部の影らみは弱く、最大径は口縁部に移っている(164~168)。周辺地域では、東松山市駒堀遺跡第17・18・19・20号住居跡が該期に含まれる。

(5) 古墳時代終末期(Ⅵ期)

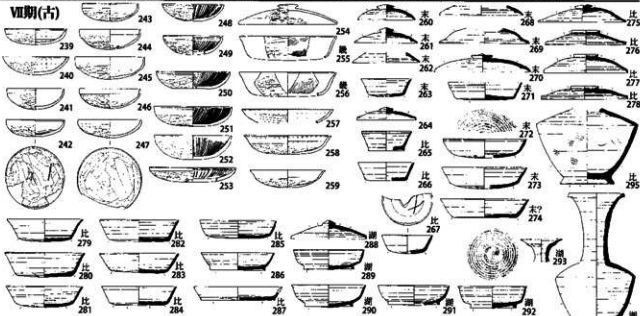
比企型坏の系譜を引く土器、(統)比企型坏は存続するなかで、新たに北武蔵型坏・北武蔵型暗文坏が組成に加わる段階である。下限は山下6号窯段階の須恵器が伴出する段階以前をⅥ期としてまとめた(第408図169~238)。北武蔵型暗文坏は律令期の黎明を告げる象徴的な土器であり、該期に評や部家の整備が進められた。その意味でも初期律令期とすべきであるが、一方で古墳時代的な土器群が残存する。時代的にも概ね7世紀後半代となるため、ここでは古墳時代終末期として括った。

VI期



169-175-185-186-188 器編S35 170-179-183-189-191-193-200-201-210-212-229 器編S25 171-172-194-236 器編S50
 173-181-184-192-198-202-203-206-207-211-213-215-217-224-225-227-233 器編S30 176-187-235 器編S48 177-178-195-218-219 器編S49
 174-182-196-197-204-208-209-220-223-226-228-232-234 器編S14 180-230-231 器編S53 199-205-216-237-238 器編S36

VI期(六)



239-246-250-254-258-259-264-265-279-280-282-284-286-287-293-295 器編S18 240-283-294 器編S9
 241-242-247-253-256-257-260-261-263-266-267-270-273-276-288-289-292 器編S18 244-245-268-289 器編S32
 243-248-251-273-274-277-278-281-285 器編S63 249-252 器編S64 255 器編S45 275-291 器編S38

第408圖 土器変遷圖(4)

まず土師器環類では、伝統的な比企型環は口縁部の外傾するものや「B系列」、丸腕風のものなど器形のバラエティが増える(169~186)。典型的な比企型環の規範・形制が緩み、器形的には変容が進む段階である。188は赤彩が確認されず、一見模倣環であるが、胎土や口唇部内面の沈線から比企型環と考えられる。

坂戸市稲荷前遺跡の報告の中で、筆者は典型的な比企型環の変容形態に対して統比企型環として類型化した(富田1992)が、赤彩技法または、沈線手法の採用など比企型環の伝統を墨守しており、社会的変化に対応しつつ生産体制を維持した点を評価すべきであろうと再考している。本稿では括弧付きの(統)比企型環と記載した(註3)。

187・189~191は坏蓋模倣環である。赤彩はなく、胎土等の特徴から北武蔵地域で生産された搬入品と考えられる。192~195はいわゆる有段口縁環である。有段の形状は変差が大きい。193は黒色処理が確認される。これらも非在地産(非比企地域産)である。おそらく北武蔵地域からもたらされたものと考えられる。

196~201は北武蔵型環である。北武蔵型環は該期に出現する新器形である。出現段階のものは深碗形態で、口唇部が小さく内屈または内湾するタイプが主体となる。「北武蔵」の名を冠するように中心的な生産地は利根川流域の北武蔵地域と考えられる。

202~206は北武蔵型暗文環、207・208は北武蔵型暗文皿である。畿内産土師器環Cを模倣した形態で、内面に放射暗文を施す。畿内産土師器にはヘラケズリはないが、在地産土師器の伝統で外面はヘラケズリ調整されている。

この段階以降、須恵器の出土数が増加する。古墳時代的な須恵器環H(210~212)はすべて東海(湖西産)と考えられる。在地産の環Hは確認できない。環G(213~218)は在地産が伴う。213は環G蓋で末野窯跡群産、214も末野産で、底部は

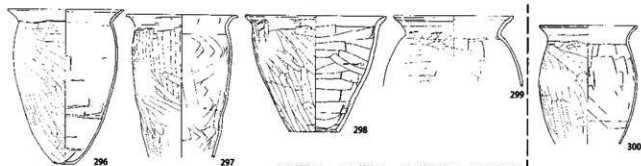
回転ヘラケズリ調整される。215は湖西産と推定される。216~218は南比企産である。銭塚遺跡第30号住居跡では湖西産の環H身(211)・湖西産の環G身(215)、末野産環G(213・214)、南比企産環G身(217)が共伴する。湖西産の環H身は口縁の立ち上がり退化し、受け部とほぼ等高となっている。同種の中でも最新の様相を呈する。末野産環Gは口径10cmを切り、南比企産のそれが11cm前後と比較するとやや小振りである。

銭塚遺跡第49号住居跡からは南比企産の環Gとともに、口径13.8cmの環Gを大型化したような環Gが出土している(219)。底部は手持ちヘラケズリを施す。伴出遺物からみて環H蓋の可能性はない。山下6号窯以降の大型環の系譜には乗らず、該期が妥当と考える。比較的類似した例は坂戸市稲荷前遺跡A区第98号住居跡を挙げることができる(富田1992)。時期的にもほぼ同時期である。

220・221は須恵器蓋、222~224は高台付環(環B)である。蓋は環Bに対応しようか。220・222は南比企産、他は湖西産と考えられる。環Bは溝跡資料であるため、確実に本期に属するか確定は難しいが、大型無台環が伴わないことから本期を中心にしておいた。本期~次期に掛かる土器とした方が良いかもしれない。225は末野産の無台盤である。

226~230は須恵器甕・壺(瓶)類である。227は南比企産の長頸瓶(壺)、台付形態の可能性がある。単口縁で、肩部の平行沈線区画の中に襷描列点文を二段施文する。228は東海(湖西産か)長頸瓶である。

土師器壺類は大・中・小が作り分けられている(231~233)。赤彩技法が多用され、比企型の伝統下にある。土師器壺はまだ長胴形態を保っているが、器高は34~38cm前後とやや縮小し、長胴化のピークは過ぎた感がある。前期以来の細身の器形もあるが、口縁部が広く、底部に向かって径を縮小する砲弾形の器形が増えるようだ(235~238)。

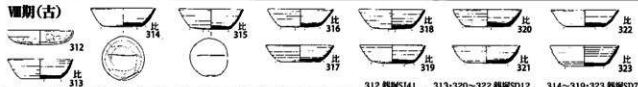


Ⅷ期(新)



300 魏寧S18 301 魏寧S151 302-303 魏寧S19 304 魏寧S116 305-306-308-309 魏寧SD7 307-310-311 魏寧SD12

Ⅷ期(古)



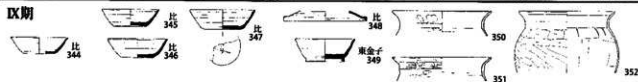
312 魏寧S141 313-320-322 魏寧SD12 314-319-323 魏寧SD7

Ⅷ期(新)



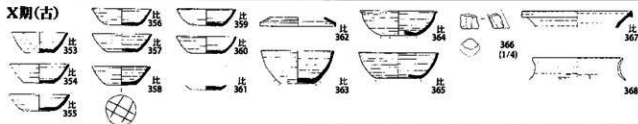
324-328-342-343 魏寧S121 329-331 魏寧SD7 332-341 魏寧SD12

Ⅷ期



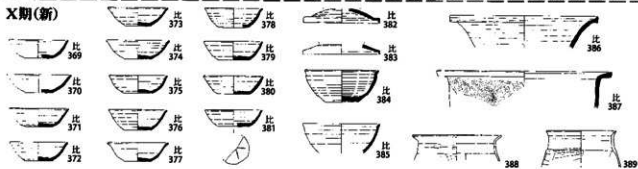
344-349-351 魏寧S117 345-346-348 魏寧S120 347-352 魏寧S126

X期(古)



353-361-363-366-368 魏寧S18 354 魏寧S112 355-360-364-365 魏寧SD7

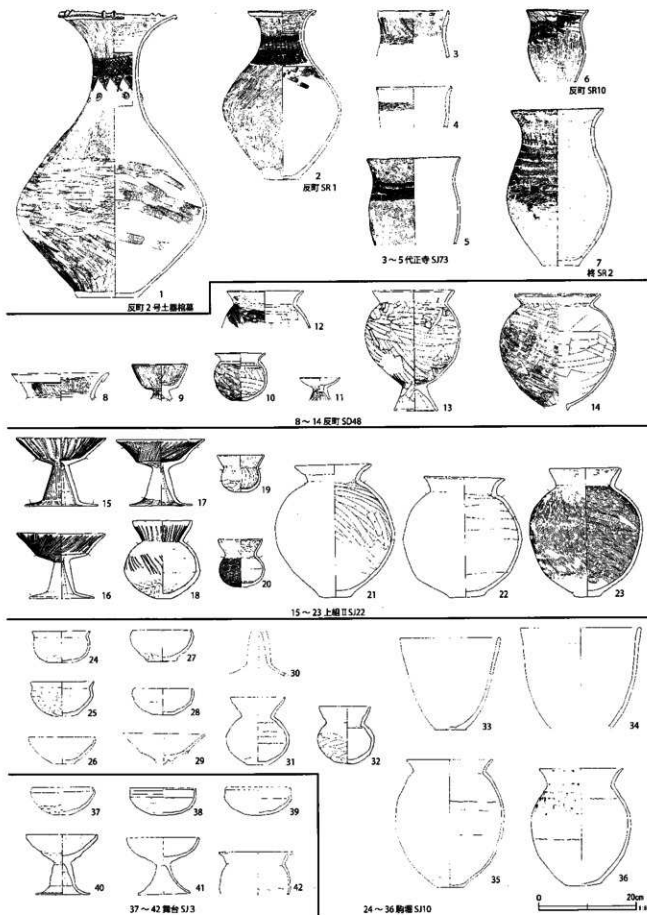
X期(新)



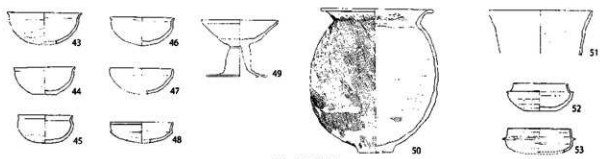
369-370-382-384-386-389 魏寧S112 371-378-383-385-387-388 魏寧S162 379-381 魏寧SD12



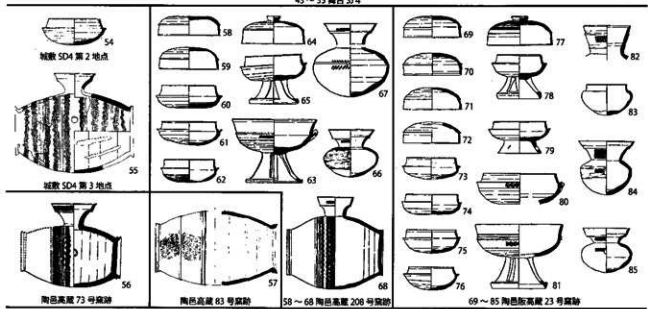
第409图 土器変遷図(5)



第410图 参考图(1)



43~53 甬台 SJ4



54
城敷 SD4 第2地点

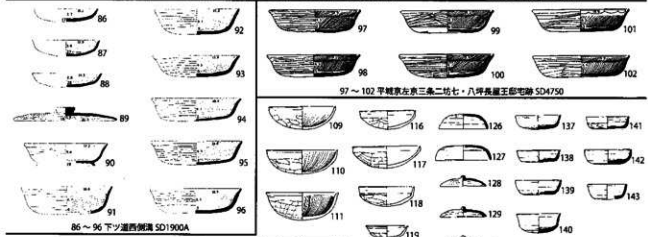
55
城敷 SD4 第3地点

56
陶器高麗 73 号竪跡

58~68 陶器高麗 83 号竪跡

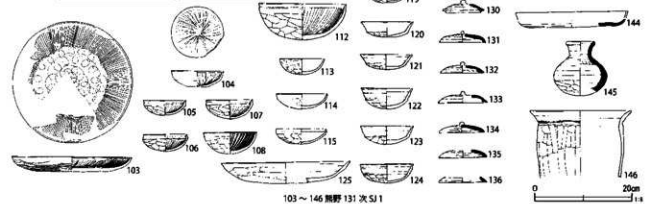
58~68 陶器高麗 208 号竪跡

69~85 陶器高麗 23 号竪跡

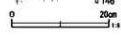


86~96 下ノ瀬西側溝 SD1900A

97~102 平城京左京三條二坊七・八坪長屋王邸宅跡 SD4750



103~146 洲野 131 次 SJ1



第411图 参考图(2)

235・236は武蔵型甕で、北武蔵地域で生産された可能性が高い。237・238は胎土に緑泥片岩を含み、底部がやや大きい。遺跡に隣接する都幾川流域かその上流の槻川流域の土であろうか。

7世紀後半段階における末野産須恵器の供給に関しては、深谷市熊野遺跡・幡羅遺跡や川越市霞ヶ関遺跡等評家関連遺跡に集中すること、更に末野産須恵器が南比企産須恵器を凌ぐことが指摘されている(渡辺2006・富田2006等)。本遺跡は南比企窯跡下の地にありながら、末野窯からの供給も受けていた点は興味深い。深谷市熊野遺跡131次第1号住居跡(鳥羽2002)からは飛鳥Ⅱ期段階の畿内産土師器に末野産坏G、北武蔵型暗文坏・北武蔵型坏・模倣坏・有段口縁坏が伴った(第411図103~146)。末野窯における坏G生産と北武蔵型暗文坏、北武蔵型坏の出現時期がほぼ一致し、7世紀3/4期にあることが判明した(鳥羽前掲書)。

(6) 奈良時代(Ⅶ期~Ⅷ期)

Ⅶ期は前期と連続する段階で、区別は難しい土器も多いが、山下6号窯跡(金井塚1990)に特徴的な大型無台坏の伴出をメルクマルとした。山下6号窯では須恵器坏は、大型坏一器種の単一法量を達成する。山下6号窯以降は、鳩山窯跡群編年(HⅠ期~HⅨ期)が基準となる(渡辺1988・1990)。

Ⅶ期は古段階と新段階に分かれる。古段階は山下6号窯段階から鳩山編年HⅠ期を当てた(第408図289~295・第409図296~299)。

土師器坏のうち、(続)比企型坏では小型のものも残存するが、丸腕タイプで内面沈線を持つ中・大型品が主体となる(第408図239~242)ようだ。内面のみ赤彩する例(240)、赤彩が施されないものも現れ(241・242)、比企型坏のアイデンティティともいえる赤彩技法そのものの弛緩が確実に進んでいるといえよう。

243~247は北武蔵型坏である。丸底形態である

が、出現期のものよりも口縁部が直立気味になる。248~252は北武蔵型暗文坏である。前段階以来の丸底器形で、内面放射暗文が施文される。250は底部が弱い平底風になっている。253は北武蔵型暗文皿である。257・258は内面と口縁部外面に赤彩が施される(続)比企型皿である。259は北武蔵型皿である。この北武蔵型皿に器形的には非常に類似するが、胎土に角閃石が殆ど含まれず、白色針状物質を確実に含む一群が存在する。口縁部が比較的短く、外反が弱い点で、(続)比企型皿とみるべきかもしれないが、口唇部内面の沈線と赤彩がない。銭塚遺跡第18号住居跡などから出土しており、取り敢えず(類)北武蔵型皿として類型化した(第70図27~30・第71図31~33)。今後、産地と系譜の再検討を行いたい(註4)。254は土師器の蓋である。胎土に白色針状物質が含まれることから在地産と考えられる。口径は20.0cmと大型の無かえり蓋で、扁平な擬宝珠形つまみを付す。天井部はヘラケズリ後、ミガキ調整を施す。在地産土師器の系譜に載ってこない器形である。南比企産須恵器蓋は環状つまみが主流の中で、末野産的な擬宝珠つまみは類例に乏しい。畿内産土師器には飛鳥Ⅴ期(平城Ⅰ期)に坏B蓋がある(第411図89)。遺存状態が悪く、螺旋暗文の有無は不明であるが、畿内産土師器を模倣した可能性を想定した方が良いかもしれない。

255・256は畿内産(系)土師器である。いずれも口縁端部を内側に巻き込んでおり、内面に斜方向の放射暗文を二段施文しているように見える。外面はミガキ、底部は軽いヘラケズリと指頭痕が観察され、飛鳥Ⅴ期(平城Ⅰ期)~平城Ⅱ期頃の畿内産土師器坏AⅠ(奈良文化財研究所分類)に酷似している(第411図86~96藤原京下ツ道西側溝SD1900A=飛鳥Ⅴ期、97~102長屋王邸宅跡SD4750=平城Ⅱ期)。256の素地土は畿内産土師器にしては粗い印象を受け、255の方が精選された土に思える。両例ともに白色針状物質は確認でき

ない。畿内産、または畿内産土師器を忠実に模倣した土器と考えられる。畿内産土師器は官衙やそれに類する遺跡から多く出土する傾向にある（富田2002）点を踏まえると、注視しなければならない遺物である。

260～285は須恵器環・蓋である。小型環・蓋（260～263）、大型環・蓋（268～273）に末野窯の製品が定量で含まれることは、前段階の需給関係を踏襲しているといえ、興味深い点である。末野産はかえり蓋を伴い、少なくとも大小の二種に法量分化している。参考になるのは末野窯跡群の一角にある寄居町城見上遺跡第3号住居跡である（小林2009）。須恵器環とかえり蓋が出土し、大・中・小の3種に法量分化している（第412図198～220）。Ⅵ期に対応する熊野遺跡第47次2号住居跡と比較すると、小型環がサイズアップしていること、大型環を定量で含むことなど、城見上第3号住居跡の方が新しい様相を含むと思われる。末野産大型環の内面にヘラ状工具を用いた渦巻状のロクロ目（ノタ目）を施す例がある（272）。一見湖西産かと見まがうが、類型は深谷市如意遺跡第142・344号住居跡・第65号土壌、如意南遺跡第21号住居跡（栗岡2000、岩瀬・大谷・栗岡2003）の他、深谷市百済木遺跡（村松2003）等末野窯跡群に近い遺跡から出土例が確認される。

南比企産須恵器は該期以降供膳器を中心とした須恵器の主体となる。南比企産の須恵器蓋は本期にはほとんど無かえり蓋に転換しているが、275など一部はかえりの付く大型蓋が生産されていた。大型蓋の主体は環状つまみで、銭塚第18号住居跡や第18号溝跡など大型環とともに多出しており、椀蓋とともに環蓋として機能していたものが多かったと考えられる（276～278）。

南比企産の無台環（279～285）は口径15～16.5cm前後の大型環からなる。底部が丸底風でやや深身の器形、口縁部が外反するタイプ（279～281）は山下窯跡6号窯資料（第412図188～197）

に似る。平底風で扁平な器形の坏は鳩山Ⅰ期に降るものを含むと思われる。

高台付坏（坏B）は南比企産と東海産がある。南比企産は小型品（265）と大型品（286）があるが量的には少ないようだ。また、高台付盤も1点出土している（287）。東海産環・蓋は比較的多い（288～292）。288の蓋は湖西産と推定され、坏Bと組み合わせよう。289～291は出尻風の形態で湖西産と考えられる。292は坏部内面に渦巻状のロクロ目がある。湖西産と思われる。

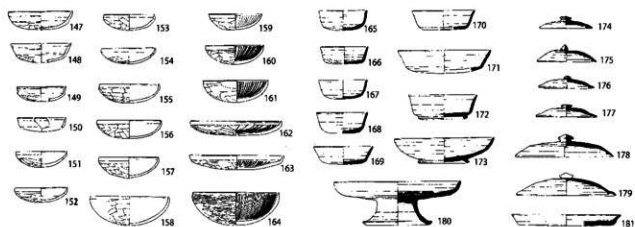
293は湖西産の甕口縁部と考えられる。甕の最終形態であろう。

長頸瓶は南比企産と湖西産がある。295は肩部が強く折れる南比企産の製品、294は湖西産の長頸瓶と考えられ、頸部が長く伸びる。

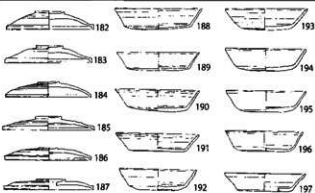
296・297は土師器甕である。297のように古墳時代的な長胴器形を残すものと、296のように武蔵型甕が伴出す段階である。296は器壁が薄く、北武蔵地域で生産された製品である。297は北武蔵以外の地で生産された可能性がある。瓶（298）と壺（299）はまだ残る。

Ⅶ期新段階は概ね鳩山編年Ⅱ期（渡辺1988他）に平行する段階と捉えた（第409図300～311）。該期以降、須恵器はほぼ南比企産に統一される。湖西産と末野産須恵器の供給は、一部例外はあるかもしれないが、概ね途絶えたと考えて良い。

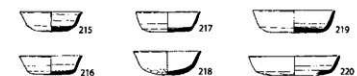
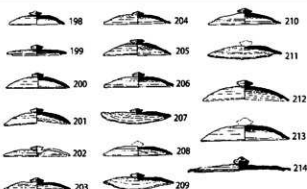
須恵器無台環は口径14cm大、扁平な器形で平底形態を基本とする（302～311）。底部調整は回転糸切り後、全面または周辺部を広く回転ヘラケズリするものがほとんどである。土師器環は北武蔵型環が継続して搬入されるが、該期単独の住居跡が少なく、良好な例を拾うことができない。扁平な丸底器形で、口縁部がやや開き気味に立ち上がるものが該当すると思われる（301）。北武蔵型暗文坏や（続）比企型坏は存在が明確ではない。南比企窯跡群の本格操業により、土師器供膳器の生産と供給は衰退していったと考えられる。



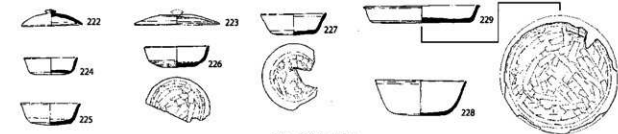
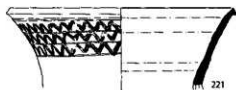
147～181 熊野47次SJ2



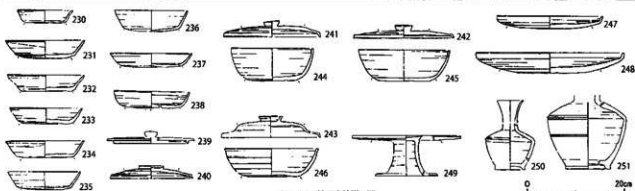
182～197 山下6号墓跡



198～221 坂屋上SJ3



222～229 坂屋上SJ5



230～251 桶山塚跡群I期

第412図 参考図(3)

土師器甕も同様に良好な例を示せないが、口縁部が弓状に緩やかに立ち上がり、やや長胴器形の甕を想定した(300)。

Ⅶ期は鳩山編年Ⅲ期からⅣ期に概ね平行する段階と捉えた(第409図314~343)。前期同様、単独の住居跡には良好な例はなく、銭塚遺跡第7号溝跡と銭塚遺跡第12号溝跡資料から補った。

須恵器杯は口径14cm前後~口径12cm前後までで、底部回転糸切り後、再調整を施すものである。古段階・新段階に分割したが、単独遺構が少なく、個別の分離は難しい。新段階を主体とする住居跡としては銭塚遺跡第21号住居跡が挙げられる。13cm~12cmの南比企産須恵器杯を含み(325・327・328)、大振りの高台付椀が伴出する(343)。326の須恵器杯は底部が厚く、口縁部が細く延びる。底部は手持ちヘラケズリ調整、口径が大きい特徴から伴うか否か検討が必要である。胎土から非南比企産であるが、産地はよくわからない。末野産または藤岡産に近い印象を受ける。

土師器杯は北武蔵型杯の伴出は確認できる(312・324)。量的に少なく、具体的な変遷を把握することは難しいが、扁平化と平底化が進行する段階である。蓋や無台碗、甕・壺などの器種は時期を特定することが難しい。

(7) 平安時代(Ⅹ期~Ⅺ期)

鳩山編年HⅤ期~HⅧ期に平行する段階と考えられる。概ね9世紀初頭~9世紀後半に該当するであろう。

Ⅹ期は須恵器杯類と土師器甕がある(第409図344~352)。供膳器はほとんど須恵器のみとなる。須恵器杯は底部回転糸切り後、無調整のものが主体を占めるようになる。口径は12cm大を中心に13cm前後の大振りのものを含む。底径は口径の1/2を上回っている(344~347)。口縁部の外反はほとんどみられない。高台付杯も含まれるが構成比は低い。349は砂っぽい胎土で白色針状物質が含

まれないことから、東金子産の可能性があろうか。蓋は無台碗蓋と考えられる(348)。鳩山編年HⅦ期を中心とした土器群と思われる。

土師器甕はすべていわゆる武蔵型甕となる。胎土から在地で生産されたものではなく、他地域、おそらくは北武蔵地域からの供給に頼っていたと考えられる。口縁部が弓状に外反するもの(350)と、「コ」の字状口縁になるものがある(351・352)。

Ⅺ期は鳩山編年HⅧ期~Ⅸ期に相当する土器群である(第409図353~389)。古段階と新段階に分かれるが、銭塚8・12号住居跡は両段階に跨る可能性が高い。また、第7号溝跡・第12号溝跡にも該期の土器が多く含まれる。

古段階の須恵器杯は底部回転糸切り後無調整になり、底径は口径の1/2か、僅かに上回る程度に縮小する。口縁部の外反はまだあまり見られない(353~361)。無台碗は坪岡様底部の縮小が顕著になる。底部は回転糸切り後、再調整を施すものがまだ多く残るようだ(363~365)。無台碗を特徴づける口唇部内面の内傾する面取りは退化し、丸みをもつ口縁部に仕上げたり(363)、外反するものが現れる(364)。

土師器甕は「コ」の字状口縁部に統一されるが、良好な例が少ない(368)。その他銭塚第8号住居跡から三足土器の脚部と思われる土製品が出土しており、鉄製鍋の存在をうかがわせる資料として注目される(366)。

新段階は鳩山編年HⅧ期に相当する土器群と考えた。須恵器杯は口径12cm前後と変化しないが、底径がさらに縮小する。口径の1/2を下回るものが大半を占める。見た目も深身の形態が増えると共に口縁部の外反が顕著になる(369~381)。

無台碗も底径が縮小し、深碗化が進む。口縁部に面取りされるものは姿を消し、口縁部が外反するものが出土している。量的には減少するようだ。

土師器甕は「コ」の字形口縁部がある。口縁部

の屈曲がさらに強くなるようだ(388)。小型台付甕も存在する(389)。

線塚遺跡で最新の住居跡は第1次調査の第1号住居跡(菊地2007)でおそらく第X期に後続する時期と思われる、10世紀初頭頃に降るだろう。それに後続する土器群は不明確である。

各段階の実年代に関しては、AMS炭素年代測定法や年輪年代測定法によるデータが積み重ねられつつある(西本2006)が、まだ流動的な面がある。第I期は弥生時代後期前半である。後期久ヶ原式が紀元前後～紀元2世紀というAMS較正年代が出ており(小林2006)、参考にすれば紀元1世紀～2世紀頃となろうか。

第II期は古墳時代前期でも古相が中心となる。これも古墳時代の開始年代論に関わる。最近の情勢から布留式の上限が3世紀後半にあるのは確実で、布留0式と庄内式は3世紀前半代に遡る可能性が大である(森岡2006)。第II期に関しては3世紀後半～4世紀前半頃と考えておく。

第III期古段階は、和泉期前半期に対応する。大形甕が伴出し、背景に須恵器の出現が想定されている。5世紀前半と考えておきたい。

第III期新段階は和泉期後半に対応する。須恵器の伴出例が確認できる段階であるが伴出須恵器の年代と土師器年代は誤差を含む場合が多く、ダイレクトに年代を示す資料はあまりない。5世紀後半代が中心であることは間違いないだろう。

続く第IV期は典型的な模倣坏が出現する。須恵器遺は陶邑編年TK23型式と思われる、5世紀後半代に位置付けられる。最近、藤野一之は榛名二ツ岳火山灰(Hr-FA)降下年代から須恵器暦年代を検討した(藤野2009)。AMS較正年代により、Hr-FA降下年代は5世紀末に遡ること、それに伴う須恵器はMT15型式であることを示した。FA降下前には模倣坏は出現しており、IV期古段階は5世紀末葉を含むと思われる。IV期新段階は6世紀初頭頃となろう。

V期の年代はVI期から類推して7世紀前半から中頃までと思われる。

VI期は北武蔵型坏・北武蔵型暗文坏・末野産坏Gが出現する。深谷市熊野遺跡第131次1号住居跡から畿内産土師器と北武蔵型坏・北武蔵型暗文坏・末野産須恵器坏Gが出土した。報告者の鳥羽政之は該期の土器に対して飛鳥II期新相(水落遺跡段階)に比定した(鳥羽2002・2004)。従ってVI期に7世紀3/4期が含まれ、概ね7世紀後半代で推移するものと思われる。

第VII期古段階は畿内産土師器坏Aが参考となる。形態から飛鳥V期の藤原宮下ツ道西側溝SD1900A、平城II期の長屋王邸宅跡SD4750段階の資料に類似する。概ね7世紀末葉～8世紀1/4期に位置付けてよいだろう。山下6号窯の大形坏が主体となるのであれば、700年前後が上限となるかもしれない。

第VII期新段階以降は鳩山編年に従う。第VIII期新段階は8世紀2/4期、第VIII期は8世紀中頃～後半、第IX期は9世紀前半、第X期は9世紀中頃～後半となる。

註

- 1 中村によれば、擬模倣坏とは意識の中で須恵器を模倣した段階であるという。既に坏身と坏蓋の両者を模倣したものがあることも述べられている。
- 2 初期須恵器の産地と型式については酒井清治氏の御指導と御教示を得た。
- 3 比企型坏をめぐるのは、尾形剛敏による「入間系土師器」の設定案が提示されている(尾形2008)。比企型坏分布圏に顕在する複数の「小領域=生産地」の存在を明らかにした点で大きな成果である。また別の視点から見れば、異なる生産領域が見えてくるかもしれない。古代の土器生産と流通範囲を検討する上で有効な武器の一つとなろう。

但し、比企型坏という場合、「比企型坏」のみの生産ではなく、それを生産する集団が作る土器群全体、多くの場合甕・壺・高坏など他器種の生産を暗黙裡に含んでいると理解していた。比企型坏はその象徴的な

土器であった。

律令期に至るまで古墳時代的な土器と生産体制を維持した点を強調すれば、変容段階まで含め広義の「比企型環」とした方が混乱なく理解できるかもしれない。今回は(続)比企型環と中途半端な記載となったが、尾形案を含め再検討したい。

2. 銭塚遺跡・城敷遺跡の集落変遷について

銭塚遺跡第2次・第3次調査区からは竪穴住居跡62軒、掘立柱建物跡19棟、土塋35基、土器棺墓1基、井戸跡7基、溝跡38条、畠跡1箇所、堤防状遺構1箇所などが発見された。城敷遺跡第1次・第2次調査区からは竪穴住居跡108軒、掘立柱建物跡15棟、土塋40基、大溝(河川流路)跡8条(1条8地点)、溝跡30条等が発見されている。両遺跡は南北に接した位置に展開し、実質的に同一遺跡として捉えられるものである。

銭塚遺跡が北側、城敷遺跡が南側に位置し、銭塚遺跡北側には現都幾川が東流している。遺跡西側には高坂台地が迫り、東側には広大な低地が広がっている。反町遺跡は東側に隣接して形成されている。

銭塚遺跡の整理については本報告で完了するが、城敷遺跡の全容は次回報告を待たなければならない。ここでは、本書掲載分を対象に、集落の変遷過程を相描してみたい。城敷遺跡の対象遺構は竪穴住居跡31軒、掘立柱建物跡3棟、土塋9基、大溝跡1条3地点、溝跡21条となる。なお、時期区分については前項に従う。また、遺構が複数時期に跨る場合、集落変遷図(第413・414図)は基本的に古い時期で代表して示した。

I期集落(第413図)

弥生時代の遺構は銭塚遺跡に位置する第1号土器棺墓1基に留まる。弥生時代後期前半岩鼻式期に位置付けられる。反町遺跡や坂戸市終遺跡では方形周溝墓と土器棺墓が検出されており、周囲に墓域や集落域が展開している可能性は高いものと推定される。

4 白色針状物質を含む土師器は、比企周辺地域以外に群馬県藤岡地域に分布することが知られている。藤岡地方は北武蔵型環分布圏であるが、角四石も多量に含まれている。素地土は比企地域のそれにより類似するようにも思える。今後このタイプの皿の出土例と系譜・生産地について注意したい。

II期集落(第413図)

II期は古墳時代前期に対応する。城敷遺跡には第4号溝跡南、ZWグリッドライン以南に第82、85・86、95号住居跡の4軒が検出され、該期集落が展開することが判明した。第4号溝跡からも吉ヶ谷系の甕が出土しており、II期には流路として機能していた可能性がある。城敷遺跡北端に第18号溝跡があり、吉ヶ谷系の甕破片と東海系の壺の胴破片が検出された。東側延長が第10号溝跡に対応するの否かは不明確であるが、第10号溝跡からも吉ヶ谷系の甕が出土しており、第II期に存在した可能性がある。

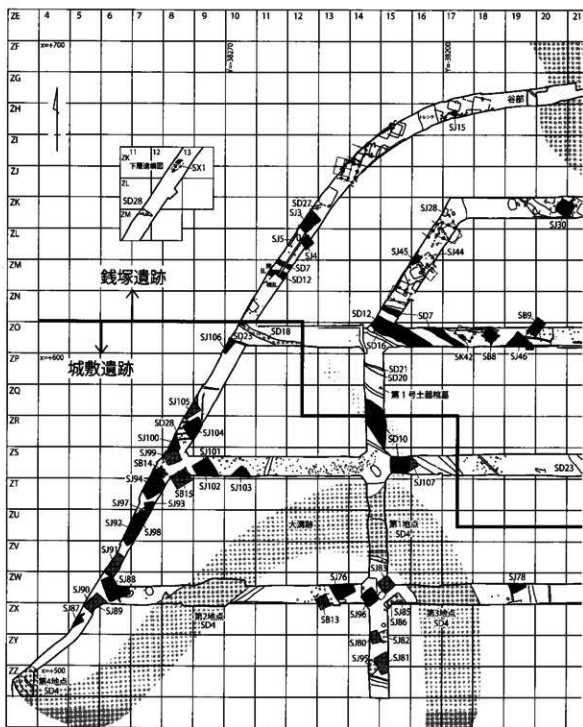
銭塚遺跡からは古墳時代後期集落の下層から第28号溝跡と不明(堤防状)遺構(SX1)が検出された。後者は堤防のような高まりをもち表面が焼けていたもので、性格は不明である。集落そのものの展開は残念ながら明らかにできない。

III期集落(第413図)

古墳時代中期、和泉期に属する。古段階の集落は城敷遺跡に散在する。第99・105号住居跡が城敷遺跡西端部に、第80号住居跡が第4号溝跡第3地点西側に位置する。

新段階の集落は城敷遺跡と銭塚遺跡北東端部にも出現する。城敷遺跡では、第80・81・83・89・90・91・99・105・107号住居跡が作られ、集落規模は一気に拡大する。また、城敷遺跡第14号掘立柱建物跡は該期に属する可能性がある。銭塚遺跡は第42・58・61号住居跡が作られ、城敷遺跡の集落とは別の一群を構成するようだ。

IV期集落(第413図)

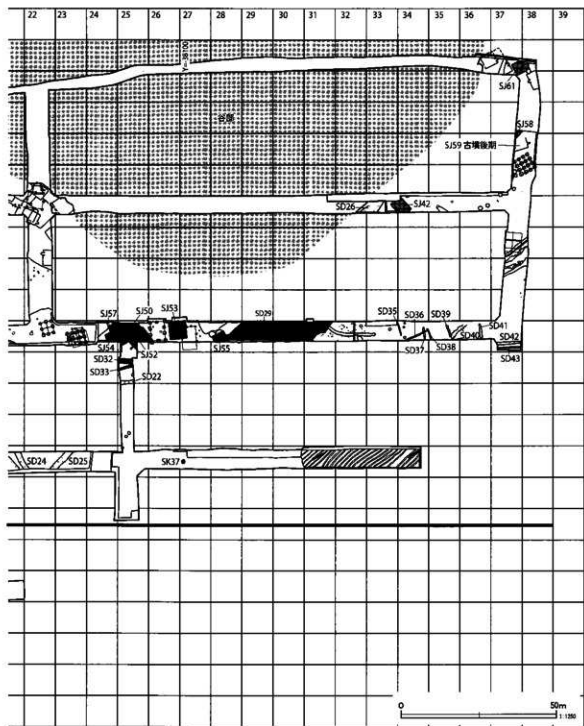


第413図 集落変遷図(1)

古墳時代後期初頭の集落である。土器様相から古段階と新段階に分けたが、時間幅は少ない。古段階の集落は城敷遺跡第76・78・94・98・101・102・103・104・106号住居跡がある。掘立柱建物跡は第13・15号掘立柱建物跡がⅢ期～Ⅳ期に属するが、該期に属する可能性がより高いと考えてい

る。銭塚遺跡では城敷遺跡に近い地域に集落が展開する。第3・4・46・52号住居跡、第8・9号掘立柱建物跡、第42号土壇が該期に含まれる。Ⅲ期後半の集落拡大基調が継続することが分かる。

Ⅳ期新段階では城敷遺跡第87・88・92・93・96・100号住居跡があり、城敷遺跡西端部に集中



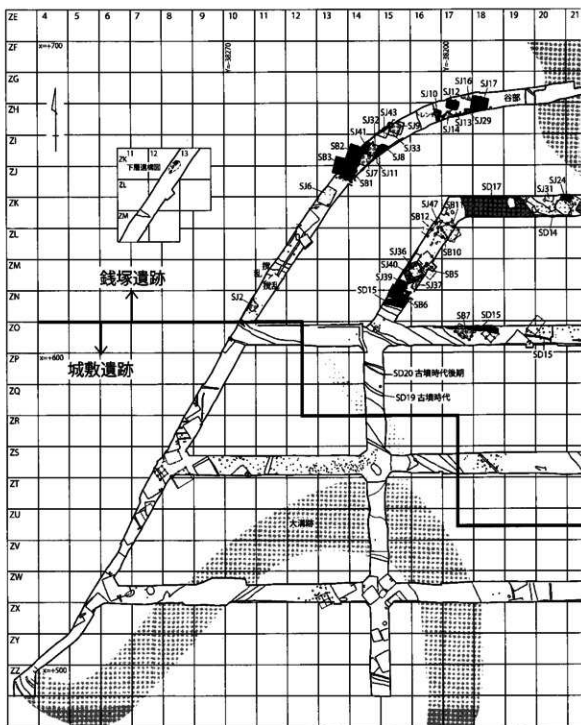
する傾向があるが、銭塚遺跡には該期の遺構は見当たらない。

V期集落 (第413図)

V期集落は古墳時代後期、7世紀前半～中頃に比定され、IV期集落とは1世紀近い長期の断絶が

ある。城敷遺跡はIV期段階で集落形成が途絶えるようだ。城敷遺跡では第4号溝跡最北端(銭塚集落寄り)の第1地点から、溝埋没過程で投棄されたV期～VI期の土器が出土しているのみである。

一方、銭塚遺跡は該期以降、積極的な集落の進

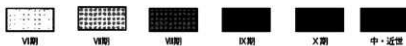
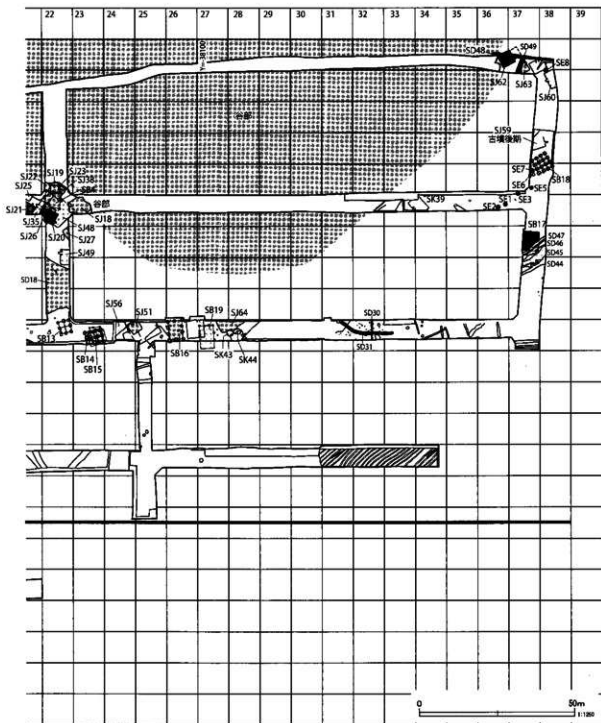


第414図 集落変遷図(2)

出が認められる。Ⅴ期に属する遺構は、第15・30・45?・50・(57)・53・54・55号住居跡がある。また、第7・14号溝跡も該期から存在した可能性がある。特に第7・12号溝跡は銭塚集落南側を、二条平行して延びており、集落を区画する溝跡の可能性が高い。時期幅も長く、該期以降9世紀後

半(第Ⅹ期)まで、集落の存続期間に対応する遺物が多量に出土している。溝跡の延長を辿ると、第32・33号溝跡周辺での関係が不明確であるが、第29号溝跡・第44~47号溝跡に連続する可能性もある。第14号溝跡は次期に主体があるようだ。

Ⅴ期集落(第414図)



VI期に該当する遺構は銭塚遺跡第6・22・25・33・35・36・38・43・47・48・49・56・60号住居跡がある。時期的には7世紀後半代、律令初期に集落が急拡大する点は注意してよいであろう。3×3間総柱の第18号掘立柱建物跡の時期は明らか

にできないが、本期～次期の中で造られた可能性を想定したい。

VII期集落 (第414図)

VII期集落は銭塚遺跡第2・7・9・14・16・18・19・27・29・32・40・51・63・64号住居跡、

第17・18・44～47号溝跡、第7号掘立柱建物跡などから構成される。前期に引き続き、集落は最も拡大した段階と思われる。

Ⅷ期集落（第414図）

Ⅷ期集落は一転減少に転ずる。銭塚遺跡第10・21・41号住居跡が挙げられるにすぎない。但し、第7・12号溝跡には該期の遺物が多量に含まれており、調査区周辺に更に多くの住居跡が存在する可能性は高いと考えている。

Ⅸ・X期集落（第414図）

Ⅸ期集落も検出数は比較的少なく、銭塚遺跡第17・23・26号住居跡が挙げられる程度に衰退するかに見える。しかし、前期同様第7・12号溝跡には該期の遺物が含まれており、やはり周辺に集落が展開していた可能性は十分想定できる。

続くX期は銭塚遺跡8・11・12・13・20・24・62号住居跡が作られ、前期よりは拡大基調にあるように思われる。本調査区の古代集落は本期をもって終焉を告げる。年代的には9世紀後半と考

えられる。本調査区の東側の銭塚第1次調査からは、X期に後続する住居跡が検出されており、かなり存続期間の長い集落であったことは確実であろう。第1次調査区を含めた銭塚遺跡東端部には、井戸跡や区画溝等中世の屋敷に関わる遺構が検出されており、古代末期～中世の集落は、更に東方に展開するものと予想される。

古墳時代前期から後期初頭にかけて全盛期を迎えた城敷遺跡はその後非集落域に変化した。銭塚遺跡は古墳時代後期から奈良・平安時代にかけて主要集落域に転換した様相が判明した。城敷集落が廃絶した理由を探るのは整理作業が終了し、詳細な変遷が判明する段階を待たねばならないが、大溝跡（河川流路）の氾濫や、造盆地運動の活発化による地盤の沈降等の自然的な理由が想定できようか。城敷遺跡は古墳時代後期初頭以降、現代に至るまで居住域として復活することはなかった。調査の手が加わるまで、肥沃な水田として土地利用されてきたのである。

引用・参考文献

- 青木和明・千野浩 1987『長野吉田高校グランド遺跡』長野市教育委員会 長野市遺跡調査会
赤熊浩一 1988『狩獵塚・古井戸 歴史時代編Ⅱ』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第71集
赤熊浩一・岡本健一 2004『下田町遺跡Ⅰ』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第296集
赤熊浩一・瀧瀬芳之 2006『下田町遺跡Ⅲ』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第319集
赤熊浩一 2002『14. 比企郡』『坂東の古代官衙と人々の交流』埼玉考古学会
赤熊浩一・上野真由美 2007『東松山市反町遺跡の調査』『第40回遺跡発掘調査報告会発表要旨』埼玉考古学会
甘粕 健 1976『三千塚古墳群に関する覚え書』『北武蔵考古資料図鑑』校倉書房
飯島克巳・若狭徹 1988『樽式土器編年の再構成』『信濃』第40巻第9号 信濃学会
石川安司他 1994『比企郡市における中世の概観』『比企郡市における埋蔵文化財の成果と概要』
石岡憲雄 1980『北武蔵の玉作遺跡』『研究紀要第2号』埼玉県立歴史資料館
石坂俊郎 1995『田島・棚田』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第147集
石坂俊郎 2005『五領遺跡出土土器の今昔』『研究紀要第27号』埼玉県立歴史資料館
磯崎 一 1992『白草遺跡Ⅱ』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第118集
磯崎 一・中山浩彦 2006『下田町遺跡Ⅳ』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第320集
磯崎 一・山本 靖 2005『北島遺跡ⅩⅢ』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第305集
井上尚明 1994『光山遺跡群』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第137集
井上 肇 1978『舞台（資料編）』埼玉県遺跡発掘調査報告書第17集 埼玉県教育委員会
井上 肇 1979『舞台（本文編）』埼玉県遺跡発掘調査報告書第18集 埼玉県教育委員会

- 井上 肇 1980『棋平』埼玉県遺跡発掘調査報告書第27集
- 今泉泰之 1974『駒廻』埼玉県遺跡発掘調査報告書第4集 埼玉県教育委員会
- 今泉泰之他 1979『田木山・弁天山・舞台・宿ヶ谷戸・附川』埼玉県遺跡発掘調査報告書第5集 埼玉県教育委員会
- 今井 宏他 1980『児沢・立野・大塚原』埼玉県遺跡発掘調査報告書第28集
- 今井 宏他 1982『緑山遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第19集
- 岩瀬 謙・大谷 徹・栗岡 潤 2003『如意遺跡Ⅳ』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第285集
- 内田正英 2007『川越市古海道東遺跡（第1次）の調査』『第40回遺跡発掘調査報告会発表要旨』埼玉考古学会
- 馬橋泰雄 1994『足洗遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第136集
- 梅沢太久夫他 1981『六反田』岡部町六反田遺跡調査会
- 江原昌俊 1993『岩鼻遺跡（第2次）』東松山市文化財調査報告書第21集 東松山市教育委員会
- 江原昌俊 1996『いわゆる「小代氏館跡」の区画について』『比企丘陵』第2号 比企丘陵文化研究会
- 江原昌俊他 2004『上松本遺跡（第2次）』東松山市遺跡調査会発掘調査報告書第2集 東松山市遺跡調査会
- 江原昌俊 2005『13. 高坂岡辺遺跡』『シンポジウム埼玉の戦国時代 検証比企の城』
- 太田賢一 1998『吉見町三ノ耕地遺跡の調査』『第31回遺跡発掘調査報告会発表要旨』埼玉考古学会
- 太田賢一 2003『下遺跡』吉見町遺跡調査会発掘調査報告書
- 太田賢一 2005『西吉見条里遺跡—第1分冊—』吉見町埋蔵文化財調査報告書第2集 吉見町教育委員会
- 大谷 徹・宅間清公 2006『杉の木遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第327集
- 大塚 実他 1988『八幡・原山・古吉海道』東松山市文化財調査報告書第17集
- 岡田勇介・上野真由美 2007『東野／平沼一丁田』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第360集
- 尾形剛敏他 1997『志木市遺跡群Ⅷ』志木市の文化財第25集
- 尾形剛敏 1999『いわゆる「比企型環」の編年基準の要点』『あらかわ』第2号
- 尾形剛敏 2008『古墳時代後期の土師器研究の再認識—（仮称）「入間系土師器」の実態と生産地推定を例として—』『埼玉考古』第43号
- 書上元博 1996『古墳時代前期の上器群について』『新屋敷遺跡C区』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第175集
- 柿沼幹夫・宅間清公・的野善行 2005『岩鼻遺跡（第2次）出土の「岩鼻式」土器について』『紀要』30 埼玉県立博物館
- 柿沼幹夫 2006『岩鼻式土器について』『土曜考古』第30号
- 柿沼幹夫 2007『2土器研究 後期上器編年—東北部・西部地域』『埼玉の弥生時代』六一書房
- 柿沼幹夫・佐藤幸恵・宮島秀夫 2008『岩鼻式土器から吉ヶ谷式土器へ』『国史館考古学第4号』
- 加藤恭朗 1985a『附島遺跡』附島遺跡発掘調査報告書Ⅰ 坂戸市教育委員会
- 加藤恭朗 1985b『附島遺跡』附島遺跡発掘調査報告書Ⅰ 坂戸市教育委員会
- 加藤恭朗・北堀彰男・柳 理 1987『古代のさかと』坂戸市遺跡発掘調査概報Ⅰ 坂戸市教育委員会
- 加藤恭朗・北堀彰男・柳 理 1988『坂戸市遺跡群発掘調査報告書第Ⅰ集』坂戸市教育委員会
- 加藤恭朗 1988b『附島遺跡』附島遺跡発掘調査報告書Ⅲ 坂戸市教育委員会
- 加藤恭朗他 1992『坂戸市史』古代資料編 坂戸市教育委員会
- 加藤恭朗 1994『若葉台遺跡』若葉台遺跡発掘調査報告書Ⅲ 坂戸市遺跡発掘調査団
- 加藤恭朗 1997『景台遺跡』景台遺跡発掘調査報告書Ⅲ 坂戸市遺跡発掘調査団
- 加藤恭朗 1999『景台遺跡』景台遺跡発掘調査報告書Ⅱ 坂戸市遺跡発掘調査団
- 加藤恭朗 2001『終遺跡』終遺跡発掘調査報告書Ⅰ 坂戸市遺跡発掘調査団
- 加藤恭朗 2005『若葉台遺跡』若葉台遺跡発掘調査報告書Ⅵ 坂戸市教育委員会
- 加藤恭朗 2008『入間郡家を推定する—6世紀・7世紀から8世紀初頭の遺跡の動向をもとに—』『論叢古代武蔵國入間郡家—多角的視点からの考察—』古代の入間を考える会
- 金井塚 厚 1990『山下窟跡』鳩山町埋蔵文化財調査報告書第7集

- 金井塚良一他 1962「三千塚古墳群発掘調査-中間報告-」三千塚古墳群調査会
- 金井塚良一 1965「埼玉県東松山市吉ヶ谷遺跡の調査」『台地研究No16』台地研究会
- 金井塚良一 1968「香清水遺跡調査概報」埼玉県遺跡調査会報告第1集
- 金井塚良一 1968「柏崎古墳群-埼玉県東松山市柏崎古墳群発掘調査報告-」考古学資料刊行会
- 金井塚良一 1971「五領遺跡B区の発掘と五領式土器についてのわれわれの見解」『台地研究No19』台地研究会
- 金井塚良一他 1978「吉見町史」上巻 吉見町
- 金井塚良一 1979「比企地方の前方後円墳-北武蔵の前方後円墳の研究(1)」『研究紀要第1号』埼玉県立歴史資料館
- 金井塚良一他 1981「東松山市史資料編第1巻 原始古代・中世 遺跡・遺構・遺物編」
- 金井塚良一・渡辺久生 1981「東松山市下寺前遺跡発掘調査報告」『台地研究No21』台地研究会
- 金井塚良一・高柳茂 1987「船川遺跡」船川遺跡調査会
- 金子彰男 2004「愛染遺跡第6・7・8・9・10地点 青柳古墳群元阿保支群」神川町遺跡調査会報告第7集
- 金子直行 2002「八木崎遺跡」埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第281集
- 川島町 2006「川島町史資料編 地質・考古」
- 菊地 真 2006「東松山市反町遺跡(第1次)の調査」『第39回遺跡発掘調査報告会発表要旨』埼玉考古学会
- 菊地 真 2007「西浦/野本氏館跡/山王裏/銭塚」埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第340集
- 菊地 真 2007「都幾川下流域の埋没微地形と遺跡立地(千原)」『研究紀要第22号』埼玉県埋蔵文化財調査事業団
- 久々忠義・塚田一成 2003「桜町遺跡発掘調査報告書弥生・古墳・古代・中世編Ⅰ」小矢部市埋蔵文化財報告書第51冊
- 木戸春夫 2003「宮西遺跡Ⅰ」埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第288集
- 木村俊彦 1986「滑川町新井・打越遺跡の調査」『第19回遺跡発掘調査報告会発表要旨』埼玉考古学会
- 栗岡 潤 2000「如意/如意南」埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第241集
- 栗岡 潤 2007「白井沼遺跡Ⅱ」埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第328集
- 栗原文蔵・野部徳秋・今泉泰之 1973「岩の上・雉子山」埼玉県遺跡発掘調査報告書第1集 埼玉県教育委員会
- 黒坂慎二 1989「上組Ⅱ」埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第80集
- 黒坂慎二 1998「富士見一丁目遺跡」埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第189集
- 黒坂慎二 2008「牛原/御新田/番匠・下道/横沼新田/北谷」埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第353集
- 小出輝雄 1988「北通遺跡第33地点」『富士見市遺跡群Ⅵ』富士見市文化財報告38集
- 小久保徹・利根川彦彦 1981「桜山古墳群」埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第2集
- 小郷利幸 2001「(2)津山市日上畷山古墳群出土の樽形甕」『年報 津山弥生の里』第8号 津山弥生の里文化財センター
- 古代の入間を考える会 2008「論叢古代武蔵國入間郡家-多角的視点からの考察-」
- 古代の土器研究会 1992「古代の土器Ⅰ 都城の土器集成」
- 小林謙一 2006「東日本における年代測定の成果」『新弥生時代のはじまり第1巻 弥生時代の新年代』雄山閣
- 小林 高 2006「末野窟跡第5支群」寄居町文化財調査報告第27集
- 小林 高 2009「城見上遺跡(第2次)」寄居町文化財調査報告第29集
- 小淵良樹 1982「宮ノ越遺跡」埼玉県遺跡調査会報告第44集
- 小淵良樹 1986「狭山市文化財調査報告書4 揚楯木遺跡」狭山市文化財報告12
- 小峰啓太郎 1963「杉の木遺跡の調査」東松山市文化財調査報告書第2集 東松山市教育委員会
- 埼玉県 1982「埼玉県史 資料編2 原始・古代 弥生・古墳」
- 埼玉県教育委員会 1988「埼玉の中世城館跡」
- 埼玉県教育委員会 1994「埼玉県古墳詳細分布調査報告書」
- 埼玉県教育委員会 1996「埼玉県埋蔵文化財調査年報 平成6年度」
- 斉藤国夫 1980「長野中学校校内遺跡発掘調査報告書」行田市文化財調査報告書第9集
- 斉藤 稔 1994「一天狗遺跡-丁地点発掘調査報告書-」鶴ヶ島市教育委員会

- 齊藤 稔 1999 『一天狗遺跡』地点13区発掘調査報告書 鶴ヶ島市教育委員会
- 齊藤 稔 2001 『羽折遺跡1次調査発掘調査報告書』鶴ヶ島市埋蔵文化財調査報告第48集
- 酒井清治 1982 『緑山遺跡出土の瓦-勝呂廃寺の系譜の中で-』『緑山遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第19集
- 酒井清治 1999 『陶器TK87号窯出土の博形土器の再検討-博形趣の可能性を求めて-』『人類学研究11』
- 酒井清治 2002 『古代関東の須恵器と瓦』同成社
- 坂戸 市 1983 『坂戸市史原始史料編』
- 坂本和俊・金子彰男 1986 『諏訪山29号墳』『埼玉県古式古墳調査報告書』埼玉県史編さん室
- 坂本和俊 1990 『関東1 東京・埼玉・神奈川』『古墳時代の研究 第11巻』雄山閣出版
- 佐々木彰 1999 『伊興遺跡Ⅱ』足立区伊興遺跡調査会
- 澤口和正 2008 『宮裏遺跡』宮裏遺跡発掘調査報告書Ⅰ 坂戸市教育委員会
- 塩野 博 2004 『埼玉の古墳 北足立・人間』さきたま出版会
- 塩野 博 2004 『埼玉の古墳 比企・秩父』さきたま出版会
- 寺社下博 2000 『一本木前遺跡』平成11年度熊谷市埋蔵文化財調査報告書
- 藤田泰輔 2008 『木曾免遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第352集
- 藤原祐一 2005 『水辺の祭祀小考』『古代東国の考古学』
- 嶋村一志・長瀬出 2000 『豊島馬場遺跡Ⅱ』北区埋蔵文化財調査報告第25集 北区教育委員会
- 高村範久 2001 『駒西(私市)城跡』駒西町史考古資料編
- 高村範久 2001 『多賀谷氏館跡』駒西町史考古資料編
- 下城 正 1994 『新保田中村前遺跡Ⅳ』群馬県埋蔵文化財調査事業団発掘調査報告書第176集
- 下城 正他 1988 『三ツ寺Ⅰ遺跡』上越新幹線関係埋蔵文化財発掘調査報告書第8集
- 杉崎茂樹 1993 『中耕遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第125集
- 杉原荘介 1971 『五領遺跡出土の土器』『土師土器集成本編1』東京堂出版
- 鈴木孝之 1991 『代正寺・大西』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第110集
- 鈴木徳雄 1983 『古代北武蔵における土師器製作手法の画期』『土曜考古』第7号
- 高崎光司 1990 『玉太閤遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第90集
- 高橋好信他 1994 『比企郡市における古墳時代の概観』『比企郡市における埋蔵文化財の成果と概要』
- 立花 実 1992 『東日本の口縁屈曲鉢』『西相模考古第1号』西相模考古学研究会
- 立石盛詞 1987 『女堀Ⅱ・東女堀原』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第68集
- 立石盛詞 1989 『御伊勢原』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第79集
- 田中広明・末木啓介 『中堀遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第190集
- 田沼昭三 1981 『須恵器大成』角川書店
- 谷井 彪 1978 『山田遺跡・相模場遺跡』埼玉県遺跡調査会報告第18集 埼玉県遺跡調査会
- 谷井 彪 1974 『VI花影遺跡の発掘調査』『南大塚・中組・上組・鶴ヶ丘・花影』埼玉県遺跡発掘調査報告書第3集
- 谷井 彪 1974 『IV舞台遺跡の発掘調査』『田木山・弁天山・舞台・宿ヶ谷戸・附川』埼玉県遺跡発掘調査報告書第5集
- 谷井 彪 1979 『大山』埼玉県遺跡発掘調査報告書第23集
- 千賀 久 1988 『寺口・忍海古墳群』新庄町文化財調査報告書第1冊 新庄町教育委員会、奈良県立橿原考古学研究所
- 千野浩他 1998 『小島柳原遺跡群 水内坐一元神社遺跡』長野市の埋蔵文化財第88集 長野市埋蔵文化財センター
- 千野浩・町田勝則 2001 『長野吉田高校グランド遺跡Ⅱ』長野市の埋蔵文化財第97集 長野市埋蔵文化財センター
- 津田福治・小峰啓太郎他 2002 『尾崎遺跡』川島町遺跡発掘調査報告書第1集
- 津野 仁 1991 『古代・中世の鉄鏡』『物質文化』第54号
- 寺内正明 1994 『ささら遺跡 殿の下遺跡 馬込八番遺跡』蓮田市文化財調査報告書第22~24集 蓮田市教育委員会
- 戸沢久剛・千葉敏明・石川正行・小川直裕・秋本雅彦 2006 『下宅部遺跡Ⅰ』東村山市遺跡調査会

- 富田和夫 1982『伴六』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第11集
- 富田和夫 1992『稲荷前遺跡（A区）』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第120集
- 富田和夫 1994『稲荷前遺跡（B・C区）』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第145集
- 富田和夫 2000『大寄遺跡Ⅰ』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第268集
- 富田和夫 2002『飛鳥・奈良時代の官衙と土器－官衙の土器と搬入土器の様相－』『坂東の古代官衙と人々の交流』埼玉考古学会
- 富田和夫 2002『熊野遺跡（A・C・D区）』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第279集
- 富田和夫 2005『東松山市市城敷・銭塚（第2次）遺跡の調査』『第38回遺跡発掘調査報告会発表要旨』埼玉考古学会
- 富田和夫 2006『律令制成立期における須恵器流通の様相－八幡太神南遺跡群出土須恵器の検討－』『埼玉の考古学Ⅱ』埼玉考古学会 六一書房
- 富田和夫 2007『埼玉県東松山市反町遺跡出土の祭祀関連遺物について』『祭祀考古学』第6号 祭祀考古学会
- 富田和夫 2009『5. 反町遺跡第1・2号祭祀跡をめぐって』『反町遺跡Ⅰ』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第361集
- 富元久美子 1993『堂ノ根遺跡第1次調査』飯能市遺跡調査会発掘調査報告書8
- 富元久美子 1994『飯能の遺跡（16）張摩久保遺跡第20次調査ほか』飯能市内遺跡発掘調査報告書11
- 富元久美子 1997『新井原・榎戸遺跡』笠縫土地地区面整理事業地内埋蔵文化財調査報告書1 飯能市遺跡調査会
- 富元久美子 2005『八幡前・若宮遺跡（第1次調査）』川越市遺跡調査会調査報告書第31集
- 鳥羽政之 2001『熊野遺跡Ⅰ』岡部町遺跡調査会埋蔵文化財調査報告書第9集 岡部町遺跡調査会
- 鳥羽政之 2004『熊野遺跡Ⅲ』岡部町教育委員会埋蔵文化財調査報告書第9集 岡部町教育委員会
- 永井智教 2002『西吉見古代道路跡』西吉見条里Ⅱ遺跡発掘調査概報 吉見町教育委員会
- 中平 薫 1993『向谷 宿方』日高市埋蔵文化財調査報告書第22集
- 中村倉司 1989『関東地方における竈・大型甕・須恵器出現期の地域差』『研究紀要』第6号 埼玉県埋蔵文化財調査事業団
- 中村倉司 1999『岡部条里／戸森前』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第217集
- 中村倉司 1999『埼玉県における5世紀代の土器－和泉式土器の行方－』『東国土器研究』第5号
- 中村 浩 1994『泉州における遺跡の調査Ⅰ 陶器Ⅲ』大阪府文化財調査報告書第46輯
- 中村 浩 1995『須恵器集成図録 第1巻近畿Ⅰ』雄山閣出版
- 中村 浩 2001『和泉陶器出土須恵器の型式編年』芙蓉書房出版
- 中山浩彦 2005『白井沼遺跡Ⅰ』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第315集
- 西川制・斉藤稔 1981『脚折遺跡群発掘調査報告書』鶴ヶ島市教育委員会
- 西本豊弘編『新弥生時代のはじまり第1巻 弥生時代の新年代』雄山閣
- 日本考古学協会新海大会実行委員会 1993『東日本における古墳出現過程の再検討』日本考古学協会
- 橋本 勉 1999『戸崎前Ⅱ/薬師堂根Ⅱ』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第218集
- 坂野和信 1987『下道添遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第67集
- 比企地区文化財担当者研究協議会 1994『比企郡市における埋蔵文化財の成果と概要』
- 久田正弘・大西 顕他 2002『宇ノ気町指江遺跡・指江B遺跡』石川県埋蔵文化財センター
- 日高市 1997『日高市史』原始古代資料編
- 平野寛之 2008『古代入間郡家の復元に向けて－川越市霞ヶ関遺跡群の再検討－』『論叢古代武蔵国入間郡家－多角的視点からの考察－』古代の入間を考える会
- 昼間孝志 1989『金井遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第86集
- 福田 聖 1992『鍛冶谷新田口遺跡出土土器の分析－前篇－』『研究紀要第9号』埼玉県埋蔵文化財調査事業団
- 福田 聖 1999『V結語 2. 古墳時代』『上ノ宮遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第252集
- 福田 聖 2005『古墳時代前期の出土土器について』『北島遺跡Ⅲ』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第305集

- 福田 聖 2007「川島町富田後遺跡の調査(第1・2次)」『第40回遺跡発掘調査報告会発表要旨』埼玉考古学会
- 福田 聖 2007「Vまとめ 3. 古墳時代」『久台遺跡Ⅲ』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第339集
- 福田 聖 2008「九宮1/九宮2」埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第343集
- 福田 聖・永井いづみ 2002「大寄遺跡Ⅱ」埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第280集
- 福田 聖 2009「反町遺跡Ⅰ」埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第361集
- 藤野一之 2009「Hr-FAの降下年代と須恵器歴年代」『上毛野の考古学Ⅱ』群馬考古学ネットワーク編
- 松本 完 2003「後期弥生土器形成過程の一様相」『埼玉考古』第38号
- 水口由紀子 1989「いわゆる“比企型坏”の再検討」『東京考古』第7号
- 水村孝之 1982「桜山窯跡群」埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第7集
- 宮井英一 2007「日枝神社遺跡」埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第344集
- 宮島秀夫 1989「岩鼻遺跡」東松山市文化財調査報告書第18集 東松山市教育委員会
- 宮島秀夫 1990「F寺前遺跡(第2次)」東松山市文化財調査報告書第19集 東松山市教育委員会
- 宮島秀夫 1991「大門遺跡(第1次)」東松山市文化財調査報告書第20集 東松山市教育委員会
- 宮島秀夫 1992「4137 見入遺跡」『埼玉県埋蔵文化財調査年報』平成2年度 埼玉県教育委員会
- 宮島秀夫・江原昌俊 2003「杉の木遺跡(第3次)」東松山市文化財調査報告書第24集
- 宮島秀夫 1995「綱調・鉄剣出土の方形周溝墓」『比企丘陵創刊号』比企丘陵文化研究会
- 宮島秀夫 1999「古塚14号墳(第1・2次)」東松山市文化財調査報告書第23集
- 宮島秀夫・江原昌俊 2003「杉の木遺跡(第3次)」東松山市文化財調査報告書第24集
- 宮瀧文二 1999「一天狗遺跡と出土墨書土器について」『一天狗遺跡』地点13区発掘調査報告書 鶴ヶ島市教育委員会
- 宮本直樹他 2002「町内遺跡Ⅲ」岡部町埋蔵文化財調査報告書第7集
- 村上達哉 2002「新堀遺跡第1～8次調査」笠縫地区10地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書2
- 村田健二 1982「壺田・鶴田」埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第20集
- 村田健二 1984「古塚根岸表」埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第37集
- 村田健二 1990「広面遺跡」埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第89集
- 村田健二 1992「桑原遺跡」埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第121集
- 村松 篤 2003「百済木遺跡」川本町遺跡調査会報告書8
- 森岡秀人・西村歩 2006「古式土師器と古墳の出現をめぐる諸問題」『古式土師器の年代学』(財)大阪府文化財センター
- 山川守男 1995「城北遺跡」埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第150集
- 山本 禎 1991「山王裏・中原遺跡」埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第98集
- 山本 禎 1995「山王裏遺跡」埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第167集
- 山本 禎 1997「山王裏/上川入/西浦/野本氏館跡」埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第184集
- 山本 禎・岩瀨 譲 2002「如意Ⅲ/川端」埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第276集
- 弓 明義 1995「吉見町大行山遺跡の調査」『第27回遺跡発掘調査報告会発表要旨』埼玉考古学会
- 弓 明義 1997「吉見町三ノ耕地遺跡の調査」『第30回遺跡発掘調査報告会発表要旨』埼玉考古学会
- 弓 明義 2002「吉見町西吉見条里Ⅱ遺跡の古代道路跡」『坂東の古代官衙と人々の交流』埼玉考古学会
- 横山千晶・大木紳一郎他 1999「小八木志志貝戸遺跡群Ⅰ」群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第256集
- 吉田 稔 1991「小敷田遺跡」埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第95集
- 吉野 健 2001「諏訪木遺跡」熊谷市遺跡調査会埋蔵文化財報告書
- 吉野 健 2002「前中西遺跡Ⅱ」埼玉県熊谷市教育委員会
- 嵐山町「丘陵人の叙事詩-嵐山町の原始・古代-」嵐山町博物誌第四巻・考古・歴史編
- 若松良一・山川守男・金子彰男 1987「諏訪山33号墳の研究」
- 若松良一・大谷徹・高田大輔 2000「堂地遺跡」埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第266集

- 渡辺 一 1988『鳩山窟跡群Ⅰ-窟跡編(1)-』鳩山町教育委員会
- 渡辺 一 1990『鳩山窟跡群Ⅱ-窟跡編(2)-』鳩山町教育委員会
- 渡辺 一 1991『鳩山窟跡群Ⅲ-工人集落編(1)』鳩山町教育委員会
- 渡辺 一 1992『鳩山窟跡群Ⅳ-工人集落編(2)』鳩山町教育委員会
- 渡辺 一他 1994『比企都市における古代の概観』『比企都市における埋蔵文化財の成果と概要』
- 渡辺 一 1996『竹之城・石田・皿沼下遺跡』鳩山町埋蔵文化財調査報告第17集
- 渡辺 一 2006『須恵器の流通を巡る諸問題-生産地の立場から-』『埼玉考古学会50周年シンポジウム 古代武蔵国の須恵器流通と地域社会』埼玉考古学会
- 渡辺 一 2006『生産地からみた須恵器流通の諸問題』『埼玉の考古学Ⅱ』埼玉考古学会
- 渡辺久生・宮島秀夫 1983『1417 沢口遺跡』『埼玉県埋蔵文化財調査年報』昭和56年度 埼玉県教育委員会
- 渡辺久生・宮島秀夫 1988『八幡・原山・古吉海道』東松山市文化財調査報告書第17集 東松山市教育委員会
- 渡辺久生・宮島秀夫 1996『観音寺遺跡(第4次)』埼玉県東松山市遺跡調査会調査報告書第1集